

多摩市地域福祉計画
第5次多摩市地域福祉活動計画

計画の中間見直しに向けた
アンケート調査結果報告書

令和7年11月

多 摩 市

多摩市社会福祉協議会

目 次

I	アンケート調査の概要	1
1	調査の目的.....	1
2	調査方法及び回収結果.....	1
3	報告書の見方.....	2
II	アンケート結果概要	3
1	市民アンケート（福祉サービス利用者・従事者アンケート調査結果含む）	3
2	地域活動団体調査.....	6
III	市民アンケート調査結果	8
1	基本事項についての設問.....	8
2	回答者の身の回りの課題に関する設問.....	14
3	その他に関する設問.....	53
4	多摩市社会福祉協議会に関する設問.....	75
IV	地域活動団体・福祉サービス提供団体アンケート調査結果.....	103
1	基本事項についての設問.....	103
2	その他に関する設問.....	105
3	多摩市社会福祉協議会に関する設問.....	114
V	福祉サービス利用者・従事者アンケート調査結果	132
1	基本事項についての設問.....	132
2	回答者の身の回りの課題に関する設問.....	134
3	多摩市社会福祉協議会に関する設問.....	141

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民や地域福祉活動団体、福祉サービス提供者を対象に、地域福祉活動等に関する状況やご意見等を広くお聞きするために実施しました。

2 調査方法及び回収結果

◇市民アンケート

調査対象	市民（民生・児童委員含む）
調査期間	令和7年2月28日～3月25日
調査方法	郵送配付・回収およびWeb回答
回収状況	1,691件配付、541件回収（うち民生委員・児童委員53件）、回収率32.0%

◇地域活動団体・福祉サービス提供者

調査対象	市内で活動する団体（自治会・住宅管理組合役員、ふれあい・いきいきサロン、ボランティア・市民活動団体、福祉サービス提供団体、その他）
調査期間	令和7年2月28日～3月25日
調査方法	郵送配付・回収およびWeb回答
回収状況	633件配付、269件回収、回収率42.5%

◇福祉サービス利用者・従事者

調査対象	市内にある福祉サービス事業所の従事者及び利用者（たすけあい有償活動利用者・従事者、訪問型サービスB利用者・従事者、同行援護従事者、生活支援員）
調査期間	令和7年2月28日～3月25日
調査方法	郵送配付・回収およびWeb回答
回収状況	200件配付、83件回収、回収率41.5%

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n(number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇「不明・無回答」を除き、回答率の最も高いものから上位3つまでに網掛けをしています。

Ⅱ アンケート結果概要

1 市民アンケート（福祉サービス利用者・従事者アンケート調査結果含む）

●近所付き合いの状況について

- 近所付き合いの状況については、「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」「家庭・家族について話題にする程度の付き合いがある」が前回調査時よりも増加しており、コロナ禍により希薄化していた近所付き合いの状況が回復していることが想定されます。一方、10・20歳代と30歳代の若い世代で「ほとんど近所付き合いをしない」が高くなっています。福祉サービス利用者・従事者アンケートでも「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」が42.2%と最も多くなっています。
- 地区別にみると、第1～第8エリアでは「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」、第9エリアでは「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」、第10エリアでは「ほとんど近所付き合いをしていない」が最も高くなっています。特に第10エリアでは「ほとんど近所付き合いをしていない」が約4割となっており、他の地区に比べ高くなっています。
- 暮らしの中で地域のつながりは必要だと思うかについて、『必要』（「必要だと思う」＋「ある程度必要だと思う」）の割合がいずれの年代でも7割を超えています。

⇒コロナ禍による近所付き合いの希薄化は回復傾向がみられるものの、主に若年層や特定の地区では依然として近所付き合いの希薄化が見られます。一方で性別や年代を問わず地域のつながりは求められていることから、地域のつながりづくりの活性化に向けた取組の継続が求められます。

●地域の中での困りごとについて

- 地域の中での困りごとについては、「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」が最も高くなっていますが、地区別にみると、第2エリアでは「日常の防犯対策、治安に関する課題」「高齢者、障がい者への支援」が最も高く、第5エリアでは「空き家や公共施設の都市整備」が最も高くなっており、地区によって困りごとの状況に違いが見られます。

⇒市全体では防災に関することが最も高いものの、地区により困りごとの状況は異なっており、各エリアのニーズに応じた施策の推進が求められます。

●自殺対策について

- 自殺防止対策は社会全体で取り組む問題だと思うかについては、『思う』(「思う」+「どちらかといえば思う」)が約8割となっています。
- 必要だと思う自殺対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が最も高くなっていますが、「地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい」や「子どもの自殺予防」が前回調査よりも大きく増加しています。

⇒自殺防止は社会全体で取り組むべき問題であるとの認識が広く共有されており、特に相談窓口の設置は継続してニーズが高くなっています。また、地域コミュニティを通じた見守りや若年層の自殺予防対策への関心が高まりつつあり、多様な支援の充実が求められます。

●再犯防止について

- 再犯防止に協力する民間協力者の認知度については前回調査時よりいずれも増加しており、特に「保護司」の認知度が6割以上となっています。一方、「更生保護女性会」や「BBS会」の認知度が1割未満となっています。また、「いずれも知らない」が前回調査時よりも減少していますが、年代別にみると10・20歳代と30歳代で4～5割台と他の年代に比べ高くなっています。
- 犯罪をした人の立ち直り支援に協力したいかについては、『思わない』(「どちらかといえば思わない」+「思わない」)が約4割となっており、理由については「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が最も多く、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」「具体的なイメージがわからないから」も理由として多くなっています。

⇒再犯防止に協力する民間協力者の認知度は向上しているものの、特定の協力者に対する認知度は依然として低く、若年層の認知度が低いことが課題となっています。また、立ち直りを支援するためには、犯罪をした人との接し方や関わり方について理解や周知が必要であることから、広報・啓発活動の強化や、具体的な支援策の検討・充実が求められます。

●成年後見制度について

- 成年後見制度の認知度については、『知っている』(「制度の内容をよく理解している」+「制度の概要は知っている」+「制度があることは知っているが、内容は知らない」)が約8割と、前回調査時よりも多くなっています。成年後見制度を利用するに当たって、市に期待することについては、前回調査時では「成年後見制度の広報・周知」が最も多かったものの、今回調査では「利用に当たっての相談支援」が最も多くなっています。

⇒成年後見制度の認知度は高まりつつある一方で、今後は利用に関する具体的な支援が求められていることから、引き続き制度の周知に取り組むとともに、市民が制度を活用しやすい環境を整備していくことが求められます。

●福祉に関する情報や相談先について

- 福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会について、「はい」(増えている)が5割強となっており、「多摩市社協の広報紙(ふくしだよりやボランティア通信、委員会だより等)やSNS等で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が約9割、福祉サービス利用者・従事者アンケートで8割台半ばとなっています。また、福祉を身近に感じる機会が増えたと思う理由についても、「広報紙やSNS等で福祉に関する情報を目にする機会が増えた」が6割弱と最も多くなっています。
- 福祉に関する相談先が増えていると思うかについては、「はい」が約3割となっていますが、福祉サービス利用者・従事者アンケートでは約7割となっています。また、多摩市社協の相談窓口でご存じのもの(新たに知ったもの)について、「成年後見制度に関する相談、福祉に関する法律相談、ひとり暮らしの高齢者に関する相談等」が約9割である一方、その他の相談窓口についてはいずれも1~2割程度となっています。

⇒効果的な情報発信の手段をさらに強化し、福祉意識の向上と福祉活動への参加促進を図るための取り組みが求められます。また、十分に周知がされていない相談先について、支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、相談窓口の認知向上が求められます。

●潜在・複合的な課題について

- 潜在・複合的な課題や問題が増えているかについて、「はい」が5割強、福祉サービス利用者・従事者アンケートでは約6割となっています。具体的な課題や問題については、「老老介護」が約8割と最も多くなっているほか、「8050問題」や「ひきこもり」、「不登校」も2割台となっています。

⇒核家族世帯の増加等に伴う老老介護の増加や8050問題、ひきこもり、不登校といった潜在・複合的な課題の状況が見られることから、分野を超えた連携強化と包括的な支援策の推進が必要です。

●地域活動や交流の場について

- 福祉や地域活動に参加する機会は増えているかについて、「いいえ」が7割弱となっています。活動に参加する機会が増えない理由については、「参加に至るまでのきっかけがない」が5割台半ばと最も多くなっています。
- 地域での交流の場が増えたかについて、「いいえ」が6割強となっています。また、同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えているかについて、「いいえ」が約6割となっています。

⇒きっかけ次第では地域活動への参加が促される可能性があることから、気軽に参加できる活動内容の充実や、SNSや広報紙などを活用した情報発信等、参加促進につながる環境づくりが必要です。また、共通の悩みや関心事を持つ仲間と出会い、交流できる場の充実等が求められます。

2 地域活動団体調査

●民生委員・児童委員について

- 「民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない」が約5割と最も多くなっており、相談したことはあるかについては「相談したことはない」が約8割と最も多くなっています。

⇒民生委員・児童委員の認知度は一定程度あるものの、「誰が担当しているか」までは知らない層が多くなっています。必要なときに相談しやすく、地域の支援が得られるよう、民生委員・児童委員のさらなる周知等を行っていく必要があります。

●自殺対策について

- 自殺防止対策は社会全体で取り組む問題だと思うかについては、『思う』（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が約8割となっています。
- 必要だと思う自殺対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」と「地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい」が共に約6割と多くなっています。

⇒相談窓口の整備や周知、地域コミュニティを通じた見守り等の支援の充実が求められます。

●再犯防止について

- 再犯防止に協力する民間協力者の認知度については市民アンケートよりも高い結果となっていますが、「更生保護女性会」や「BBS会」の認知度が低くなっています。
- 犯罪をした人の立ち直り支援に協力したいかについて、『思わない』（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）が約3割と市民アンケートに比べ低くなっています。理由については「時間的余裕がないから」が最も高くなっており、「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」「具体的なイメージがわからないから」も市民アンケートと同様に多くなっています。

⇒立ち直り支援に協力できない理由として「時間的な余裕がないから」が最も多いことから、まずはできる範囲で、再犯防止活動に関わることができるような取組が求められます。

●福祉に関する情報や相談先について

○多摩市社協の相談窓口を利用したことがあるかについて、「いいえ」が5割半ばとなっており、利用したことがない理由については「多摩市社協の相談窓口を知っているが、相談(紹介)したことはない」が約7割と最も多いものの、「多摩市社協の相談窓口を知らない」も1割台半ばとなっています。

⇒多摩市社協の相談窓口は一定程度認知されているものの、「知っているが利用していない層」が多く、相談窓口の具体的な役割や支援内容について、より周知を図る必要があります。また、相談窓口を知らない層に対し、認知度をさらに向上させることが重要です。

●潜在・複合的な課題について

○潜在・複合的な課題や問題が増えているかについて、「はい」が9割弱となっており、市民アンケートに比べ高くなっています。具体的な課題や問題については、「老老介護」が9割弱と最も多く、ついで「ひきこもり」や「8050問題」等も多くなっています。

○潜在・複合的な課題や問題に対応するために連携した相談機関はあるかについて、「はい」が4割台半ばとなっており、連携した機関は「地域包括支援センター」が約8割と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が4割弱となっています。

⇒核家族世帯の増加等に伴う老老介護の増加、8050問題やひきこもり、不登校といった潜在・複合的な課題の状況が見られることから、分野を超えた連携強化と包括的な支援策の推進が必要です。

●地域活動や交流の場について

○同じ課題や関心事を持つ人の居場所は増えているかについて、「はい」が4割台半ばとなっています。どのような交流の場が増えたと感じるかについては、「高齢者が参加できる場や機会が増えた」が8割台半ばと特に多くなっていますが、「子ども」や「障がい者や生きづらさを抱える方々」「活動者同士」の集う場や機会については、いずれも1~2割台となっています。

○活動やニーズに応じた担い手の発掘・育成ができていくかについて、「いいえ」が5割台半ばと多くなっており、新たな人材の発掘・育成や活動者の高齢化や退会等が主な原因となっています。

⇒地域の交流の場について、高齢者だけでなく、多様な層が参加できる場の整備が求められます。また、活動の担い手不足が深刻化していることから、新たな人材の発掘・育成に取り組む必要があります。

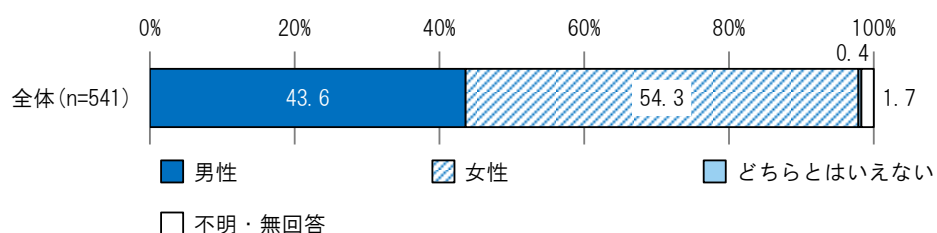
Ⅲ 市民アンケート調査結果

1 基本事項についての設問

問 1. あなた（あて名のご本人）の現在の性別（自認している性）はどれにあたりますか。

（単数回答）

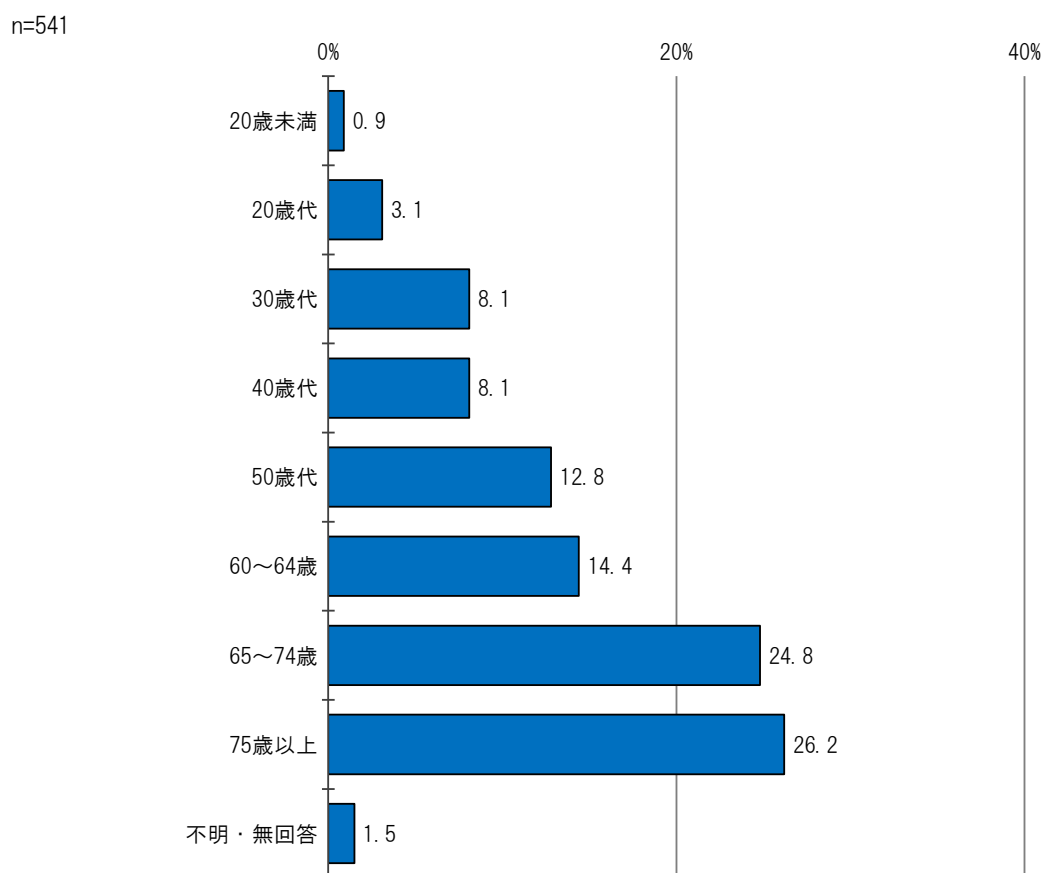
性別についてみると、「女性」が 54.3%と最も多く、次いで「男性」が 43.6%、「どちらとはいえ
ない」が 0.4%となっています。



問 2. あなたの令和 7 年 2 月 1 日現在の年齢はどれにあたりますか。

（単数回答）

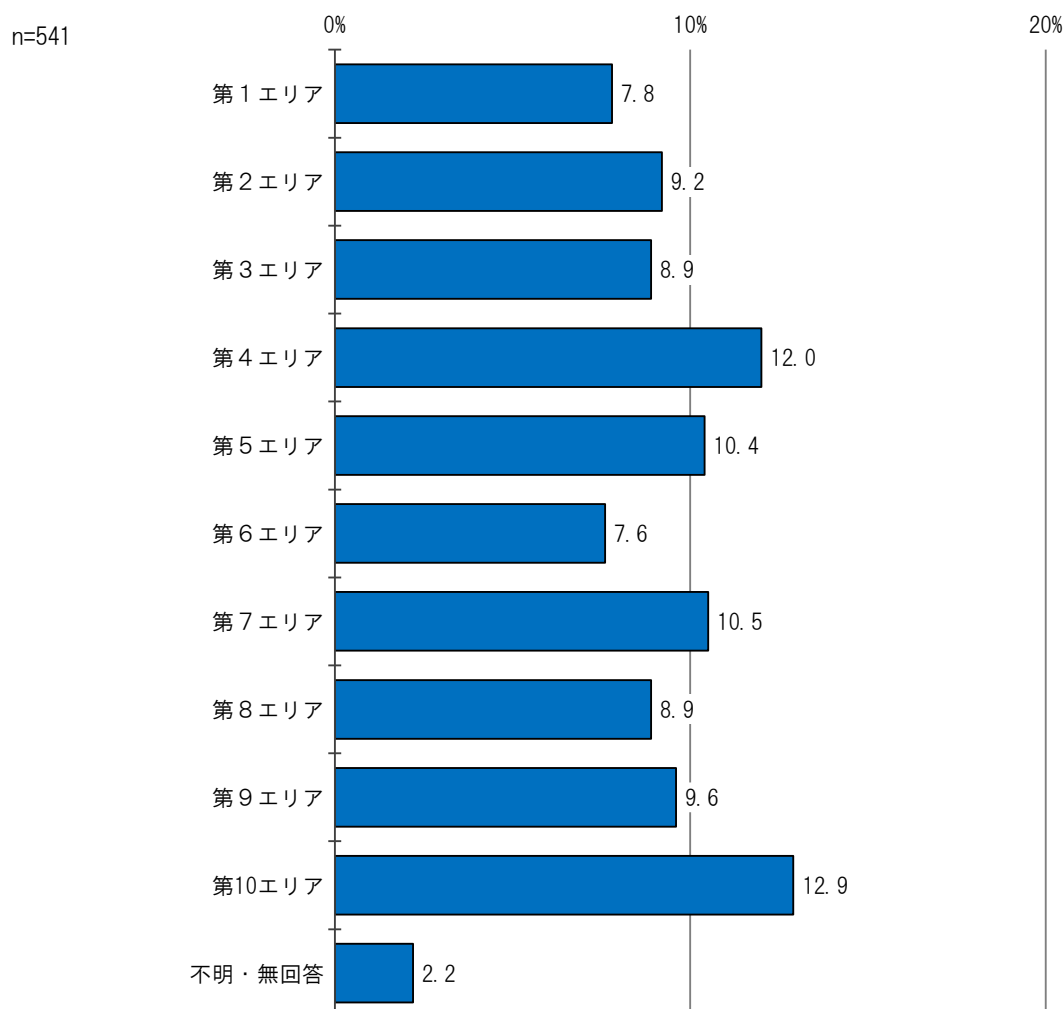
年齢についてみると、「75 歳以上」が 26.2%と最も多く、次いで「65～74 歳」が 24.8%、「60～64
歳」が 14.4%となっています。



問 3. あなたのお住まいの地域はどこですか。

(単数回答)

居住地域についてみると、「第 10 エリア」が 12.9%と最も多く、次いで「第 4 エリア」が 12.0%、「第 7 エリア」が 10.5%となっています。



エリア	コミュニティエリアの地域	2エリア集計区分
第 1	○関戸 1～5 丁目 ○関戸 (地番) ○一ノ宮 1～4 丁目	第1～4 エリア
第 2	○連光寺 1～6 丁目 ○連光寺 (地番) ○一ノ宮 (地番) ○聖ヶ丘 1～5 丁目	
第 3	○桜ヶ丘 1～4 丁目 ○関戸 6 丁目 ○貝取 (地番)	
第 4	○東寺方 (地番) ○東寺方 1 丁目 ○落川 (地番) ○百草 (地番) ○和田 (地番) ○和田 1261 番地 (百草団地)	
第 5	○愛宕 1～4 丁目 ○東寺方・和田各 3 丁目 ○乞田 (地番) ○永山・貝取・豊ヶ丘各 1 丁目	第5～10 エリア
第 6	○馬引沢 1～2 丁目 ○諏訪 1～6 丁目	
第 7	○永山 2～7 丁目	
第 8	○貝取 2～5 丁目 ○豊ヶ丘 2～6 丁目 ○南野 1 丁目	
第 9	○落合 2～6 丁目 ○鶴牧 3～5 丁目 ○南野 2～3 丁目	
第 10	○唐木田 1～3 丁目 ○中沢 1～2 丁目 ○山王下 1～2 丁目 ○落合 1 丁目 ○鶴牧 1・2・6 丁目	

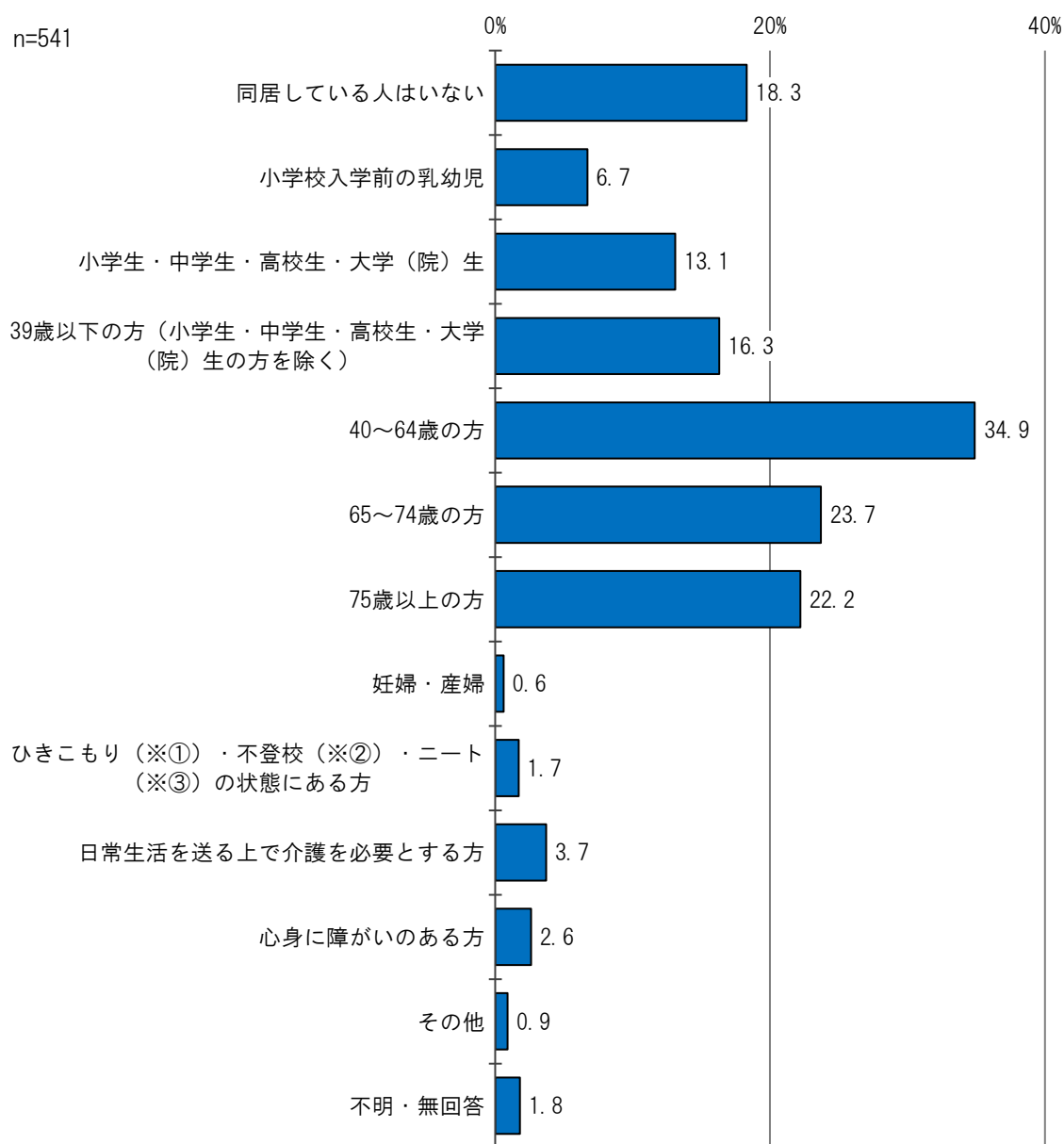
問 4. ご自身又は同居している方で、以下に当てはまる方はいらっしゃいますか。 （複数回答）

自身又は同居人の状態についてみると、「40～64 歳の方」が 34.9%と最も多く、次いで「65～74 歳の方」が 23.7%、「75 歳以上の方」が 22.2%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代では「同居している人はいない」「40～64 歳の方」、30 歳代では「39 歳以下の方」、40 歳代から 60～64 歳では「40～64 歳の方」、65～74 歳では「65～74 歳の方」、75 歳以上では「75 歳以上の方」が最も高くなっています。

10 地区別にみると、第 1～第 4、第 6、第 7、第 9、第 10 エリアでは「40～64 歳の方」、第 5 エリアでは「65～74 歳の方」、第 8 エリアでは「75 歳以上の方」が最も高くなっています。また、第 8 エリアでは「75 歳以上の方」が他の地区と比べて高くなっています。



単位:%	合計	同居している人はいない	小学校入学前の乳幼児	小学生・中学生・高校生・大学(院)生	39歳以下の方(小学生・中学生・高校生・大学(院)生の方を除く)	40～64歳の方	65～74歳の方	75歳以上の方
【性別】								
男性	236	16.1	4.7	10.6	14.8	35.2	28.4	22.9
女性	294	20.7	8.5	15.3	17.7	35.4	20.4	22.4
【年代別】								
10・20歳代	22	36.4	4.5	9.1	22.7	36.4	9.1	4.5
30歳代	44	13.6	45.5	13.6	50.0	29.5	11.4	4.5
40歳代	44	6.8	18.2	54.5	18.2	61.4	13.6	11.4
50歳代	69	15.9	4.3	36.2	17.4	68.1	0.0	10.1
60～64歳	78	15.4	1.3	5.1	20.5	52.6	20.5	14.1
65～74歳	134	18.7	0.7	3.0	15.7	16.4	59.7	14.2
75歳以上	142	23.9	1.4	4.2	2.8	21.8	12.7	52.8
【10地区別】								
第1エリア	42	16.7	11.9	14.3	16.7	52.4	14.3	21.4
第2エリア	50	10.0	12.0	14.0	20.0	34.0	32.0	32.0
第3エリア	48	10.4	6.3	16.7	18.8	41.7	29.2	16.7
第4エリア	65	18.5	3.1	12.3	21.5	35.4	29.2	15.4
第5エリア	56	19.6	7.1	14.3	12.5	28.6	32.1	17.9
第6エリア	41	26.8	7.3	14.6	17.1	36.6	9.8	24.4
第7エリア	57	21.1	7.0	12.3	14.0	36.8	24.6	19.3
第8エリア	48	18.8	4.2	8.3	8.3	29.2	18.8	39.6
第9エリア	52	19.2	5.8	21.2	19.2	34.6	17.3	25.0
第10エリア	70	21.4	5.7	8.6	17.1	31.4	25.7	14.3

単位:%	合計	妊婦・産婦	ひきこもり(※①)・不登校(※②)・ニート(※③)の状態にある方	日常生活を送る上で介護を必要とする方	心身に障がいのある方	その他	不明・無回答
【性別】							
男性	236	1.3	1.7	4.2	3.8	0.0	0.0
女性	294	0.0	1.7	3.4	1.4	1.4	1.0
【年代別】							
10・20歳代	22	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5
30歳代	44	2.3	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
40歳代	44	0.0	6.8	0.0	0.0	2.3	0.0
50歳代	69	1.4	0.0	7.2	1.4	0.0	0.0
60～64歳	78	0.0	1.3	5.1	9.0	0.0	0.0
65～74歳	134	0.0	2.2	1.5	2.2	1.5	0.0
75歳以上	142	0.0	1.4	5.6	0.7	1.4	1.4
【10地区別】							
第1エリア	42	2.4	0.0	2.4	2.4	4.8	0.0
第2エリア	50	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
第3エリア	48	2.1	2.1	4.2	4.2	0.0	0.0
第4エリア	65	0.0	4.6	1.5	1.5	1.5	0.0
第5エリア	56	0.0	1.8	7.1	8.9	0.0	1.8
第6エリア	41	2.4	4.9	7.3	0.0	2.4	0.0
第7エリア	57	0.0	3.5	1.8	7.0	0.0	3.5
第8エリア	48	0.0	0.0	8.3	2.1	0.0	0.0
第9エリア	52	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	0.0
第10エリア	70	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0

※①ひきこもりの定義:様々な要因の結果として社会的参加(就学、就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。(他者と交わらない形での外出を含む)

※②不登校の定義:何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。

※③ニートの定義:15歳～34歳の、仕事をしていない又は失業者で求職活動をしていない方で、家事も通学もしていない方。

問 5. あなたは現在、お仕事をされていますか。

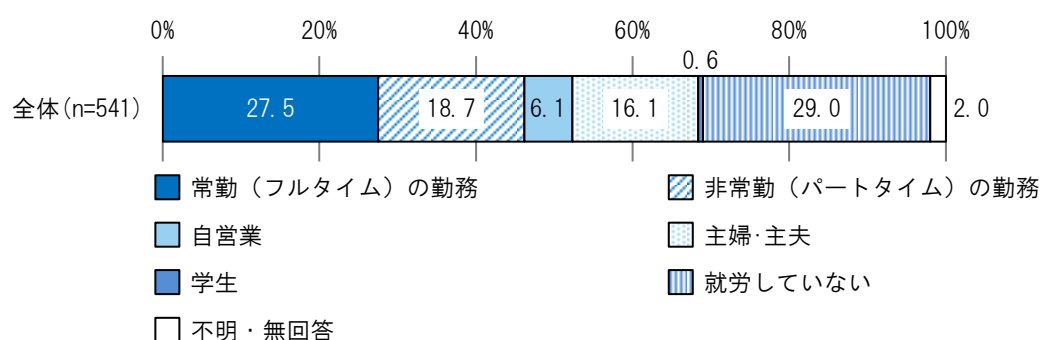
(単数回答)

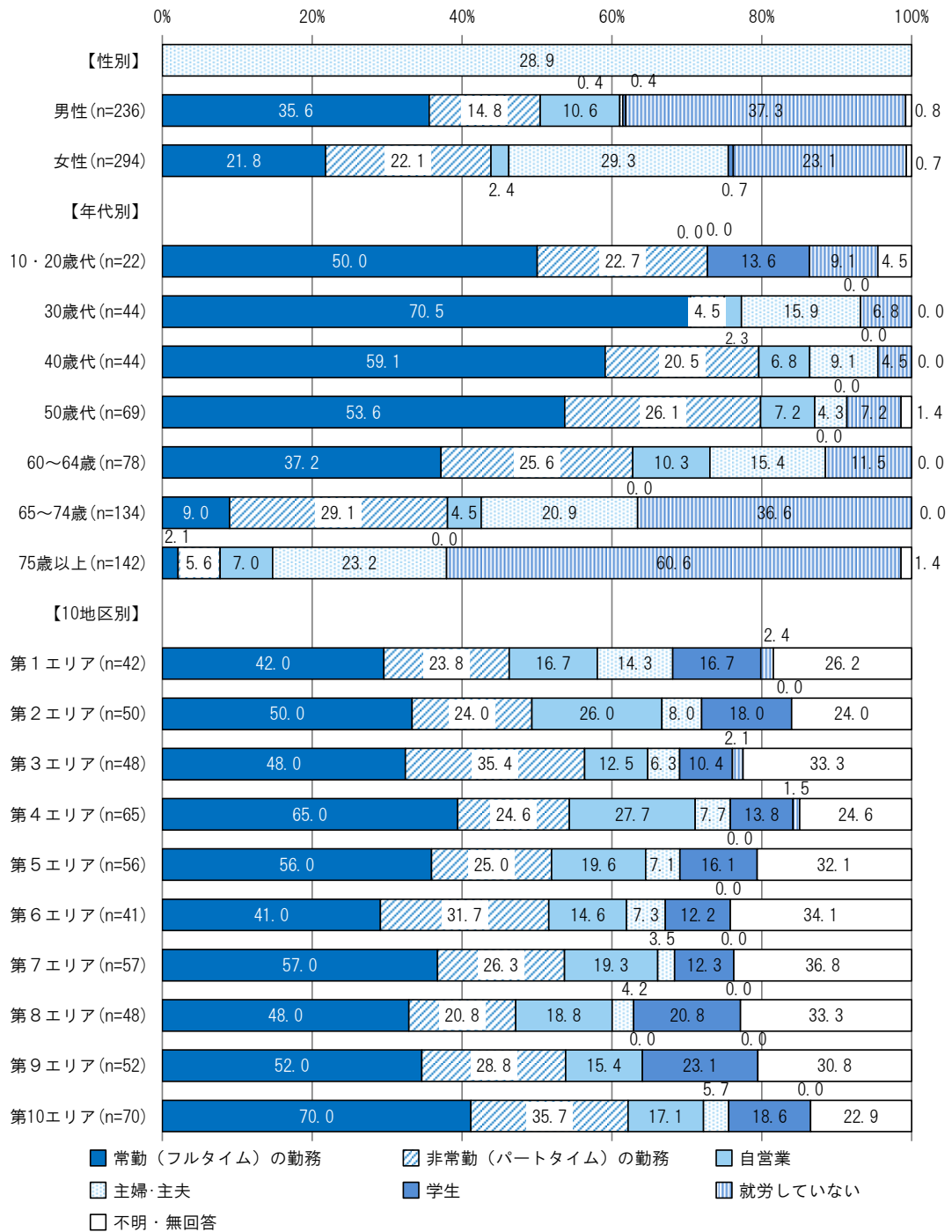
就労状況についてみると、「就労していない」が 29.0%と最も多く、次いで「常勤（フルタイム）の勤務」が 27.5%、「非常勤（パートタイム）の勤務」が 18.7%となっています。

性別にみると、「常勤（フルタイム）の勤務」では 13.8 ポイント男性が女性を上回っています。また、「主婦・主夫」では 28.9 ポイント女性が男性を上回っています。さらに、「就労していない」では 14.2 ポイント男性が女性を上回っています。

年代別にみると、10・20 歳代から 50 歳代、60～64 歳では「常勤（フルタイム）の勤務」、65～74 歳、75 歳以上では「就労していない」が最も高くなっています。

10 地区別にみると、いずれの地区でも「常勤（フルタイム）の勤務」が最も高くなっています。また、第 3 エリア、第 10 エリアでは「非常勤（パートタイム）の勤務」が他の地区と比べて高くなっています。





2 回答者の身の回りの課題に関する設問

問 6. あなたは近所付き合いをしていますか。

(単数回答)

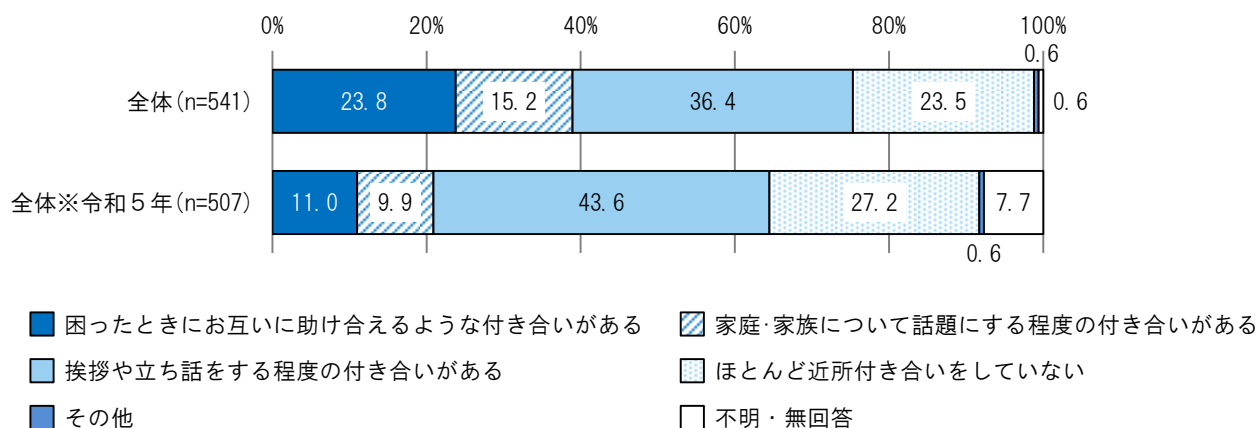
近所付き合いについてみると、「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」が 36.4%と最も多く、次いで「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」が 23.8%、「ほとんど近所付き合いをしていない」が 23.5%となっています。

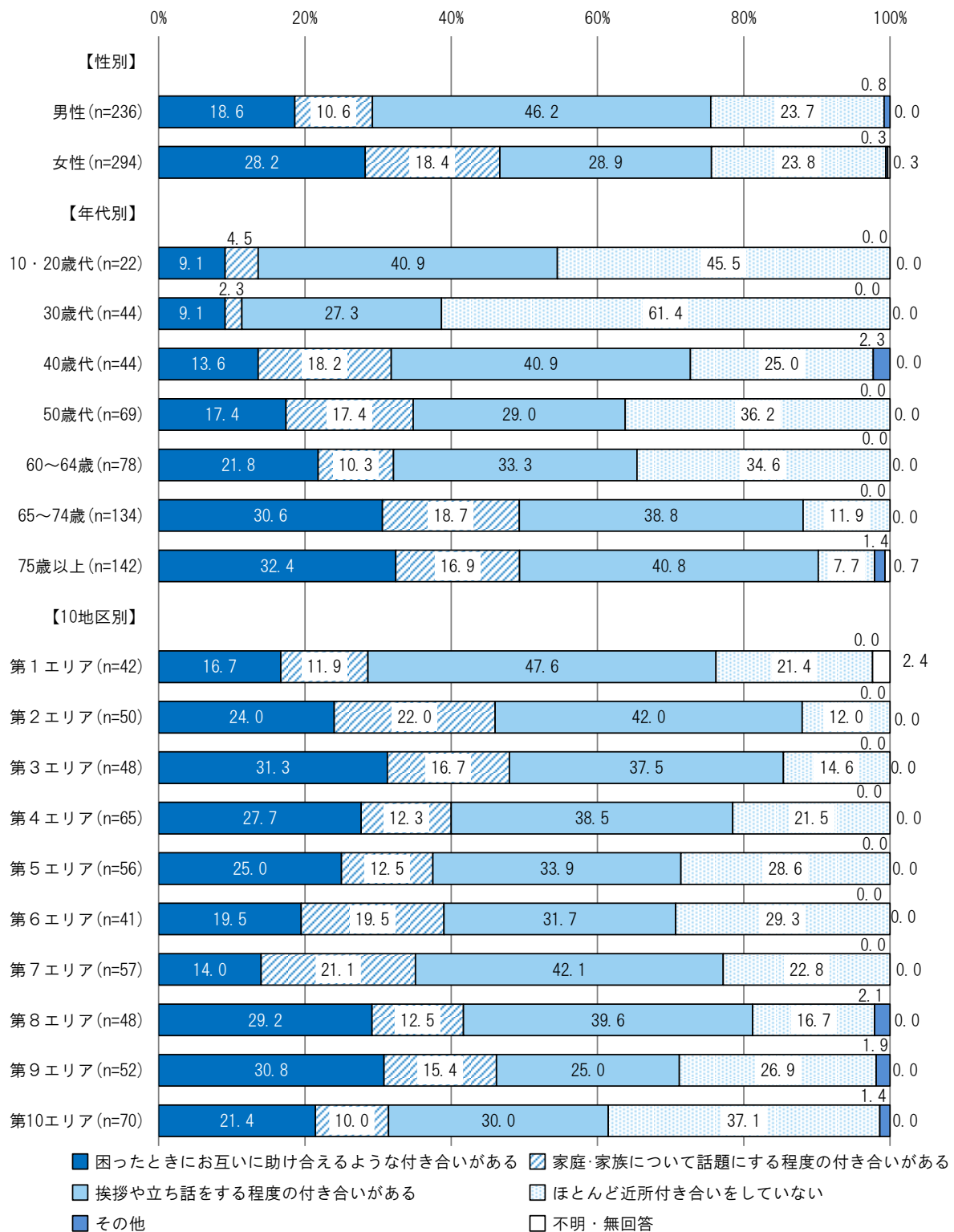
令和 5 年調査時と比較すると、「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」が 12.8 ポイント高くなっています。

性別にみると、「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」では 17.3 ポイント男性が女性を上回っています。また、「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」では 9.6 ポイント女性が男性を上回っています。

年代別にみると、10・20 歳代、30 歳代、50 歳代、60～64 歳では「ほとんど近所付き合いをしていない」、40 歳代、65～74 歳、75 歳以上では「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」が最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」が高くなっています。

10 地区別にみると、第 1～第 8 エリアでは「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」、第 9 エリアでは「困ったときにお互いに助け合えるような付き合いがある」、第 10 エリアでは「ほとんど近所付き合いをしていない」が最も高くなっています。





問 7. あなたは暮らしの中で地域のつながりは必要だと思いますか。

(単数回答)

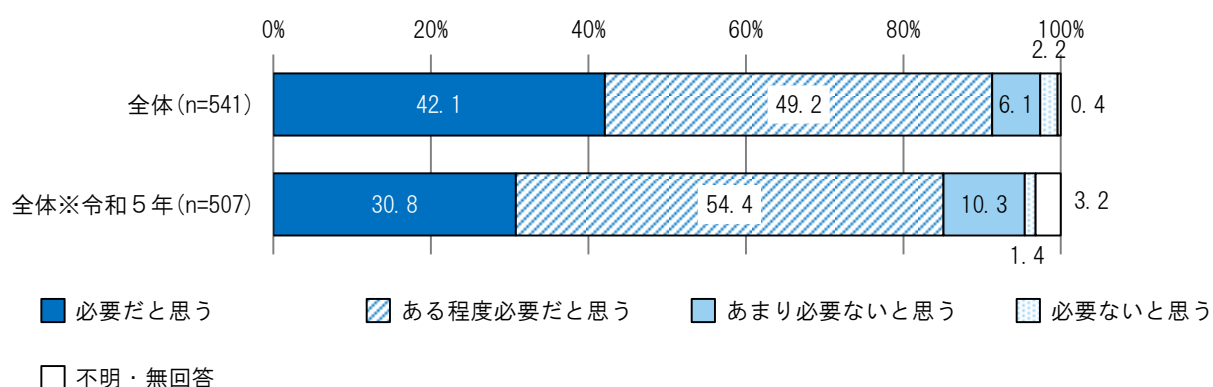
暮らしの中で地域のつながりについてみると、「ある程度必要だと思う」が49.2%と最も多く、次いで「必要だと思う」が42.1%、「あまり必要ないと思う」が6.1%となっています。

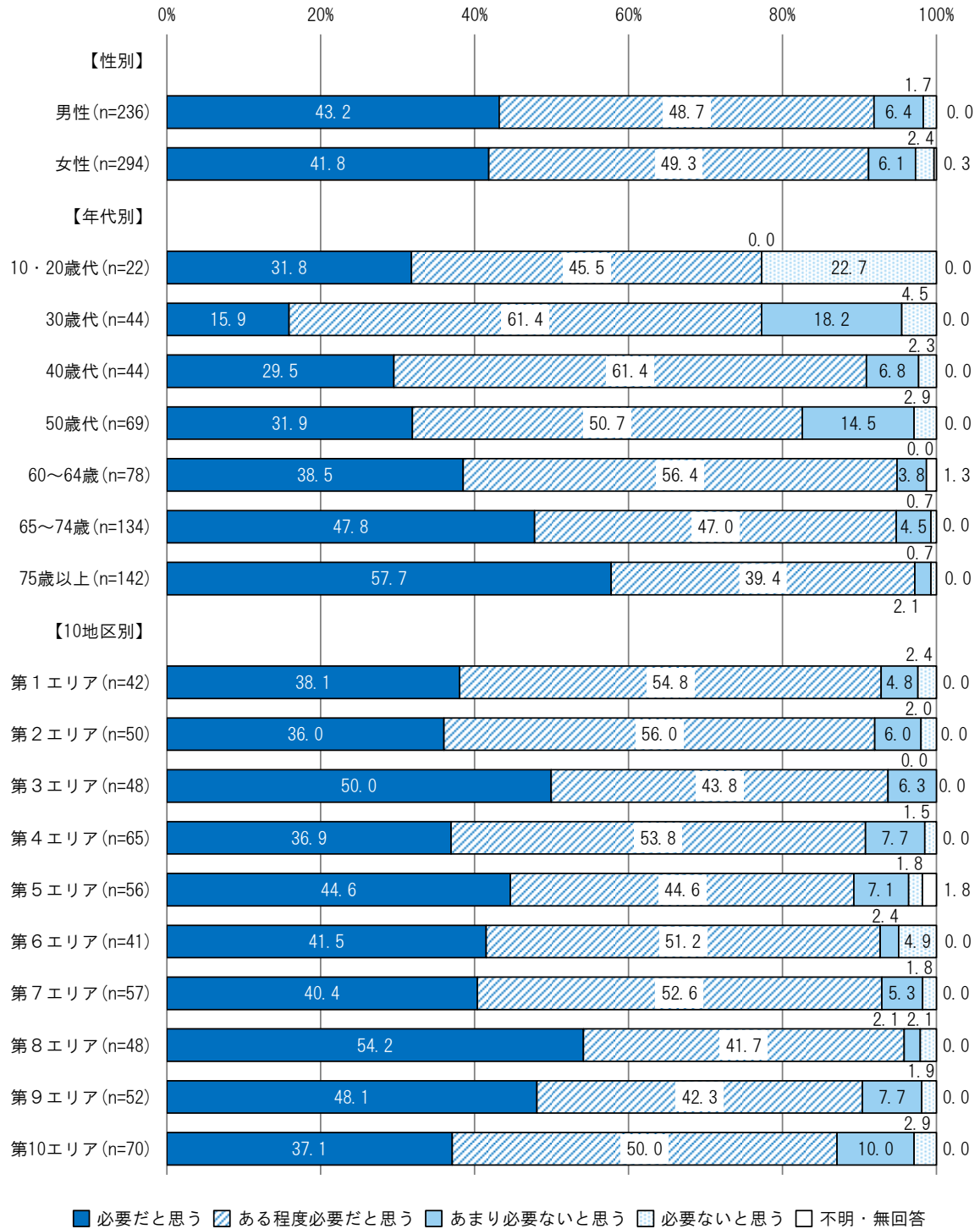
令和5年調査時と比較すると、「必要だと思う」が11.3ポイント高くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代から50歳代、60～64歳では「ある程度必要だと思う」、65～74歳、75歳以上では「必要だと思う」が最も高くなっています。また、10・20歳代では「必要ないと思う」が他の年代に比べて高くなっています。

10地区別にみると、第1、第2、第4、第6、第7、第10エリアでは「ある程度必要だと思う」、第3、第8、第9エリアでは「必要だと思う」、第5エリアでは「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」が最も高くなっています。





問 8. あなたはご自身の日常生活の中で、以下の不安や悩みごとについて、どの程度実感していますか。将来に対する不安・悩みでも結構です。

問 8-1. 住民同士での地域活動について

(単数回答)

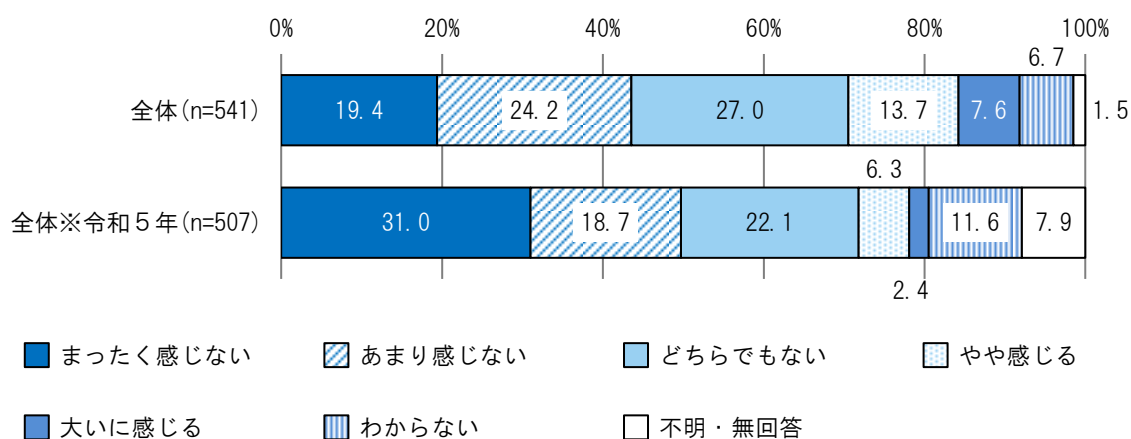
住民同士での地域活動についてみると、「どちらでもない」が27.0%と最も多く、次いで「あまり感じない」が24.2%、「まったく感じない」が19.4%となっています。

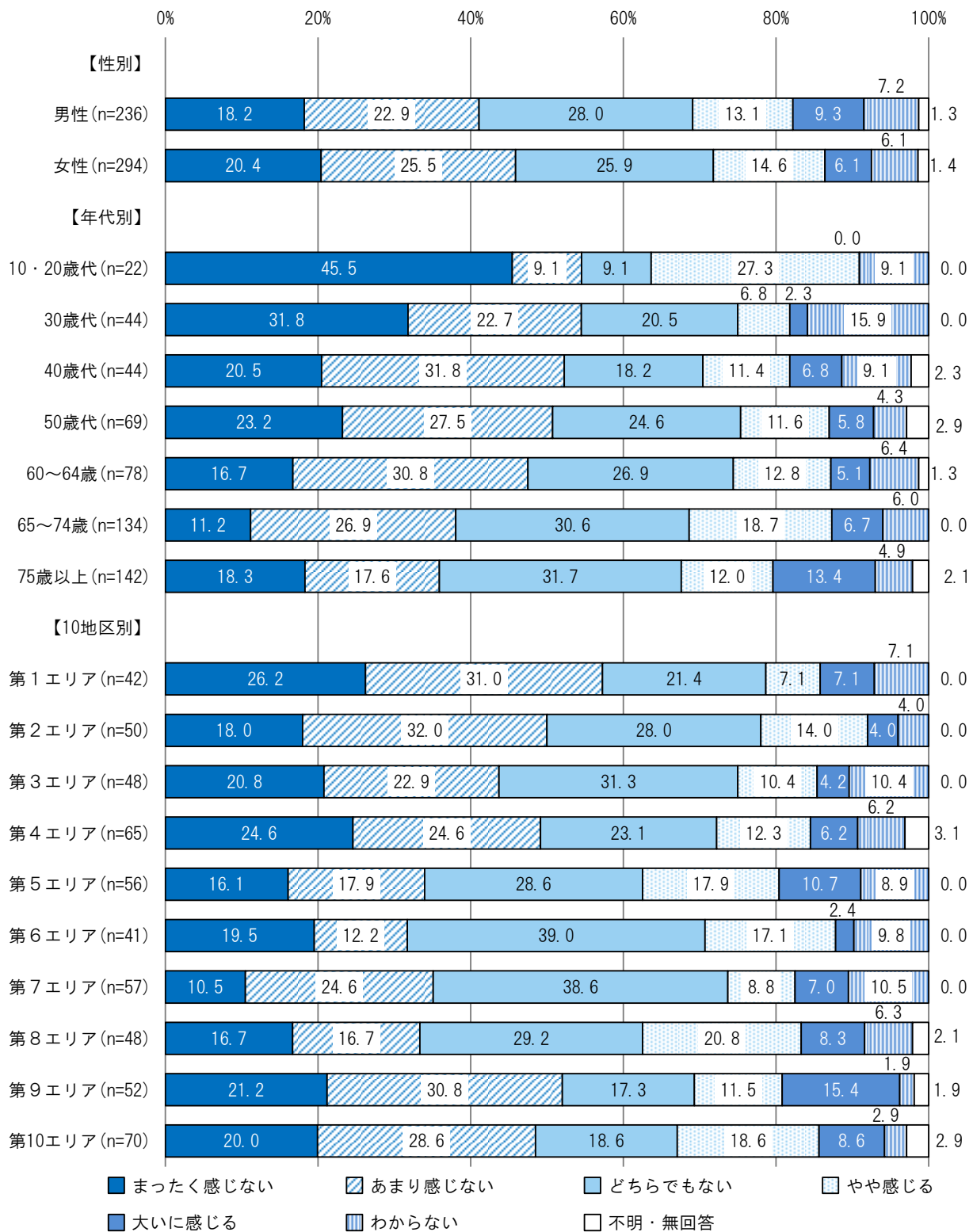
令和5年調査時と比較すると、「まったく感じない」が11.6ポイント低くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「まったく感じない」、40歳代から60～64歳では「あまり感じない」、65～74歳、75歳以上では「どちらでもない」が最も高くなっています。また、10・20歳代では「やや感じる」が他の年代と比べて高くなっています。

10地区別にみると、第1、第2、第9、第10エリアでは「あまり感じない」、第3、第5～第8エリアでは「どちらでもない」、第4エリアでは「まったく感じない」「あまり感じない」が最も高くなっています。また、第9エリアでは「大いに感じる」が他のエリアに比べて高くなっています。





問 8-2. 趣味・サークルなどの活動について

(単数回答)

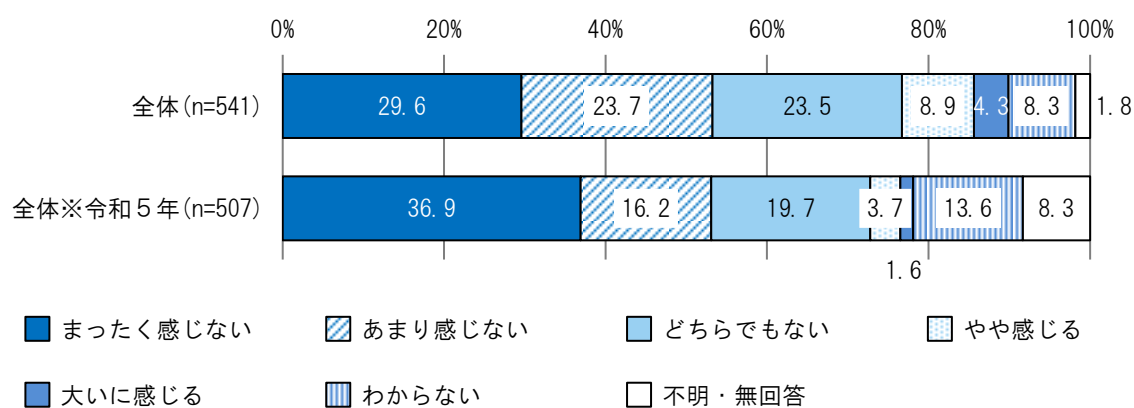
趣味・サークルなどの活動についてみると、「まったく感じない」が 29.6%と最も多く、次いで「あまり感じない」が 23.7%、「どちらでもない」が 23.5%となっています。

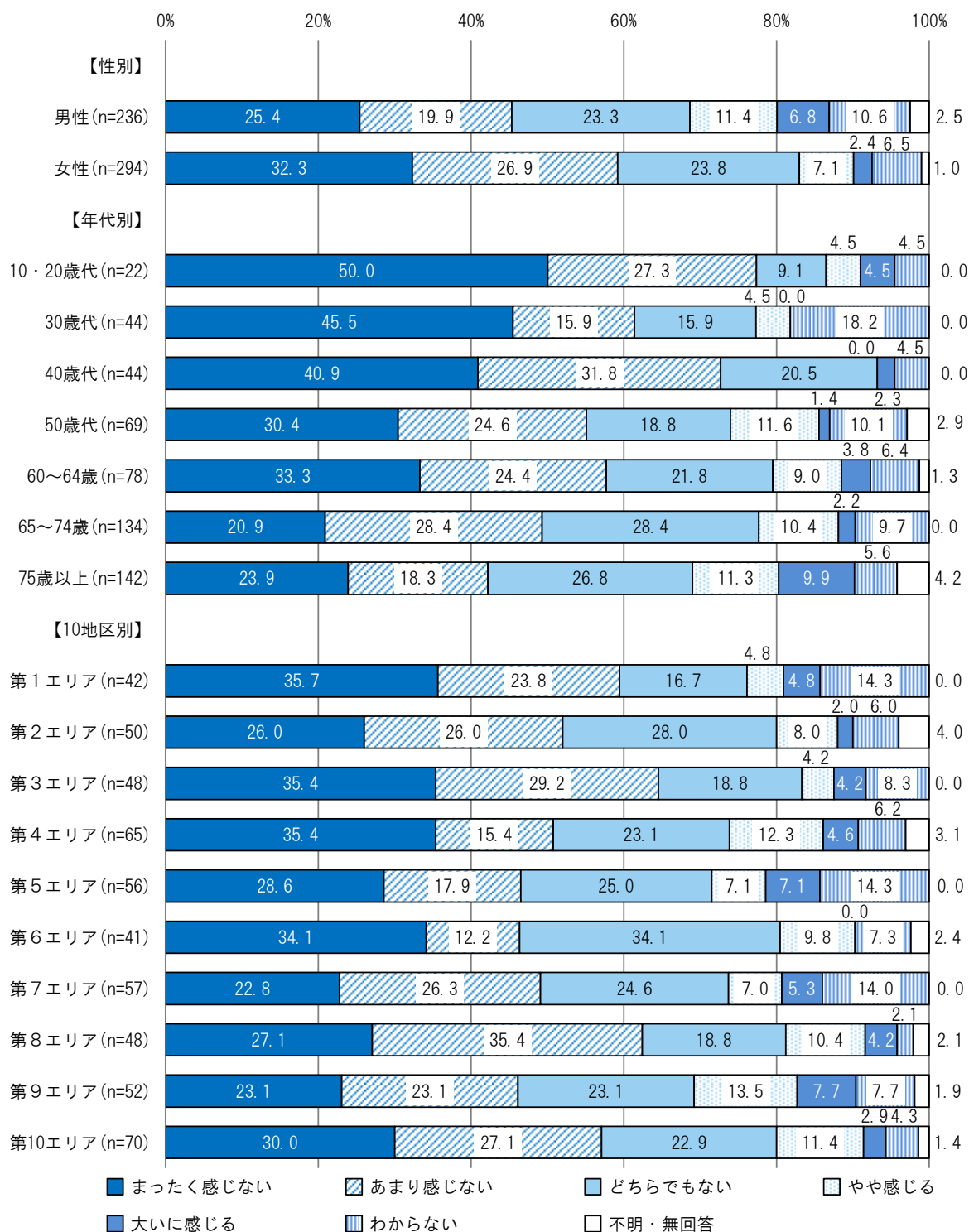
令和 5 年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代から 50 歳代、60～64 歳では「まったく感じない」、65～74 歳では「あまり感じない」「どちらでもない」、75 歳以上では「どちらでもない」が最も高くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 3～第 5、第 10 エリアでは「まったく感じない」、第 2 エリアでは「どちらでもない」、第 6 エリアでは「まったく感じない」「どちらでもない」、第 7、第 8 エリアでは「あまり感じない」、第 9 エリアでは「まったく感じない」「あまり感じない」「どちらでもない」が最も高くなっています。





問 8-3. デジタル化（インターネットでの手続き、キャッシュレス決済など）の進展について
（単数回答）

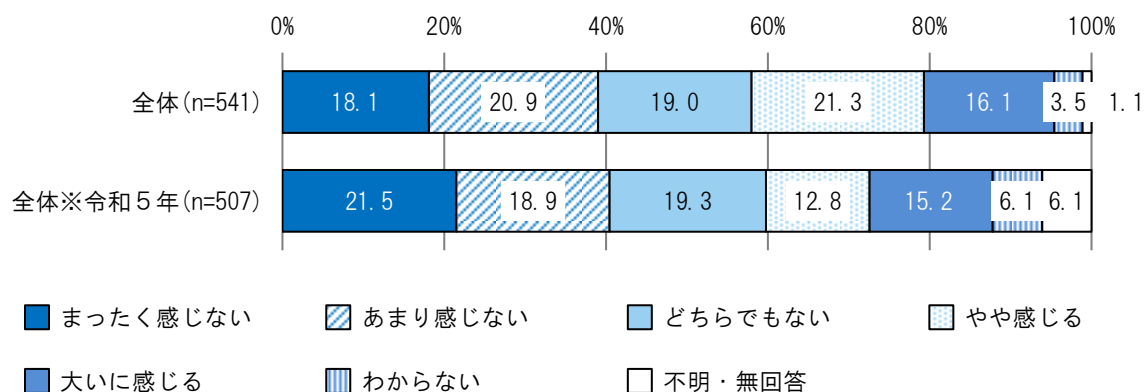
デジタル化の進展についてみると、「やや感じる」が21.3%と最も多く、次いで「あまり感じない」が20.9%、「どちらでもない」が19.0%となっています。

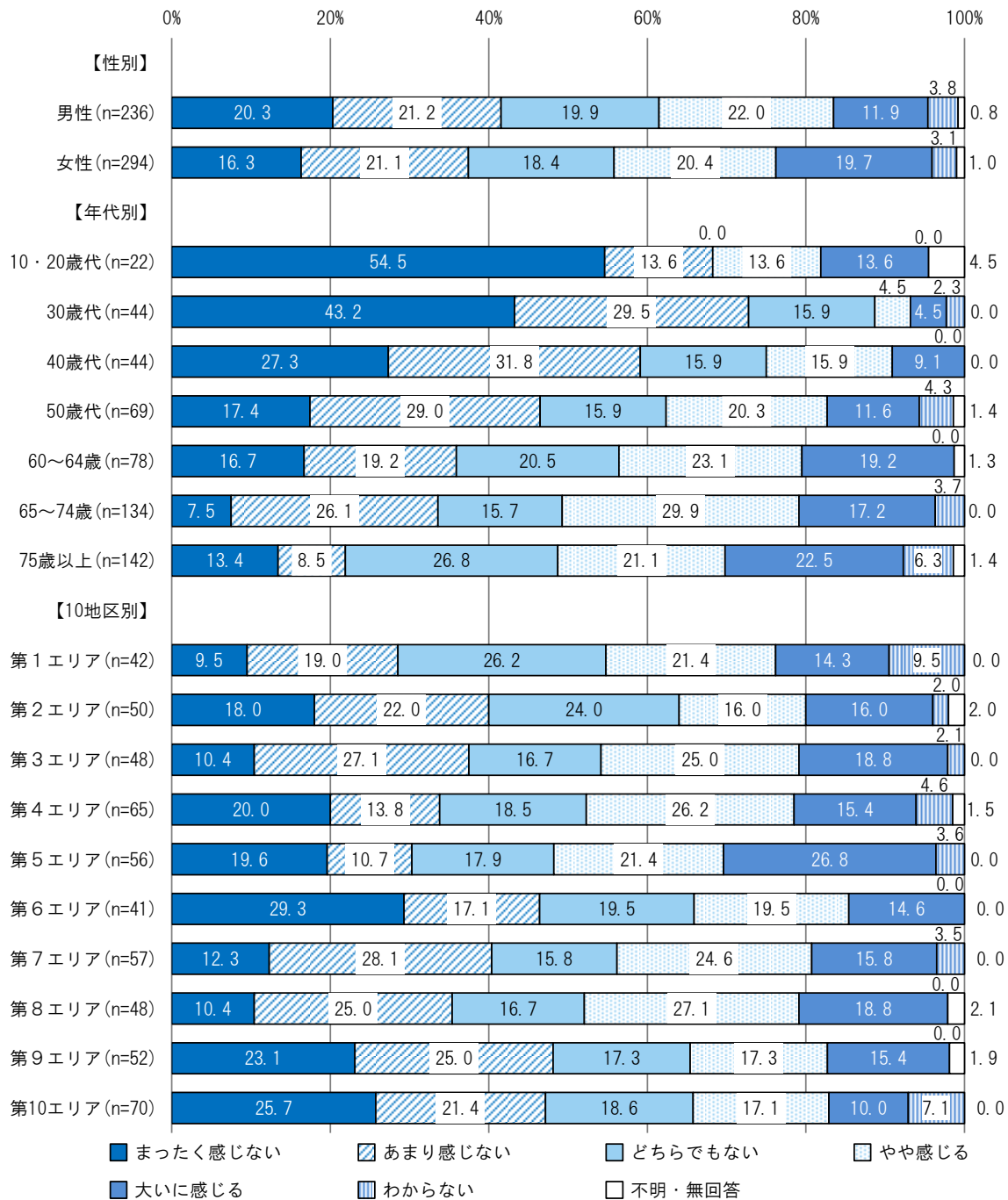
令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「まったく感じない」、40歳代、50歳代では「あまり感じない」、60～64歳、65～74歳では「やや感じる」、75歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。また、30歳代以降で、年代が上がるにつれて「やや感じる」「大いに感じる」を合わせた〈感じる〉の割合が高くなっている傾向があります。

10地区別にみると、第1、第2エリアでは「どちらでもない」、第3、第7、第9エリアでは「あまり感じない」、第4、第8エリアでは「やや感じる」、第6、第10エリアでは「まったく感じない」、第5エリアでは「大いに感じる」が最も多くなっています。





問 8-4. 公共施設、公園、道路などについて

(単数回答)

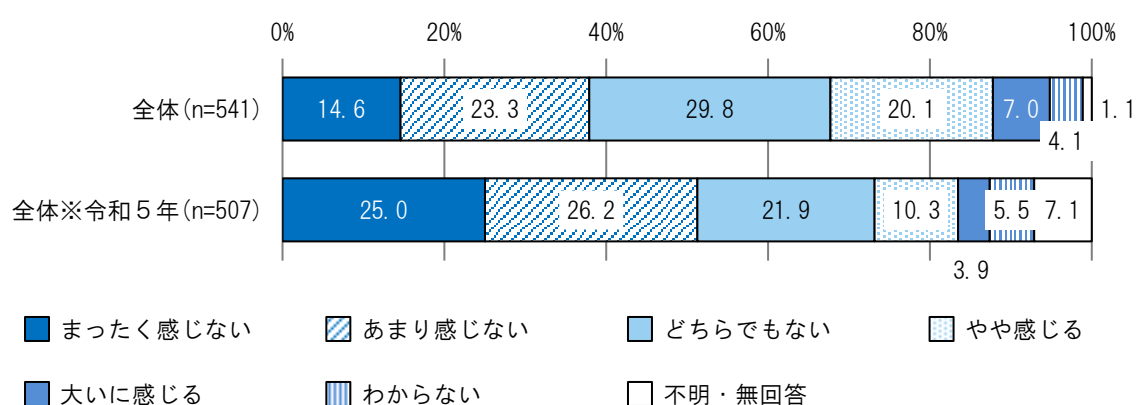
公共施設、公園、道路などについてみると、「どちらでもない」が29.8%と最も多く、次いで「あまり感じない」が23.3%、「やや感じる」が20.1%となっています。

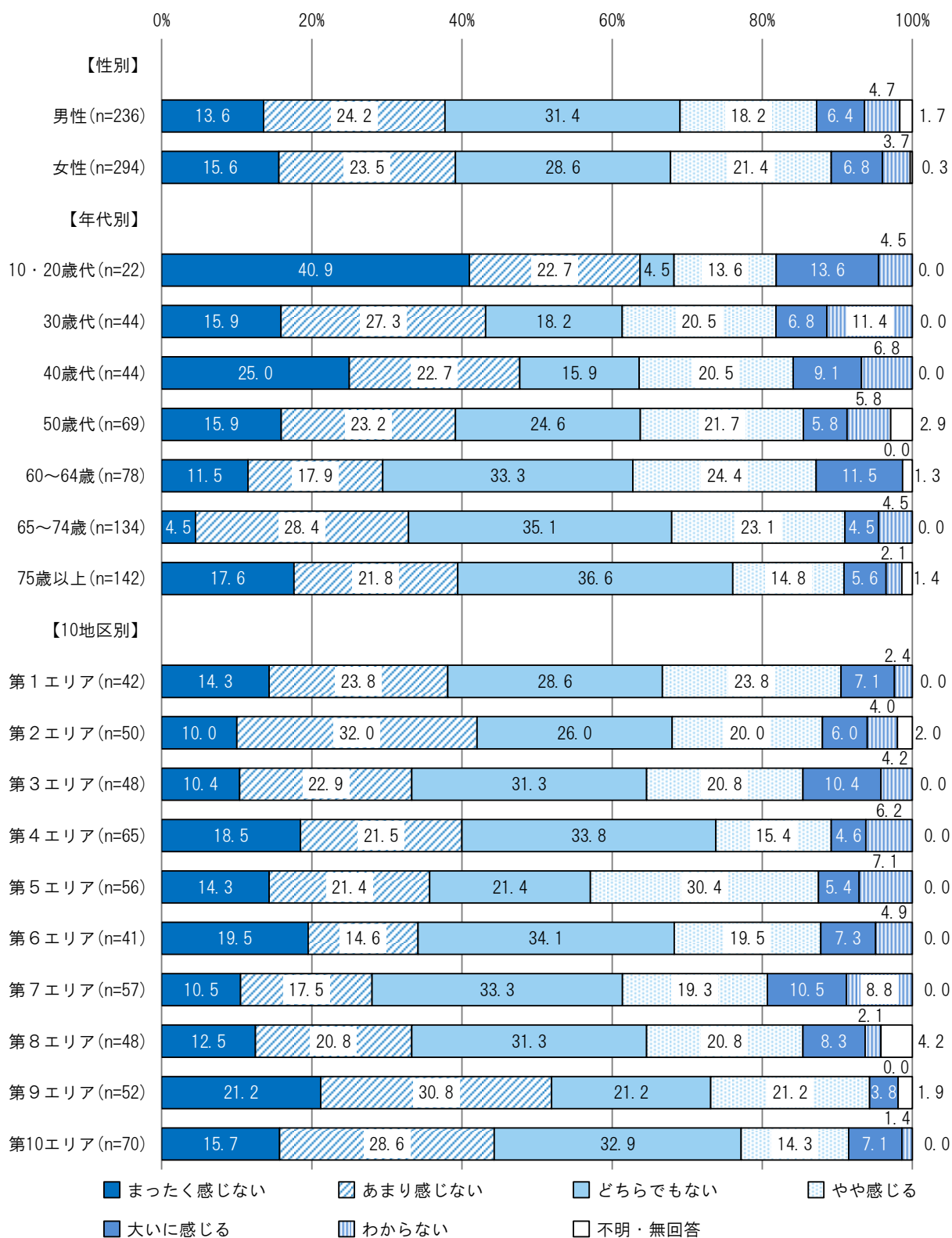
令和5年調査時と比較すると、「まったく感じない」が10.4ポイント低くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代では「まったく感じない」、30歳代では「あまり感じない」、50歳代から75歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10地区別にみると、第1、第3、第4、第6～第8、第10エリアでは「どちらでもない」、第2、第9エリアでは「あまり感じない」、第5エリアでは「やや感じる」が最も多くなっています。また、第5エリアでは「やや感じる」が他の地区と比べて高くなっています。





問 8-5. みどり・環境について

(単数回答)

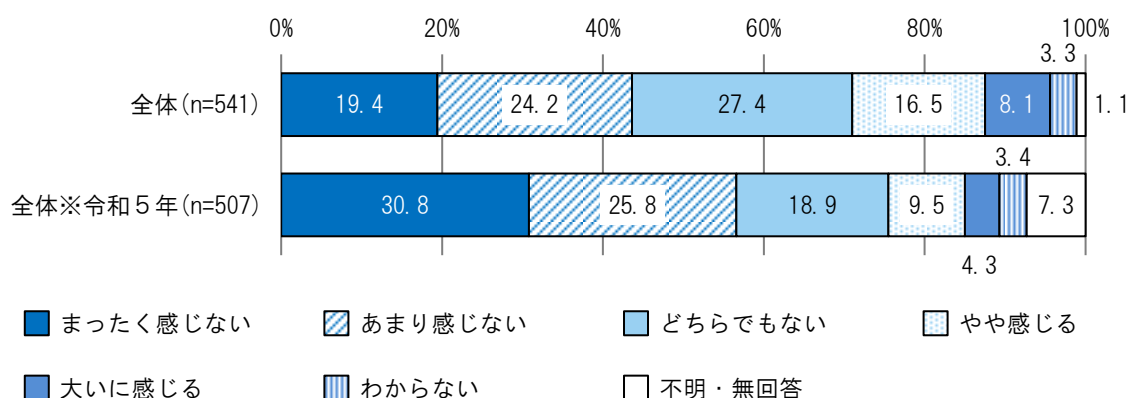
みどり・環境についてみると、「どちらでもない」が27.4%と最も多く、次いで「あまり感じない」が24.2%、「まったく感じない」が19.4%となっています。

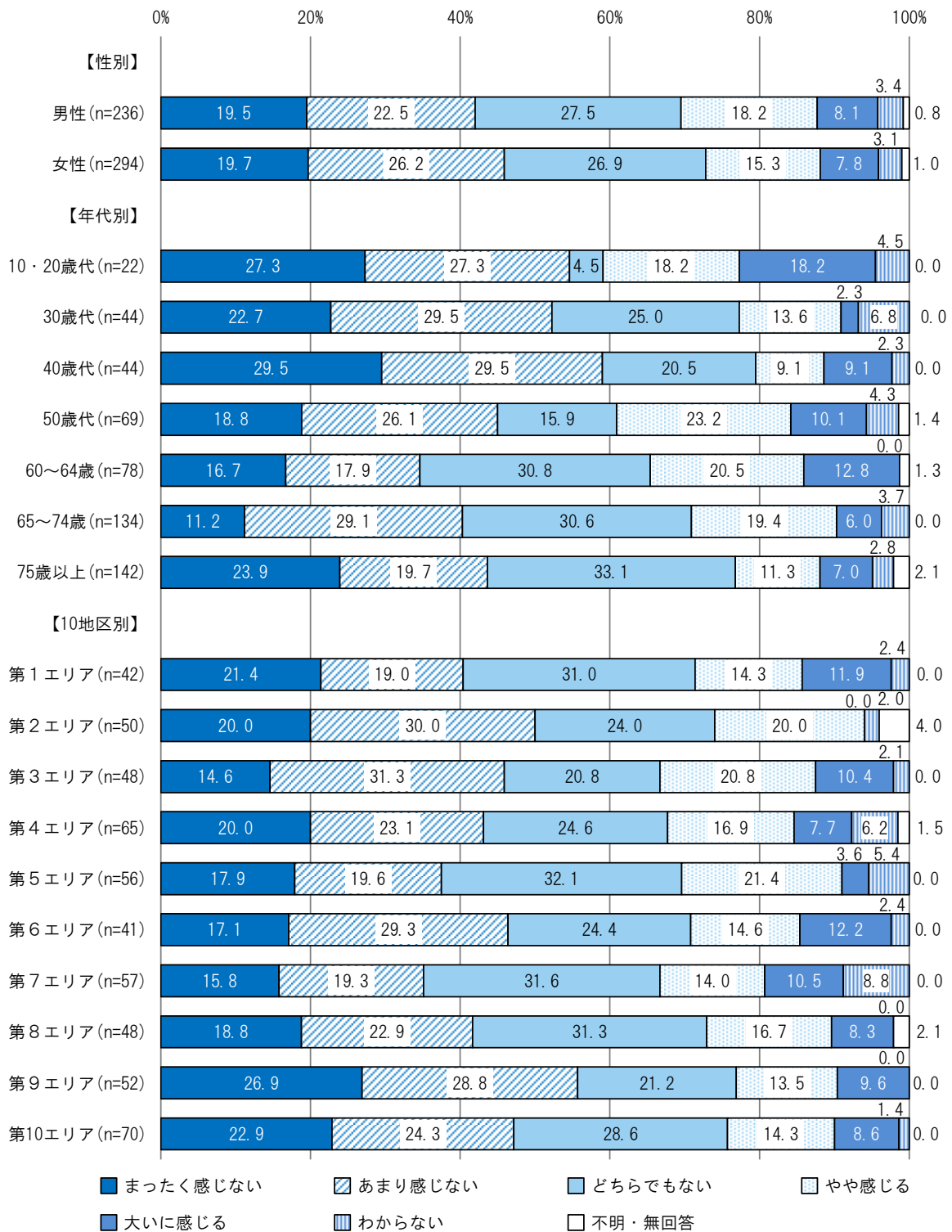
令和5年調査時と比較すると、「まったく感じない」が11.4ポイント低くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代では「まったく感じない」「あまり感じない」、30歳代、50歳代では「あまり感じない」、60～64歳から75歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10地区別にみると、第1、第4、第5、第7、第8、第10エリアでは「どちらでもない」、第2、第3、第6、第9エリアでは「あまり感じない」が最も多くなっています。





問 8-6. 住まいの問題（家の老朽化、住み替えなど）について

（単数回答）

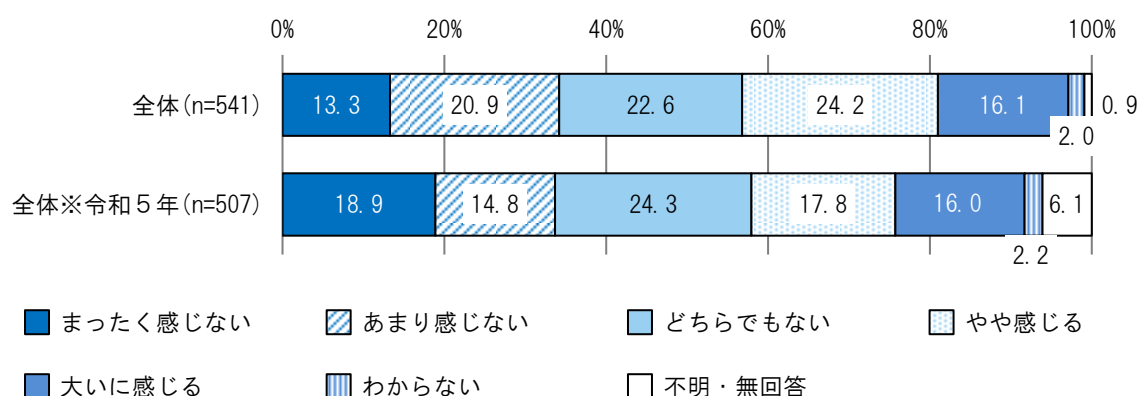
住まいの問題についてみると、「やや感じる」が 24.2%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 22.6%、「あまり感じない」が 20.9%となっています。

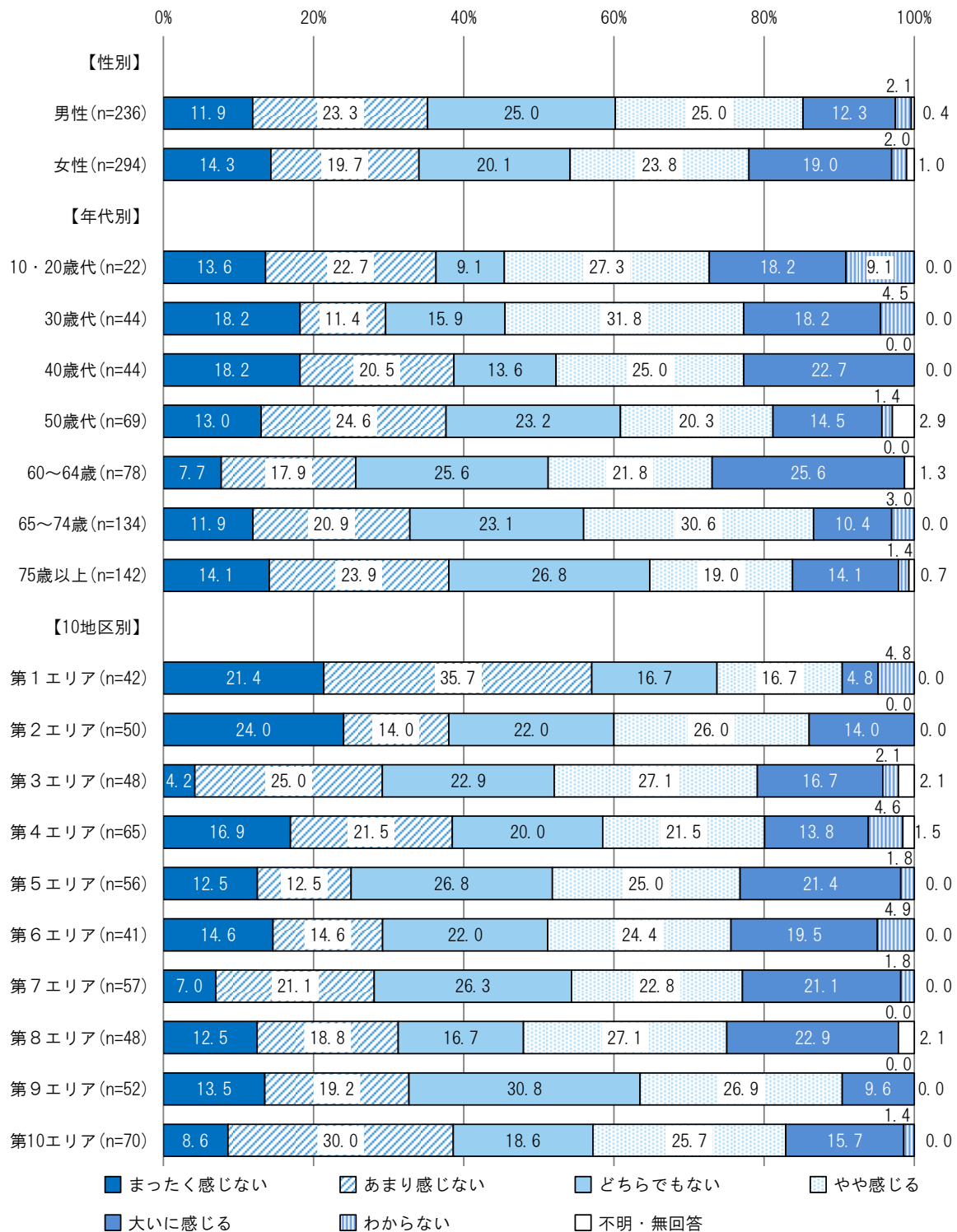
令和 5 年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代から 40 歳代、65～74 歳では「やや感じる」、50 歳代では「あまり感じない」、60～64 歳では「どちらでもない」「大いに感じる」、75 歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 10 エリアでは「あまり感じない」、第 2、第 3、第 6、第 8 エリアでは「やや感じる」、第 4 エリアでは「あまり感じない」「やや感じる」、第 5、第 7、第 9 エリアでは「どちらでもない」が最も多くなっています。





問 8-7. 災害が起きたときのことや日常の防災対策について

(単数回答)

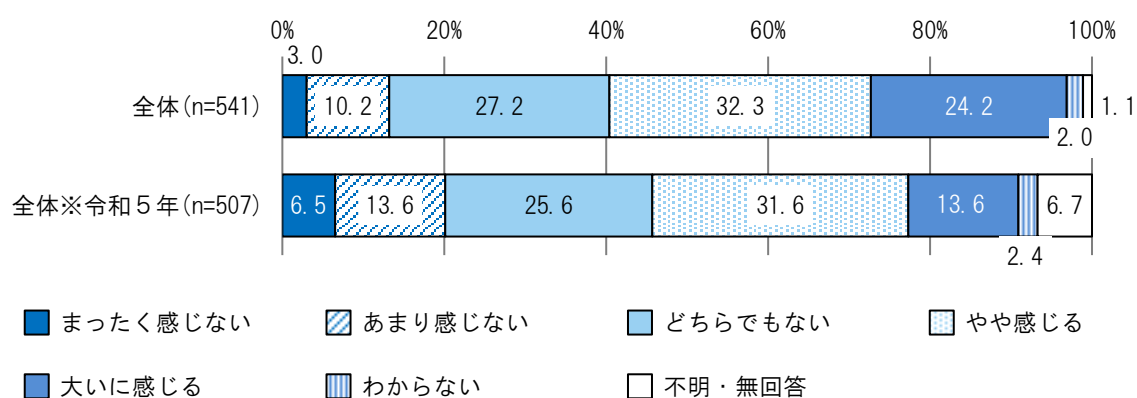
災害が起きたときのことや日常の防災対策についてみると、「やや感じる」が 32.3%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 27.2%、「大いに感じる」が 24.2%となっています。

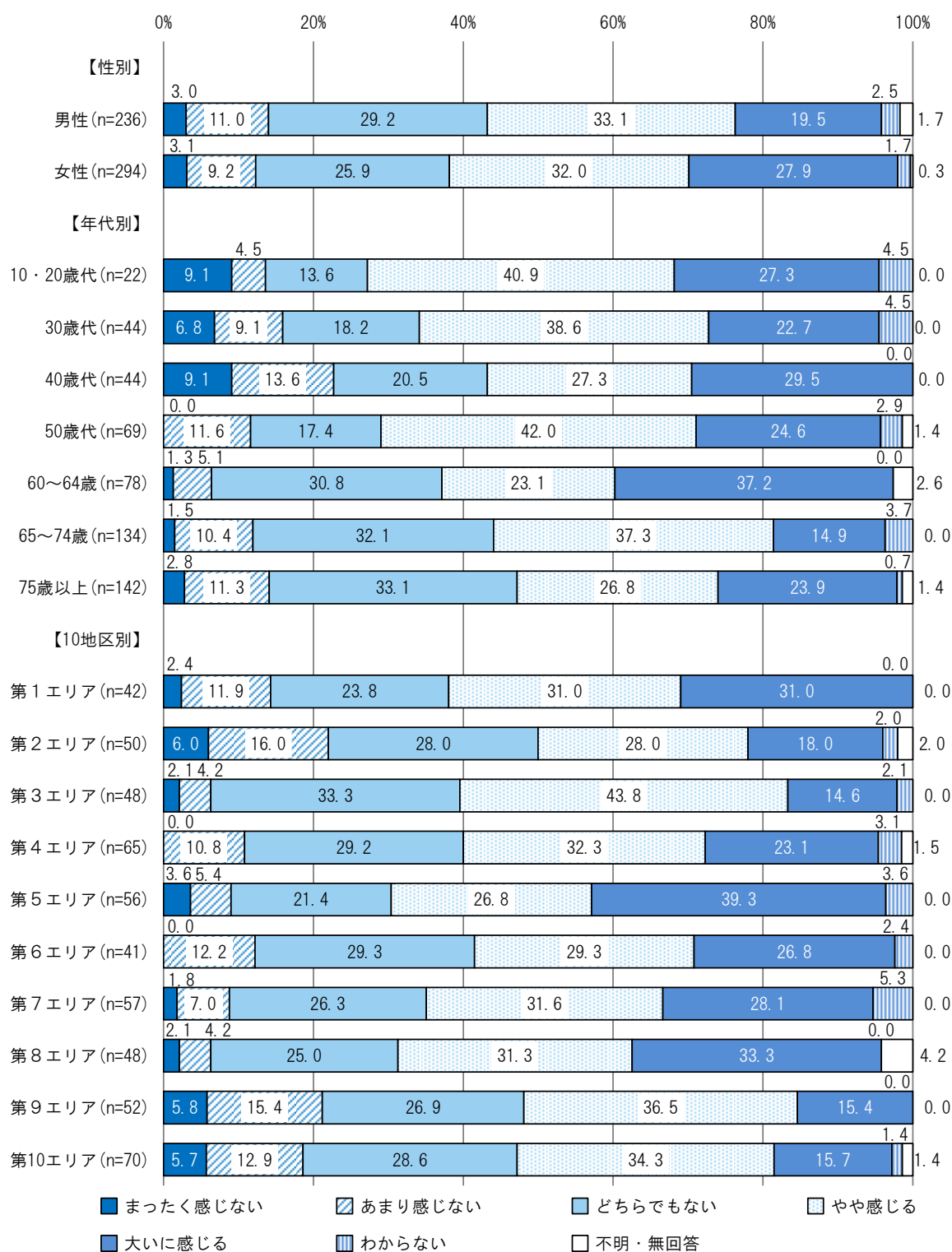
令和 5 年調査時と比較すると、「大いに感じる」が 10.6 ポイント高くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代、30 歳代、50 歳代、65～74 歳では「やや感じる」、40 歳代、60～64 歳では「大いに感じる」、75 歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。また、60～64 歳では「大いに感じる」が他の年代と比べて高くなっています。

10 地区別にみると、第 1 エリアでは「やや感じる」「大いに感じる」、第 2、第 6 エリアでは「どちらでもない」「やや感じる」、第 3、第 4、第 7、第 9、第 10 エリアでは「やや感じる」、第 5、第 8 エリアでは「大いに感じる」が最も多くなっています。また、第 5 エリアでは「大いに感じる」が他の地区と比べて高くなっています。





問 8-8. 地域の治安（犯罪、交通事故）について

（単数回答）

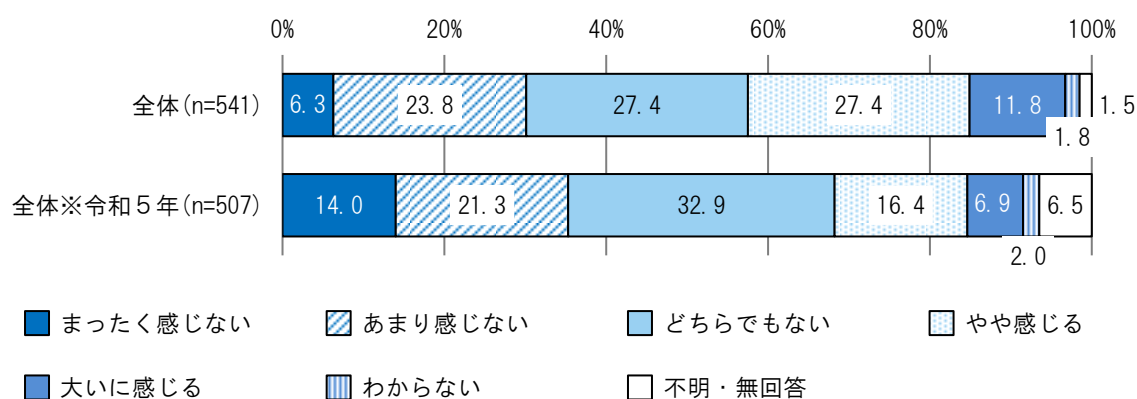
地域の治安についてみると、「どちらでもない」「やや感じる」が 27.4%と最も多く、次いで「あまり感じない」が 23.8%となっています。

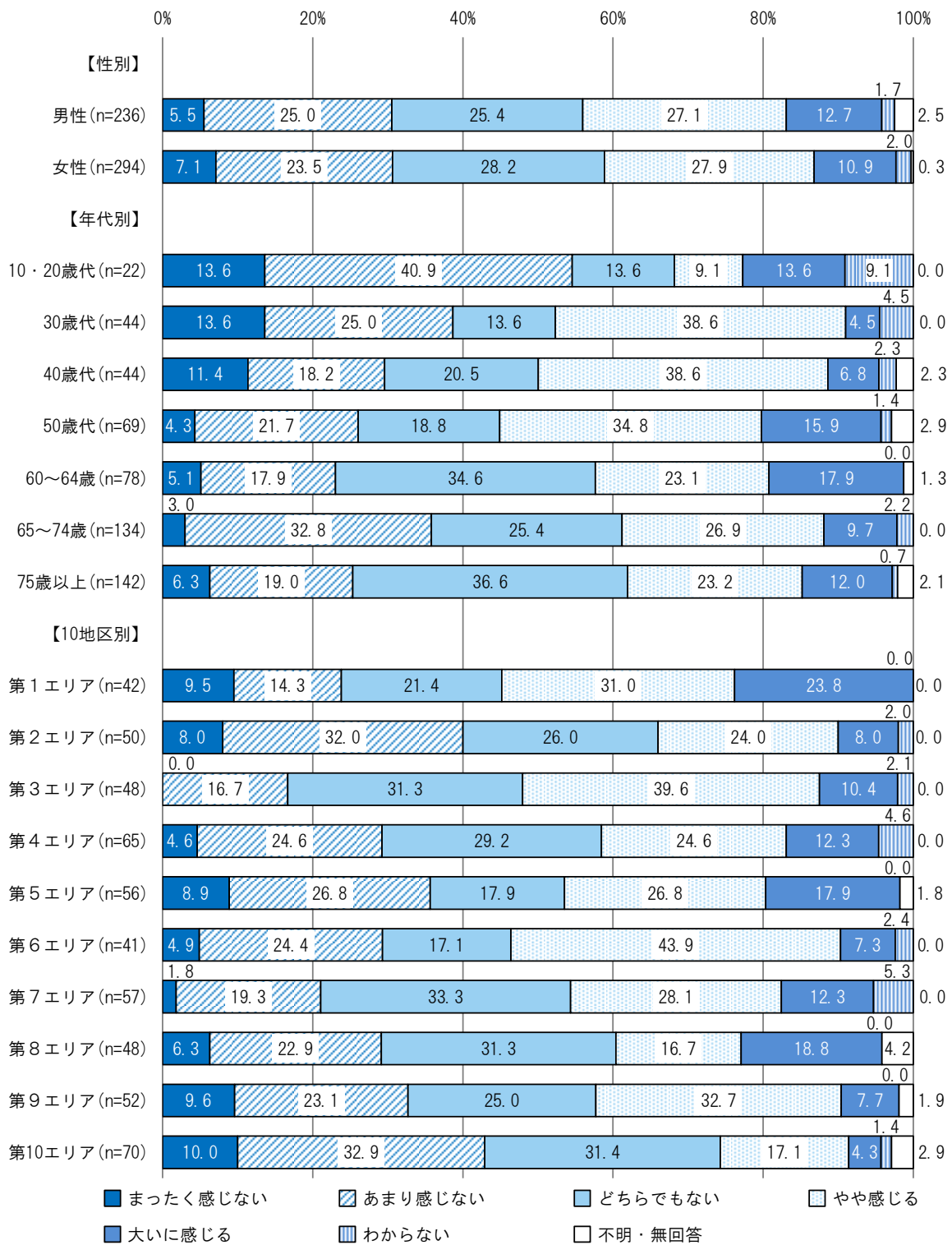
令和 5 年調査時と比較すると、「やや感じる」が 11.0 ポイント高くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代、65～74 歳では「あまり感じない」、30 歳代から 50 歳代では「やや感じる」、60～64 歳、75 歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 3、第 6、第 9 エリアでは「やや感じる」、第 2、第 10 エリアでは「あまり感じない」、第 4、第 7、第 8 エリアでは「どちらでもない」、第 5 エリアでは「あまり感じない」「やや感じる」が最も多くなっています。また、第 1 エリアでは「大いに感じる」が他の地区と比べて高くなっています。





問 8-9. 自分や家族の健康・病気について

(単数回答)

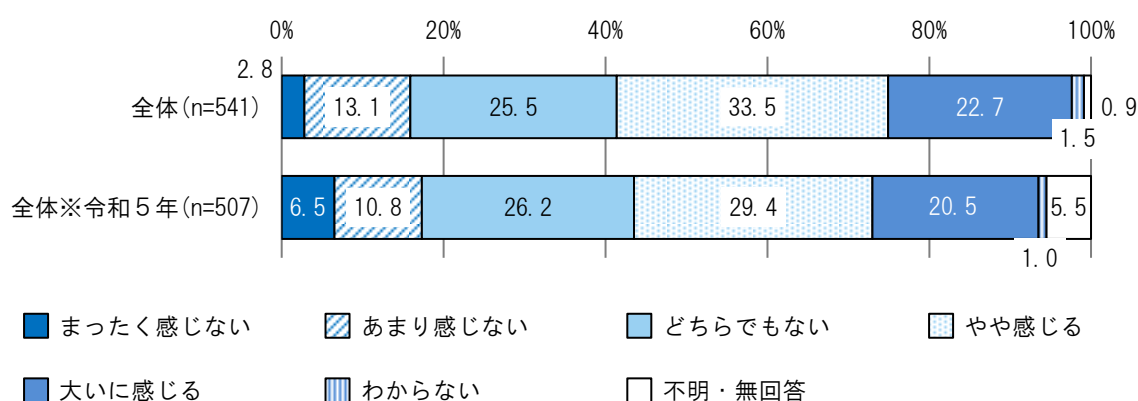
自分や家族の健康・病気についてみると、「やや感じる」が 33.5%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 25.5%、「大いに感じる」が 22.7%となっています。

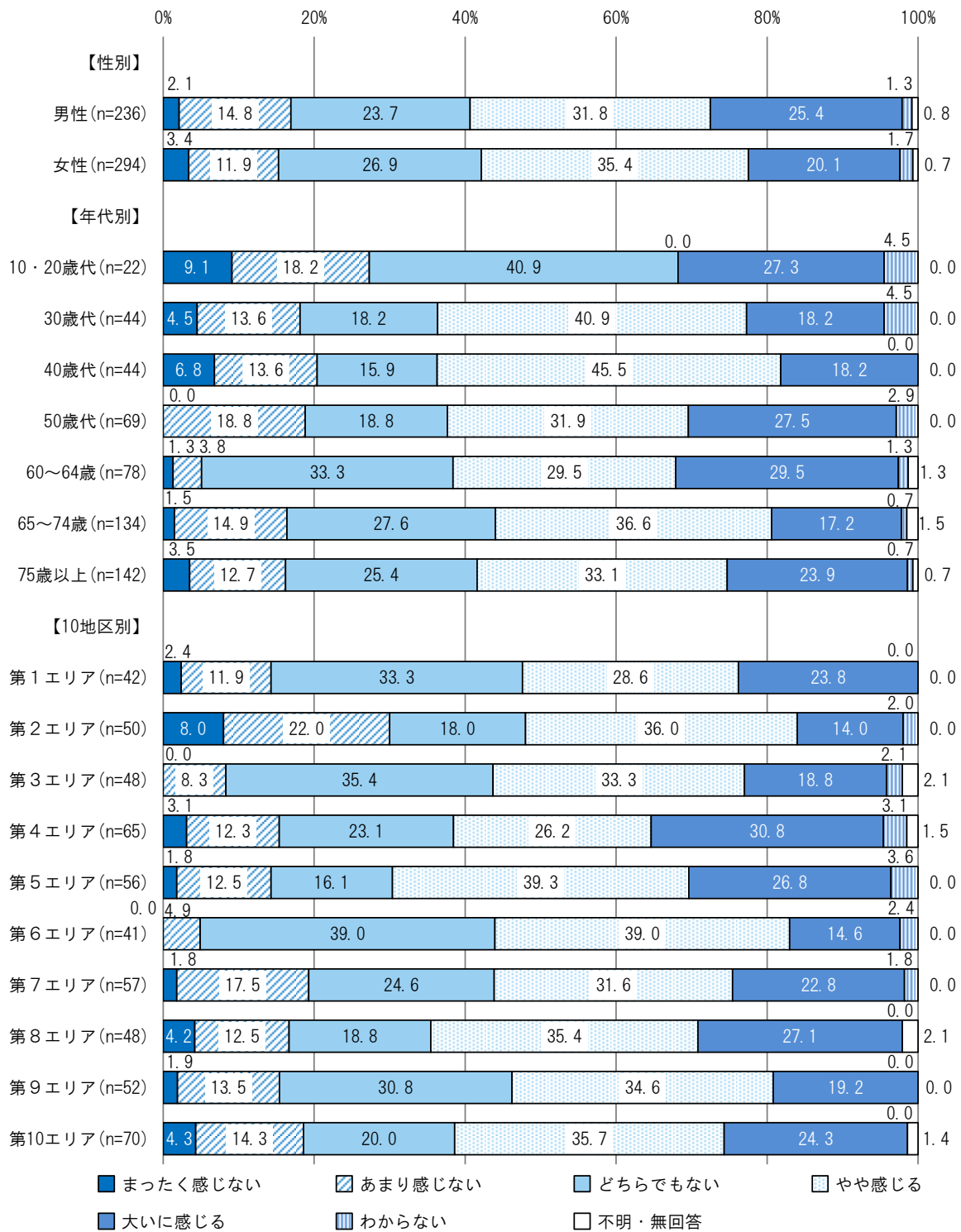
令和 5 年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代、60～64 歳では「どちらでもない」、30 歳代から 50 歳代、65～74 歳、75 歳以上では「やや感じる」が最も多くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 3 エリアでは「どちらでもない」、第 2、第 5、第 7～第 10 エリアでは「やや感じる」、第 4 エリアでは「大いに感じる」、第 6 エリアでは「どちらでもない」「やや感じる」が最も多くなっています。





問 8-10. 日常生活（家事、移動など）について

（単数回答）

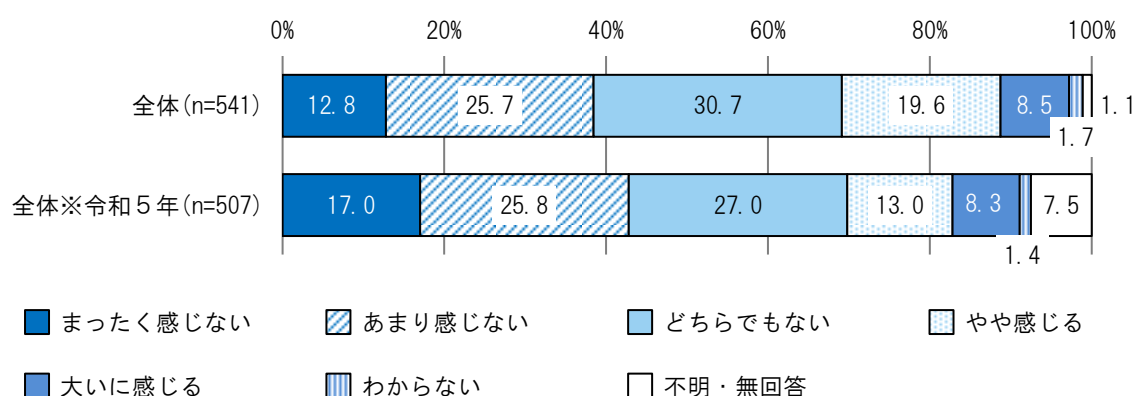
日常生活についてみると、「どちらでもない」が 30.7%と最も多く、次いで「あまり感じない」が 25.7%、「やや感じる」が 19.6%となっています。

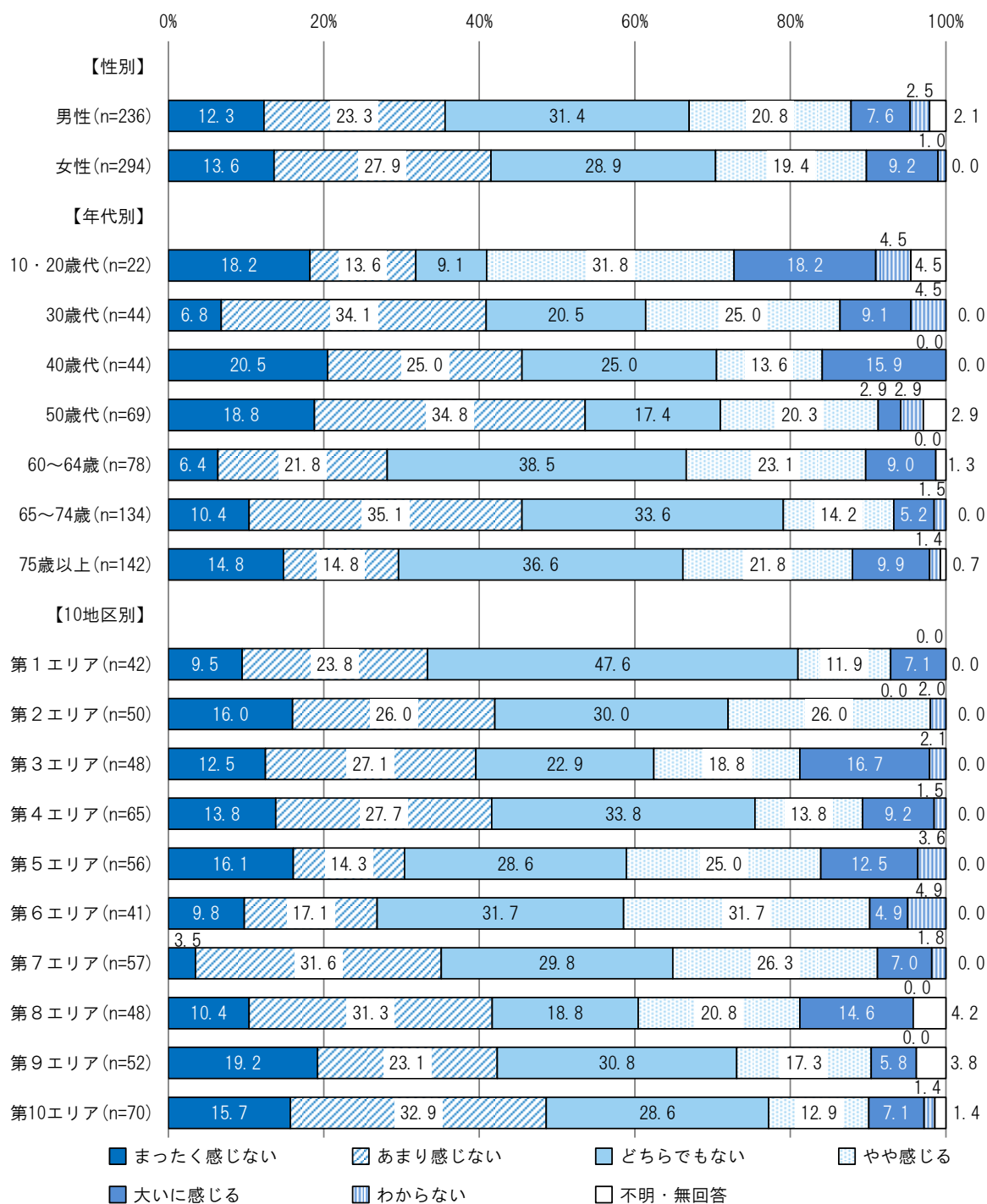
令和 5 年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代では「やや感じる」、30 歳代、50 歳代、65～74 歳では「あまり感じない」、40 歳代では「あまり感じない」「どちらでもない」、60～64 歳、75 歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 2、第 4、第 5、第 9 エリアでは「どちらでもない」、第 3、第 7、第 8、第 10 エリアでは「あまり感じない」、第 6 エリアでは「どちらでもない」「やや感じる」が最も多くなっています。





問 8-11. 自分や家族の老後・介護について

(単数回答)

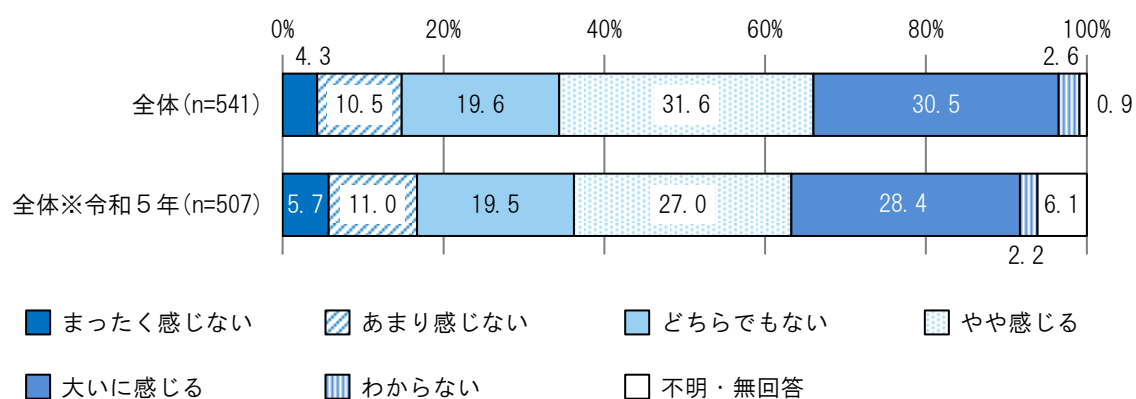
自分や家族の老後・介護についてみると、「やや感じる」が 31.6%と最も多く、次いで「大いに感じる」が 30.5%、「どちらでもない」が 19.6%となっています。

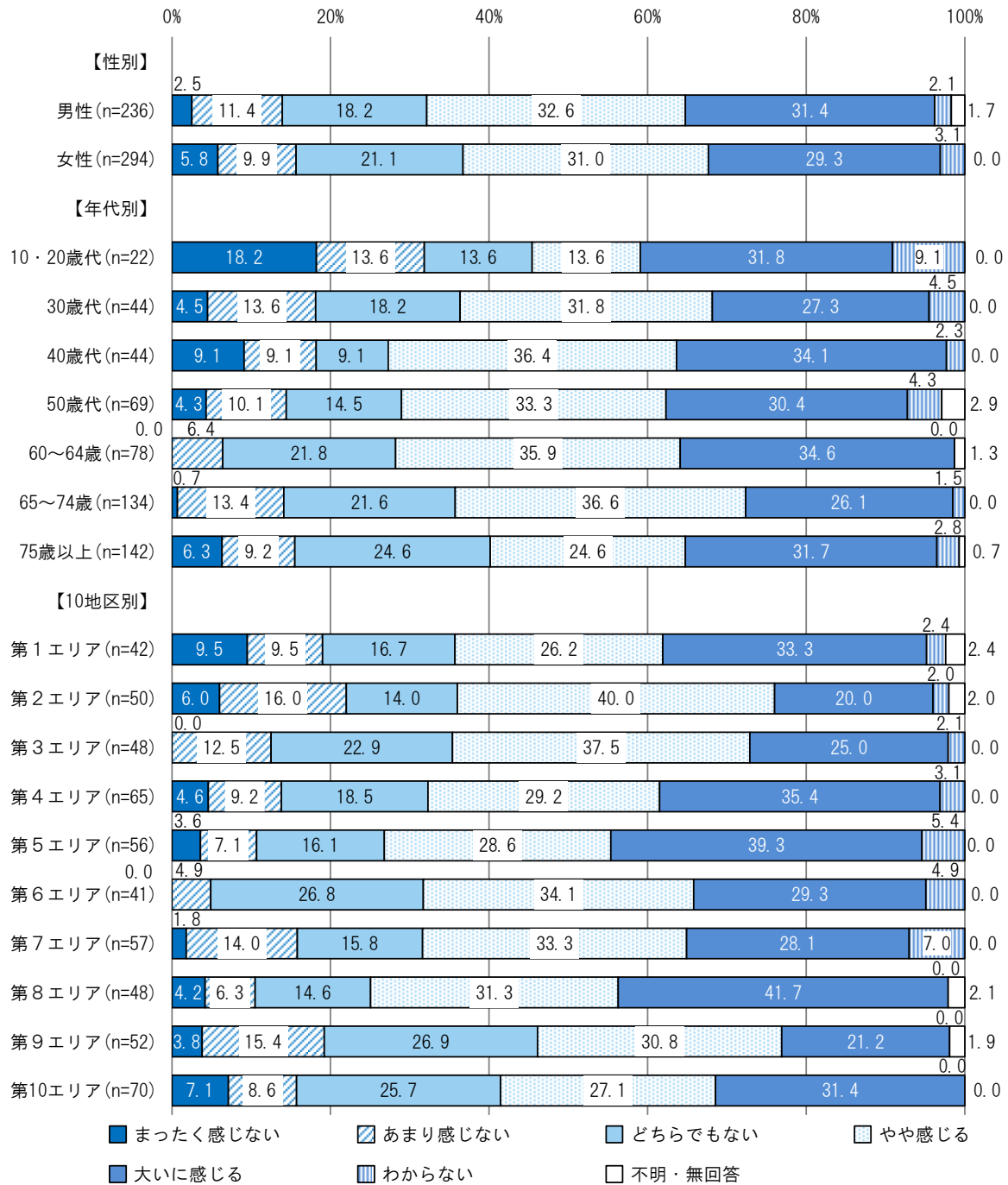
令和 5 年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代、75 歳以上では「大いに感じる」、30 歳代から 50 歳代、60～64 歳、65～74 歳では「やや感じる」が最も多くなっています。

10 地区別にみると、第 1、第 4、第 5、第 8、第 10 エリアでは「大いに感じる」、第 2、第 3、第 6、第 7、第 9 エリアでは「やや感じる」が最も多くなっています。





問 8-12. 自分や家族の障がいについて

(単数回答)

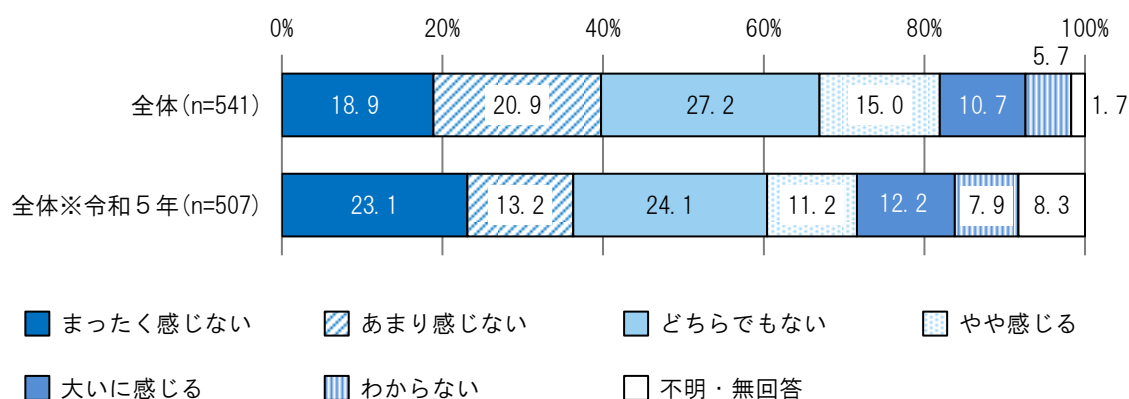
自分や家族の障がいについてみると、「どちらでもない」が27.2%と最も多く、次いで「あまり感じない」が20.9%、「まったく感じない」が18.9%となっています。

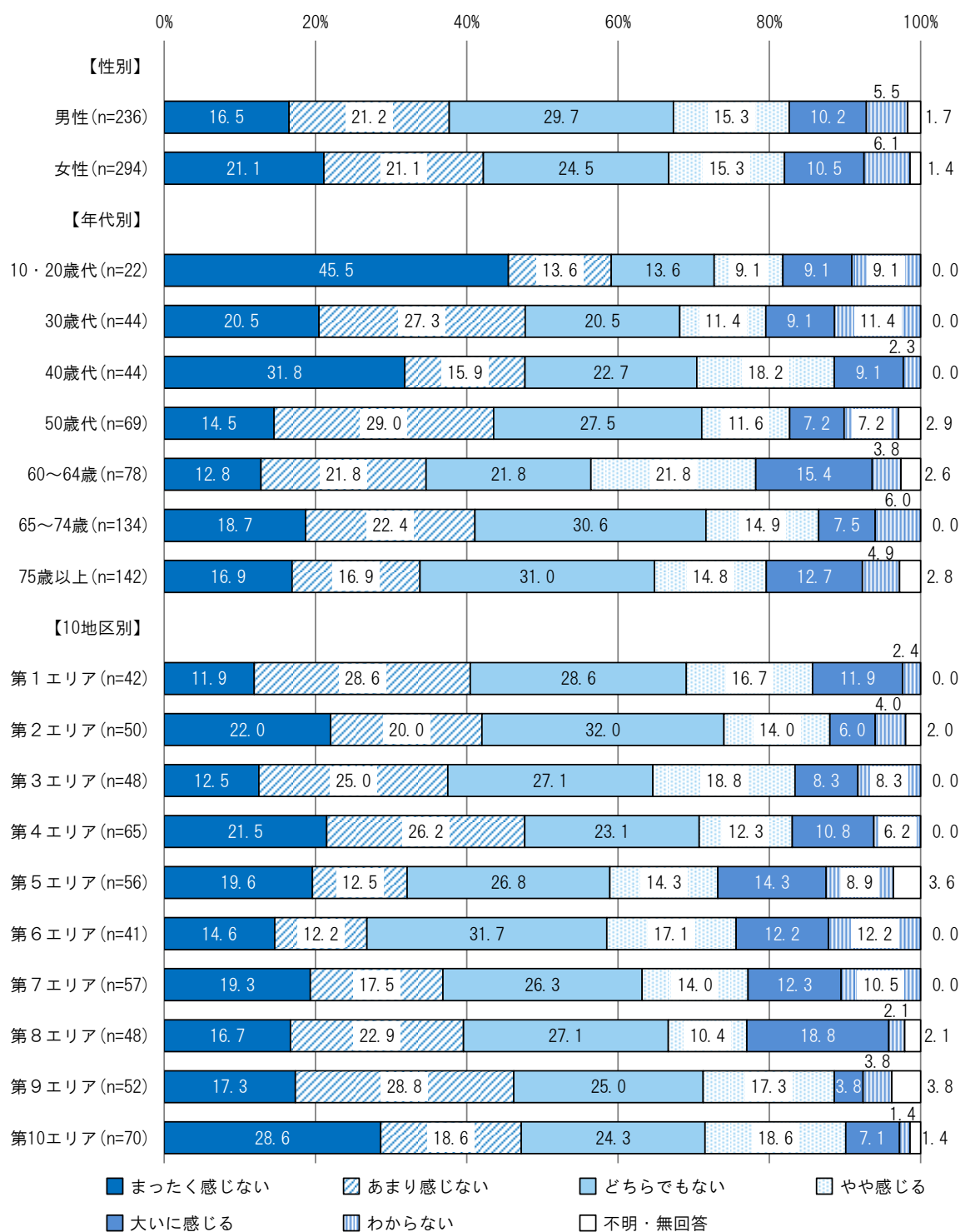
令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代では「まったく感じない」、30歳代、50歳代では「あまり感じない」、60～64歳では「あまり感じない」「どちらでもない」「やや感じる」、65～74歳、75歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10地区別にみると、第1エリアでは「あまり感じない」「どちらでもない」、第2、第3、第5～第8エリアでは「どちらでもない」、第4、第9エリアでは「あまり感じない」、第10エリアでは「まったく感じない」が最も多くなっています。





問 8-13. 妊娠・出産・子育てについて

(単数回答)

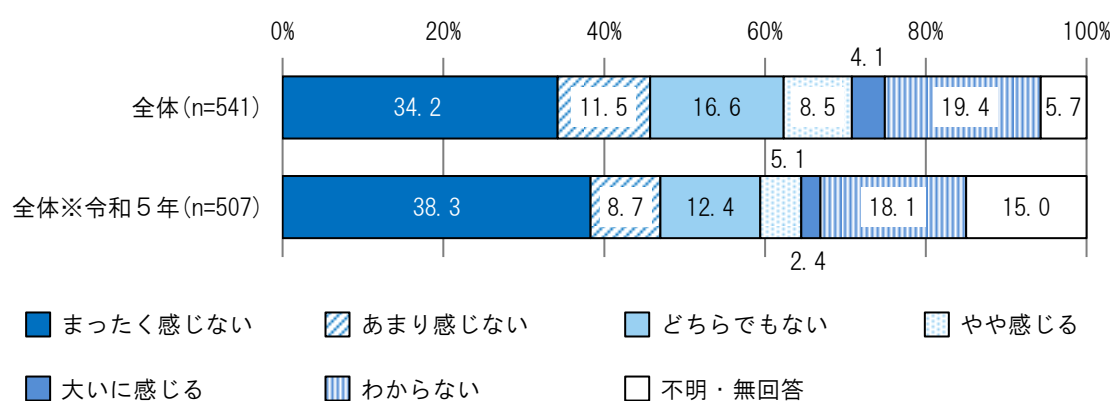
妊娠・出産・子育てについてみると、「まったく感じない」が34.2%と最も多く、次いで「わからない」が19.4%、「どちらでもない」が16.6%となっています。

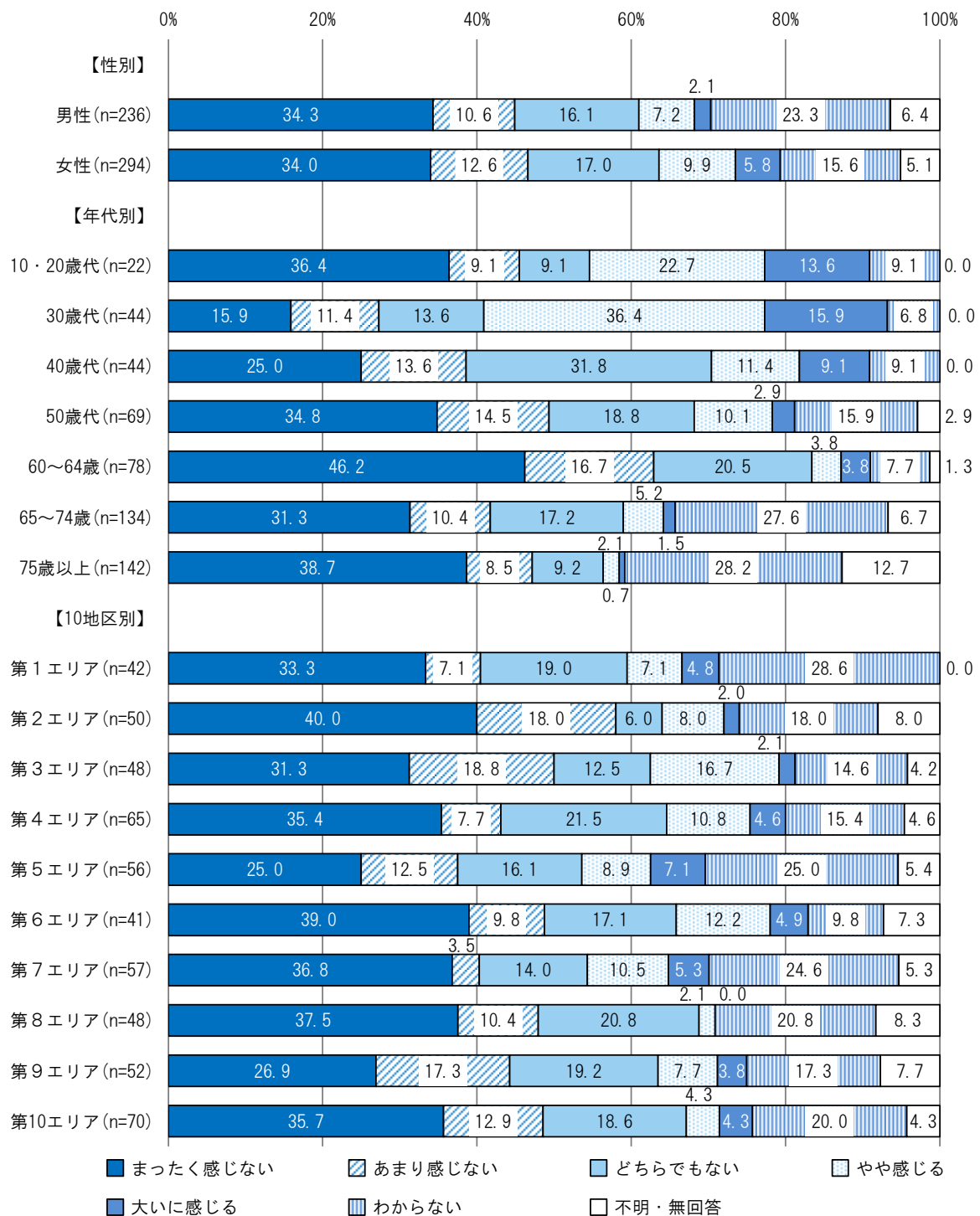
令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、50歳代、60～64歳から75歳以上では「まったく感じない」、30歳代では「やや感じる」、40歳代では「どちらでもない」が最も多くなっています。また、30歳代では「やや感じる」が他の年代と比べて高くなっています。

10地区別にみると、第1～第4、第6～第10エリアでは「まったく感じない」、第5エリアでは「まったく感じない」「わからない」が最も多くなっています。





問 8-14. 子どもの成長・教育（不登校、ひきこもり、非行）について

（単数回答）

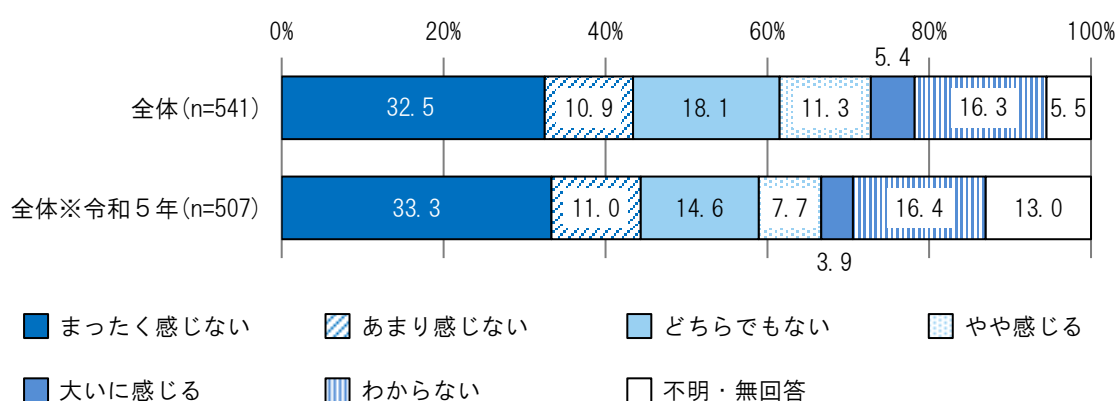
子どもの成長・教育についてみると、「まったく感じない」が32.5%と最も多く、次いで「どちらでもない」が18.1%、「わからない」が16.3%となっています。

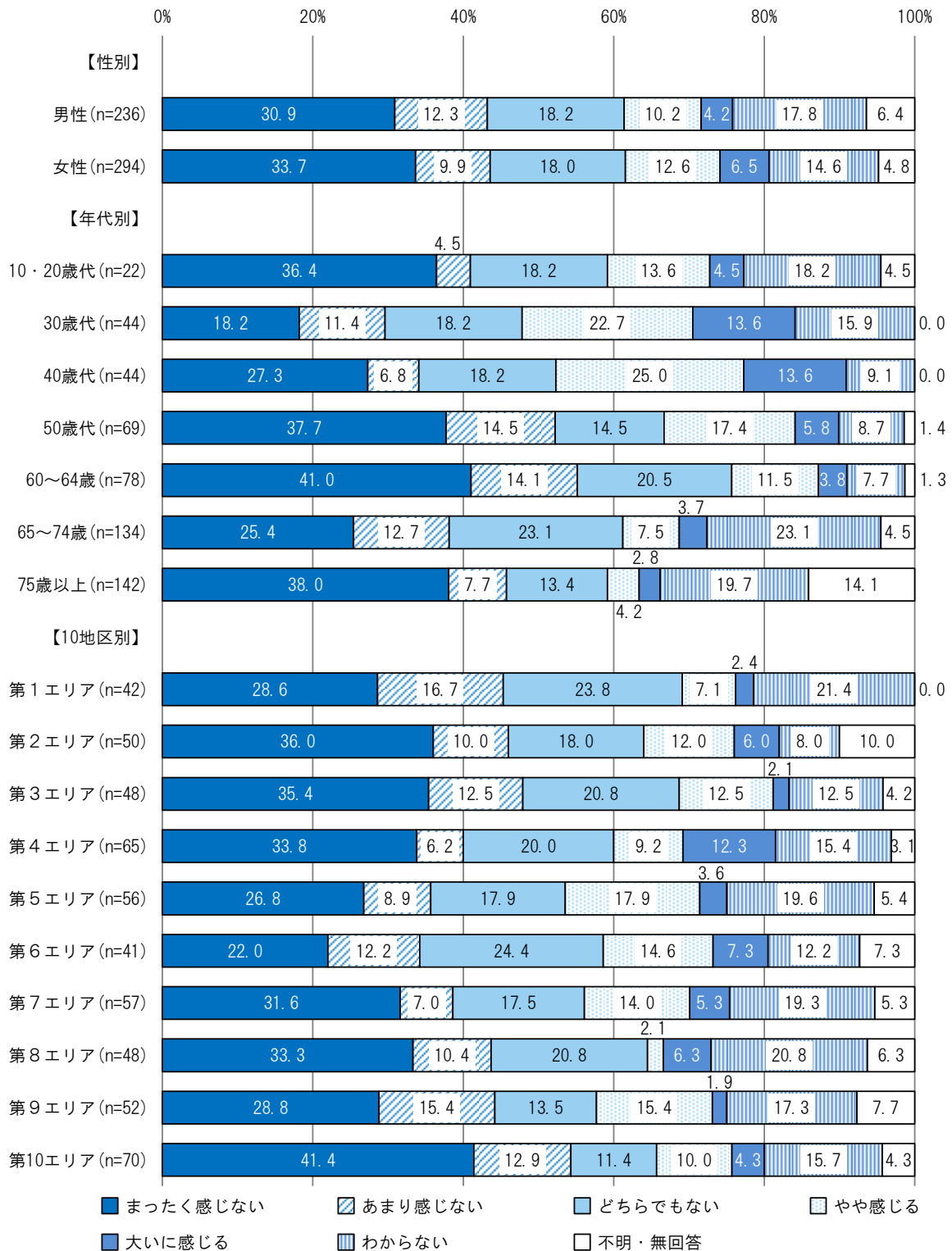
令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代から75歳以上では「まったく感じない」、30歳代では「やや感じる」が最も多くなっています。また、30歳代、40歳代では「大いに感じる」が他の年代と比べて高くなっています。

10地区別にみると、第1～第5、第7～第10エリアでは「まったく感じない」、第6エリアでは「どちらでもない」が最も多くなっています。





問 8-15. 経済的な問題（就職、低収入、家計）について

（単数回答）

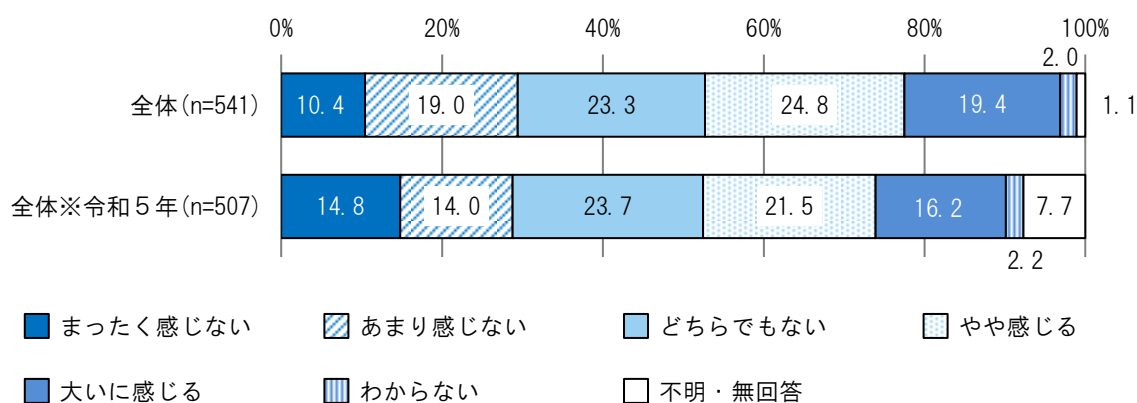
経済的な問題についてみると、「やや感じる」が24.8%と最も多く、次いで「どちらでもない」が23.3%、「大いに感じる」が19.4%となっています。

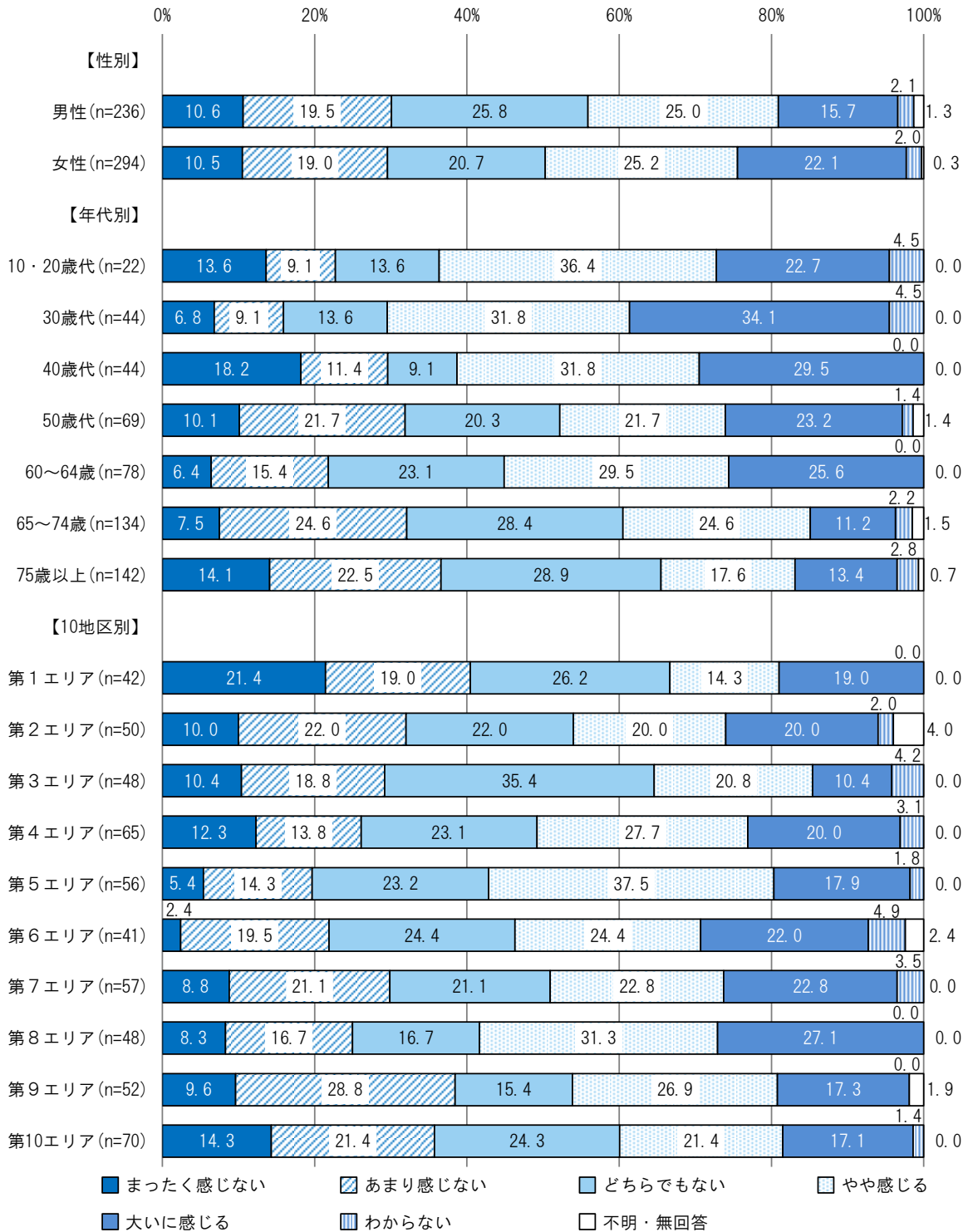
令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代、60～64歳では「やや感じる」、30歳代、50歳代では「大いに感じる」、65～74歳、75歳以上では「どちらでもない」が最も多くなっています。

10地区別にみると、第1、第3、第10エリアでは「どちらでもない」、第2エリアでは「あまり感じない」「どちらでもない」、第4、第5、第8エリアでは「やや感じる」、第6エリアでは「どちらでもない」「やや感じる」、第7エリアは「やや感じる」「大いに感じる」、第9エリアでは「あまり感じない」が最も多くなっています。



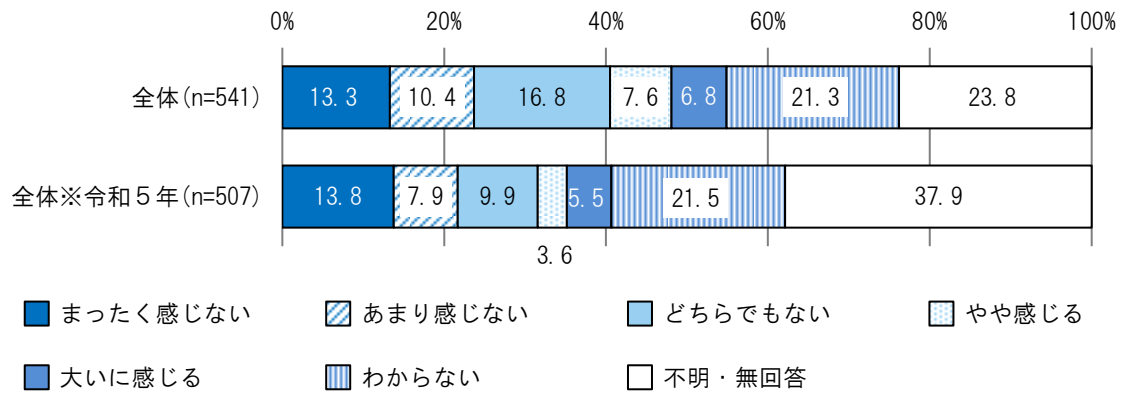


問 8-16. その他の不安・悩みについて

(単数回答)

その他の不安・悩みについてみると、「わからない」が21.3%と最も多く、次いで「どちらでもない」が16.8%、「まったく感じない」が13.3%となっています。

令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。



問 9. あなたがお住まいの地域の中で以下の問題（困りごと）や課題があると感じていますか。将来に対する課題でも結構です。（複数回答）

地域の課題・困りごとについてみると、「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」が42.9%と最も多く、次いで「高齢者、障がい者への支援」が33.6%、「日常の防犯対策、治安に関する課題」が27.9%となっています。

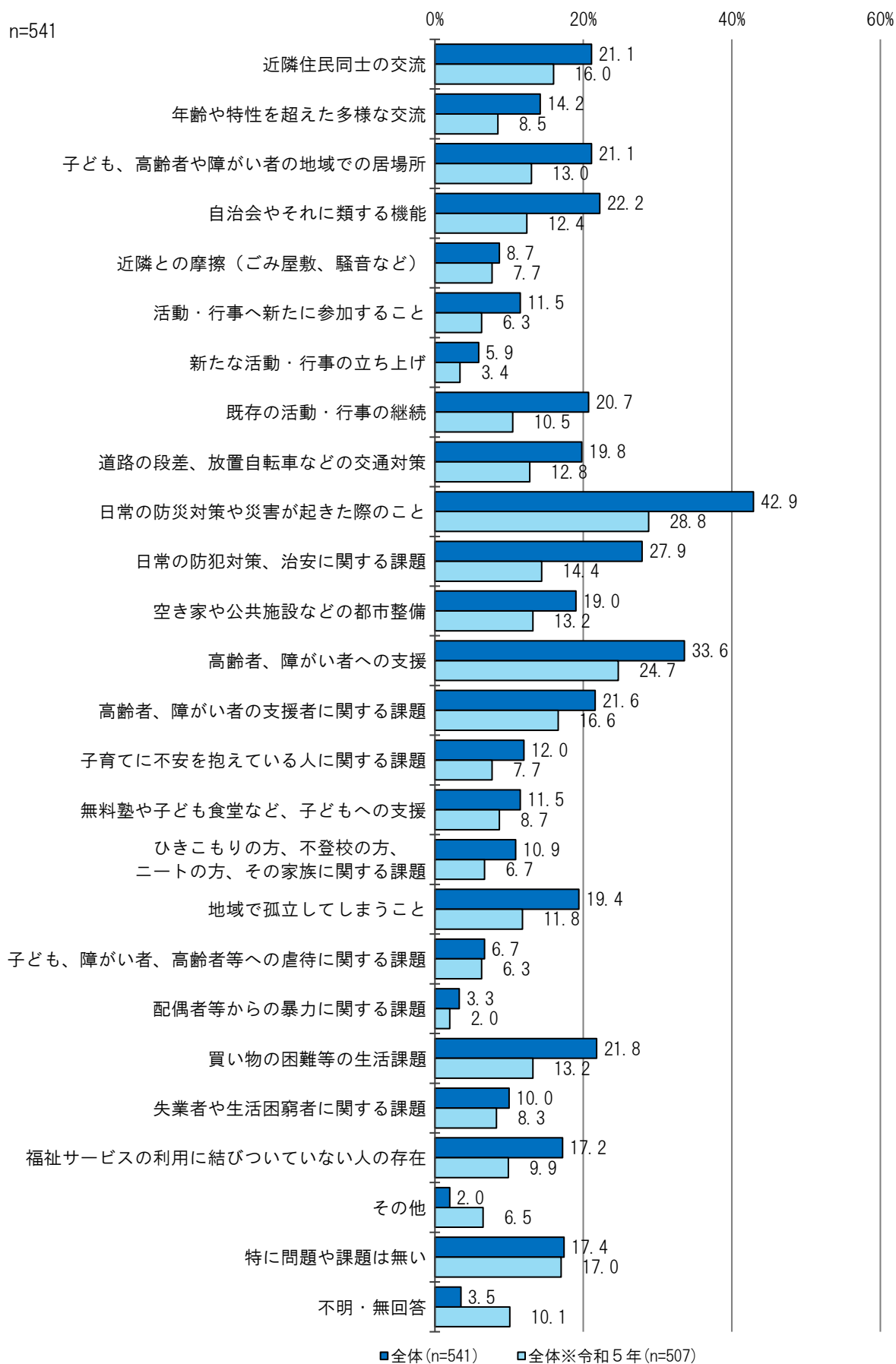
令和5年調査時と比較すると、「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」が14.1ポイント高くなっています。

性別にみると、「高齢者、障がい者への支援」では12.5ポイント男性が女性を上回っています。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「子育てに不安を抱えている人に関する課題」、40歳代では「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」「高齢者、障がい者への支援」、50歳代から75歳以上では「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」が最も高くなっています。また、10・20歳代では「無料塾や子ども食堂など、子どもへの支援」、65～74歳では「自治会やそれに類する機能」が他の年代と比べて高くなっています。

10 地区別にみると、第1、第3～第10エリアでは「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」、第2エリアでは「日常の防犯対策、治安に関する課題」「高齢者、障がい者への支援」が最も高くなっています。また、第1エリアでは「日常の防犯対策、治安に関する課題」、第3エリアでは「空き家や公共施設などの都市整備」が他の地区に比べて高くなっています。

n=541



単位:%	合計	近隣住民 同士の交流	年齢や特 性を超え た多様な 交流	子ども、 高齢者や 障がい者 の地域で の居場所	自治会や それに類 する機能	近隣との 摩擦(ご み屋敷、 騒音な ど)	活動・行 事へ新た に参加す ること	新たな活 動・行事 の立ち上 げ
【性別】								
男性	236	25.8	16.1	21.2	21.2	7.2	13.6	6.4
女性	294	17.0	12.9	21.4	22.4	9.9	10.2	5.8
【年代別】								
10・20歳代	22	13.6	0.0	13.6	4.5	9.1	4.5	0.0
30歳代	44	9.1	2.3	20.5	11.4	9.1	4.5	2.3
40歳代	44	15.9	22.7	29.5	13.6	13.6	11.4	6.8
50歳代	69	21.7	11.6	21.7	17.4	13.0	8.7	5.8
60～64歳	78	20.5	19.2	12.8	16.7	6.4	9.0	2.6
65～74歳	134	20.1	16.4	22.4	36.6	8.2	15.7	10.4
75歳以上	142	28.2	14.1	22.5	22.5	6.3	14.1	5.6
【10地区別】								
第1エリア	42	23.8	16.7	16.7	16.7	11.9	14.3	7.1
第2エリア	50	18.0	14.0	18.0	26.0	6.0	6.0	6.0
第3エリア	48	14.6	6.3	16.7	16.7	12.5	10.4	2.1
第4エリア	65	15.4	10.8	23.1	20.0	3.1	10.8	7.7
第5エリア	56	19.6	16.1	19.6	19.6	12.5	16.1	5.4
第6エリア	41	22.0	19.5	24.4	19.5	9.8	14.6	9.8
第7エリア	57	19.3	14.0	24.6	22.8	14.0	8.8	1.8
第8エリア	48	29.2	16.7	27.1	22.9	8.3	12.5	8.3
第9エリア	52	26.9	11.5	11.5	28.8	7.7	11.5	7.7
第10エリア	70	22.9	15.7	25.7	25.7	5.7	12.9	4.3

単位:%	合計	既存の活 動・行事 の継続	道路の段 差、放置 自転車な どの交通 対策	日常の防 災対策や 災害が起 きた際の こと	日常の防 犯対策、 治安に関 する課題	空き家や 公共施設 などの都 市整備	高齢者、 障がい者 への支援	高齢者、 障がい者 の支援者 に関する 課題
【性別】								
男性	236	21.6	16.9	46.2	30.1	20.8	40.7	21.2
女性	294	20.4	21.8	40.5	26.2	17.7	28.2	22.4
【年代別】								
10・20歳代	22	0.0	18.2	22.7	22.7	9.1	22.7	4.5
30歳代	44	6.8	18.2	25.0	6.8	20.5	15.9	13.6
40歳代	44	13.6	15.9	34.1	18.2	15.9	34.1	25.0
50歳代	69	14.5	17.4	44.9	29.0	23.2	27.5	15.9
60～64歳	78	15.4	16.7	46.2	39.7	20.5	35.9	26.9
65～74歳	134	28.4	18.7	47.8	29.9	20.1	41.8	23.1
75歳以上	142	28.9	25.4	47.2	31.0	17.6	35.9	24.6
【10地区別】								
第1エリア	42	7.1	28.6	54.8	50.0	23.8	42.9	26.2
第2エリア	50	24.0	14.0	32.0	36.0	20.0	36.0	16.0
第3エリア	48	14.6	12.5	47.9	35.4	39.6	39.6	12.5
第4エリア	65	15.4	26.2	36.9	23.1	15.4	35.4	24.6
第5エリア	56	25.0	23.2	50.0	33.9	19.6	23.2	35.7
第6エリア	41	29.3	17.1	41.5	17.1	26.8	31.7	24.4
第7エリア	57	24.6	19.3	43.9	24.6	17.5	42.1	29.8
第8エリア	48	27.1	16.7	41.7	25.0	14.6	35.4	18.8
第9エリア	52	17.3	23.1	42.3	32.7	7.7	30.8	13.5
第10エリア	70	21.4	18.6	42.9	15.7	14.3	27.1	18.6

単位:%	合計	子育てに不安を抱えている人に関する課題	無料塾や子ども食堂など、子どもへの支援	ひきこもりの方、不登校の方、ニートの方、その家族に関する課題	地域で孤立してしまうこと	子ども、障がい者、高齢者等への虐待に関する課題	配偶者等からの暴力に関する課題	買い物の困難等の生活課題
【性別】								
男性	236	11.0	10.2	8.9	19.5	6.4	2.5	21.6
女性	294	13.3	12.9	12.9	19.7	7.1	4.1	21.8
【年代別】								
10・20歳代	22	31.8	22.7	4.5	9.1	4.5	4.5	13.6
30歳代	44	31.8	13.6	11.4	11.4	9.1	6.8	15.9
40歳代	44	13.6	13.6	18.2	20.5	9.1	4.5	20.5
50歳代	69	15.9	11.6	11.6	23.2	7.2	4.3	15.9
60～64歳	78	7.7	10.3	9.0	20.5	6.4	0	21.8
65～74歳	134	10.4	13.4	14.9	26.1	7.5	5.2	32.8
75歳以上	142	4.2	7.7	7.0	14.8	4.9	1.4	17.6
【10地区別】								
第1エリア	42	26.2	14.3	19.0	21.4	14.3	7.1	28.6
第2エリア	50	6.0	10.0	10.0	18.0	2.0	0	22
第3エリア	48	4.2	14.6	10.4	16.7	6.3	4.2	22.9
第4エリア	65	15.4	13.8	16.9	21.5	10.8	3.1	23.1
第5エリア	56	14.3	17.9	7.1	19.6	8.9	1.8	23.2
第6エリア	41	14.6	7.3	14.6	26.8	7.3	2.4	24.4
第7エリア	57	17.5	8.8	14.0	22.8	7.0	3.5	21.1
第8エリア	48	10.4	10.4	4.2	25.0	6.3	4.2	12.5
第9エリア	52	7.7	7.7	11.5	13.5	1.9	1.9	34.6
第10エリア	70	8.6	11.4	5.7	15.7	4.3	5.7	11.4

単位:%	合計	失業者や生活困窮者に関する課題	福祉サービスの利用に結びついていない人の存在	その他	特に問題や課題は無い	不明・無回答
【性別】						
男性	236	10.2	14.8	1.3	16.1	3.8
女性	294	9.9	19.4	2.4	18	2.7
【年代別】						
10・20歳代	22	9.1	4.5	4.5	9.1	9.1
30歳代	44	6.8	11.4	2.3	13.6	0
40歳代	44	20.5	20.5	2.3	20.5	2.3
50歳代	69	5.8	17.4	1.4	17.4	2.9
60～64歳	78	12.8	23.1	2.6	14.1	3.8
65～74歳	134	14.9	22.4	2.2	13.4	2.2
75歳以上	142	4.2	12.7	1.4	23.2	4.2
【10地区別】						
第1エリア	42	19	21.4	2.4	21.4	2.4
第2エリア	50	4	20	0	18	6
第3エリア	48	6.3	18.8	4.2	10.4	0
第4エリア	65	10.8	13.8	1.5	24.6	4.6
第5エリア	56	14.3	14.3	0	16.1	3.6
第6エリア	41	14.6	14.6	2.4	4.9	7.3
第7エリア	57	15.8	21.1	1.8	15.8	0
第8エリア	48	4.2	22.9	4.2	12.5	8.3
第9エリア	52	5.8	17.3	3.8	17.3	1.9
第10エリア	70	7.1	14.3	1.4	21.4	0

3 その他に関する設問

○民生委員・児童委員について

問 10. あなたは民生委員・児童委員について知っていますか。

(単数回答)

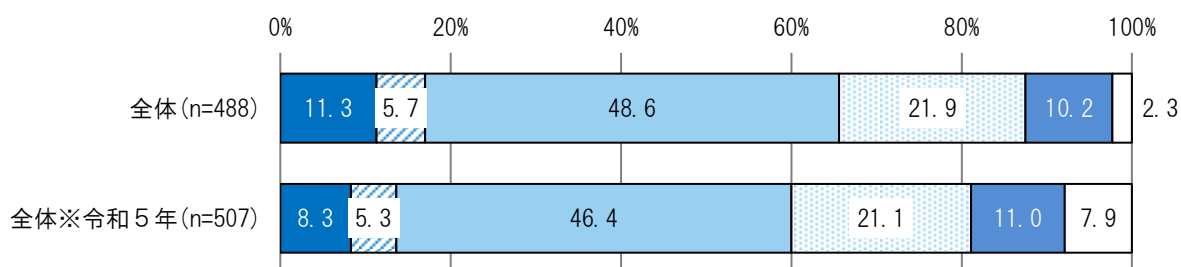
民生委員・児童委員の認知度についてみると、「民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない」が48.6%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が21.9%、「自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前も顔も知っている」が11.3%となっています。

令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

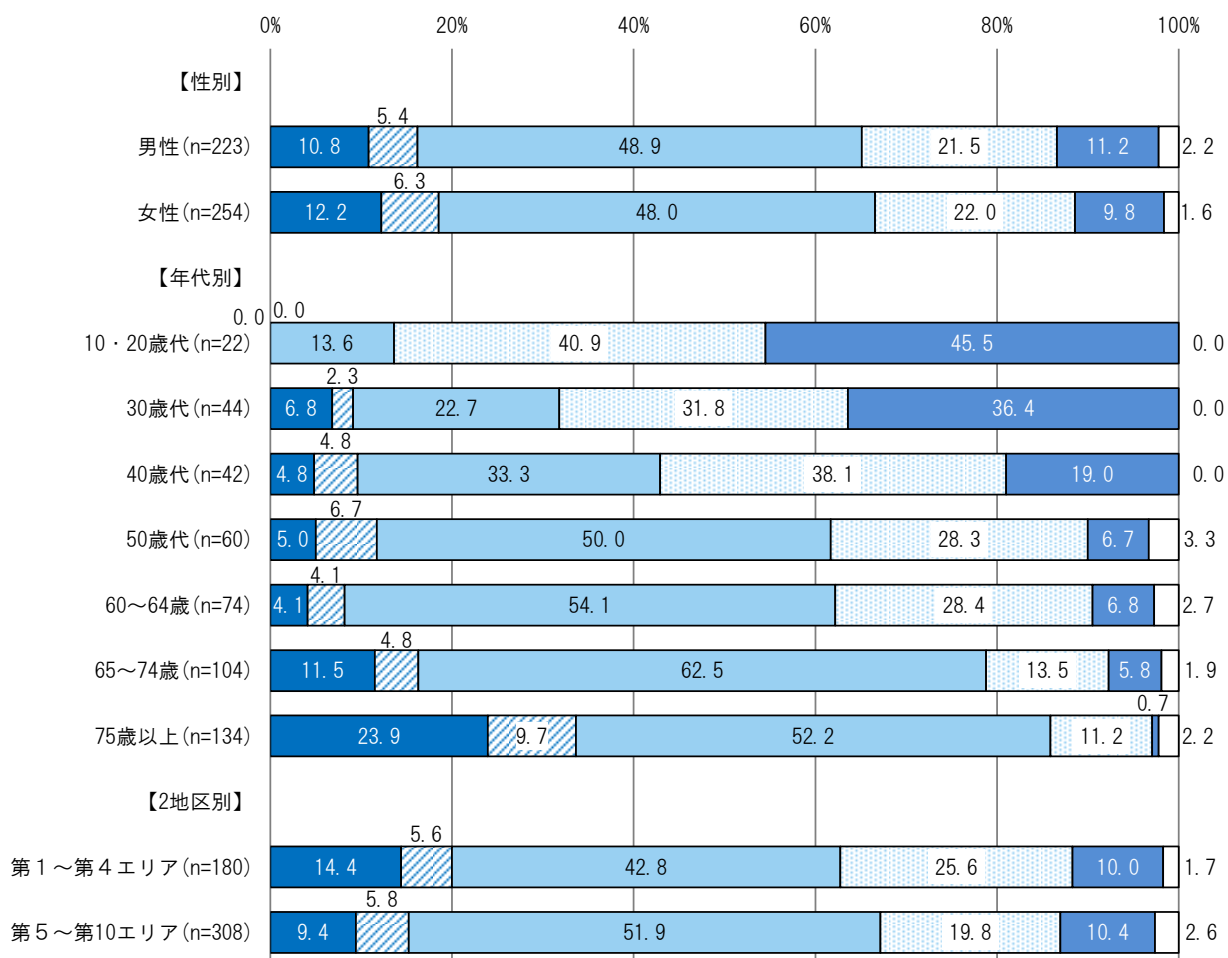
性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「民生委員・児童委員については聞いたことがない」、40歳代では「民生委員・児童委員という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」、50歳代から75歳以上では「民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない」が最も多くなっています。また、年代が上がるにつれて「自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前も顔も知っている」「自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前又は顔を知っている」が高くなる傾向があります。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



- ☒ 自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前も顔も知っている
- ☒ 自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前又は顔を知っている
- ☒ 民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない
- ☒ 民生委員・児童委員という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- ☒ 民生委員・児童委員については聞いたことがない
- ☐ 不明・無回答



- 自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前も顔も知っている
- ▨ 自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前又は顔を知っている
- 民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない
- ▨ 民生委員・児童委員という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 民生委員・児童委員については聞いたことがない
- 不明・無回答

問 11. あなたは民生委員・児童委員に相談したことがありますか。

(複数回答)

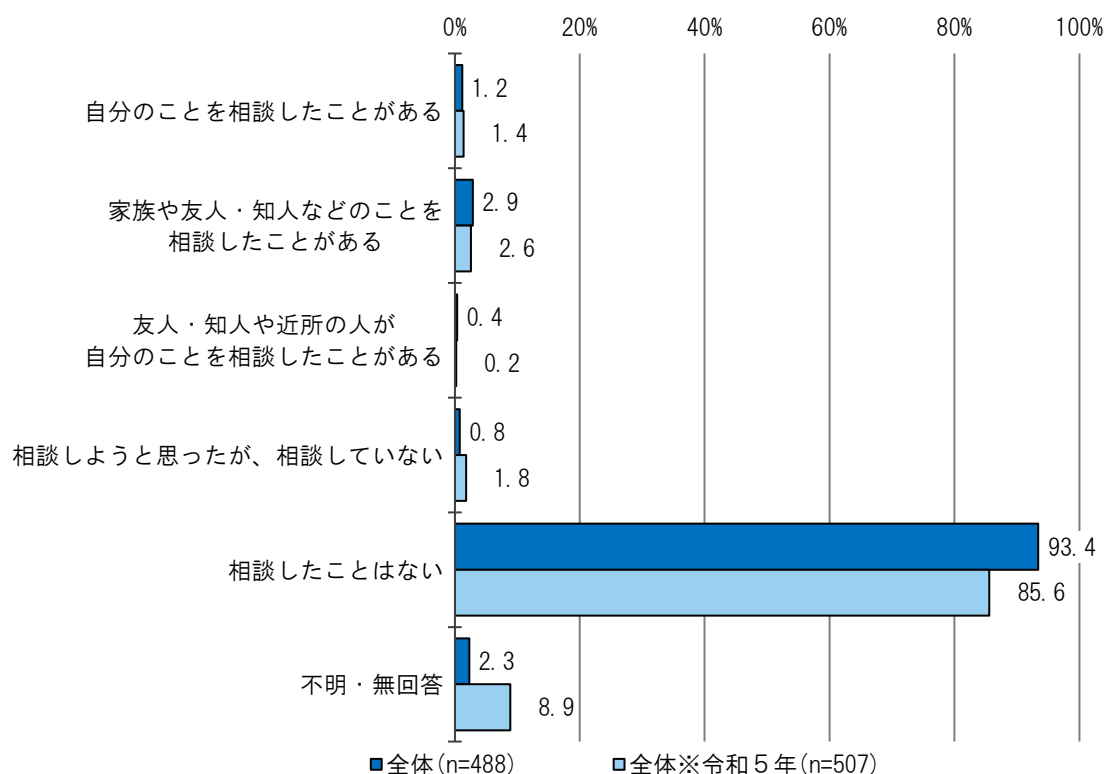
民生委員・児童委員への相談についてみると、「相談したことはない」が93.4%と最も多く、次いで「家族や友人・知人などのことを相談したことがある」が2.9%、「自分のことを相談したことがある」が1.2%となっています。

令和5年調査時と比較すると、大きな差はみられません。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代でも「相談したことはない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



単位: %	合計	自分のことを相談したことがある	家族や友人・知人などのことを相談したことがある	友人・知人や近所の人 が自分のことを相談したことがある	相談しようと思ったが、 相談していない	相談したことはない	不明・無回答
【性別】							
男性	223	0.4	2.2	0.0	0.9	95.1	2.2
女性	254	2.0	3.5	0.8	0.8	92.5	1.6
【年代別】							
10・20歳代	22	0.0	0.0	0.0	0.0	95.5	4.5
30歳代	44	0.0	2.3	0.0	0.0	97.7	0.0
40歳代	42	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
50歳代	60	1.7	3.3	0.0	0.0	95.0	1.7
60～64歳	74	1.4	1.4	0.0	1.4	93.2	2.7
65～74歳	104	1.9	2.9	1.0	1.0	93.3	1.0
75歳以上	134	1.5	5.2	0.7	1.5	90.3	3.0
【2地区別】							
第1～4エリア	180	2.2	3.3	1.1	0.6	92.8	2.2
第5～10エリア	308	0.6	2.6	0.0	1.0	93.8	2.3

問 12. 民生委員・児童委員の活動で期待することはありませんか。

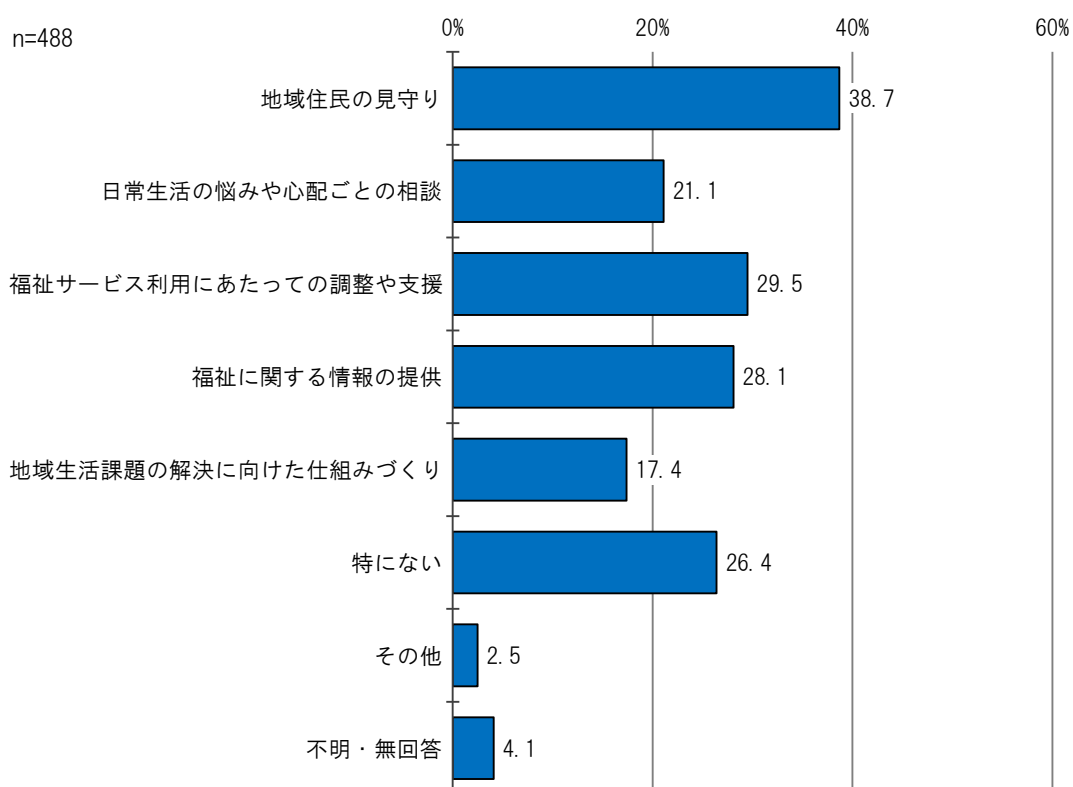
(複数回答)

民生委員・児童委員の活動で期待することについてみると、「地域住民の見守り」が 38.7%と最も多く、次いで「福祉サービス利用にあたっての調整や支援」が 29.5%、「福祉に関する情報の提供」が 28.1%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代では「地域住民の見守り」「福祉サービス利用にあたっての調整や支援」、30 歳代では「地域住民の見守り」「地域生活課題の解決に向けた仕組みづくり」、40 歳代では「福祉に関する情報の提供」、50 歳代から 75 歳以上では「地域住民の見守り」が最も高くなっています。

2 地区別にみると、大きな差はみられません。



単位:%	合計	地域住民の見守り	日常生活の悩みや心配ごとの相談	福祉サービス利用にあたっての調整や支援	福祉に関する情報の提供	地域生活課題の解決に向けた仕組みづくり	特にない	その他	不明・無回答
【性別】									
男性	223	37.7	20.6	31.8	23.8	16.1	28.7	1.8	4.0
女性	254	40.2	22.4	27.2	31.5	18.9	24.8	2.8	3.9
【年代別】									
10・20歳代	22	45.5	9.1	45.5	27.3	40.9	22.7	0.0	0.0
30歳代	44	38.6	9.1	27.3	15.9	38.6	31.8	2.3	2.3
40歳代	42	33.3	26.2	23.8	38.1	16.7	31.0	0.0	0.0
50歳代	60	43.3	23.3	31.7	35.0	18.3	18.3	1.7	3.3
60～64歳	74	40.5	24.3	35.1	32.4	21.6	23.0	2.7	2.7
65～74歳	104	36.5	25.0	30.8	23.1	10.6	27.9	1.9	4.8
75歳以上	134	38.1	20.1	23.9	26.9	9.7	29.9	3.7	6.7
【2地区別】									
第1～4エリア	180	40.6	18.3	32.2	29.4	18.9	26.1	2.2	4.4
第5～10エリア	308	37.7	22.7	27.9	27.3	16.6	26.6	2.6	3.9

○自殺防止対策について

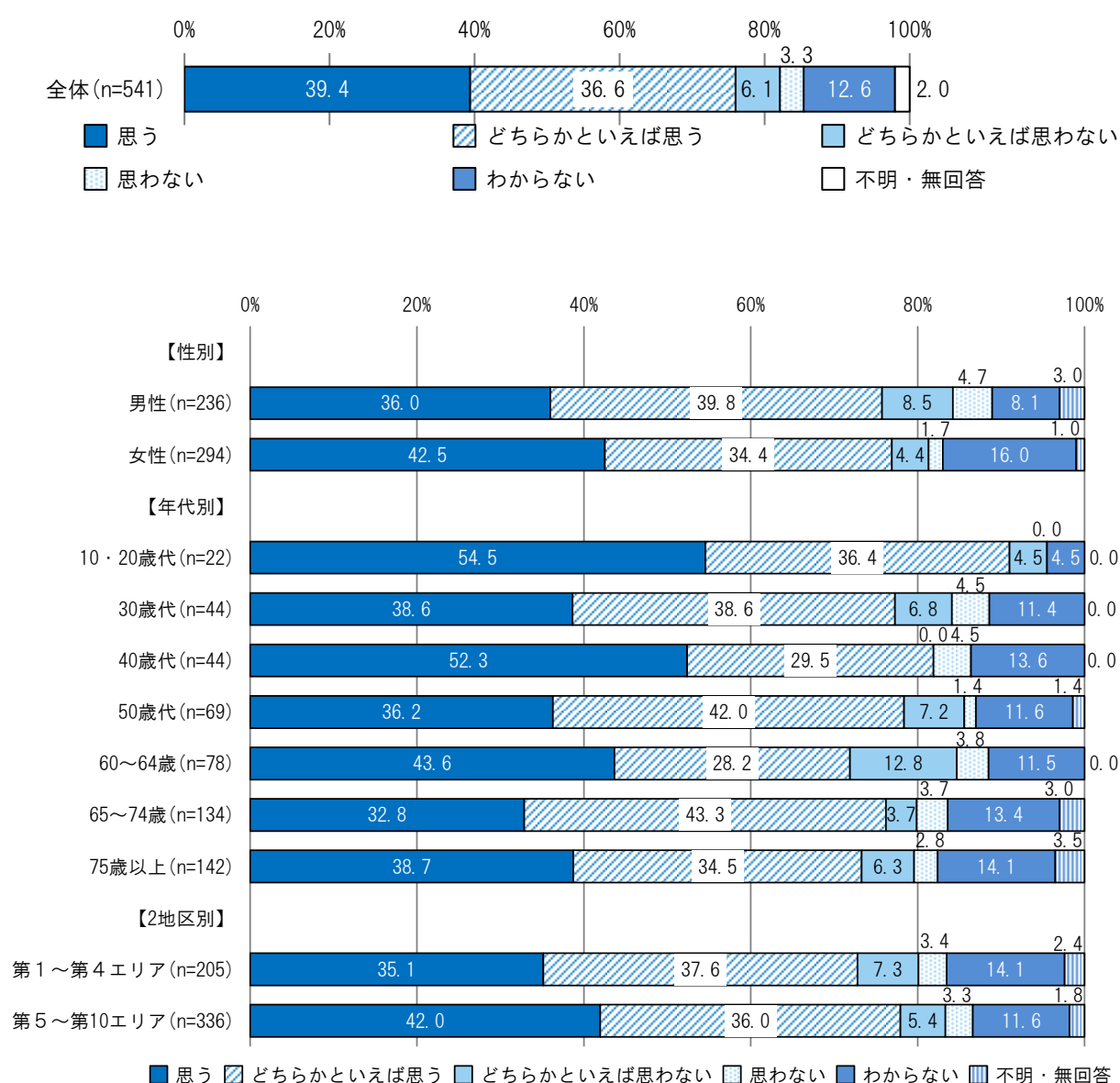
問 13. 自殺防止対策はご自身も含めた社会全体で取り組む問題だと思いますか。 (単数回答)

自殺防止対策は自分も含めた社会全体で取り組む問題だと思うかについてみると、「思う」が39.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば思う」が36.6%、「わからない」が12.6%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代、60～64歳、75歳以上では「思う」、30歳代では「思う」「どちらかといえば思う」、50歳代、65～74歳では「どちらかといえば思う」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 14. 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。

(複数回答)

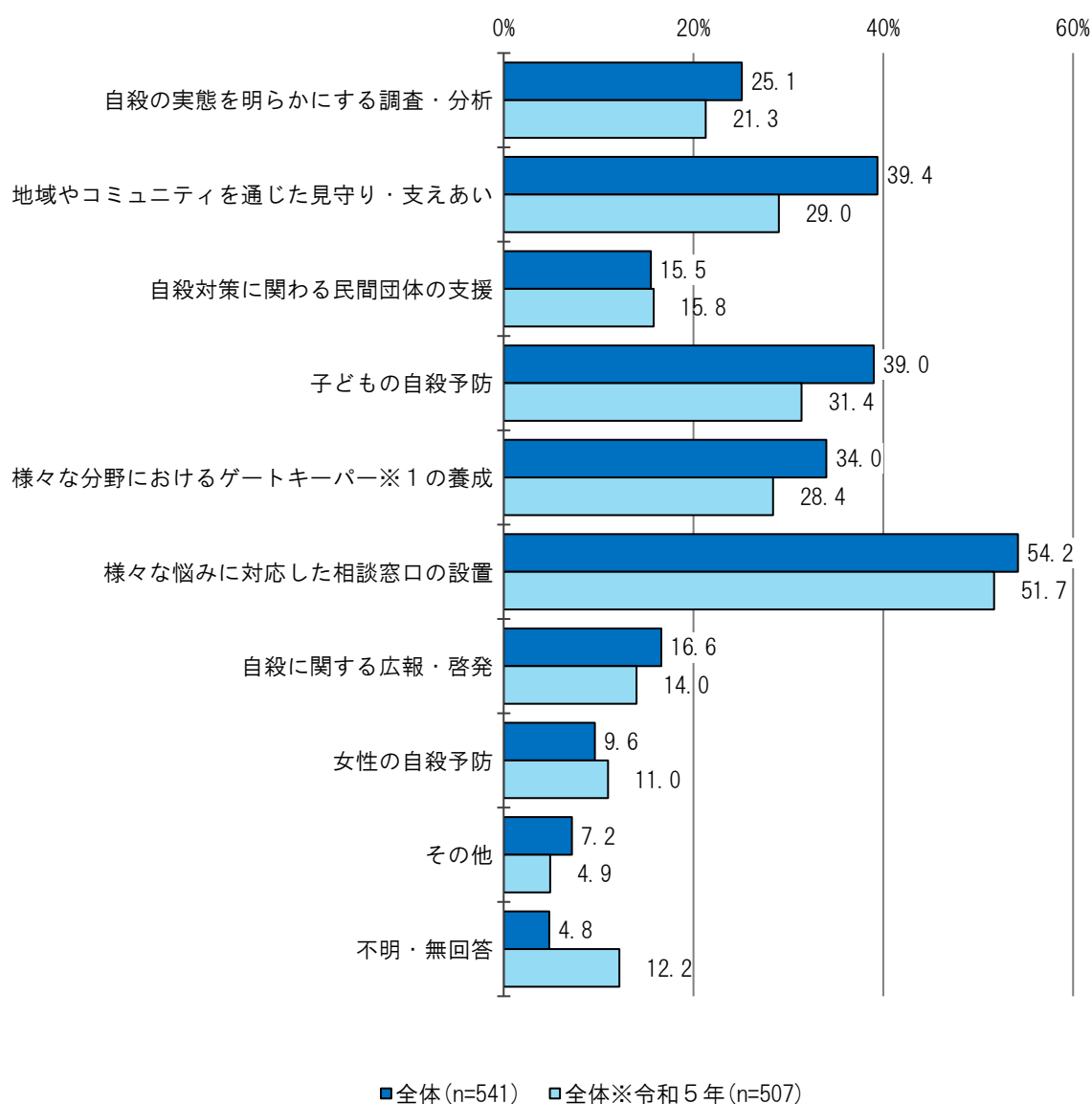
今後必要になると思う自殺対策についてみると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 54.2%と最も多く、次いで「地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい」が 39.4%、「子どもの自殺予防」が 39.0%となっています。

令和 5 年調査時と比較すると、「地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい」が 10.4 ポイント高くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20 歳代では「自殺の実態を明らかにする調査・分析」「子どもの自殺予防」、30 歳代、40 歳代では「子どもの自殺予防」、50 歳代から 75 歳以上では「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が最も高くなっています。また、40 歳代では「自殺に関する広報・啓発」が他の年代と比べて高くなっています。

2 地区別にみると、大きな差はみられません。



単位：％	合計	自殺の実態 を明らかに する調査・分 析	地域やコ ミュニティを 通じた見守 り・支えあい	自殺対策に 関わる民間 団体の支援	子どもの自 殺予防	様々な分野 における ゲートキー パー(※1) の養成	様々な悩み に対応した 相談窓口の 設置	自殺に関す る広報・啓 発
【性別】								
男性	236	29.2	35.6	15.3	34.3	30.9	55.1	17.4
女性	294	22.1	43.5	15.0	43.2	37.1	53.7	15.6
【年代別】								
10・20歳代	22	40.9	31.8	4.5	40.9	31.8	36.4	18.2
30歳代	44	29.5	36.4	18.2	63.6	31.8	31.8	15.9
40歳代	44	38.6	45.5	27.3	54.5	45.5	45.5	25.0
50歳代	69	20.3	34.8	21.7	50.7	37.7	55.1	15.9
60～64歳	78	24.4	38.5	16.7	41.0	42.3	57.7	15.4
65～74歳	134	27.6	41.8	13.4	34.3	35.1	56.0	17.2
75歳以上	142	16.9	41.5	9.9	23.9	25.4	62.0	14.1
【2地区別】								
第1～4エリア	205	27.8	37.1	15.1	38.0	39.0	53.7	16.6
第5～10エリア	336	23.5	40.8	15.8	39.6	31.0	54.5	16.7

単位：％	合計	女性の自殺 予防	その他	不明・無回 答
【性別】				
男性	236	7.6	6.8	4.7
女性	294	10.9	7.1	4.8
【年代別】				
10・20歳代	22	18.2	9.1	4.5
30歳代	44	11.4	11.4	2.3
40歳代	44	18.2	6.8	4.5
50歳代	69	14.5	10.1	1.4
60～64歳	78	14.1	12.8	1.3
65～74歳	134	6.0	1.5	3.7
75歳以上	142	2.8	6.3	9.9
【2地区別】				
第1～4エリア	205	9.8	6.3	3.9
第5～10エリア	336	9.5	7.7	5.4

※①ゲートキーパーとは：自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のこと。

○再犯防止について

問 15. 再犯防止に協力する民間協力者として次の方々がいることをご存じですか。 （複数回答）

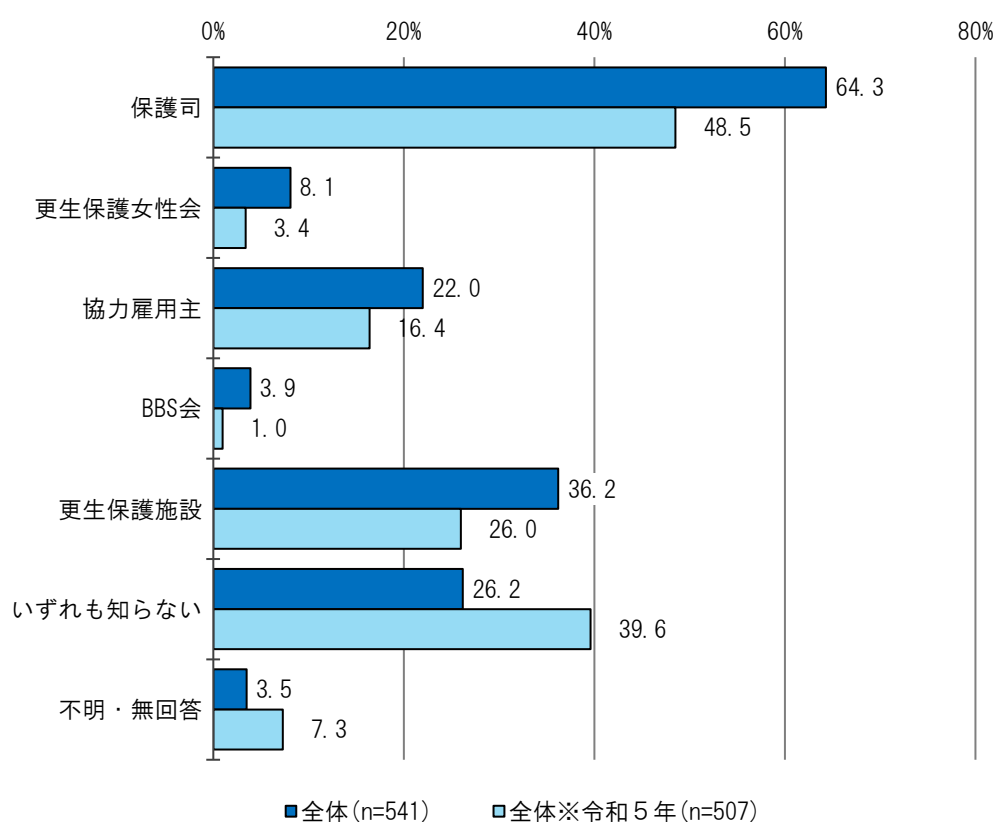
再犯防止に協力する民間協力者の認知度についてみると、「保護司」が64.3%と最も多く、次いで「更生保護施設」が36.2%、「いずれも知らない」が26.2%となっています。

令和5年調査時と比較すると、「保護司」が15.8ポイント、「更生保護施設」が10.2ポイント高くなっています。また、「いずれも知らない」が13.4ポイント低くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、40歳代から75歳以上では「保護司」、30歳代では「いずれも知らない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



	合計	保護司	更生保護女性会	協力雇用主	BBS会	更生保護施設	いずれも知らない	不明・無回答
【性別】								
男性	236	60.6	4.7	20.3	3.0	30.5	29.7	3.8
女性	294	67.0	11.2	23.1	4.8	40.5	24.1	2.7
【年代別】								
10・20歳代	22	45.5	4.5	0.0	0.0	27.3	40.9	9.1
30歳代	44	29.5	0.0	13.6	0.0	40.9	52.3	0.0
40歳代	44	56.8	9.1	20.5	4.5	43.2	29.5	2.3
50歳代	69	69.6	8.7	26.1	5.8	50.7	18.8	1.4
60～64歳	78	70.5	6.4	23.1	0.0	47.4	23.1	1.3
65～74歳	134	72.4	12.7	27.6	8.2	34.3	22.4	2.2
75歳以上	142	65.5	7.7	20.4	2.8	22.5	25.4	7.0
【2地区別】								
第1～4エリア	205	64.9	11.2	21.5	3.9	40.5	25.4	3.9
第5～10エリア	336	64.0	6.3	22.3	3.9	33.6	26.8	3.3

問 16. 罪を犯した人に対して社会の中での立ち直りを支援し、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ取組を行っている人々がいます。貴団体は以下の人々や行っている取組について知っていますか。

問 16-1. 保護司

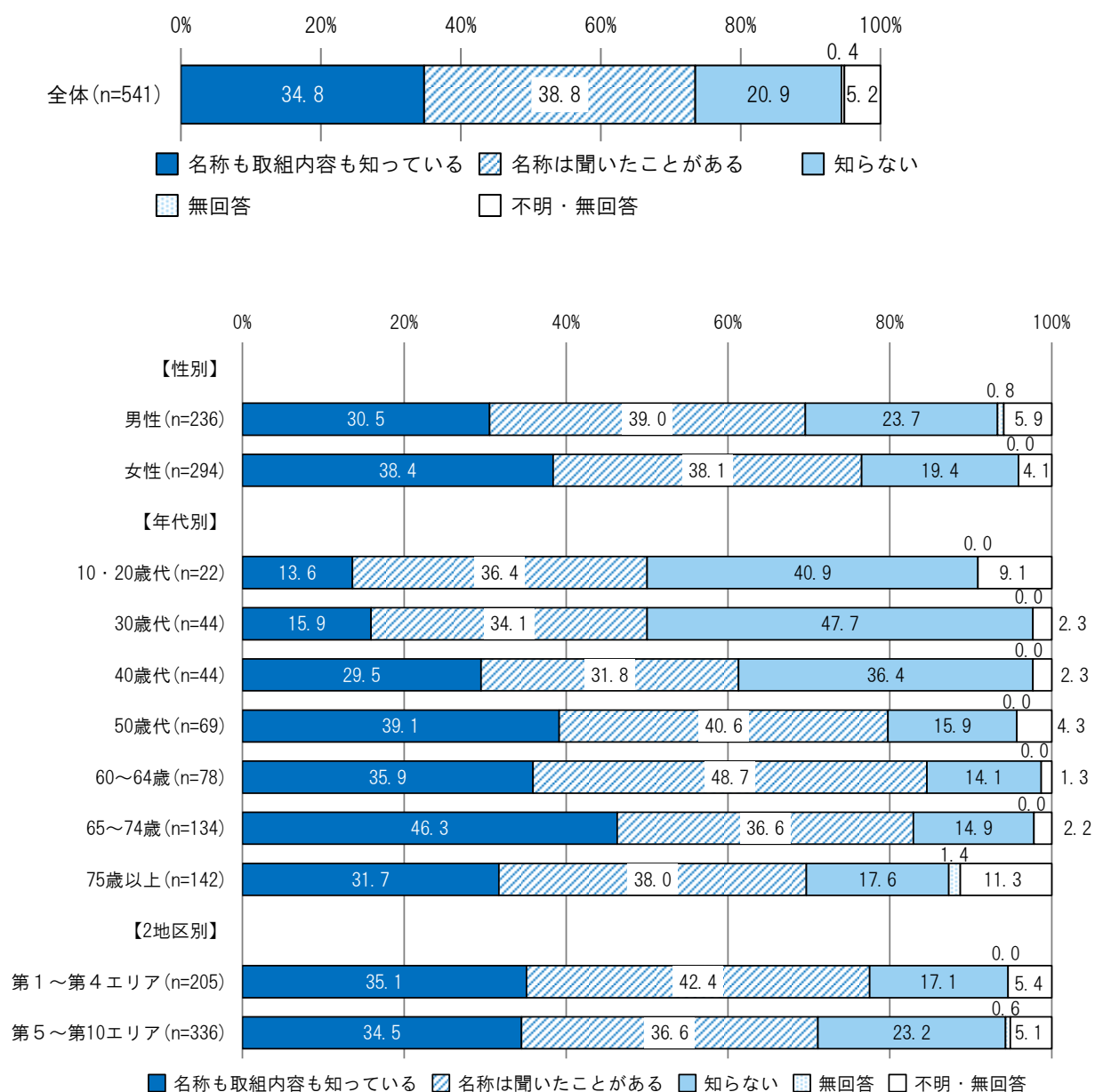
(単数回答)

保護司についてみると、「名称は聞いたことがある」が38.8%と最も多く、次いで「名称も取組内容も知っている」が34.8%、「知らない」が20.9%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代から40歳代では「知らない」、50歳代、60～64歳、75歳以上では「名称は聞いたことがある」、65～74歳では「名称も取組内容も知っている」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 16-2. 更生保護女性会

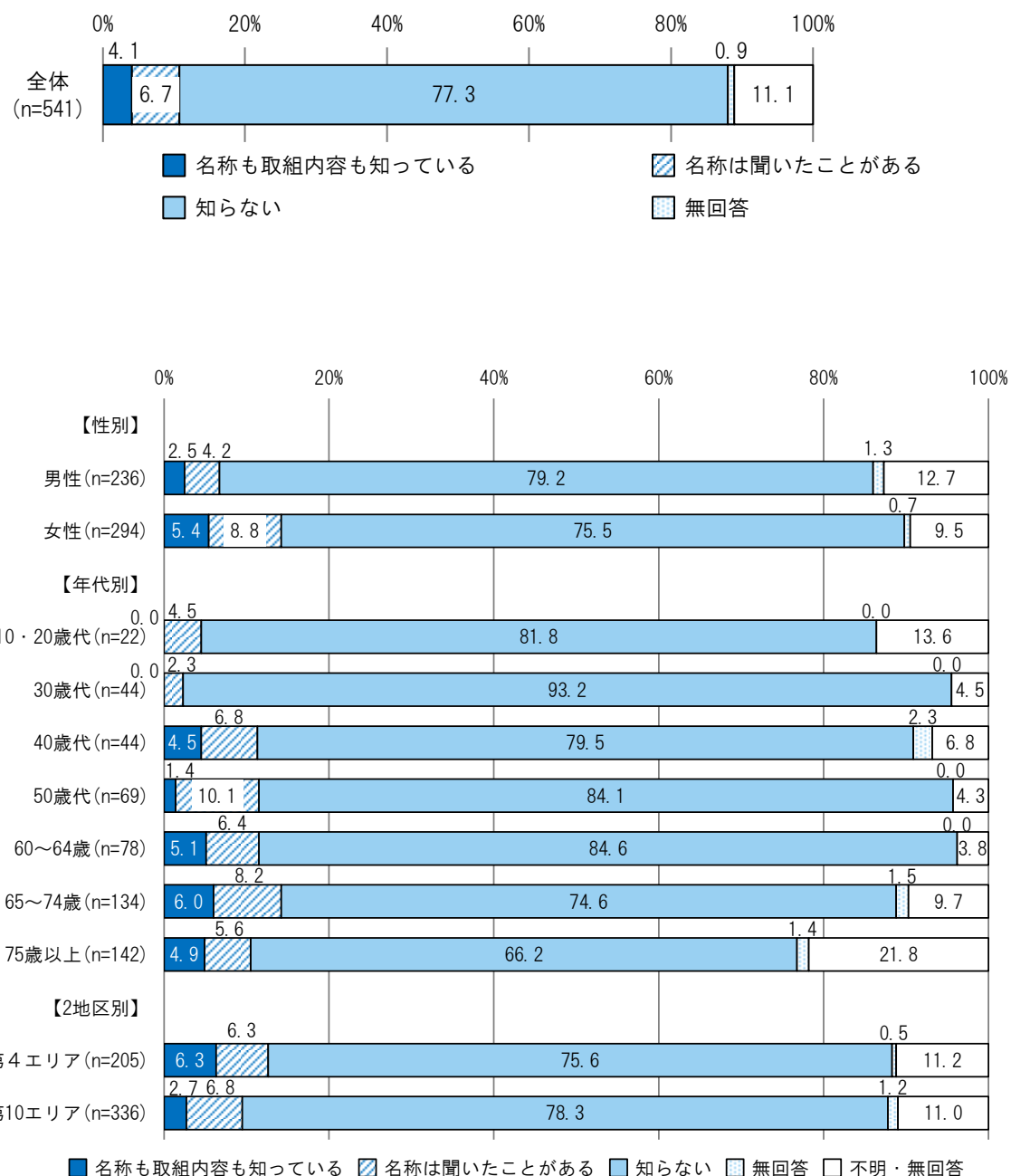
(単数回答)

更生保護女性会についてみると、「知らない」が77.3%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が6.7%、「名称も取組内容も知っている」が4.1%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代でも「知らない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 16-3. 協力雇用主

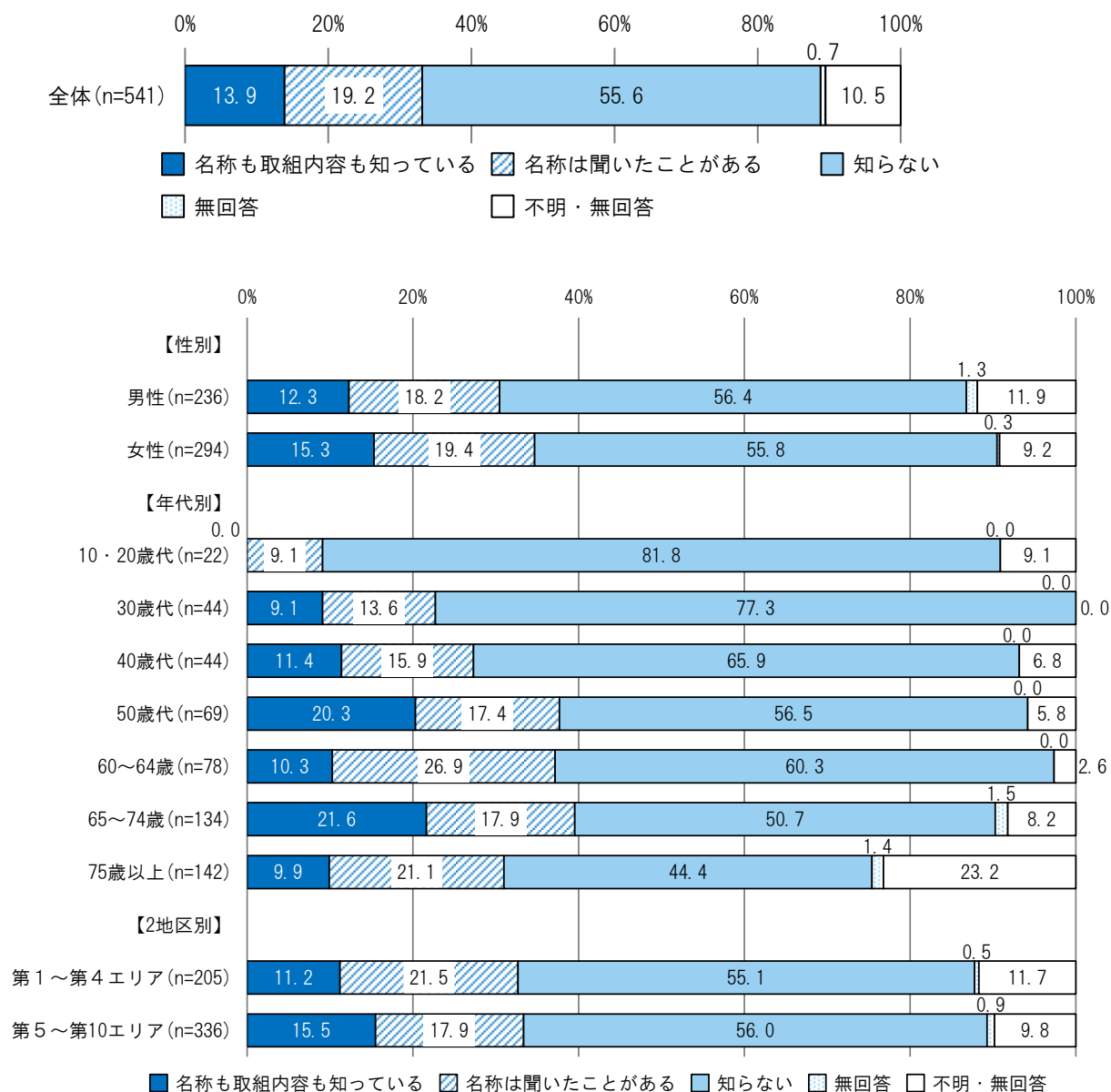
(単数回答)

協力雇用主についてみると、「知らない」が55.6%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が19.2%、「名称も取組内容も知っている」が13.9%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代でも「知らない」が最も高くなっています。また、50歳代から65～74歳では「名称も取組内容も知っている」「名称は聞いたことがある」を合わせた〈知っている〉の割合が他の年代と比べて高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



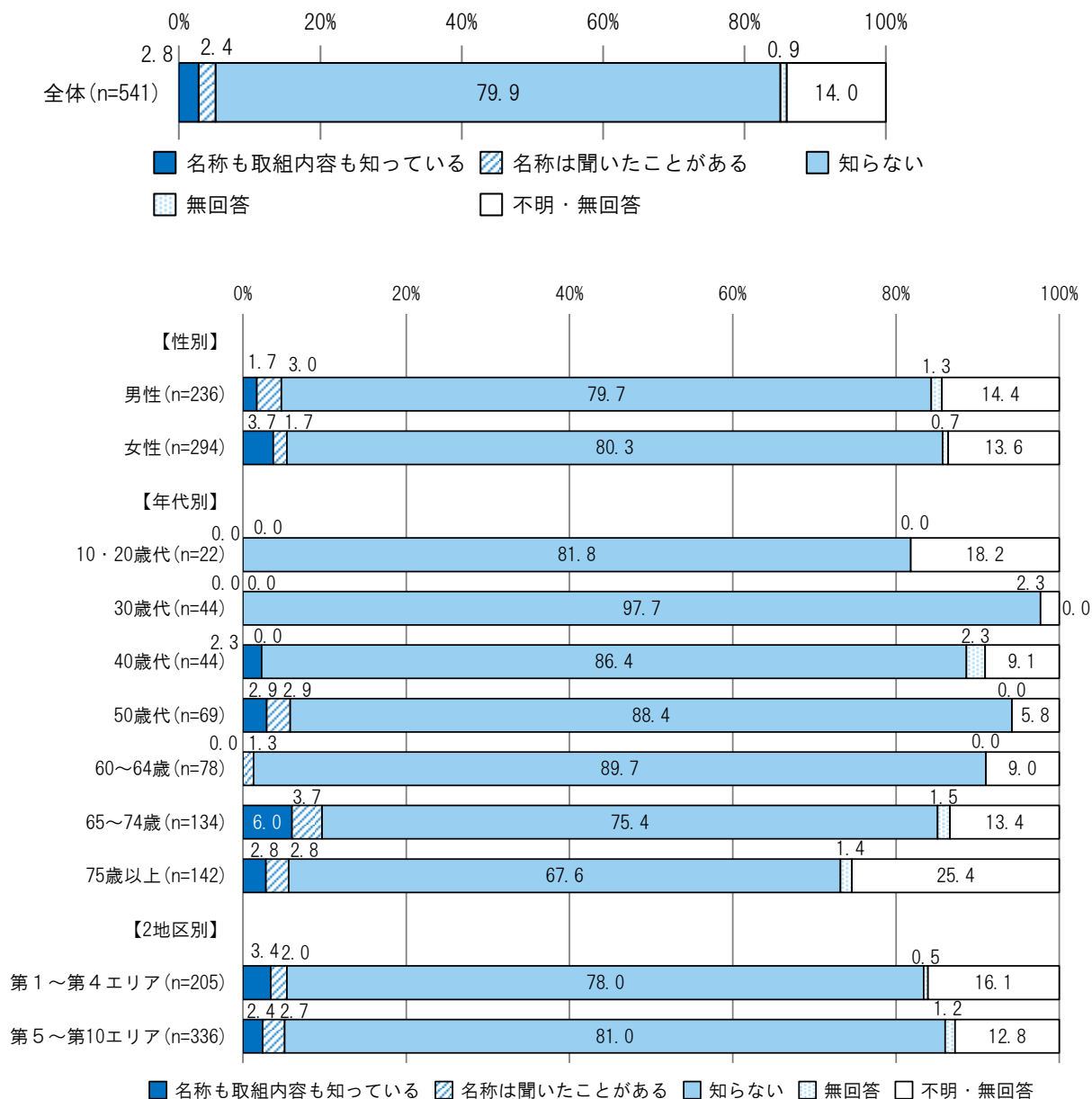
問 16-4. BBS会 (単数回答)

BBS 会についてみると、「知らない」が79.9%と最も多く、次いで「名称も取組内容も知っている」が2.8%、「名称は聞いたことがある」が2.4%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代でも「知らない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 16-5. 更生保護施設

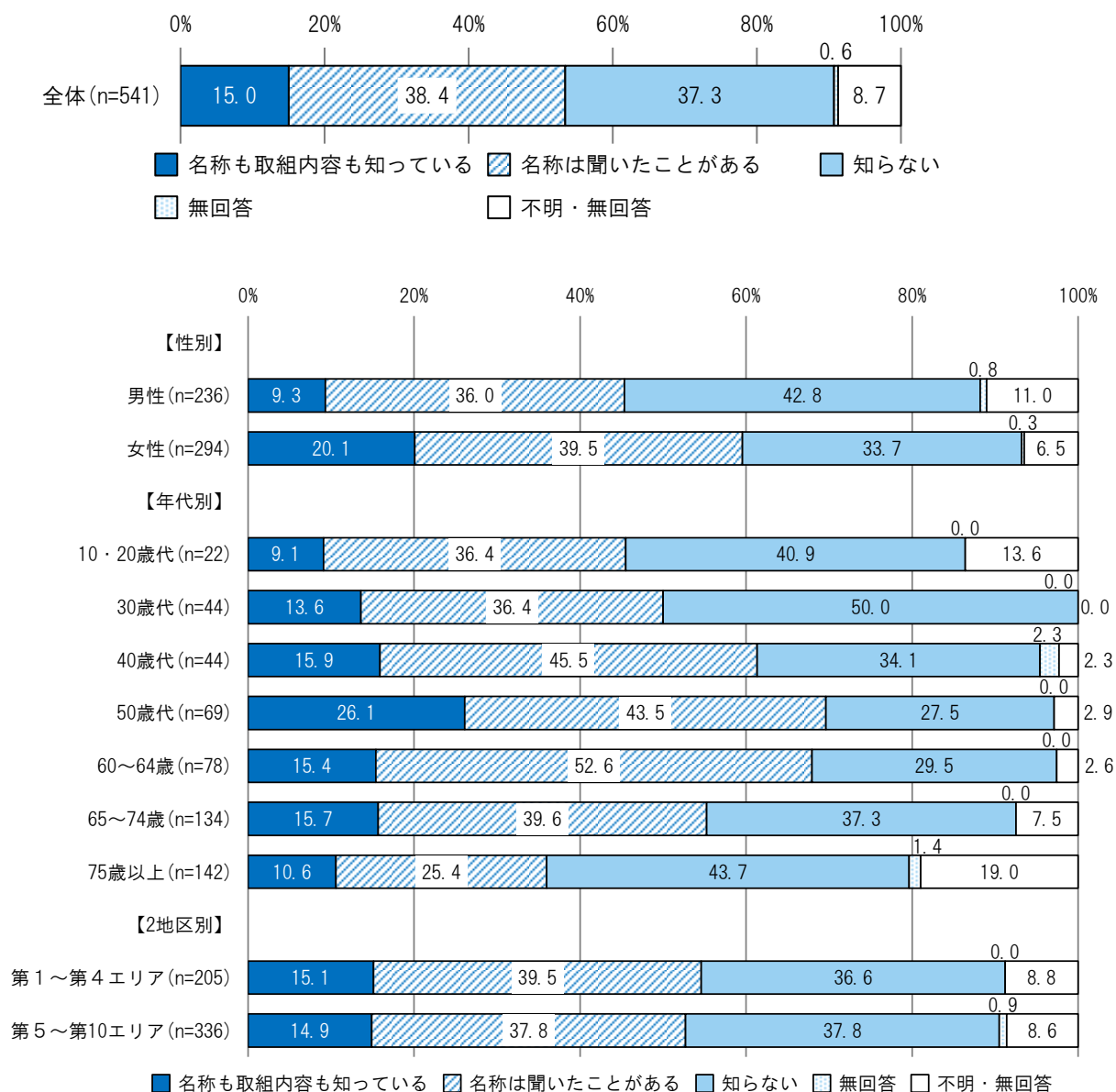
(単数回答)

更生保護施設についてみると、「名称は聞いたことがある」が38.4%と最も多く、次いで「知らない」が37.3%、「名称も取組内容も知っている」が15.0%となっています。

性別にみると、「名称も取組内容も知っている」では10.8ポイント女性が男性を上回っています。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代、75歳以上では「知らない」、40歳代から65～74歳では「名称は聞いたことがある」が最も高くなっています。また、50歳代では「名称も取組内容も知っている」が他の年代と比べて高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 17. 今後、どのような再犯防止対策が必要になると思いますか。

(複数回答)

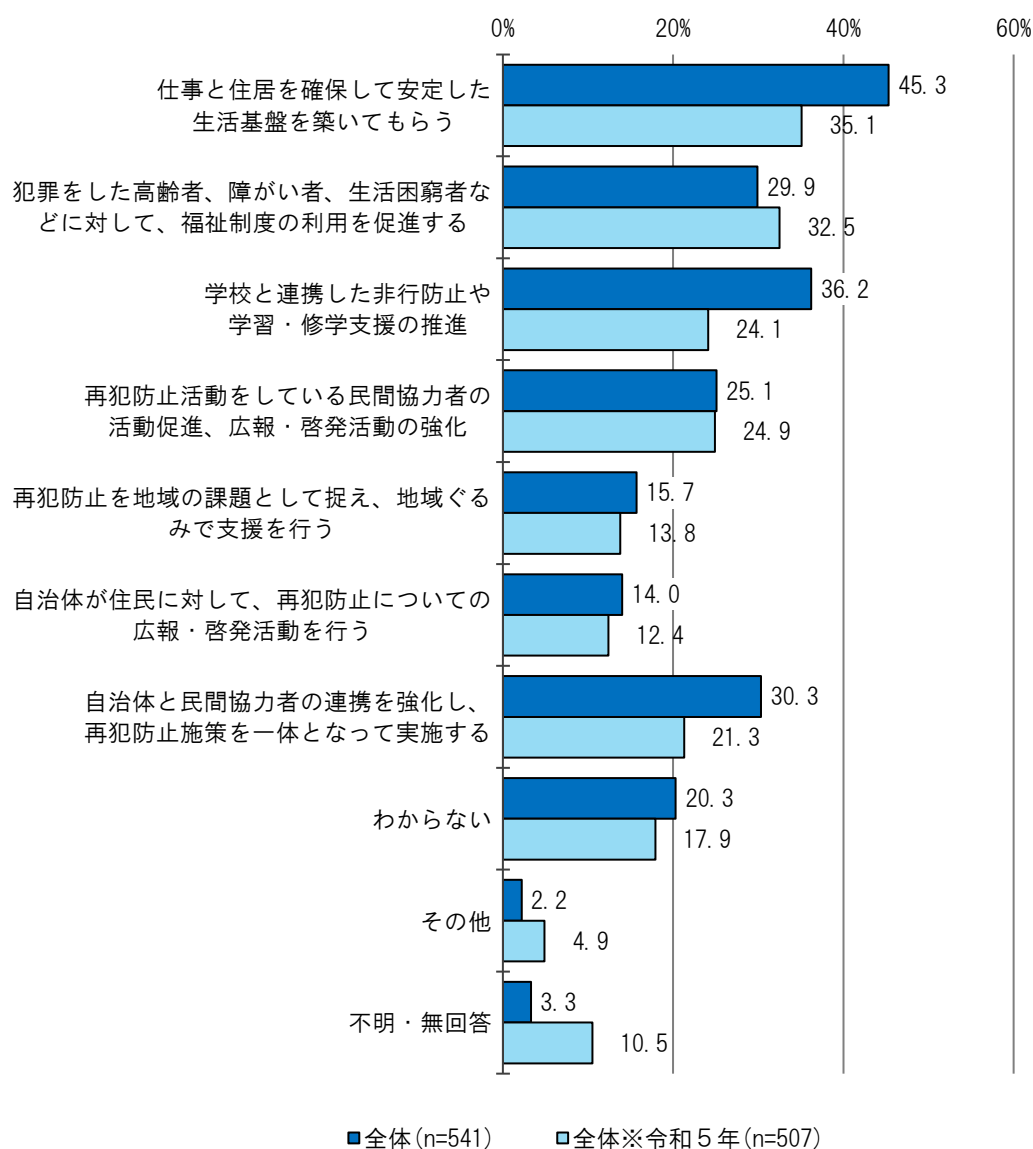
今後必要だと思う再犯防止対策についてみると、「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築いてもらう」が45.3%と最も多く、次いで「学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進」が36.2%、「自治体と民間協力者の連携を強化し、再犯防止施策を一体となって実施する」が30.3%となっています。

令和5年調査時と比較すると、「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築いてもらう」が10.2ポイント、「学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進」が12.1ポイント高くなっています。

性別にみると、「学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進」では12.6ポイント女性が男性を上回っています。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進」、40歳代から75歳以上では「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築いてもらう」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



単位：％	合計	仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築いてもらう	犯罪をした高齢者、障がい者、生活困窮者などに対して、福祉制度の利用を促進する	学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進	再犯防止活動をしている民間協力者の活動促進、広報・啓発活動の強化	再犯防止を地域の課題として捉え、地域ぐるみで支援を行う	自治体が住民に対して、再犯防止についての広報・啓発活動を行う	自治体と民間協力者の連携を強化し、再犯防止施策を一体となって実施する
【性別】								
男性	236	43.6	23.3	29.2	22.0	14.4	16.5	30.9
女性	294	46.3	35.0	41.8	27.6	17.0	12.6	29.9
【年代別】								
10・20歳代	22	40.9	27.3	54.5	27.3	9.1	18.2	22.7
30歳代	44	29.5	22.7	31.8	22.7	11.4	11.4	25.0
40歳代	44	43.2	36.4	38.6	27.3	22.7	15.9	25.0
50歳代	69	44.9	33.3	42.0	24.6	18.8	21.7	34.8
60～64歳	78	47.4	32.1	32.1	23.1	14.1	7.7	25.6
65～74歳	134	50.0	33.6	41.0	30.6	17.2	10.4	36.6
75歳以上	142	45.1	23.2	29.6	21.1	14.1	17.6	29.6
【2地区別】								
第1～4エリア	205	45.9	31.2	38.5	24.9	17.1	14.6	32.7
第5～10エリア	336	44.9	29.2	34.8	25.3	14.9	13.7	28.9

単位：％	合計	わからない	その他	不明・無回答
【性別】				
男性	236	21.2	2.1	3.4
女性	294	19.4	2.4	2.7
【年代別】				
10・20歳代	22	18.2	0.0	0.0
30歳代	44	18.2	6.8	0.0
40歳代	44	25.0	2.3	2.3
50歳代	69	14.5	2.9	1.4
60～64歳	78	21.8	5.1	1.3
65～74歳	134	16.4	0.7	2.2
75歳以上	142	25.4	0.7	7.7
【2地区別】				
第1～4エリア	205	21.0	1.0	3.4
第5～10エリア	336	19.9	3.0	3.3

問 18. 「社会を明るくする運動」について知っていますか。

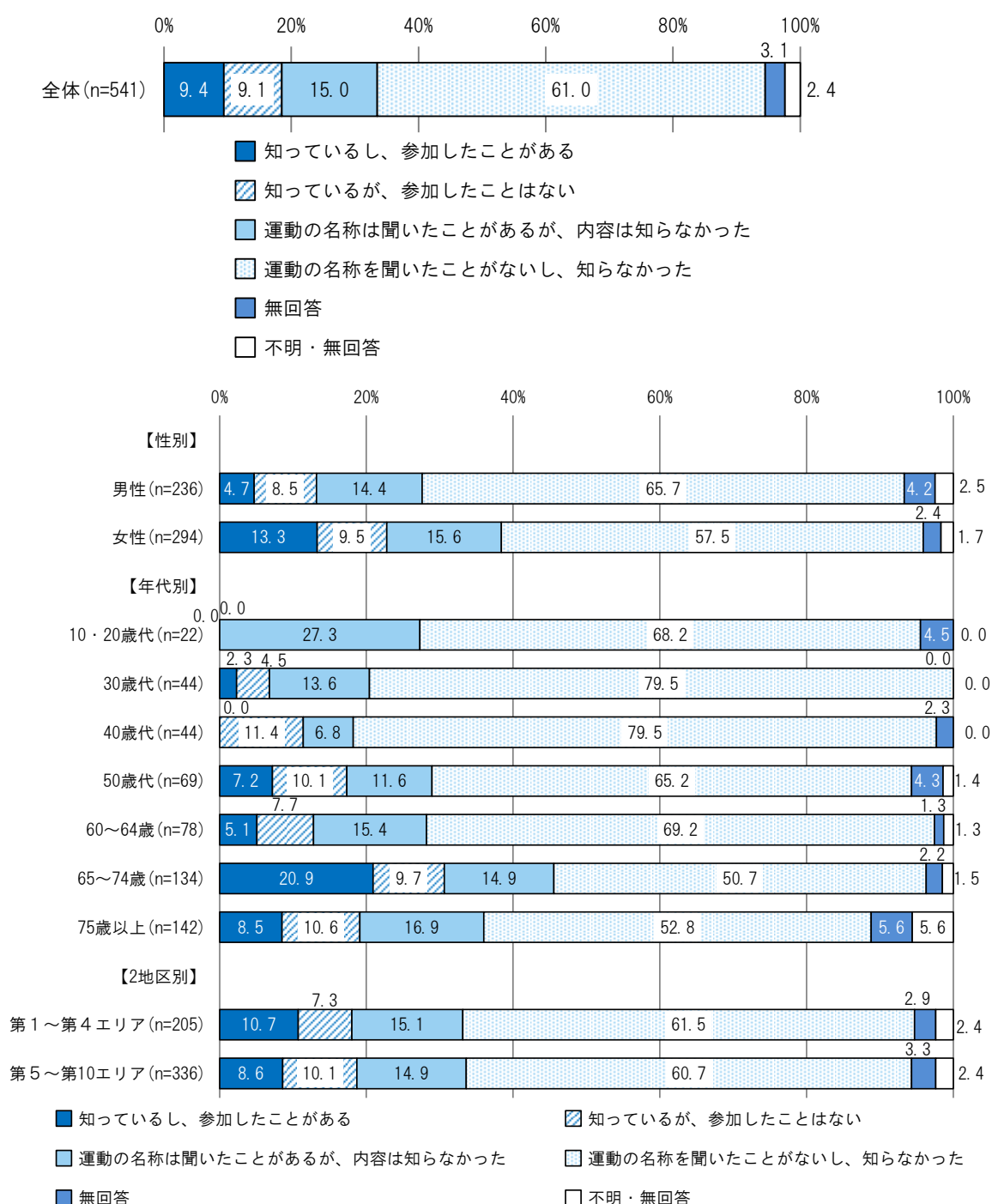
(単数回答)

「社会を明るくする運動」の認知度についてみると、「運動の名称を聞いたことがないし、知らなかった」が61.0%と最も多く、次いで「運動の名称は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」が15.0%、「知っているし、参加したことがある」が9.4%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代でも「運動の名称を聞いたことがないし、知らなかった」が最も高くなっています。また、10・20歳代では「運動の名称は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」が他の年代と比べて高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 19. あなたは犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

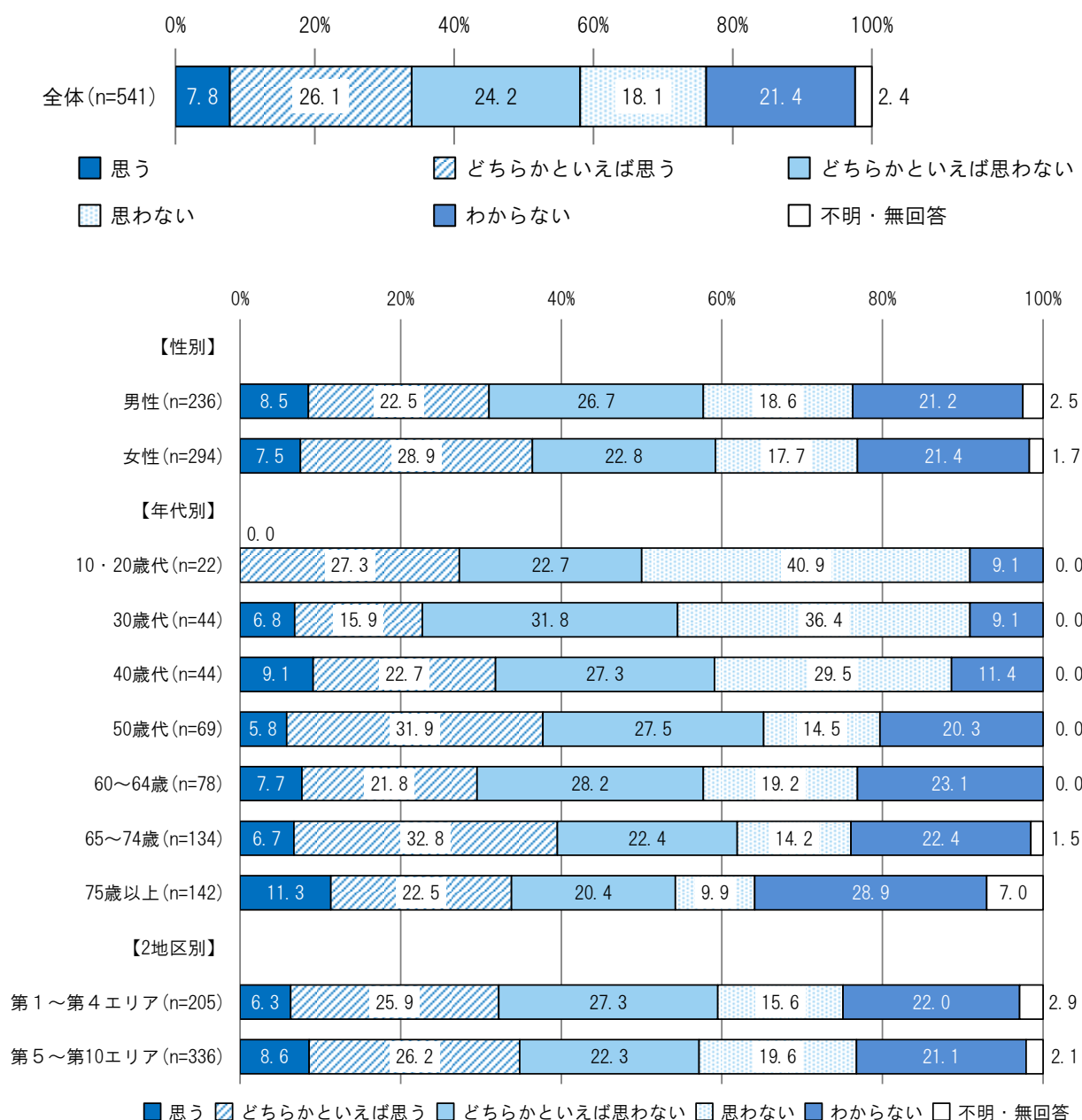
(単数回答)

犯罪をした人の立ち直りに協力したいかについてみると、「どちらかといえば思う」が26.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば思わない」が24.2%、「わからない」が21.4%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代から40歳代では「思わない」、50歳代、65～74歳では「どちらかといえば思う」、60～64歳では「どちらかといえば思わない」、75歳以上では「わからない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問19で「どちらかといえば思わない」「思わない」を選択した方にお尋ねします。

問 20. その理由は何ですか。

(複数回答)

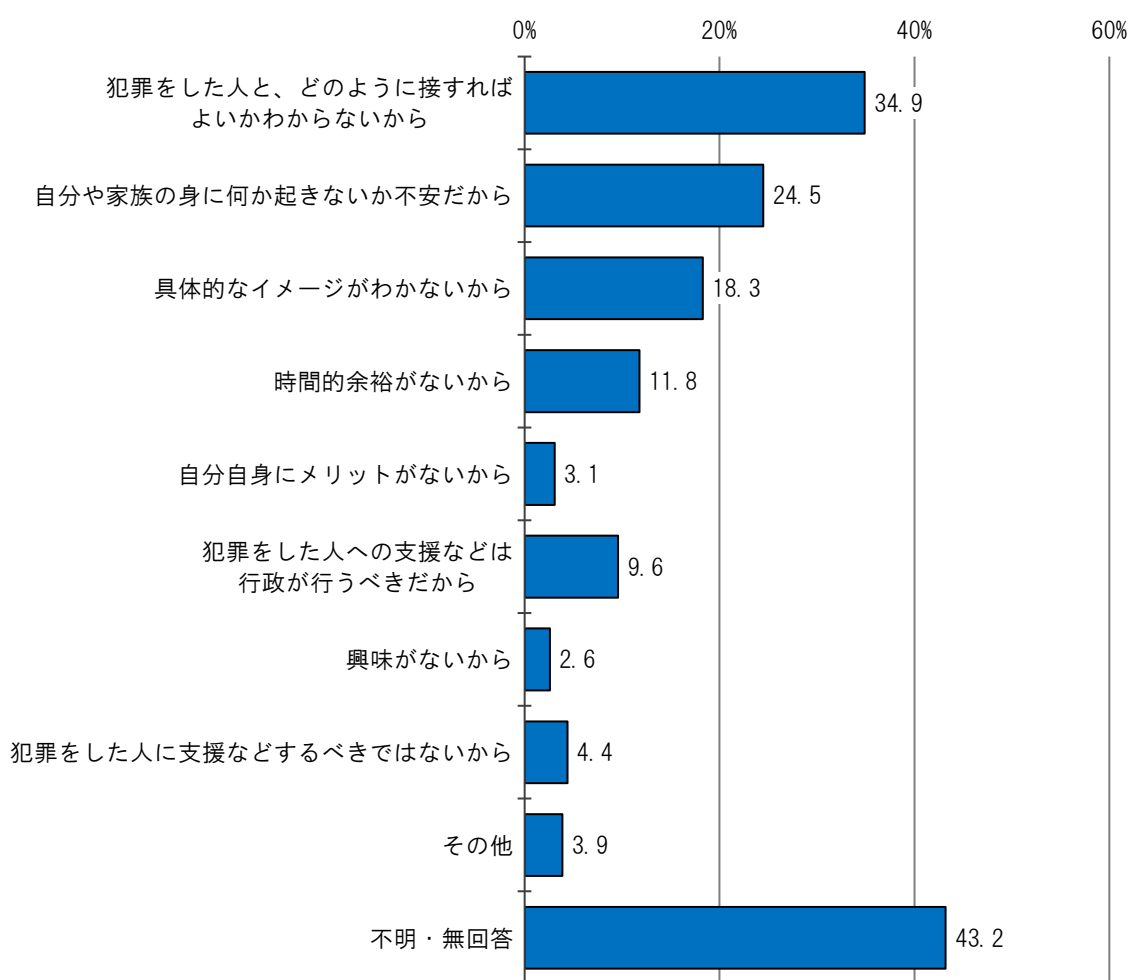
立ち直りに協力したいと思わない理由についてみると、「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が34.9%と最も多く、次いで「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が24.5%、「具体的なイメージがわからないから」が18.3%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10～30 歳代では「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」、40 歳代～75 歳以上では「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が最も高くなっています。また、10・20 歳代では「自分自身にメリットがないから」が他の年代と比べて高くなっています。

2 地区別にみると、大きな差はみられません。

n=229



単位:%	合計	犯罪をした人 と、どの ように接す ればよいか わからない から	自分や家族 の身に何か 起きないか 不安だから	具体的なイ メージがわ かないから	時間的余裕 がないから	自分自身に メリットがな いから	犯罪をした 人への支援 などは行政 が行うべき だから	興味がない から
【性別】								
男性	107	32.7	20.6	17.8	15.9	4.7	10.3	1.9
女性	119	37.0	27.7	19.3	8.4	1.7	9.2	3.4
【年代別】								
10・20歳代	14	14.3	21.4	0.0	7.1	14.3	14.3	0.0
30歳代	30	13.3	23.3	3.3	6.7	3.3	10.0	3.3
40歳代	25	24.0	20.0	20.0	12.0	4.0	4.0	0.0
50歳代	29	31.0	24.1	10.3	24.1	3.4	3.4	0.0
60～64歳	37	40.5	27.0	24.3	18.9	0.0	5.4	2.7
65～74歳	49	38.8	28.6	22.4	12.2	2.0	16.3	8.2
75歳以上	43	58.1	23.3	30.2	2.3	2.3	11.6	0.0
【2地区別】								
第1～4エリア	88	39.8	29.5	19.3	12.5	1.1	13.6	3.4
第5～10エリア	141	31.9	21.3	17.7	11.3	4.3	7.1	2.1

○成年後見制度について

問 21. あなたは成年後見制度についてどの程度知っていますか。

(単数回答)

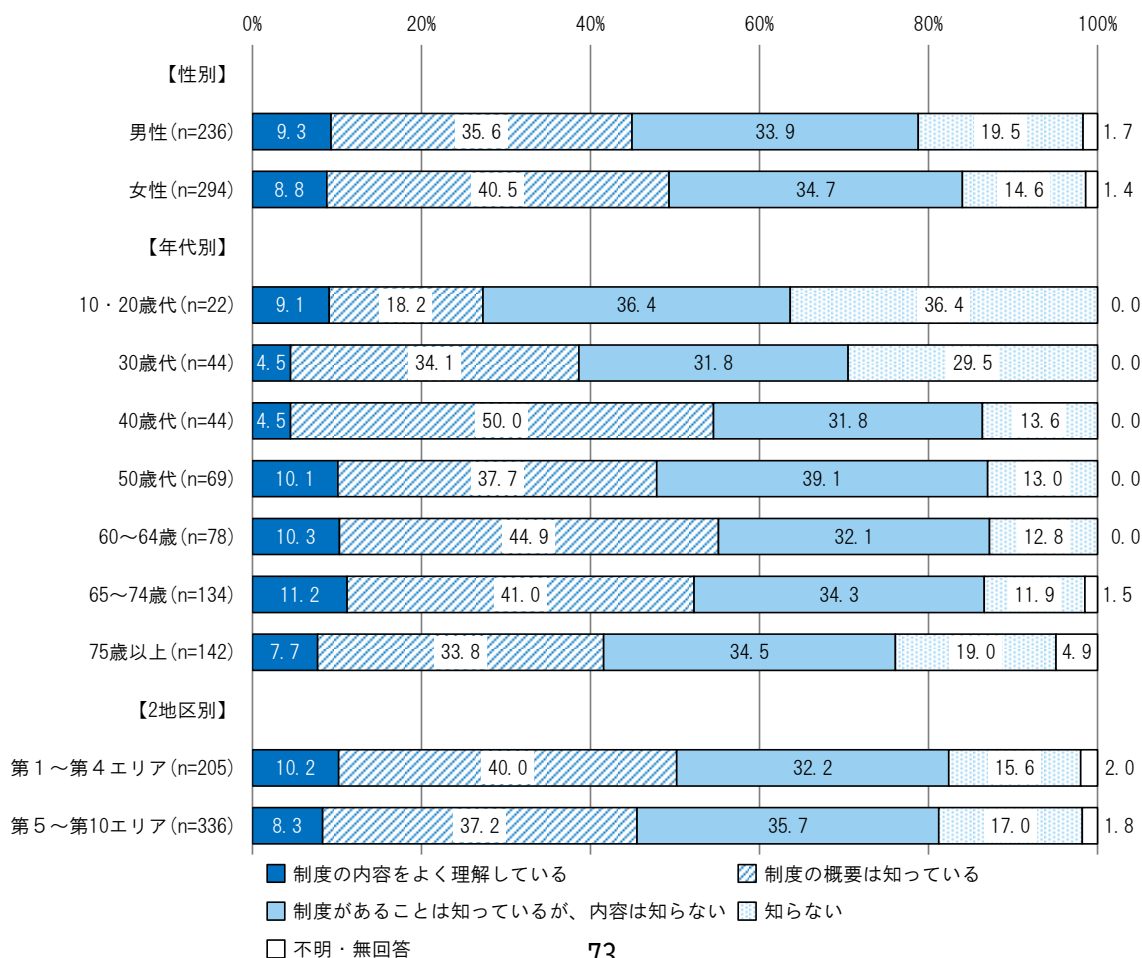
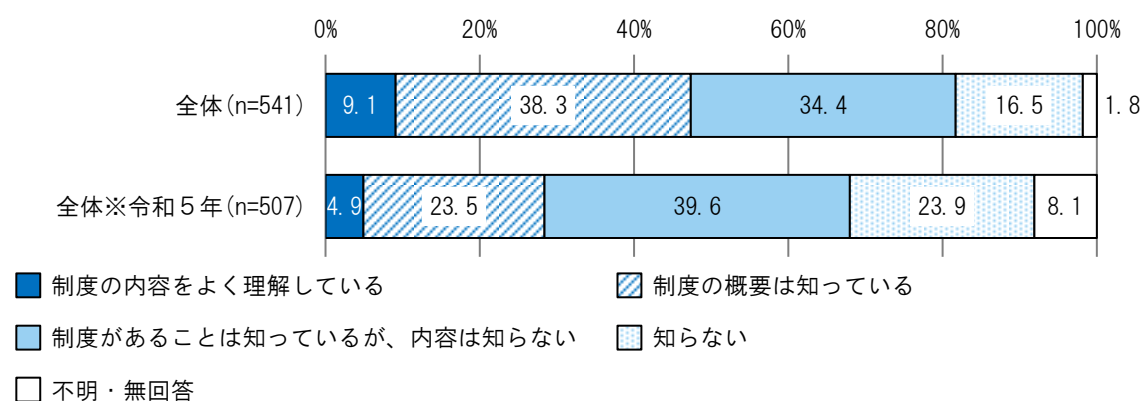
成年後見制度の認知度についてみると、「制度の概要は知っている」が38.3%と最も多く、次いで「制度があることは知っているが、内容は知らない」が34.4%、「知らない」が16.5%となっています。

令和5年調査時と比較すると、「知らない」が7.4ポイント低くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代では「制度があることは知っているが、内容は知らない」「知らない」、30歳代、40歳代、60～74歳では「制度の概要は知っている」、50歳代、75歳以上では「制度があることは知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。



問 22. あなたが、成年後見制度を利用するに当たって、市に期待することは何ですか。（複数回答）

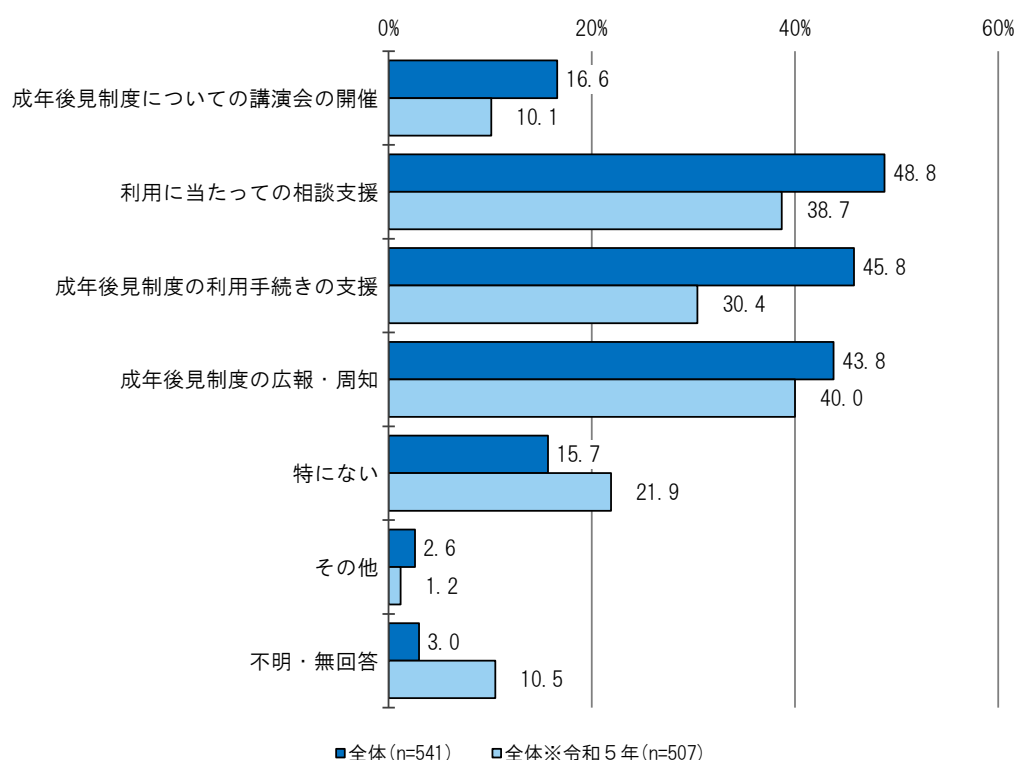
成年後見制度を利用するに当たって、市に期待することについてみると、「利用に当たっての相談支援」が48.8%と最も多く、次いで「成年後見制度の利用手続きの支援」が45.8%、「成年後見制度の広報・周知」が43.8%となっています。

令和5年調査時と比較すると、「利用に当たっての相談支援」が10.1ポイント高くなっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、10・20歳代、30歳代では「成年後見制度の利用手続きの支援」、40歳代では「利用に当たっての相談支援」「成年後見制度の広報・周知」、50歳代から65～74歳では「利用に当たっての相談支援」、75歳以上では「成年後見制度の広報・周知」が最も高くなっています。

2地区別にみると、大きな差はみられません。

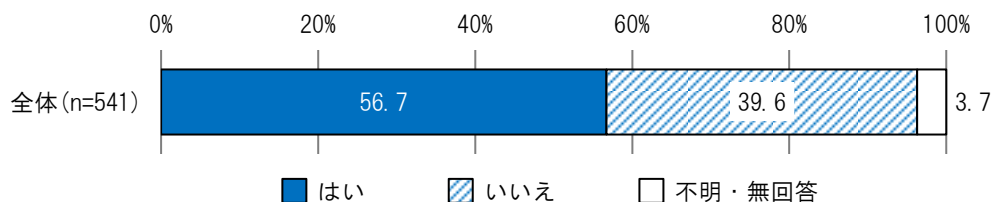


	合計	成年後見制度についての講演会の開催	利用に当たっての相談支援	成年後見制度の利用手続きの支援	成年後見制度の広報・周知	特にない	その他	不明・無回答
【性別】								
男性	236	15.3	46.2	43.2	41.9	16.5	3.4	3.0
女性	294	18.4	51.0	48.0	45.9	15.0	2.0	2.4
【年代別】								
10・20歳代	22	22.7	27.3	45.5	36.4	31.8	0.0	0.0
30歳代	44	6.8	38.6	56.8	38.6	20.5	0.0	0.0
40歳代	44	13.6	59.1	56.8	59.1	15.9	0.0	0.0
50歳代	69	17.4	65.2	52.2	39.1	11.6	4.3	1.4
60～64歳	78	12.8	59.0	48.7	46.2	19.2	5.1	0.0
65～74歳	134	17.9	53.7	51.5	44.0	11.9	2.2	2.2
75歳以上	142	21.1	33.1	29.6	43.7	14.8	2.8	7.7
【2地区別】								
第1～4エリア	205	19.5	54.1	49.3	46.3	10.7	2.0	4.4
第5～10エリア	336	14.9	45.5	43.8	42.3	18.8	3.0	2.1

4 多摩市社会福祉協議会に関する設問

問 23. 福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えていますか。(単数回答)

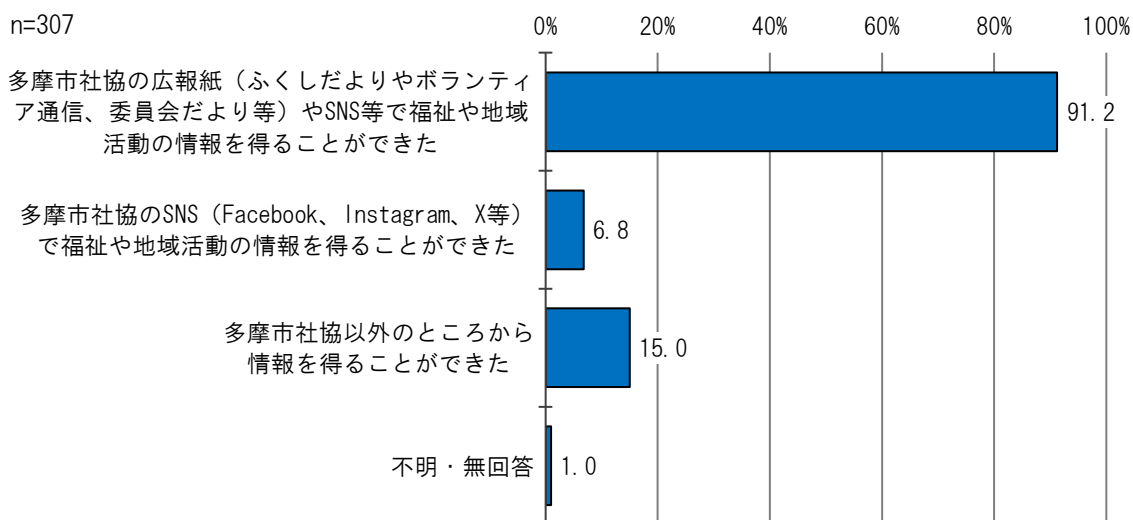
福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えているかについてみると、「はい」が56.7%、「いいえ」が39.6%となっています。



問23で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 23-1. どのような情報を得ることができましたか。(複数回答)

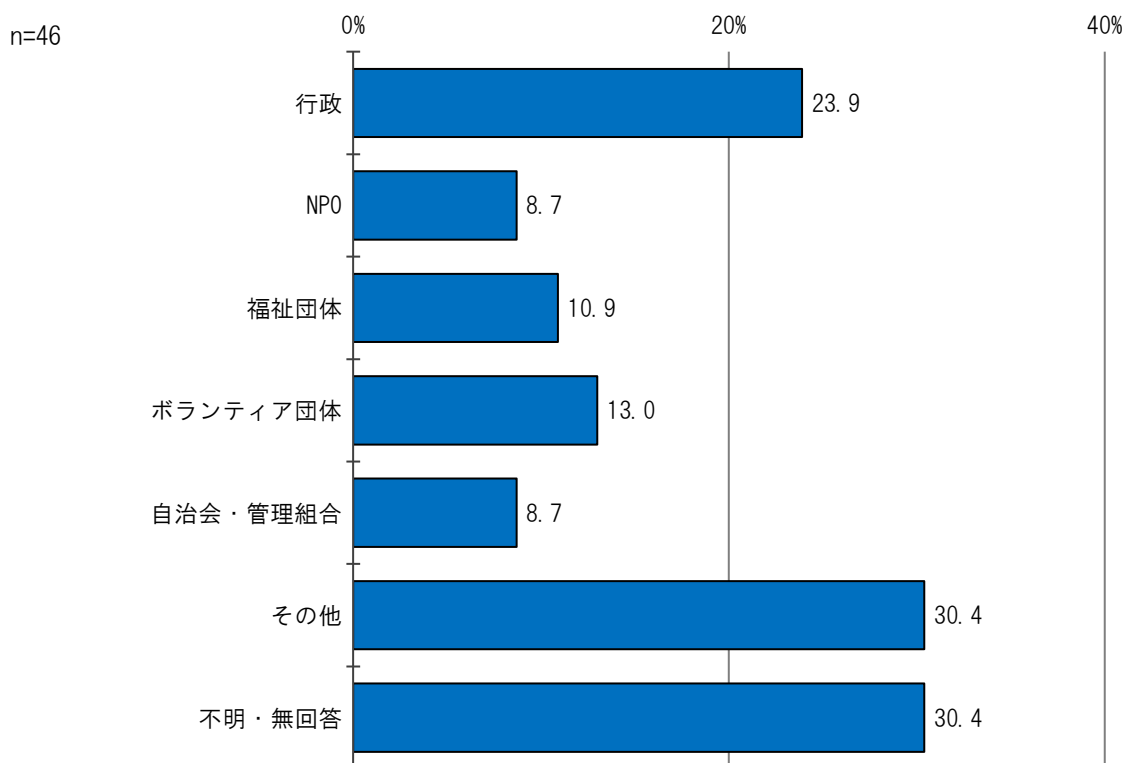
得ることのできた情報についてみると、「多摩市社協の広報紙（ふくしだよりやボランティア通信、委員会だより等）や SNS 等で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が91.2%と最も多く、次いで「多摩市社協以外のところから情報を得ることができた」が15.0%、「多摩市社協の SNS (Facebook、Instagram、X 等) で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が6.8%となっています。



問23-1で「多摩市社協以外のところから情報を得ることができた」を選択した方にお尋ねします。

問 23-1-2. どこから情報を得ることができましたか。(複数回答)

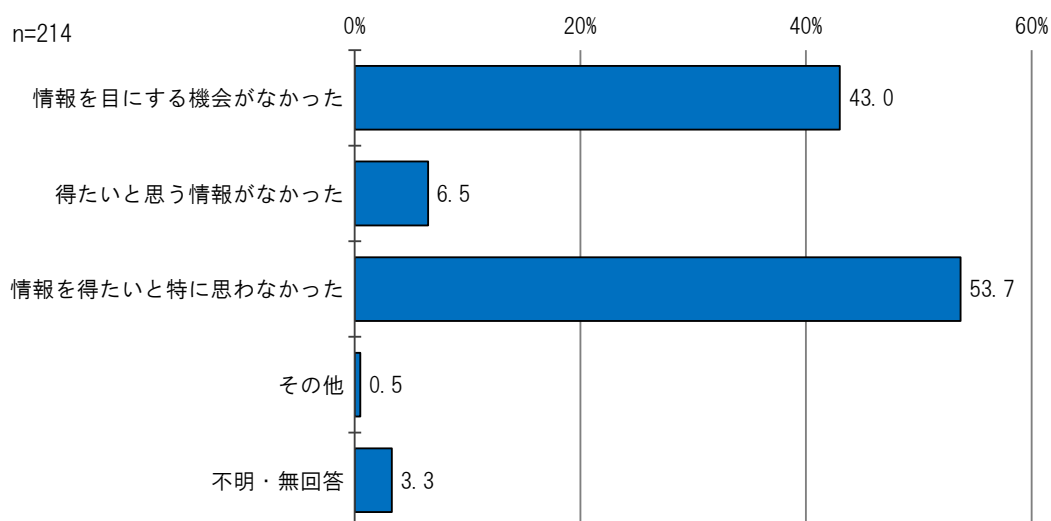
どこから情報を得ることができたかについてみると、「その他」が30.4%と最も多く、次いで「行政」が23.9%、「ボランティア団体」が13.0%となっています。



問23で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 23-2. 情報を得る機会が増えていると思わない理由は何ですか。(複数回答)

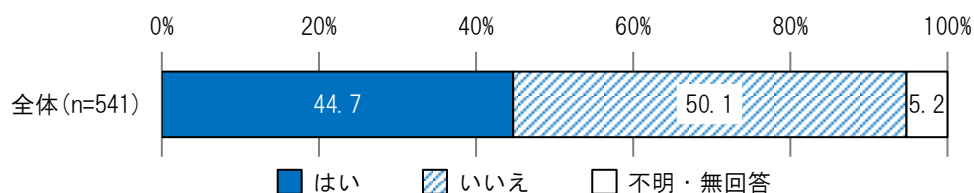
情報を得る機会が増えていると思わない理由についてみると、「情報を得たいと特に思わなかった」が53.7%と最も多く、次いで「情報を目にする機会がなかった」が43.0%、「得たいと思う情報がなかった」が6.5%となっています。



問 24. 福祉を身近に感じるような機会が増えましたか。

(単数回答)

福祉を身近に感じるような機会が増えているかについてみると、「いいえ」が 50.1%、「はい」が 44.7%となっています。

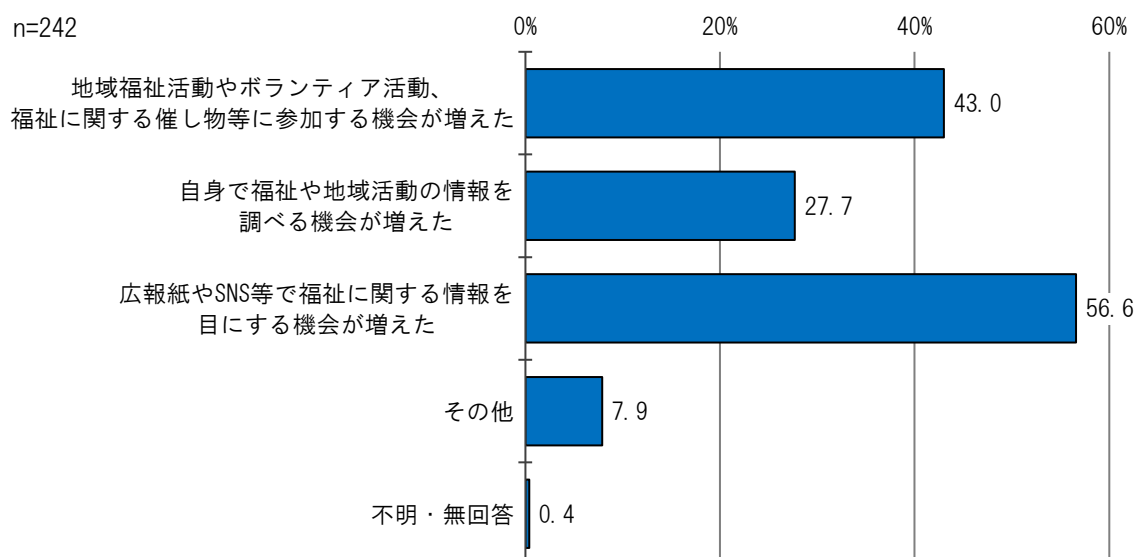


問24で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 24-1. 機会が増えたと思う理由は何ですか。

(複数回答)

福祉を身近に感じるような機会が増えたと思う理由についてみると、「広報紙や SNS 等で福祉に関する情報を目にする機会が増えた」が 56.6%と最も多く、次いで「地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加する機会が増えた」が 43.0%、「自身で福祉や地域活動の情報を調べる機会が増えた」が 27.7%となっています。

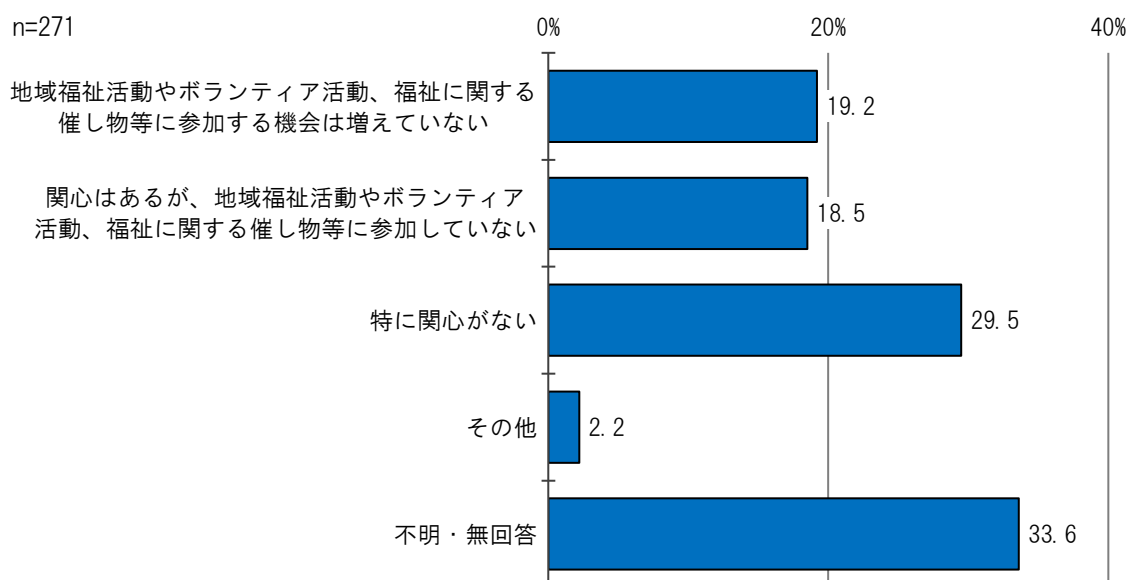


問24で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 24-2. 機会が増えたと思わない理由は何ですか。

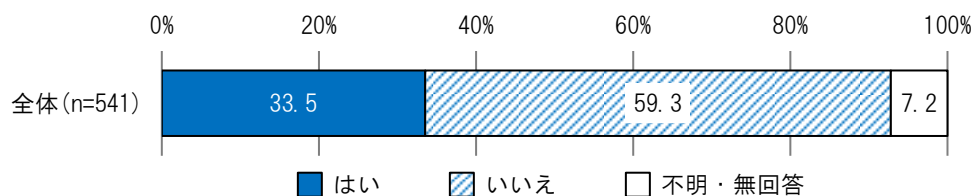
(複数回答)

機会が増えたと思わない理由についてみると、「特に興味がない」が 29.5%と最も多く、次いで「地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加する機会が増えていない」が 19.2%、「関心はあるが、地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加していない」が 18.5%となっています。



問 25. 身近に福祉に関する困りごとを相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じますか。
(単数回答)

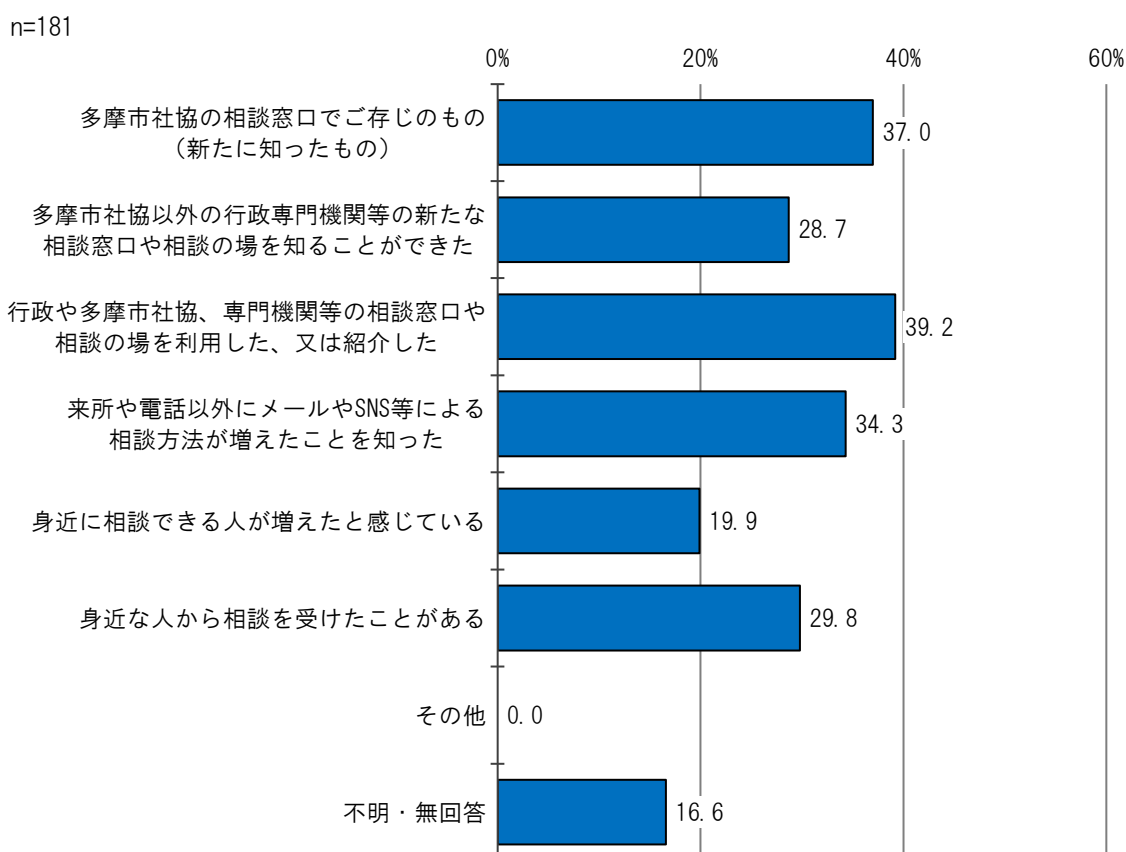
身近に福祉に関する困りごとを相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じるかについてみると、「いいえ」が59.3%、「はい」が33.5%となっています。



問25で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 25-1. 相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じる理由は何ですか。(複数回答)

相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じる理由についてみると、「行政や多摩市社協、専門機関等の相談窓口や相談の場を利用した、又は紹介した」が39.2%と最も多く、次いで「多摩市社協の相談窓口でご存じのもの(新たに知ったもの)」が37.0%、「来所や電話以外にメールやSNS等による相談方法が増えたことを知った」が34.3%となっています。

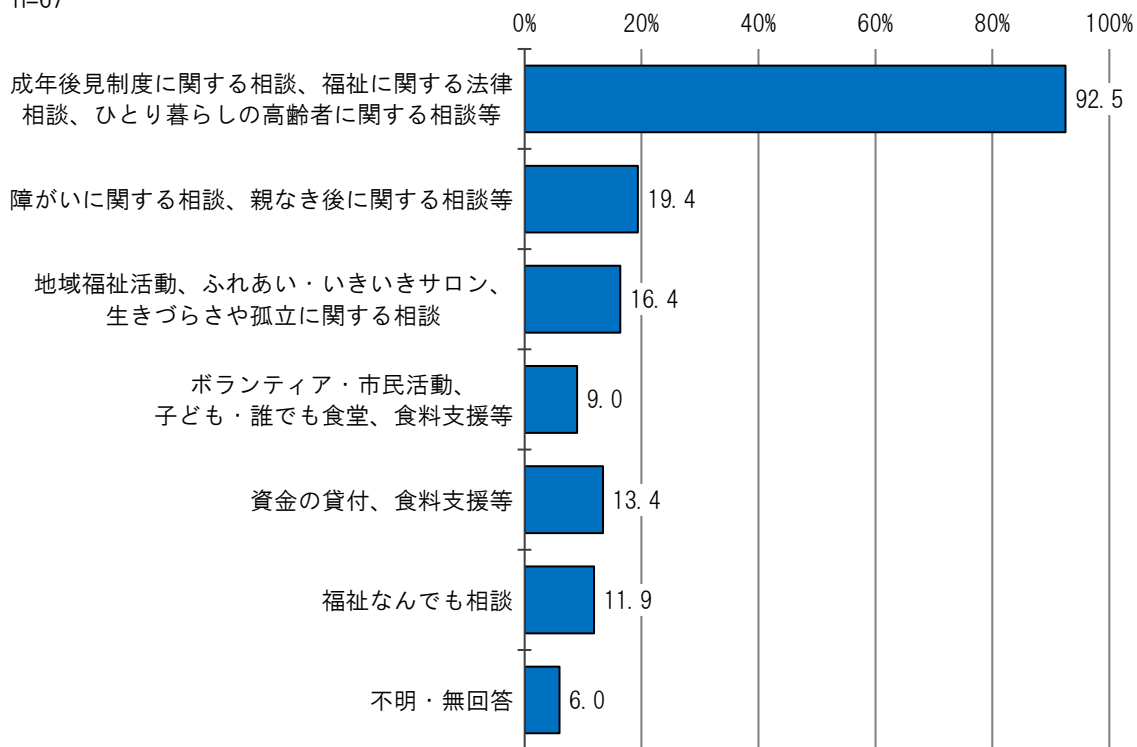


問25-1で「多摩市社協の相談窓口でご存じのもの」を選択した方にお尋ねします。

問 25-1-1. 多摩市社協の相談窓口でご存じのもの（新たに知ったもの）は何ですか。（複数回答）

多摩市社協の相談窓口でご存じのもの（新たに知ったもの）についてみると、「成年後見制度に関する相談、福祉に関する法律相談、ひとり暮らしの高齢者に関する相談等」が 92.5%と最も多く、次いで「障がいに関する相談、親なき後に関する相談等」が 19.4%、「地域福祉活動、ふれあい・いきいきサロン、生きづらさや孤立に関する相談」が 16.4%となっています。

n=67

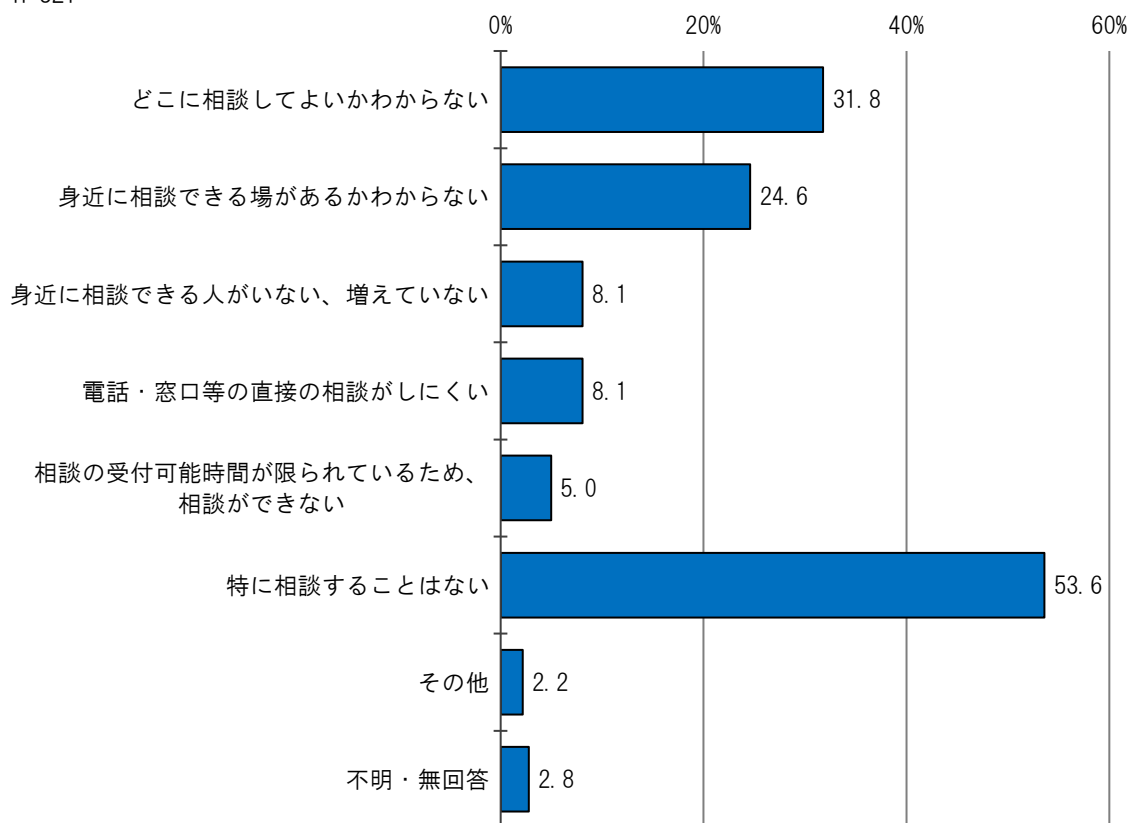


問25で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 25-2. 相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じない理由は何ですか。 (複数回答)

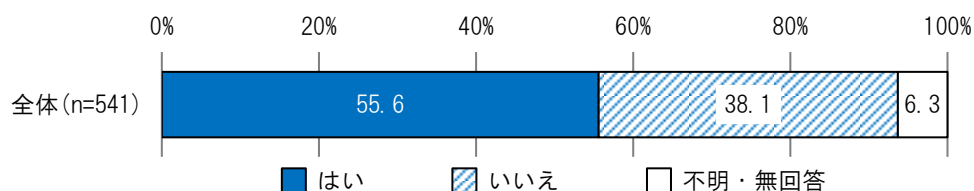
相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じない理由についてみると、「特に相談することはない」が53.6%と最も多く、次いで「どこに相談してよいかわからない」が31.8%、「身近に相談できる場があるかわからない」が24.6%となっています。

n=321



問 26. あなた自身や周りの人に、潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じますか。(単数回答)

潜在・複合的な課題や問題が増えているかについてみると、「はい」が 55.6%、「いいえ」が 38.1%となっています。

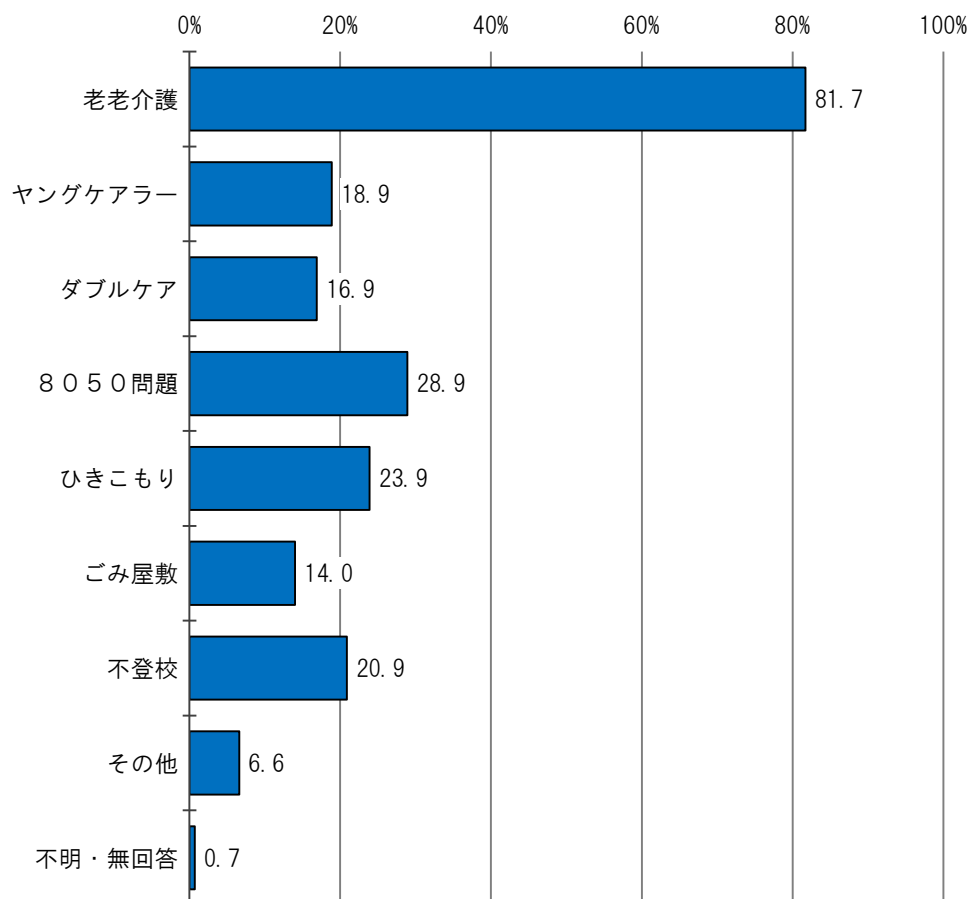


問26で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 26-1. どのような課題や問題がありますか。(複数回答)

課題や問題についてみると、「老老介護」が 81.7%と最も多く、次いで「8050問題」が 28.9%、「ひきこもり」が 23.9%となっています。

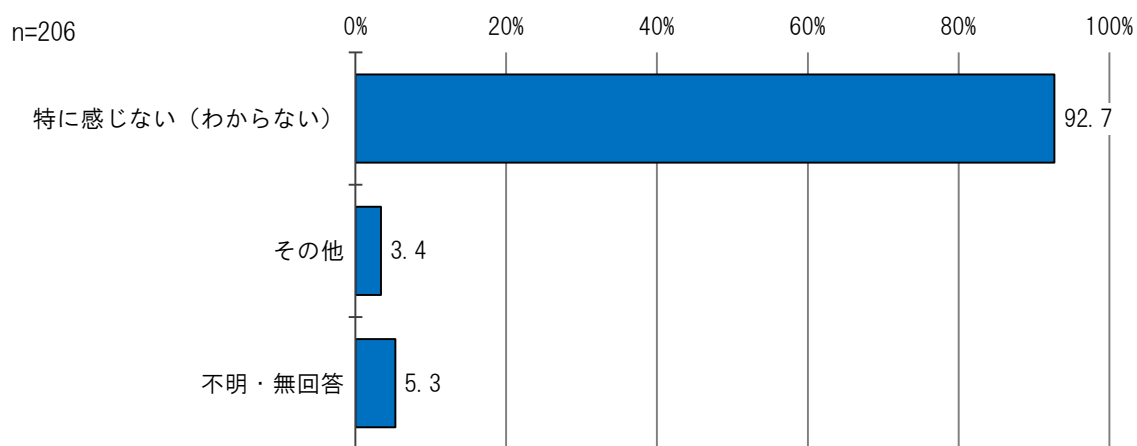
n=301



問26で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 26-2. 潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由は何ですか。 (複数回答)

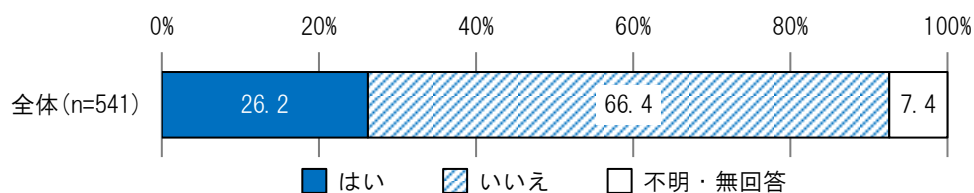
潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由についてみると、「特に感じない（わからない）」が92.7%と最も多く、次いで「その他」が3.4%となっています。



問 27. 福祉や地域活動に参加する機会は増えていますか。

(単数回答)

福祉や地域活動に参加する機会は増えているかについてみると、「いいえ」が 66.4%と最も多く、次いで「はい」が 26.2%となっています。



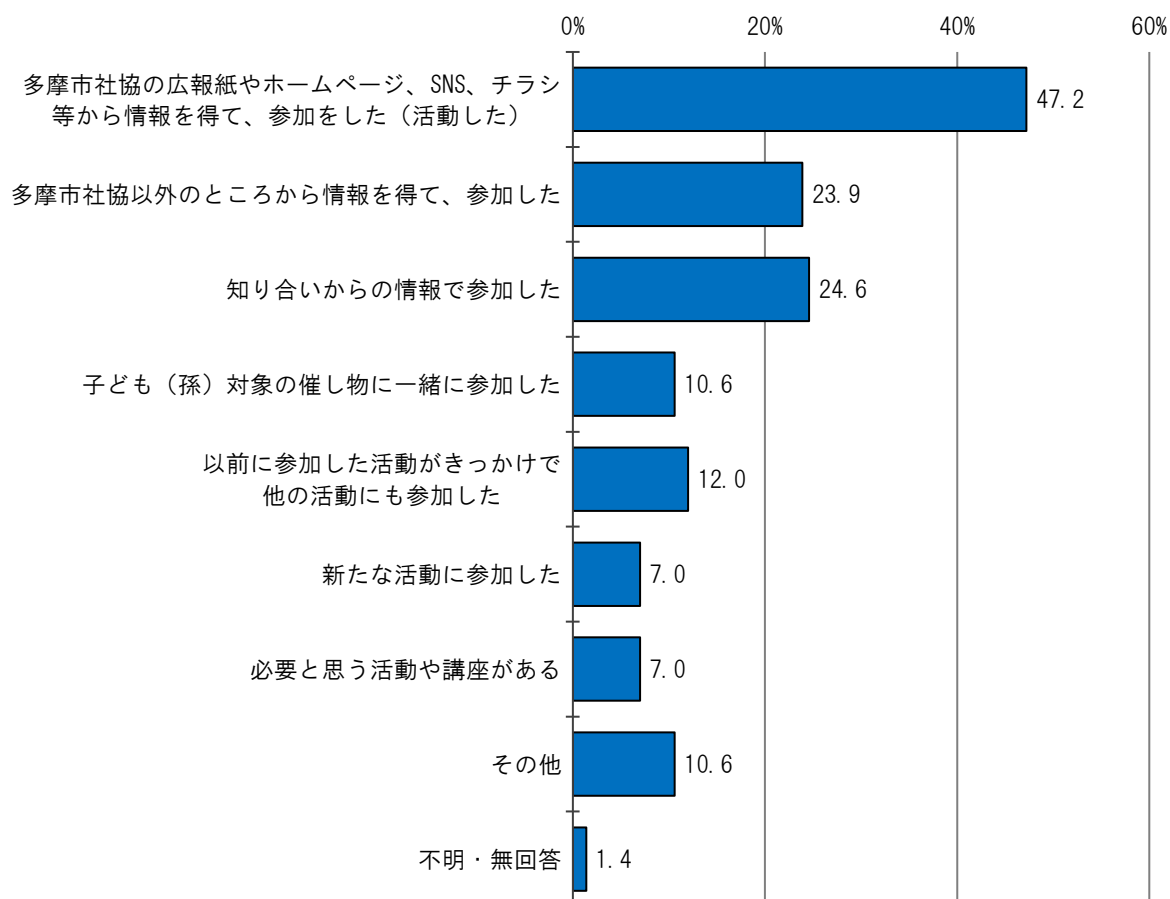
問27で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 27-1. 活動に参加したきっかけは何ですか。

(複数回答)

活動に参加したきっかけについてみると、「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした（活動した）」が 47.2%と最も多く、次いで「知り合いからの情報で参加した」が 24.6%、「多摩市社協以外のところから情報を得て、参加した」が 23.9%となっています。

n=142



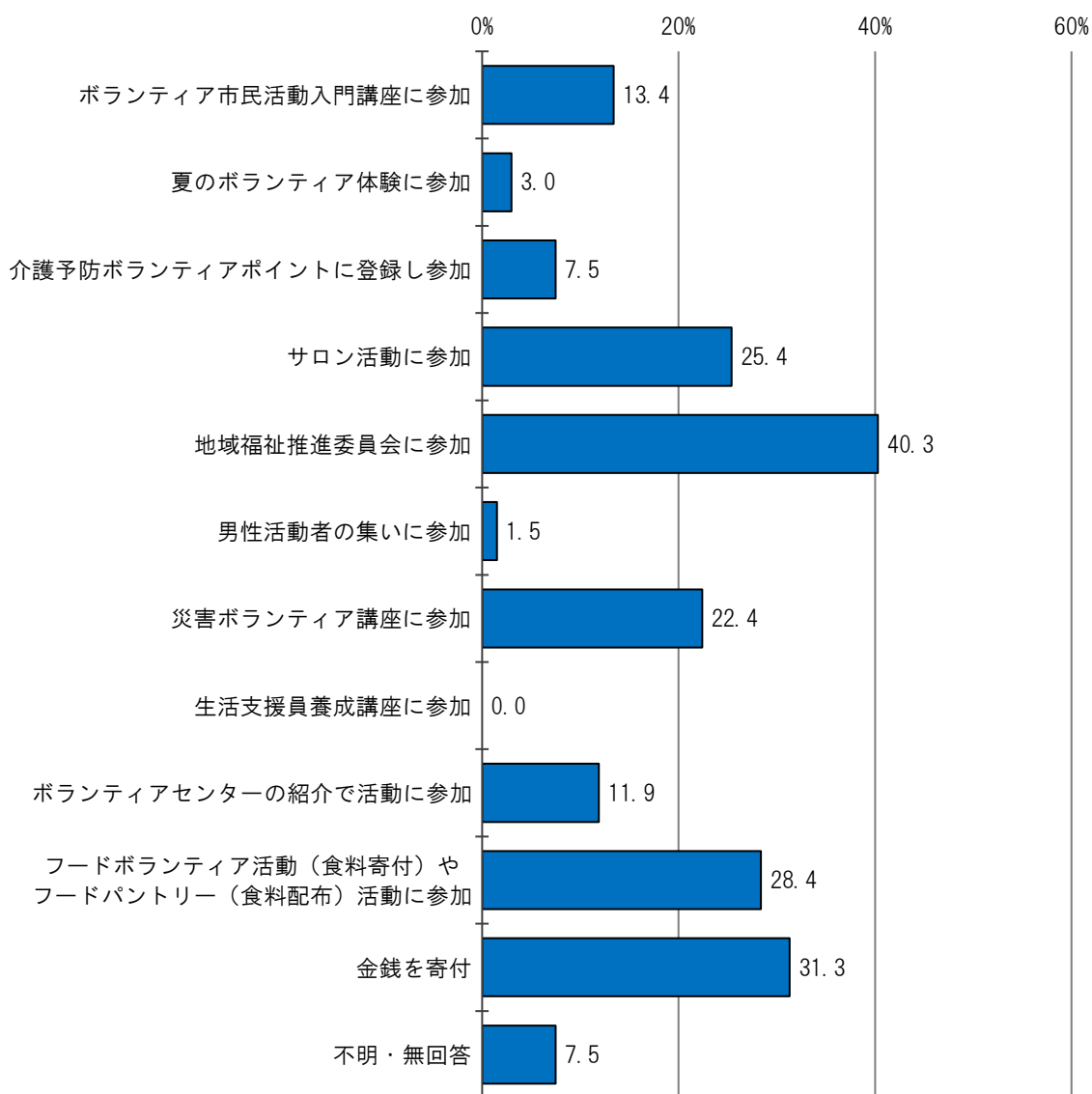
問 27-1 で「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした（活動した）」を選択した方にお尋ねします。

問 27-1-1. 参加した活動は何ですか。

（複数回答）

参加した活動についてみると、「地域福祉推進委員会に参加」が40.3%と最も多く、次いで「金銭を寄付」が31.3%、「フードボランティア活動（食料寄付）やフードパントリー（食料配布）活動に参加」が28.4%となっています。

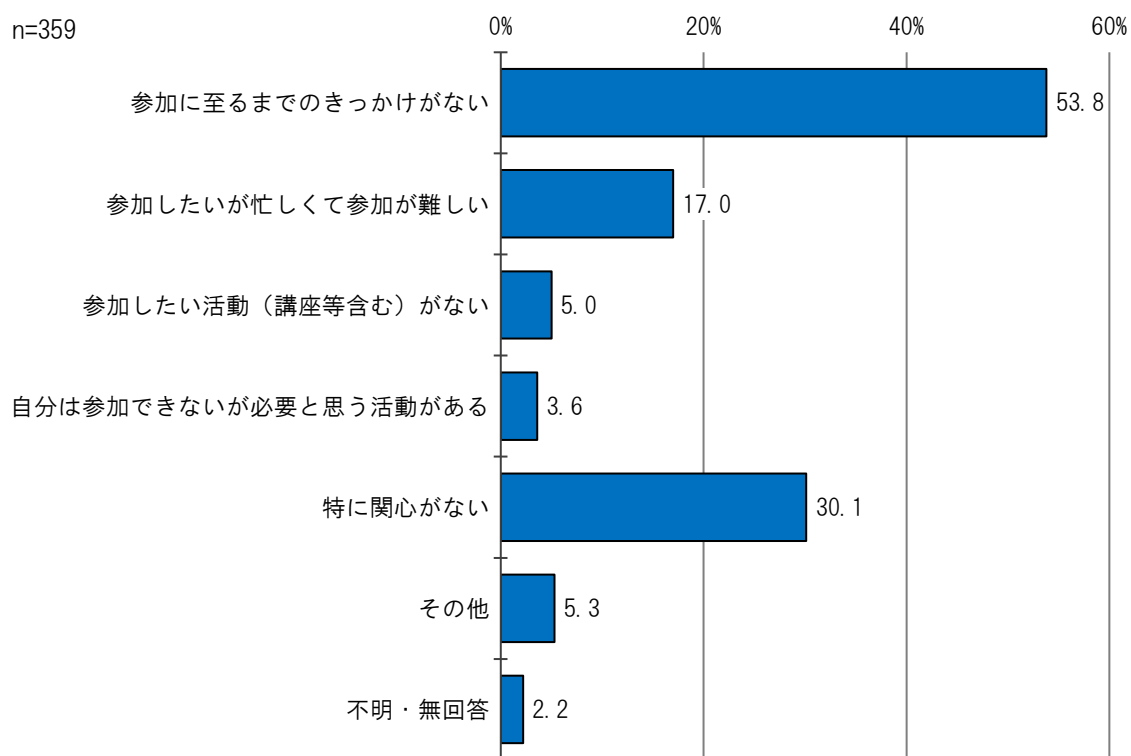
n=67



問27で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 27-2. 福祉や地域活動に参加する機会が増えない理由は何ですか。 (複数回答)

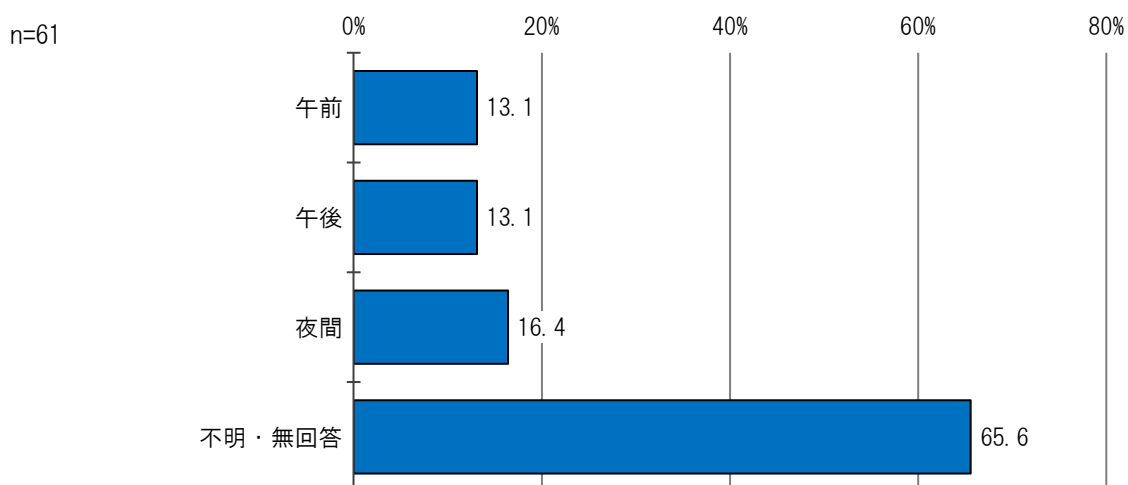
福祉や地域活動に参加する機会が増えない理由についてみると、「参加に至るまでのきっかけがない」が53.8%と最も多く、次いで「特に関心がない」が30.1%、「参加したいが忙しくて参加が難しい」が17.0%となっています。



問27-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 27-2-1. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(平日) (複数回答)

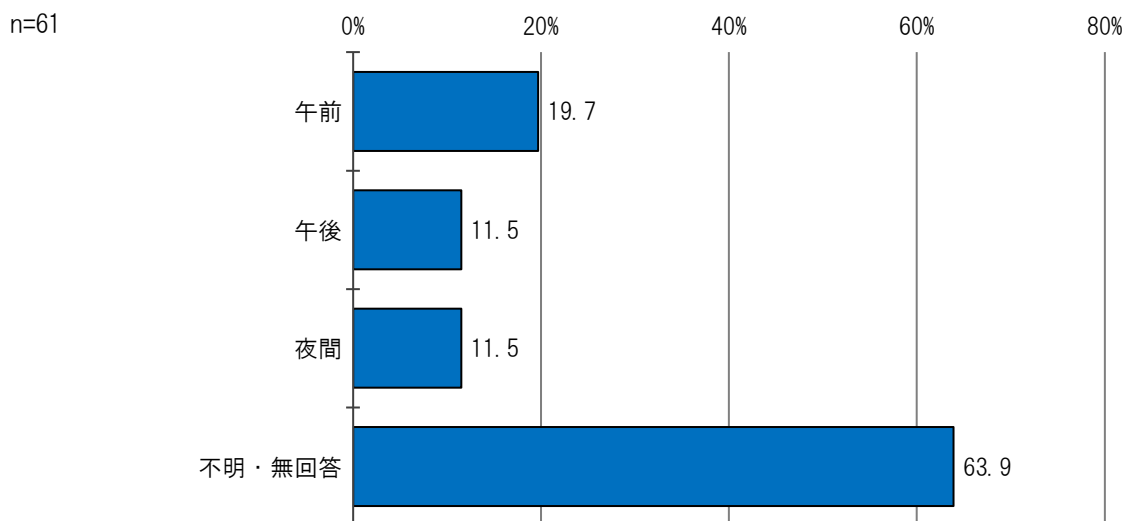
平日についてみると、「夜間」が16.4%と最も多く、次いで「午前」「午後」が13.1%となっています。



問27-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 27-2-2. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(土曜日) (複数回答)

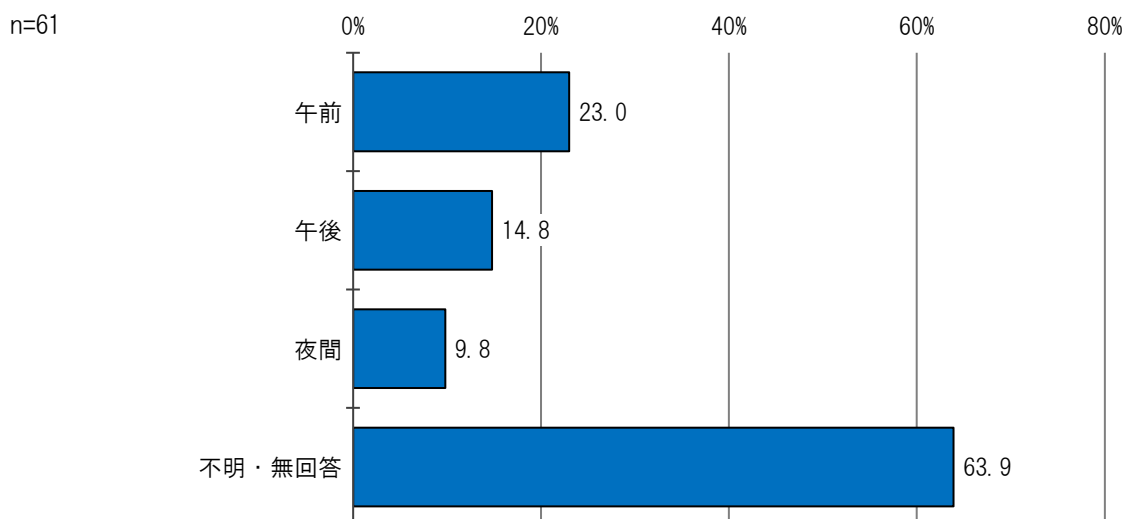
土曜日についてみると、「午前」が19.7%と最も多く、次いで「午後」「夜間」が11.5%となっています。



問27-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 27-2-3. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(休日) (複数回答)

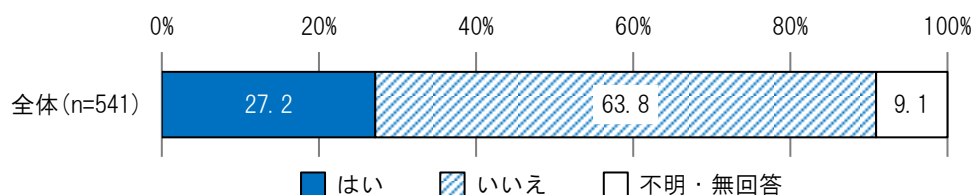
休日についてみると、「午前」が23.0%と最も多く、次いで「午後」が14.8%、「夜間」が9.8%となっています。



問 28. 以前に比べ、地域での交流の場が増えましたか。

(単数回答)

地域での交流の場が増えたかについてみると、「いいえ」が63.8%、「はい」が27.2%となっています。

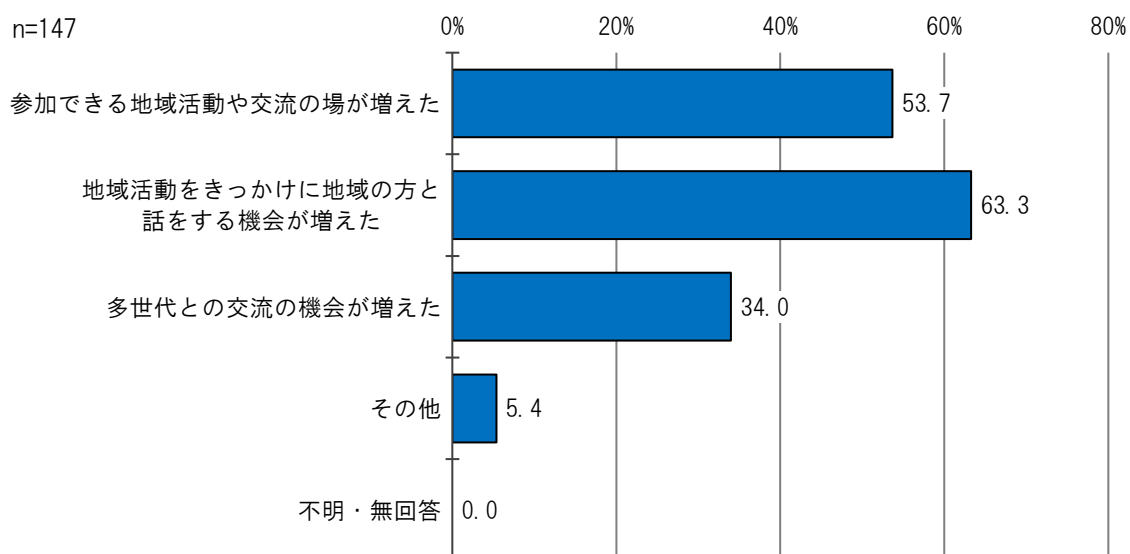


問28で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 28-1. 増えた交流の場はどのようなものですか。

(複数回答)

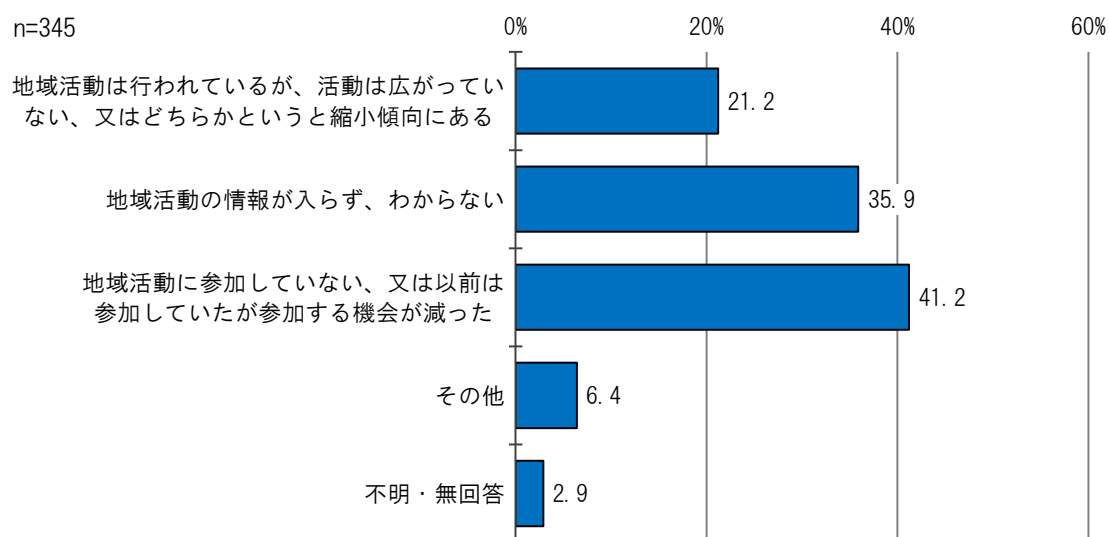
増えた交流の場についてみると、「地域活動をきっかけに地域の方と話をする機会が増えた」が63.3%と最も多く、次いで「参加できる地域活動や交流の場が増えた」が53.7%、「多世代との交流の機会が増えた」が34.0%となっています。



問28で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 28-2. 以前に比べ、地域での交流の場が増えたと思わない理由は何ですか。 (複数回答)

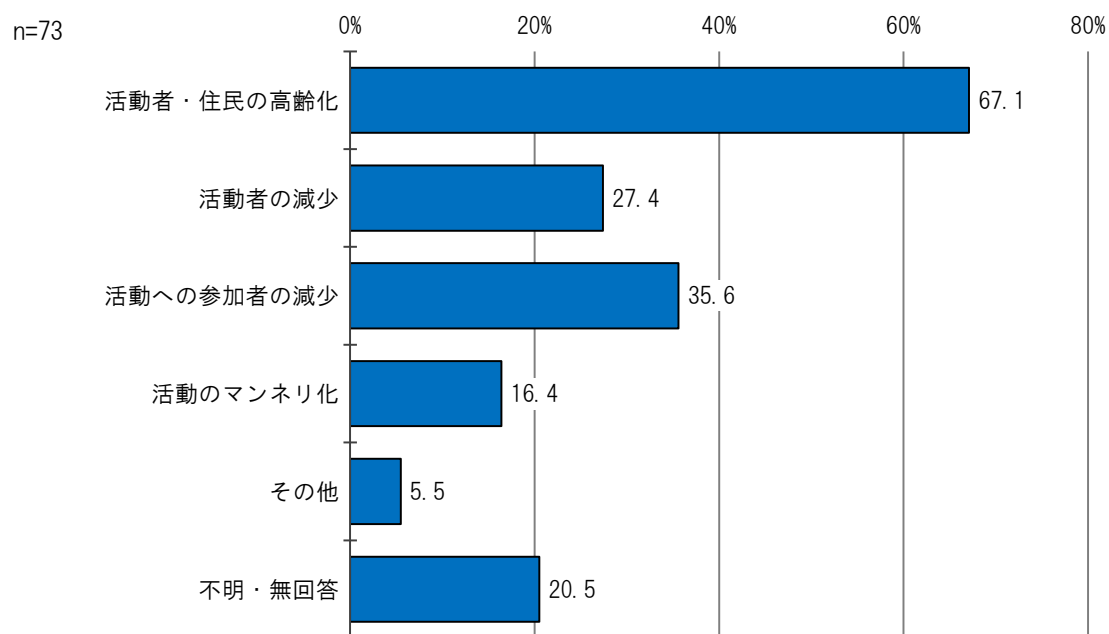
以前に比べ、地域での交流の場が増えたと思わない理由についてみると、「地域活動に参加していない、又は以前は参加していたが参加する機会が減った」が41.2%と最も多く、次いで「地域活動の情報が入らず、わからない」が35.9%、「地域活動は行われているが、活動は広がっていない、又はどちらかというと縮小傾向にある」が21.2%となっています。



問28-2で「地域活動は行われているが、活動は広がっていない、又はどちらかというと縮小傾向にある」を選択した方にお尋ねします。

問 28-2-1. 活動が広がらない、縮小している理由は何ですか。 (複数回答)

活動が広がらない、縮小している理由についてみると、「活動者・住民の高齢化」が67.1%と最も多く、次いで「活動への参加者の減少」が35.6%、「活動者の減少」が27.4%となっています。

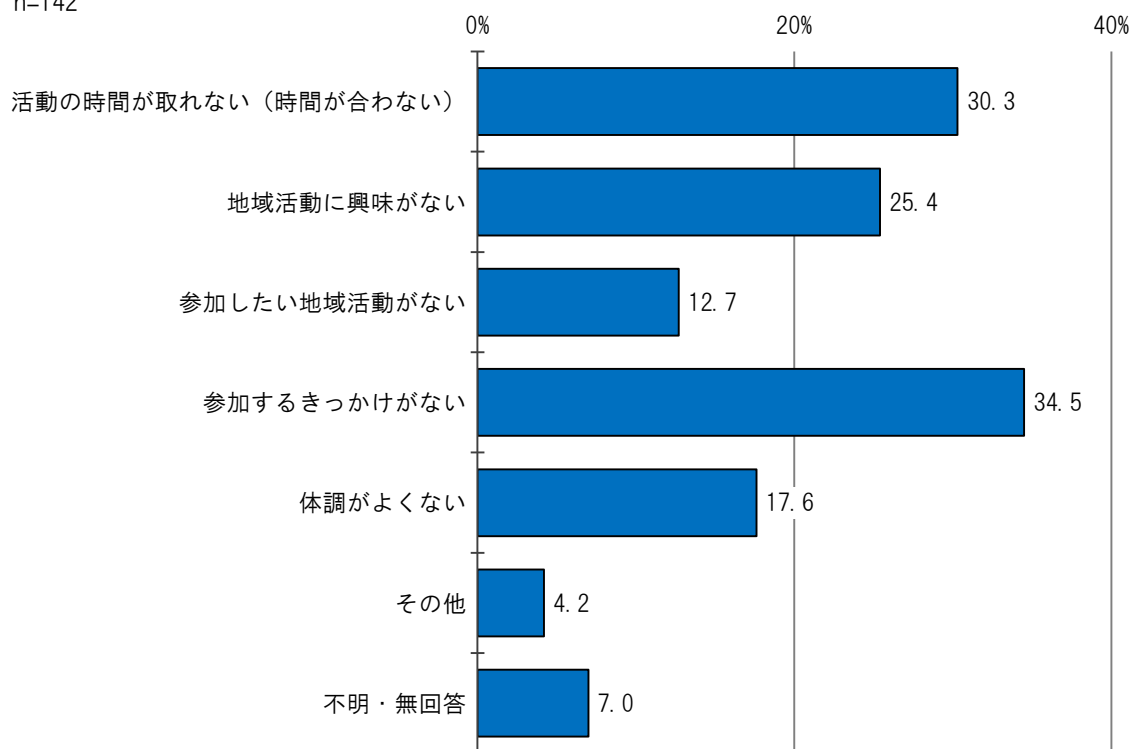


問28-2で「地域活動に参加していない、又は以前は参加していたが参加する機会が減った」を選択した方にお尋ねします。

問 28-2-2. 参加しない（できない）・減った理由は何ですか。（複数回答）

参加しない（できない）・減った理由についてみると、「参加するきっかけがない」が 34.5%と最も多く、次いで「活動の時間が取れない（時間が合わない）」が 30.3%、「地域活動に興味がない」が 25.4%となっています。

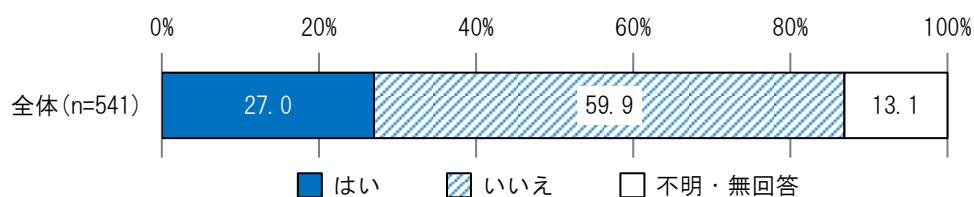
n=142



問 29. 同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じますか。

(単数回答)

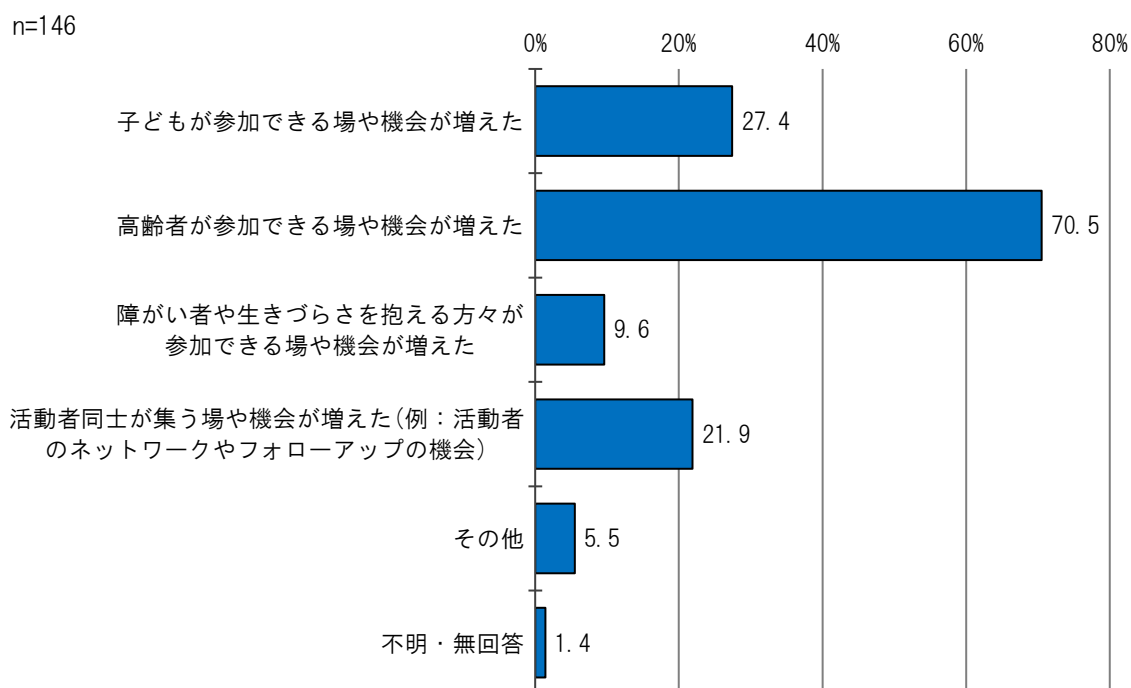
居場所が増えているかについてみると、「いいえ」が 59.9%、「はい」が 27.0%となっています。



問29で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 29-1. 同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じる理由は何ですか。 (複数回答)

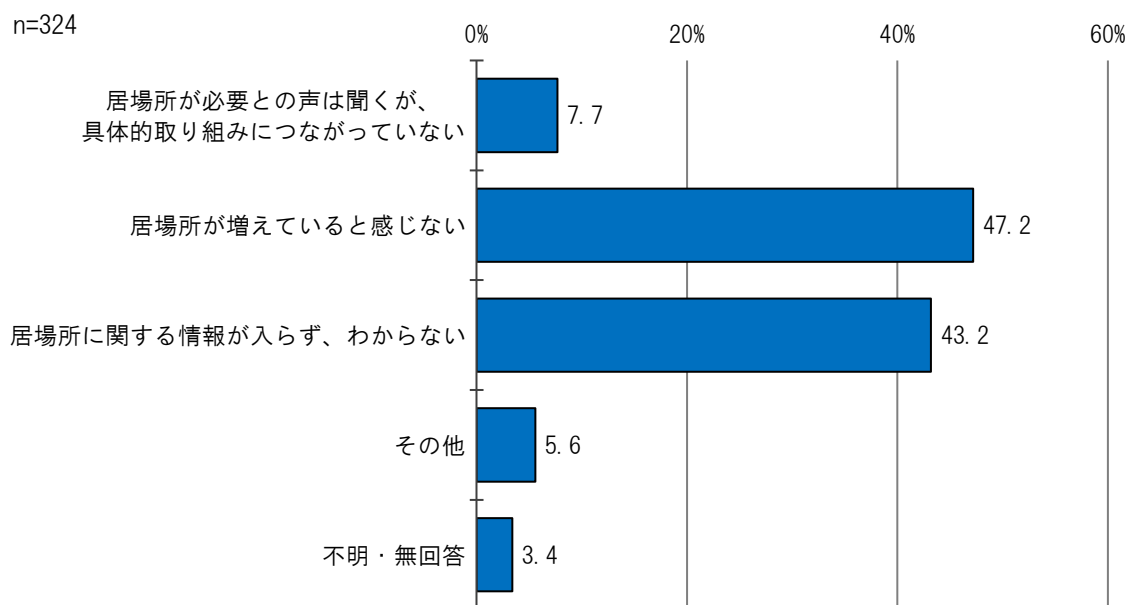
同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じる理由についてみると、「高齢者が参加できる場や機会が増えた」が 70.5%と最も多く、次いで「子どもが参加できる場や機会が増えた」が 27.4%、「活動者同士が集う場や機会が増えた(例:活動者のネットワークやフォローアップの機会)」が 21.9%となっています。



問29で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 29-2. 同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じない理由は何ですか。（複数回答）

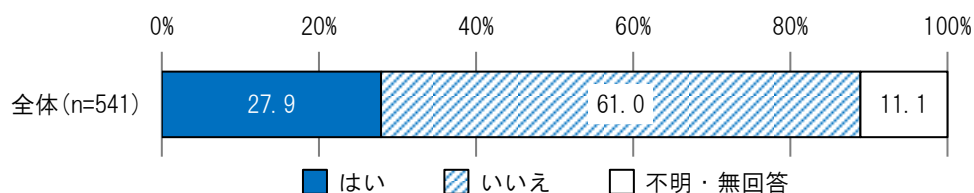
同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じない理由についてみると、「居場所が増えていると感じない」が47.2%と最も多く、次いで「居場所に関する情報が入らず、わからない」が43.2%、「居場所が必要との声は聞くが、具体的取り組みにつながっていない」が7.7%となっています。



問 30. あなたが参加している地域福祉活動は活動が充実していますか。

(単数回答)

参加している地域福祉活動は活動が充実しているかについてみると、「いいえ」が61.0%、「はい」が27.9%となっています。



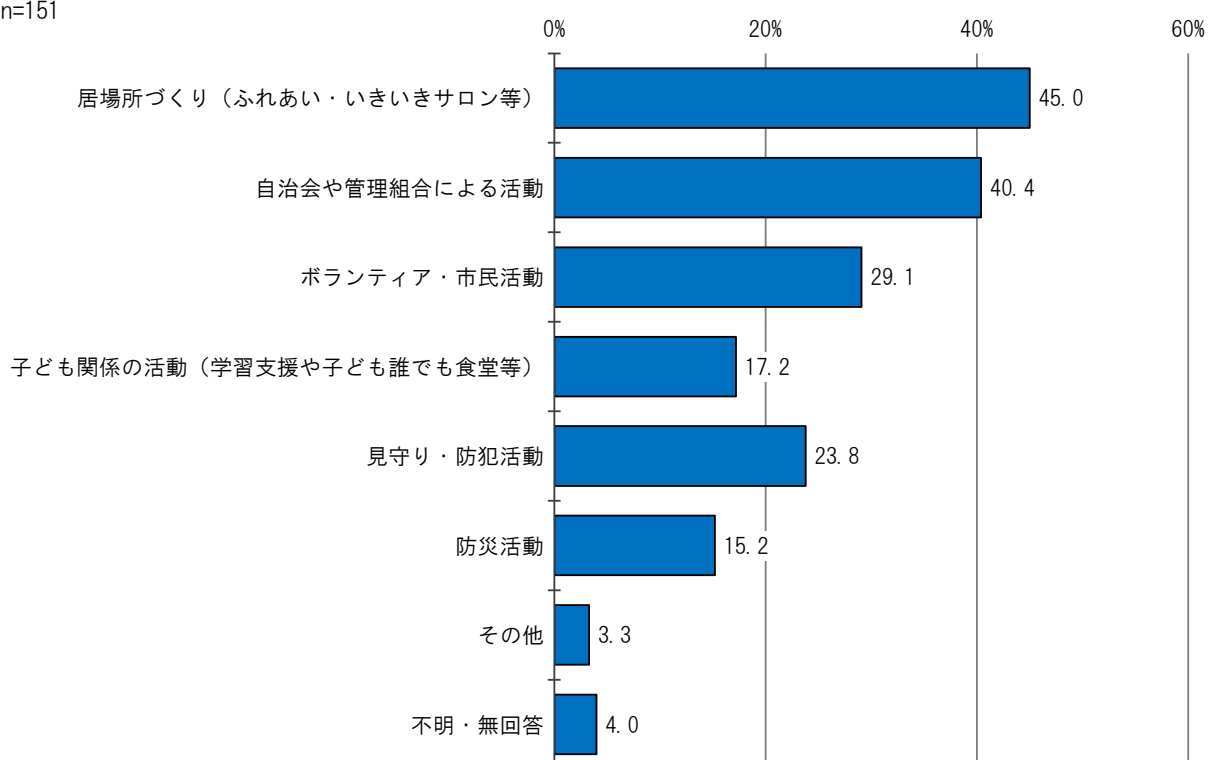
問30で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 30-1. 参加している活動は何ですか。

(複数回答)

参加している活動についてみると、「居場所づくり（ふれあい・いきいきサロン等）」が45.0%と最も多く、次いで「自治会や管理組合による活動」が40.4%、「ボランティア・市民活動」が29.1%となっています。

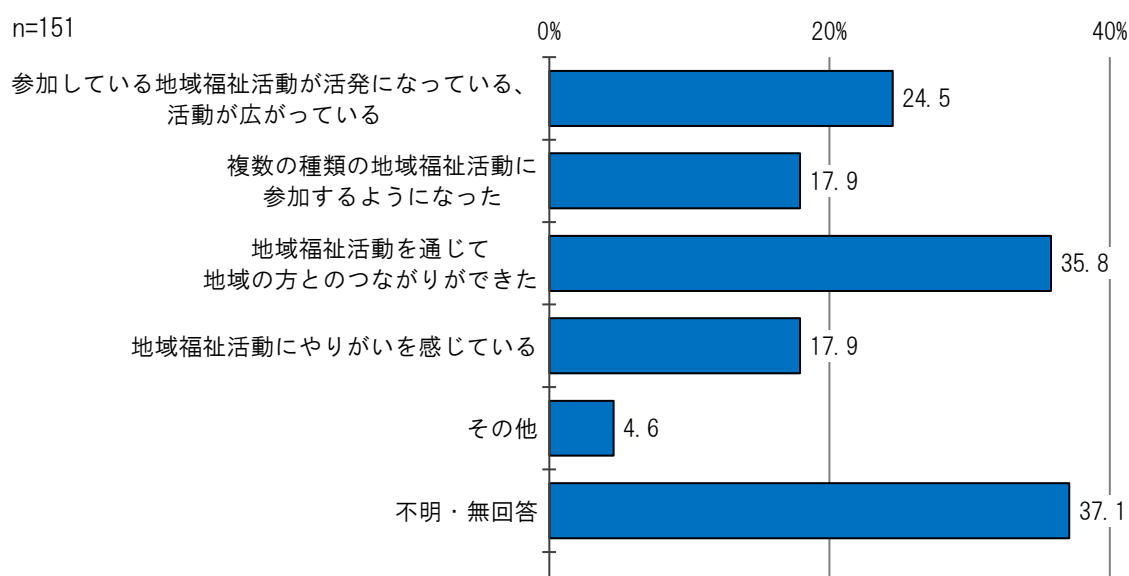
n=151



問30で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 30-1-1. 参加している地域福祉活動の状況はどのようなものですか。 (複数回答)

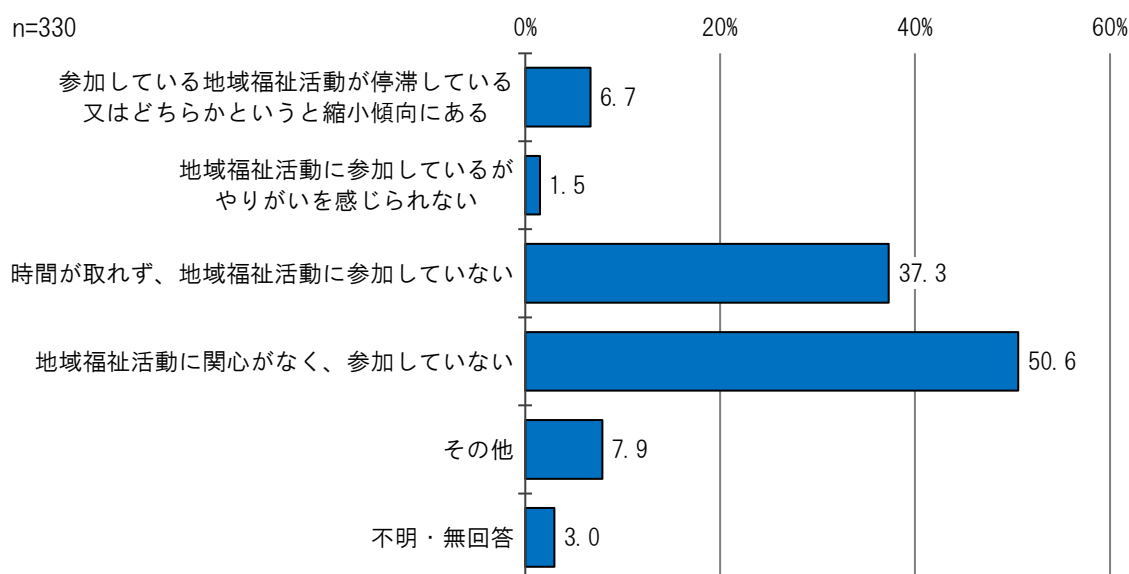
参加している地域福祉活動の状況についてみると、「地域福祉活動を通じて地域の方とのつながりができた」が35.8%と最も多く、次いで「参加している地域福祉活動が活発になっている、活動が広がっている」が24.5%、「複数の種類の地域福祉活動に参加するようになった」「地域福祉活動にやりがいを感じている」が17.9%となっています。



問30で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

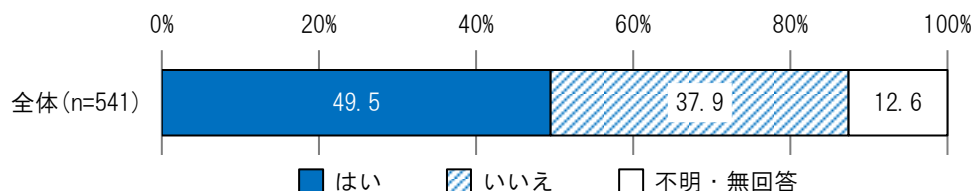
問 30-2. 参加している地域福祉活動の活動が充実していると思わない理由は何ですか。 (複数回答)

参加している地域福祉活動の活動が充実していると思わない理由についてみると、「地域福祉活動に関心がなく、参加していない」が50.6%と最も多く、次いで「時間が取れず、地域福祉活動に参加していない」が37.3%、「その他」が7.9%となっています。



問 31. 住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようになってきていると感じますか。
(単数回答)

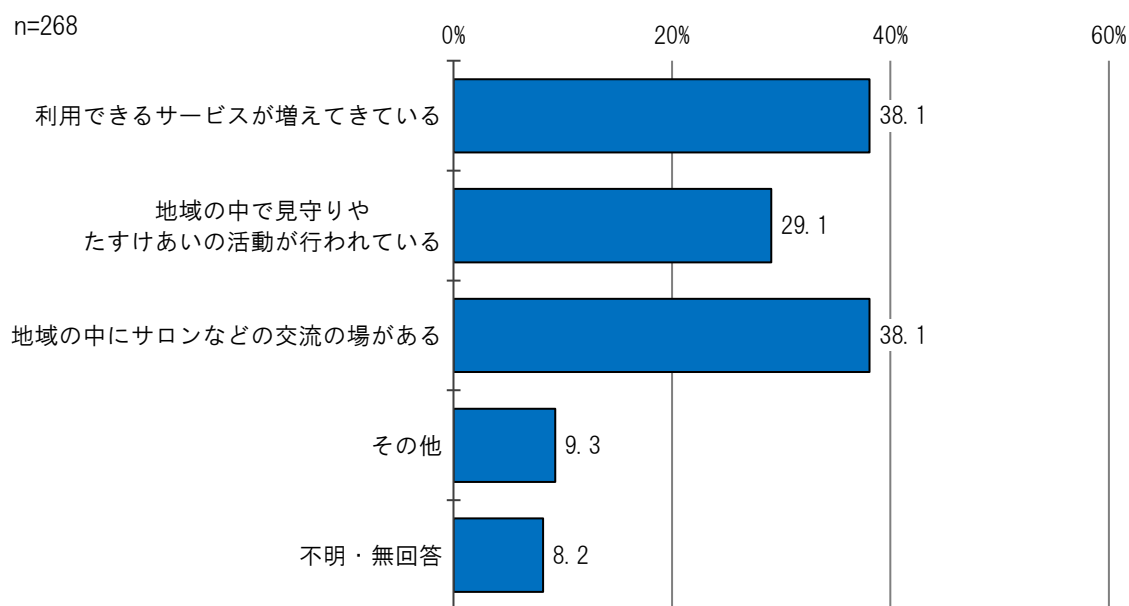
安心して暮らせるようになってきているかについてみると、「はい」が49.5%、「いいえ」が37.9%となっています。



問31で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 31-1. 安心して暮らすことができるようになってきていると感じる理由は何ですか。 (複数回答)

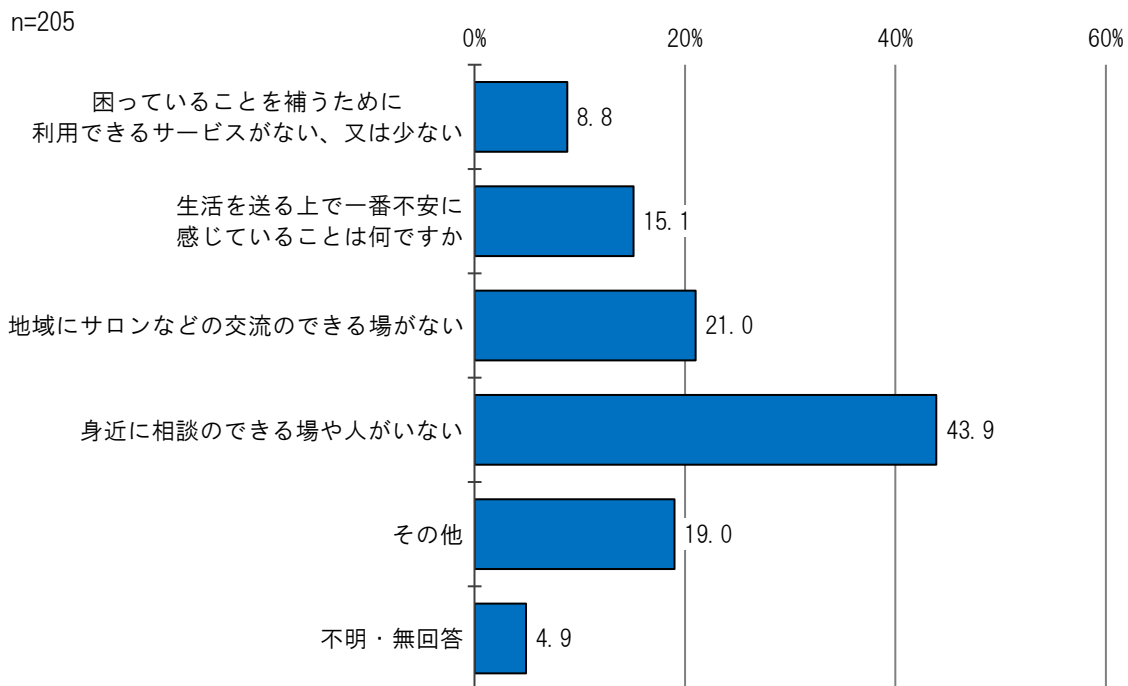
安心して暮らすことができるようになってきていると感じる理由についてみると、「利用できるサービスが増えてきている」「地域の中にサロンなどの交流の場がある」が38.1%と最も多く、次いで「地域の中で見守りやたすけあいの活動が行われている」が29.1%となっています。



問31で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

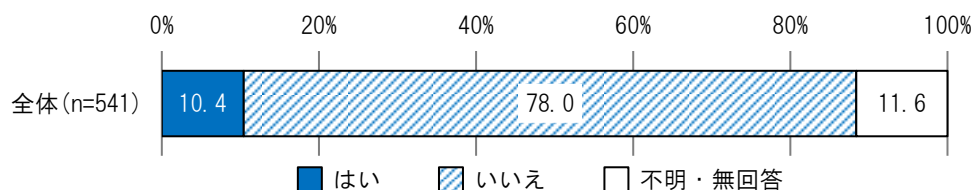
問 31-2. 安心して暮らすことができるようになってきていると感じない理由は何ですか。(複数回答)

安心して暮らすことができるようになってきていると感じない理由についてみると、「身近に相談のできる場や人がいない」が43.9%と最も多く、次いで「地域にサロンなどの交流のできる場がない」が21.0%、「その他」が19.0%となっています。



問 32. 安心して地域生活を送るために多摩市社協が実施する生活支援に係る事業で活用しているものはありますか。 (単数回答)

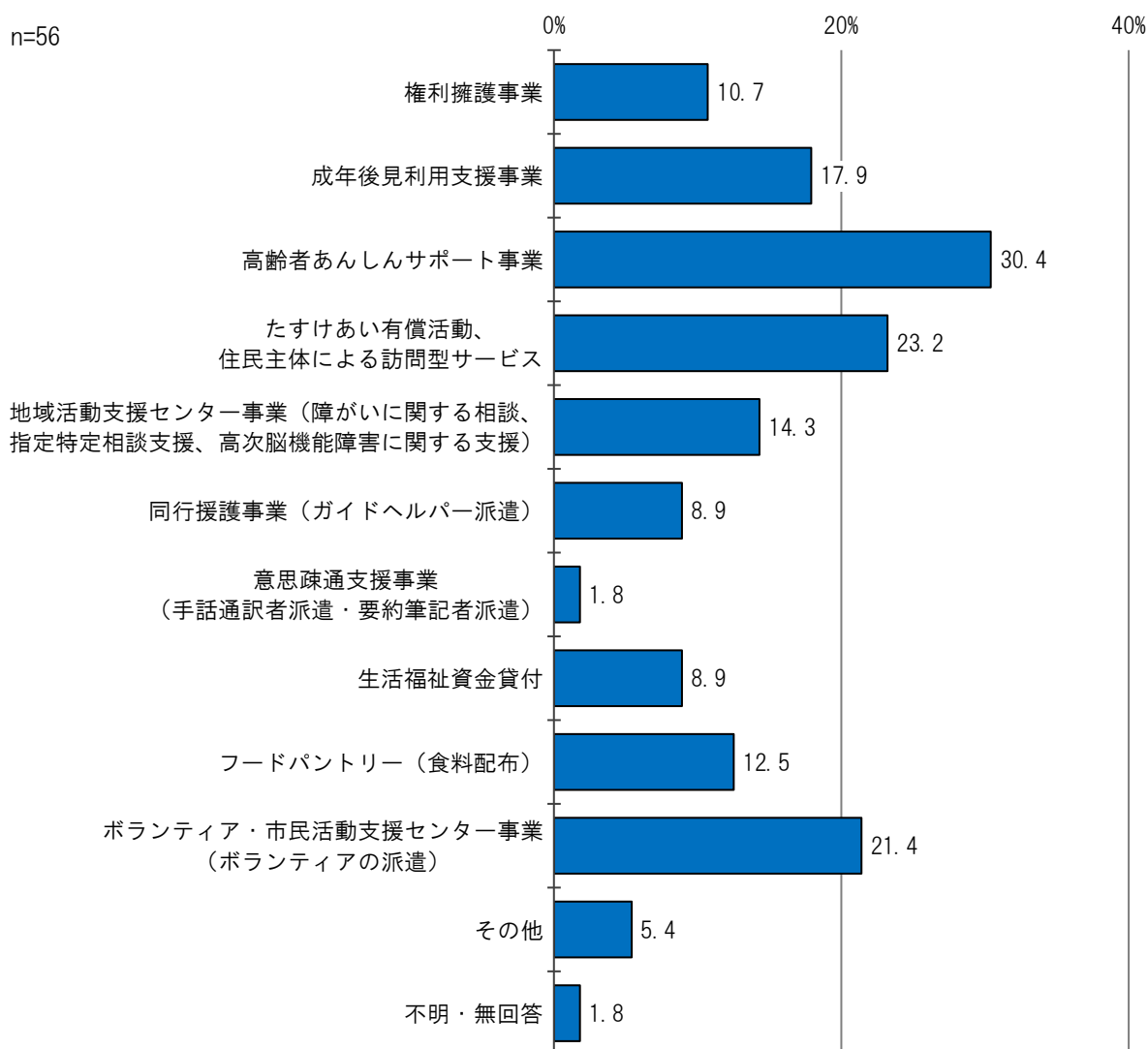
活用しているものはあるかについてみると、「いいえ」が78.0%、「はい」が10.4%となっています。



問32で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 32-1. 活用している事業は何ですか。 (複数回答)

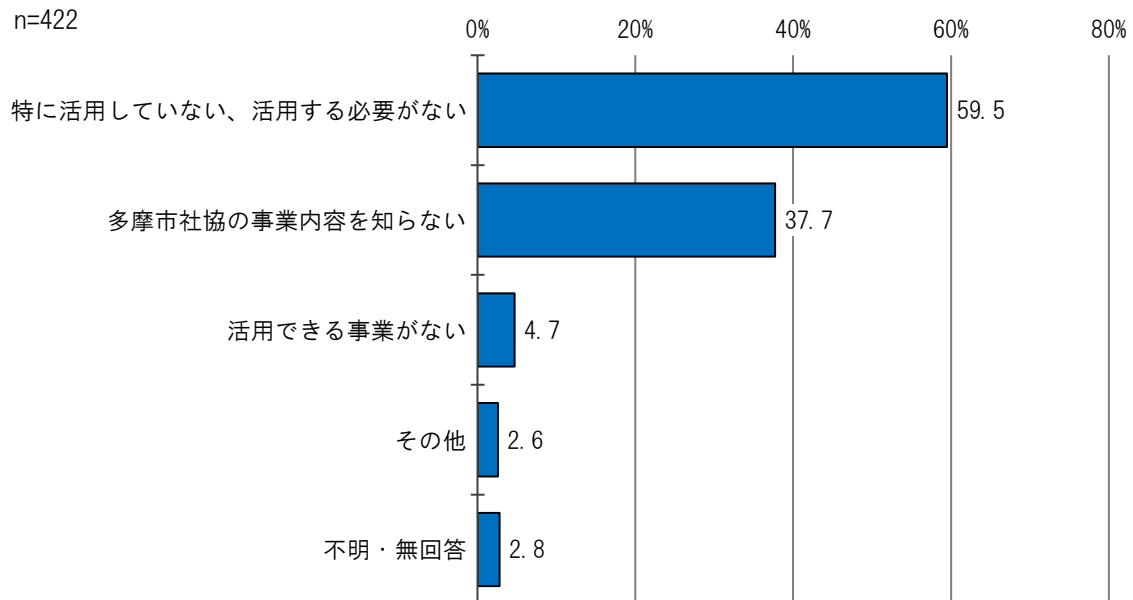
活用している事業についてみると、「高齢者あんしんサポート事業」が30.4%と最も多く、次いで「たすけあい有償活動、住民主体による訪問型サービス」が23.2%、「ボランティア・市民活動支援センター事業（ボランティアの派遣）」が21.4%となっています。



問32で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 32-2. 多摩市社協が実施する生活支援に係る事業を活用していない理由は何ですか。(複数回答)

活用していない理由についてみると、「特に活用していない、活用する必要がある」が59.5%と最も多く、次いで「多摩市社協の事業内容を知らない」が37.7%、「活用できる事業がない」が4.7%となっています。



問 33. 今後、多摩市社協に期待することがありましたらご記入ください。

回答者541人のうち、106人(19.6%)からご意見をいただきました。主なご意見は以下の通りです。

■地域活動や地域のつながり・交流、町会・自治会について（18件）

内 容
健康で暇を持て余している年寄りがたくさんいます。とてももったいないと思います。興味を引くような、わかりやすく参加できるような方法を考えてください。私を含め、年寄りには待っていると思います。とにかくわかりにくいし、目につくことがない。年寄りが楽しく、あまりお金がかからない遊べる場所がほしいです。
今回のアンケート調査で多摩市が多くのプログラムを持っている事がわかりました。マンションの理事会等がもう少し周知してくれるとありがたいと思いますが理事の任期が1年なので、毎期ごとにゼロリセットされ情報や経験が継続できない。自分自身の事でもあるので少しボランティア活動にも関心を持ちたい。
高齢者～子供まで共通して行える行事やスポーツの提案(提供)をしてほしい。総合体育館、野球、競技場は一部の人しか知らず(使用せず)一般に使用方法などが周知されていない。唐木田の建物が古く壊れる→リニューアルしてほしい。
年齢や障害の有無によらず、多様な人たちと交流が取れる環境(場所)が増えてほしいです。高齢者は高齢者のコミュニティ、若者は若者のコミュニティといったかたまりになっていて他のカテゴリーの人との接点が少ないように感じるので、そこが解消できれば…?と思います。
田舎出身なので地域行事に参加することが当たり前で、地域に育てられた。子供たちの交流機会を地域で持ちたい。
子どもたちにボランティアを勧めてほしい。夏のボランティア体験は熱心な学校とそうでない学校で差がある。
地域のつながり作り、活動のキッカケ作りに社協が果たせる役割はたくさん有るものと思います。個々の小さな活動を見守り、時に応援し、地域の福祉のネットワーク形成に重要な機能を果たしています。今後は期待しています。
困ったひとが、助けて！って言える環境作り。
職場にもボランティアさんがよく来てくださってます。これからもボランティアの方達が活動がしやすくなるような、また誰でも気軽に参加出来るようなそんな窓口になっていくと更に良いのかな、と思います。あと、自分自身もいつかボランティアとして何かしら参加してみたいと思っているので。社協の皆さん、よろしくお願いいたします。
民生委員との定期的な顔合わせの機会を年1～2回持っていただくことを期待します。

■高齢者福祉について（15件）

内 容
少ない年金の中から税金の支払いや色々な支払いがある中で、老後の生活に不安を感じます。期待する事はこれ以上不安を感じないような取り組みをと思っています。年金でも入居出来る、老人ホームや施設が少ない事が不安です。
ごみ捨て(生ごみなどは、歩く事さえできれば出来ると思うが)、新聞、雑誌などはいつまで自分でできるかと心配してる(夫婦とも80才を過ぎ足腰が弱ってるので)。家具など重いものは収集にきていただいています。
免許返納したが交通手段がなく、バスはあるが家からバス停まで遠い為タクシーを使うしかない。又、介護用自転車で出かけたが駅周辺には駐輪場がまったくないです。なんとかして下さい。

内 容
1人暮らしの高齢者が安心して過ごせる場所の提供、支援。一日いても大丈夫な場所など、楽しく暮らせるまち作り。
ヘルパーさんお願いしたい。看護師さんの入浴支援。
老人ホーム等以外で、老後の安心はどんな形で得られるかを考えてほしい。
安心安全な老人の見守り、財産管理をお願いします。
エレベーター無しの古い団地暮らしで高齢者の引きこもりが増加する事が予想されるが社協の具体的な支援を知りたい
老老介護の支援・相談

■障害者福祉について（3件）

内 容
イベントや活動を通して、最終的に障がいのある方の働く機会の提供、工賃増加に繋がるといいな、と思っています。
同行援護の資格を取る際の費用の助成金。初任者研修など、子供がいても通える時間帯での多摩市内での講座開講。喀痰吸引等研修、1号2号を市内で取れる、もしくはもっとわかりやすく取得できるような取り組み。

■子育て支援について（1件）

内 容
子供の福祉用品を作成する時、多摩市はややこしく厳しいです。なのでとても市役所に行くのがいやです。もっとすんなり作成できるようにして欲しいです。必要だから作るんです！他の市は多摩市ほど厳しくないと聞きました。そちらの改善よろしくお願いします！

■防犯について（2件）

内 容
今住んでいる地域で夜中に大声を出して騒ぐ若い男性グループがいるため困っています。何回か通報もしていますが、大学生の寮や大学生が住むアパートが多いためか、効果はたちごっこのように思います。また乞田川沿いは電灯も少なく暗いため、そういう側面からも治安に問題があると感じます。夜間の見回りをしていただくなど、夜に安心して外を歩ける地域づくりをして頂きたいです。
諏訪第一公園に冬場の夜行かれたことがありますか？あそこの横道は駅から出られた方の三割ぐらいは利用されてると思うんですけど、夜かなり暗いです。公園に街灯が一個しかなくて、だれか連れ込まれたら絶対にわからないだろうなという恐怖を感じます。3月5日現時点で公園横の街頭一個明かりついてないです。

■情報・相談について（25件）

内 容
スマホのアプリなどで、困った時、具体的な回答が得られると、便利かなと思います。
もう実施済かもしれませんが、SNSでの情報発信の充実をお願いします。
とっつきにくいイメージの改善。広報紙の読みやすさの改善＋ユーモアが欲しいと思います。
多摩市社協の活動展示をあちこちで企画したら少しは知ることが出来るかも知れません（身近な人が利用した話を聞いたことがありません）。

内 容
事業内容を分かりやすく教えてほしい。どのようなサービスがあるのかわからない。また、利用できる対象者、年齢、時間、料金、サービス内容の条件なども、メリットを含めてわかりやすく教えてほしい。相談したいが、どこへ行けばいいのかわからない。
どんなボランティアの種類があるのか、登録方法など知りたい。
福祉に関する情報が市民にきちんと届いていない印象があります。ふくしだよりを発行していただいているのですが、SNSなどでいつでもどこでも情報を検索できたらよいと思います。また、福祉といっても具体的にどんな内容なのか、どんな支援が受けられるのか知らない人が多いと思います。知らないと受けられないサービスも多そうなので、積極的に発信していただきたいです。まだ支援を受ける必要がない人もたくさんの情報を得られるようになってよいと思います。
多摩市社協の場所が遠いので利用しづらい。
多くの住民へ社協の活動を判るイベントを多く企画してほしい。
気軽に相談できない感じがします。
目に入りやすい場所に情報を提供して欲しい。困った時、例えば市の窓口で相談した時に、適切な機関へ橋渡しをして欲しい。
どんな時にどんな支援をしてもらえるか細かく情報があると良いと思う。具体例をあげた冊子のようなものにまとめたのせておく。社協の事業内容が一目でわかるようなものがあるととても使われるのではないかと思います。

■社協に対する意見・要望等について（32件）

内 容
地域的なのか買い物難民の方を多く見かけるようになりました。そのうち、ゴミ出しなども困難な人が増えてくるのではないかと心配です。ぜひ、行政の中で解決案をさがしてほしいと思います。
社会福祉協議会は大切、重要な機関です。これからも人材育成に努めていただきたいと思います。
企業等の支援、参加を拡大する。より良い市にするために市政に協力する。資金源を拡大する。
市の職員の業務に対する意欲が常に低いので、何も期待できない。環境について等の他のことで電話しても意識改革とはほど遠く、本当に市民の為に汗をかこうというポリシーのある人を見たことがないので全く期待できない。国立市のような行政の取り組み方を学んでほしい。
高齢者、障がい者、子どもへの支援だけでなく、働く世代への支援も拡充していただけると嬉しいです。今まで23区に住んでいましたが、このようなアンケートをいただいたことがなかったので、多摩市では市民の声も拾ってくださっているんだと実感し、多摩市に引っ越してきて良かったなと思っています。
多摩市に長年住んでいるが、住んでいるメリットが特に可もなく不可もなく。もう少しわかりやすく住民全員にメリットがあればいいと感じます。
今後も高齢者（年金生活者）が増え、税収も減ることが考えられる中で、市民から徴収を増やすばかりでなく、生きがいを持てる地域にしてほしい。少子化問題や最近の道路陥没など、インフラも大変な状況を解決するなど課題は多いとおもいますが、がんばってください。
事業（新しい）を企画する事は大変良いと思いますが、同じ様な事業は、一つにまとめるとか廃止する事も考えてはいかがでしょうか。ボランティアする人間は減少しつつあります。（ひとりがいくつものボランティアをしている。）あと、社協職員に優れた人材が欲しいものです。市役所の天下りではいかがなものでしょうか。新人の研修をきちんと行ってください。
制度間とのはざまにいる方への支援。自ら声を上げてこない方への支援

内 容
福祉やボランティアのメニューを揃えることは大事だが、広く薄くなりがちである。限りある資源をあるテーマに集中投入し、目に見える成果を出して市民にアピールし、社協の存在を知らしめることも重要で、協賛金の協力にも繋がると思う。

■その他（26 件）

内 容
もっと身近な場所になってほしい。
障害者の立場より、健常者の弱者の立場が弱い。助けがないと感じる。
社協の協力会員、個人500円会費の回収が不定期。協力会費500円だけで充分。訪問介護員を少ないがやっている(月)(木)(金)。サロンの補助金の詳しい事まで知らない。介護予防体操リーダーですが、訪問介護員の介護を優先にしている。
今はよく分からないので、これをきっかけに考えてみようと思います。
調査・分析の結果で優先順位をつけ集中的に期間を設けて困っている課題に取り組んでいただければと思います。そしてその課題解決への経過報告をわかりやすく広報していただければ住民側も応援しやすいと感じます。

Ⅳ 地域活動団体・福祉サービス提供団体アンケート調査結果

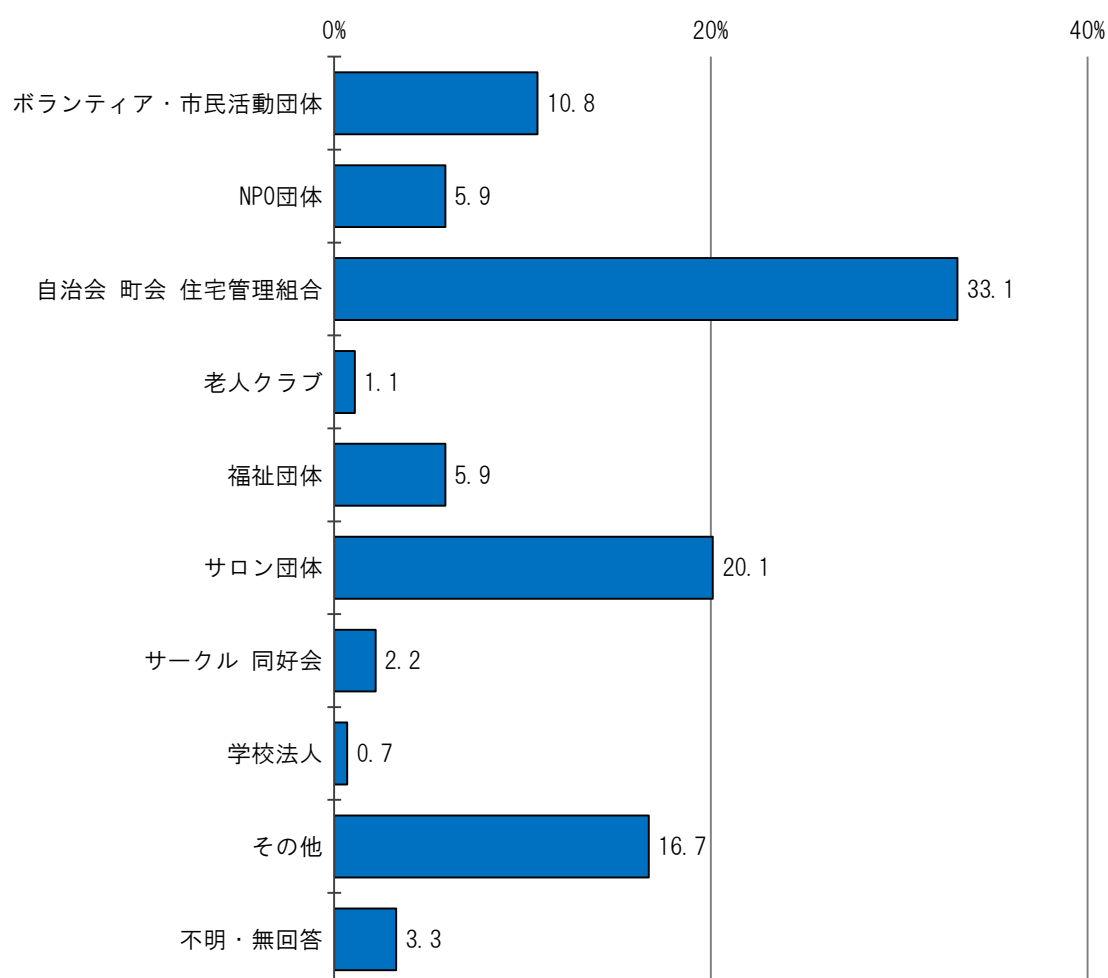
1 基本事項についての設問

問 1. 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。

(単数回答)

団体の組織形態についてみると、「自治会・町会・住宅管理組合」が33.1%と最も多く、次いで「サロン団体」が20.1%、「その他」が16.7%となっています。

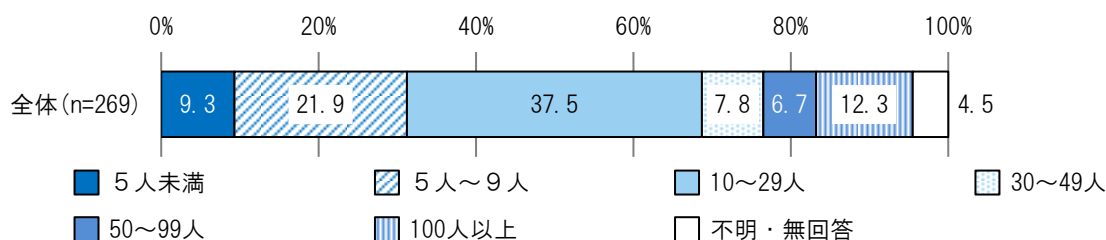
n=269



問 2. 令和7年2月1日時点の活動メンバーは何人ですか。

(単数回答)

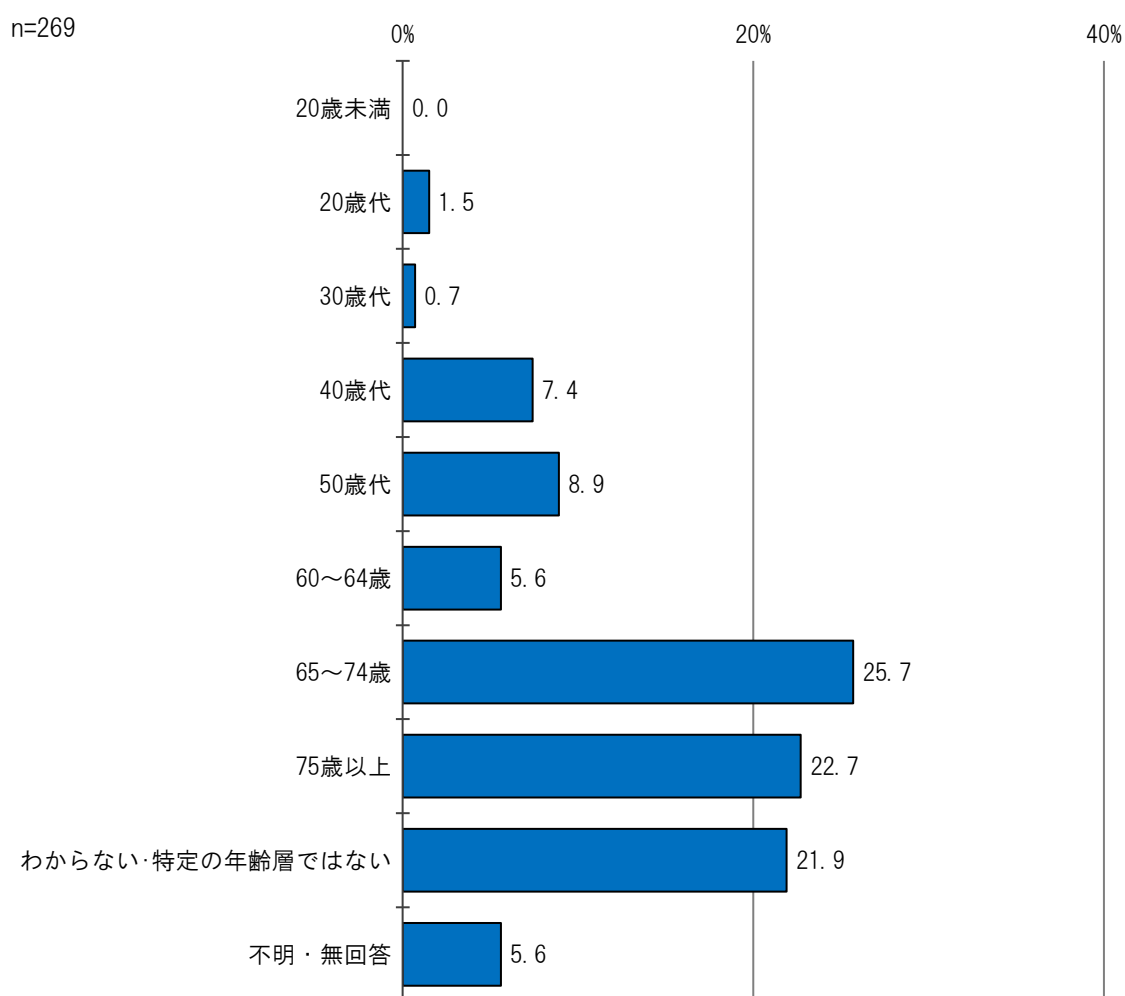
活動メンバーの人数についてみると、「10～29 人」が 37.5%と最も多く、次いで「5 人～9 人」が 21.9%、「100 人以上」が 12.3%となっています。



問 3. 現在活動しているメンバーの主な年齢層はどれですか。

(単数回答)

活動メンバーの主な年齢層についてみると、「65～74 歳」が 25.7%と最も多く、次いで「75 歳以上」が 22.7%、「わからない・特定の年齢層ではない」が 21.9%となっています。



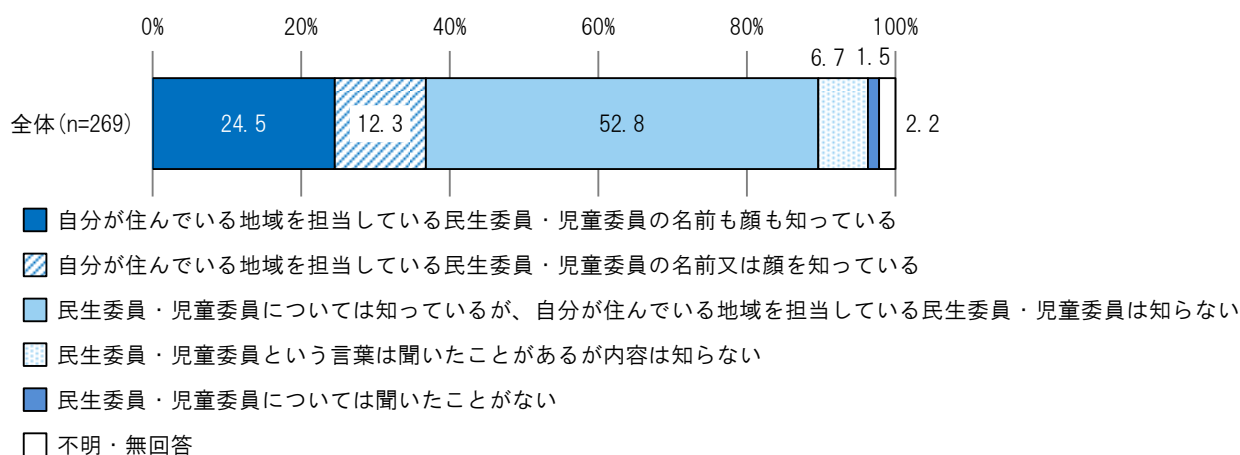
2 その他に関する設問

○民生委員・児童委員について

問 4. 貴団体は民生委員・児童委員について知っていますか。

(単数回答)

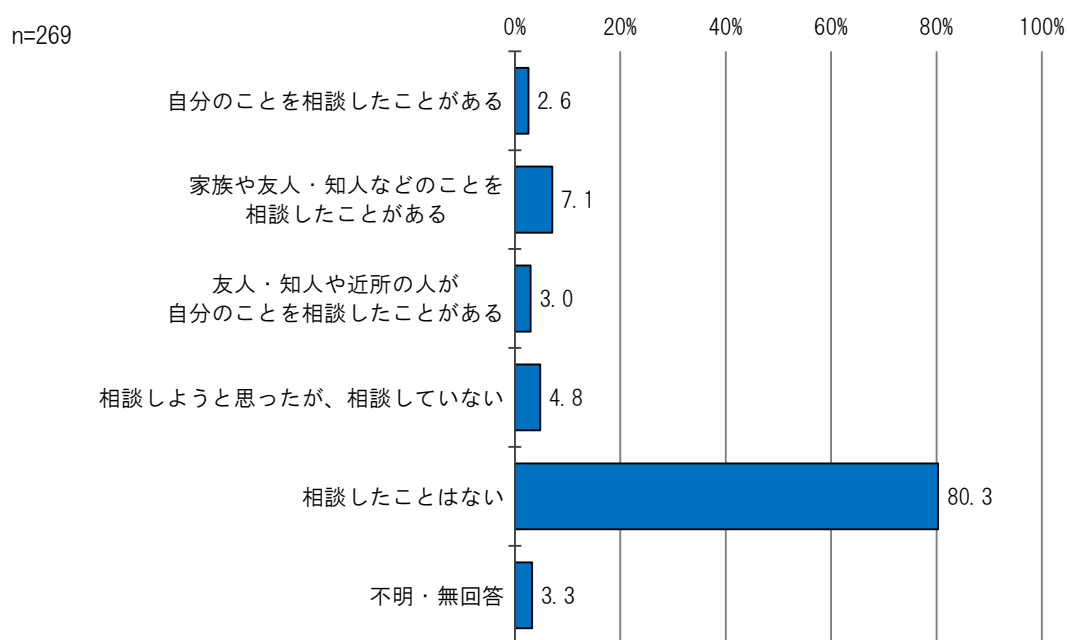
民生委員・児童委員の認知度についてみると、「民生委員・児童委員については知っているが、自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員は知らない」が 52.8%と最も多く、次いで「自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前も顔も知っている」が 24.5%、「自分が住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員の名前又は顔を知っている」が 12.3%となっています。



問 5. 貴団体は民生委員・児童委員に相談したことがありますか。

(複数回答)

民生委員・児童委員に相談したことがあるかについてみると、「相談したことはない」が 80.3%と最も多く、次いで「家族や友人・知人などのことを相談したことがある」が 7.1%、「相談しようと思ったが、相談していない」が 4.8%となっています。

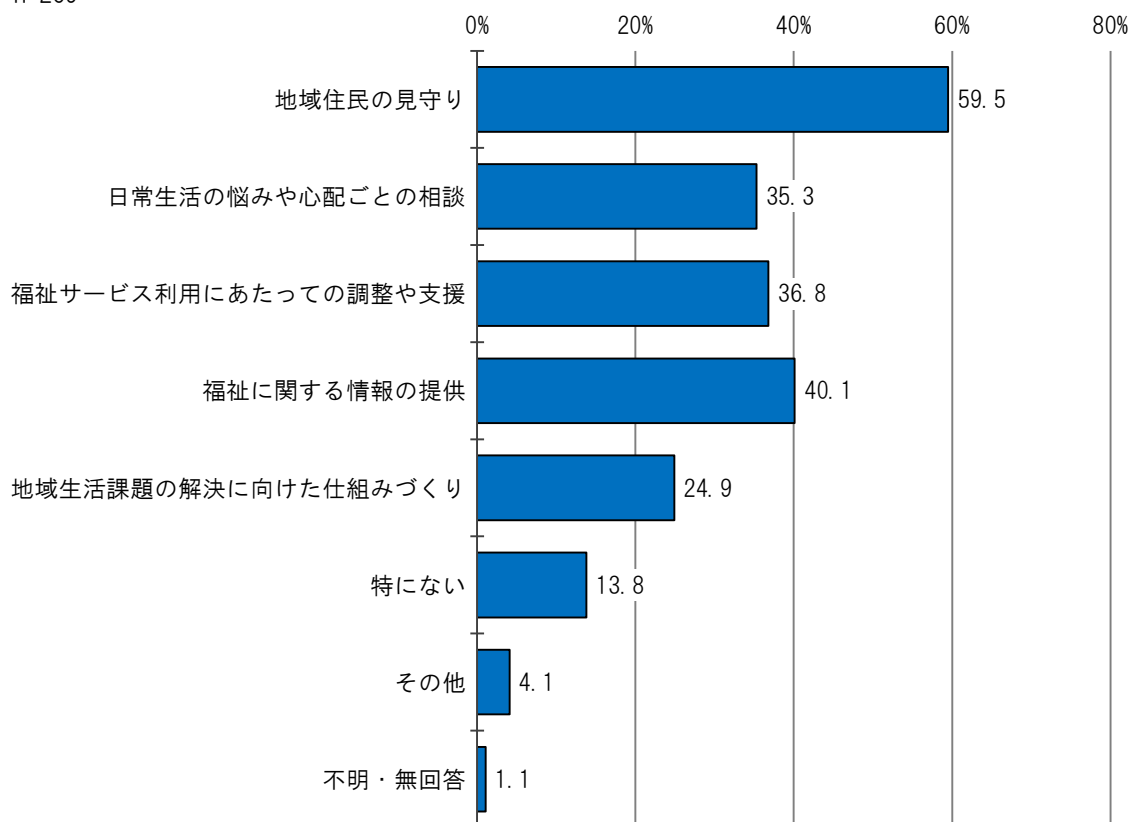


問 6. 民生委員・児童委員の活動で期待することはありますか。

(複数回答)

民生委員・児童委員の活動で期待することについてみると、「地域住民の見守り」が59.5%と最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が40.1%、「福祉サービス利用にあたっての調整や支援」が36.8%となっています。

n=269

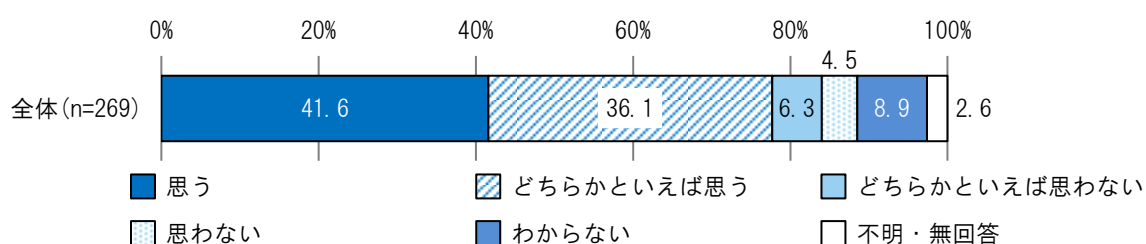


○自殺防止対策について

問 7. 自殺防止対策は貴団体も含めた社会全体で取り組む問題だと思いますか。

(単数回答)

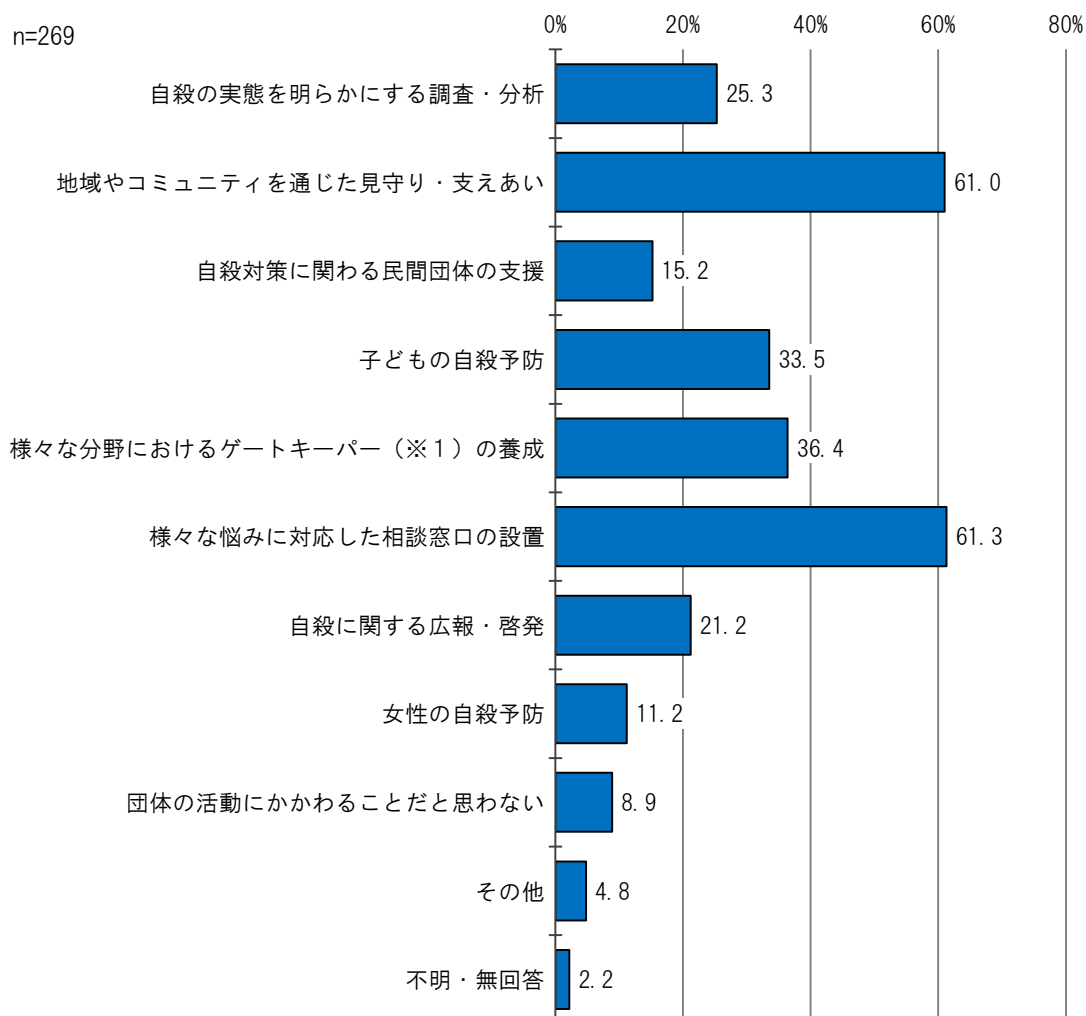
自殺防止対策は自分の団体も含めた社会全体で取り組む問題だと思うかについてみると、「思う」が41.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば思う」が36.1%、「わからない」が8.9%となっています。



問 8. 今後、どのような自殺防止対策が必要になると思いますか。

(複数回答)

今後必要になると思う自殺防止対策についてみると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が61.3%と最も多く、次いで「地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい」が61.0%、「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」が36.4%となっています。

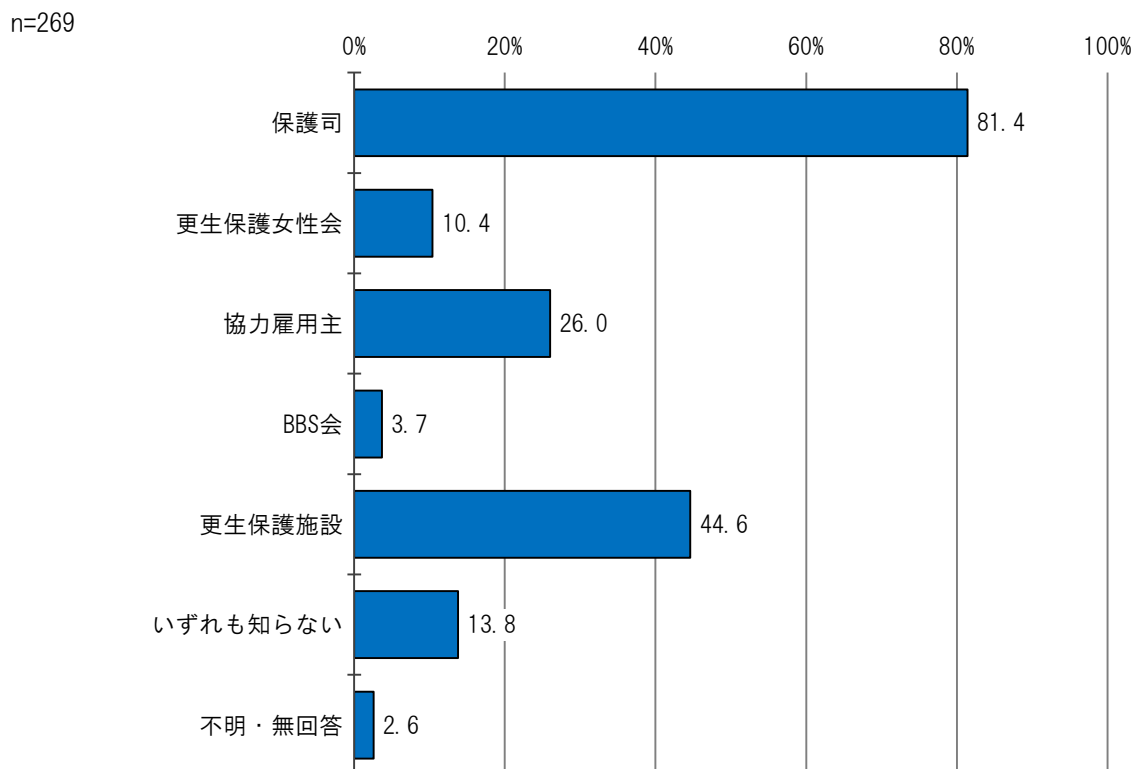


※1 「ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のこと」

○再犯防止について

問 9. 再犯防止に協力する民間協力者として次の方々がいることをご存じですか。 (複数回答)

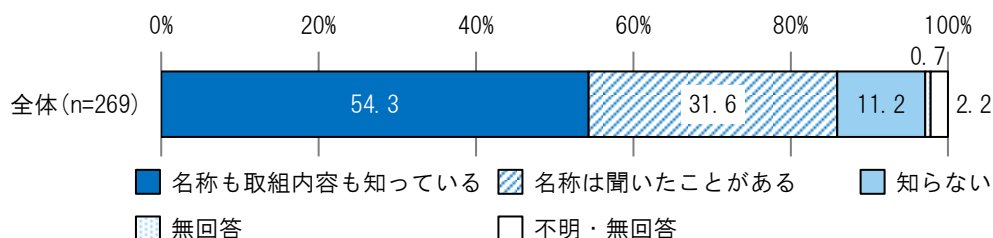
再犯防止に協力する民間協力者の認知度についてみると、「保護司」が81.4%と最も多く、次いで「更生保護施設」が44.6%、「協力雇用主」が26.0%となっています。



問 10. 罪を犯した人に対して社会の中での立ち直りを支援し、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ取組を行っている人々があります。貴団体は以下の人々や行っている取組について知っていますか。

問 10-1. 保護司 (単数回答)

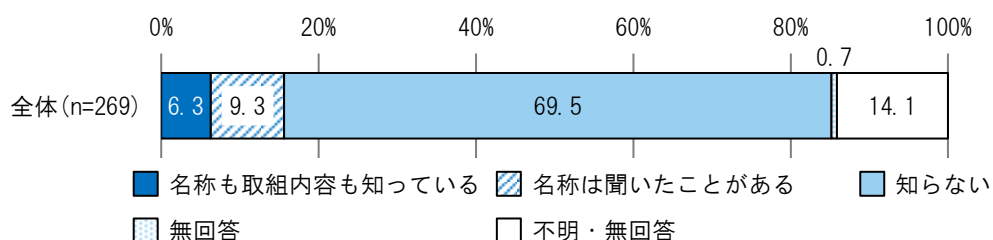
保護司についてみると、「名称も取組内容も知っている」が54.3%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が31.6%、「知らない」が11.2%となっています。



問 10-2. 更生保護女性会

(単数回答)

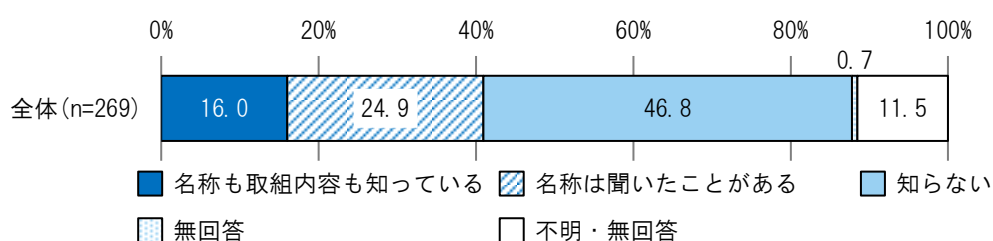
更生保護女性会についてみると、「知らない」が69.5%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が9.3%、「名称も取組内容も知っている」が6.3%となっています。



問 10-3. 協力雇用主

(単数回答)

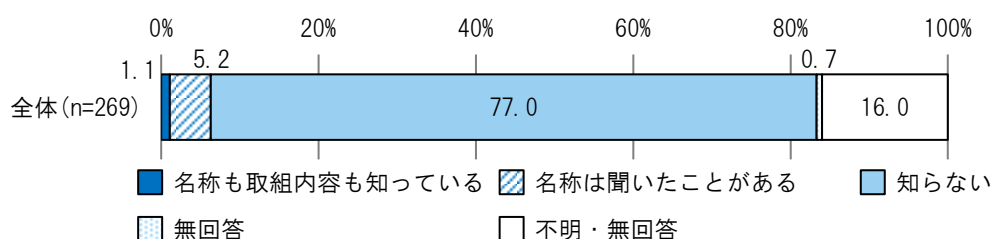
協力雇用主についてみると、「知らない」が46.8%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が24.9%、「名称も取組内容も知っている」が16.0%となっています。



問 10-4. BBS会

(単数回答)

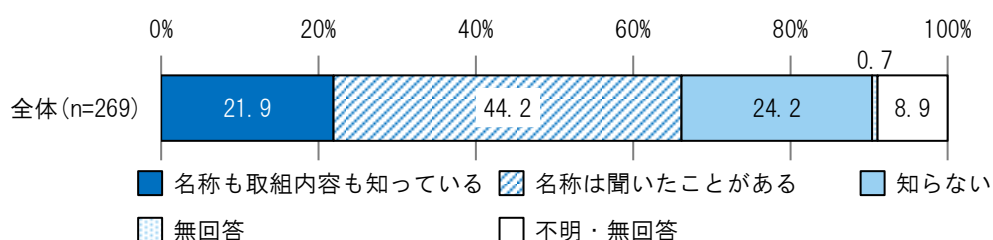
BBS 会についてみると、「知らない」が77.0%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が5.2%、「名称も取組内容も知っている」が1.1%となっています。



問 10-5. 更生保護施設

(単数回答)

更生保護施設についてみると、「名称は聞いたことがある」が44.2%と最も多く、次いで「知らない」が24.2%、「名称も取組内容も知っている」が21.9%となっています。

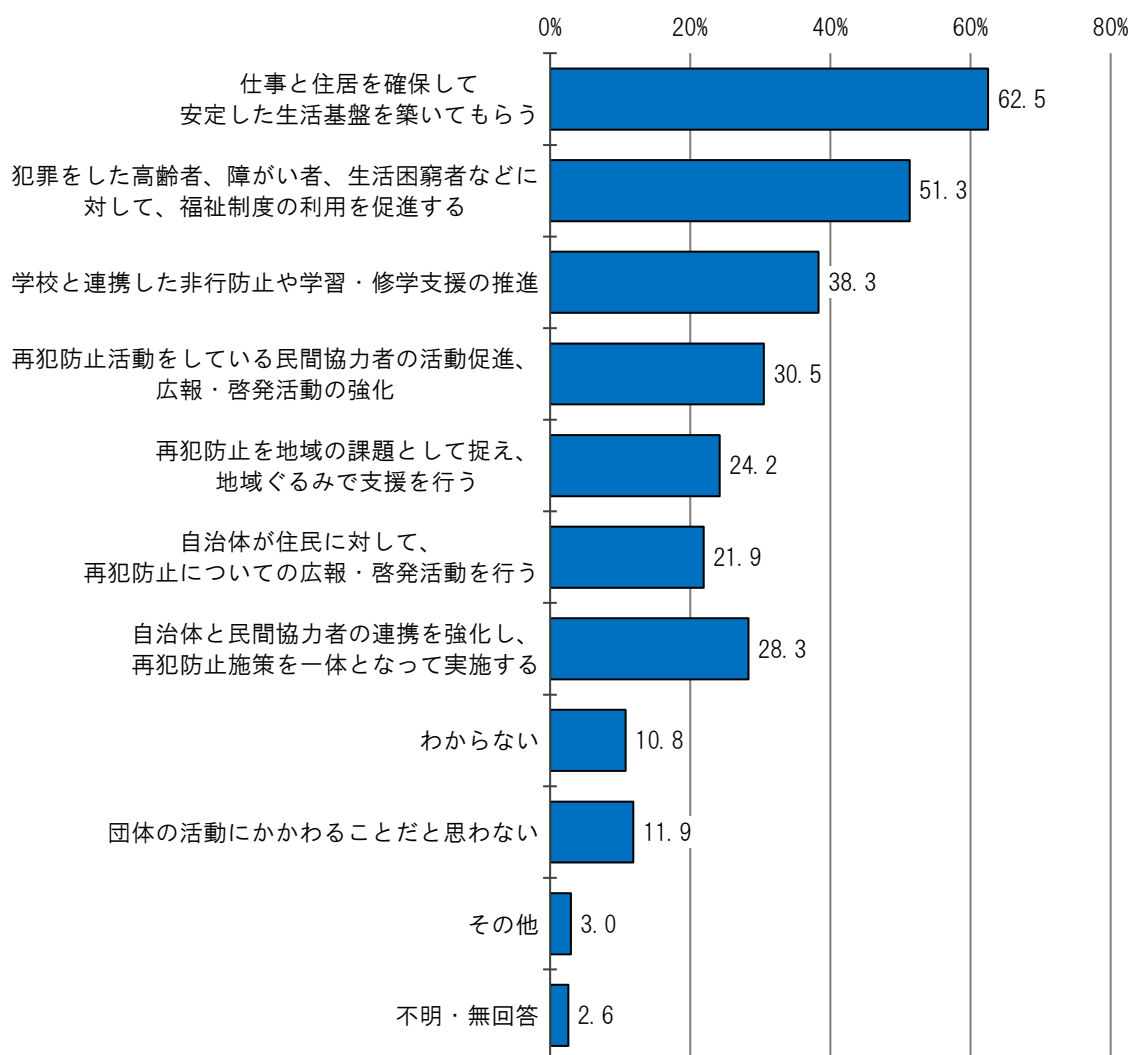


問 11. 今後、どのような再犯防止対策が必要になると思いますか。

(複数回答)

今後必要になると思う再犯防止対策についてみると、「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築いてもらう」が 62.5%と最も多く、次いで「犯罪をした高齢者、障がい者、生活困窮者などに対して、福祉制度の利用を促進する」が 51.3%、「学校と連携した非行防止や学習・修学支援の推進」が 38.3%となっています。

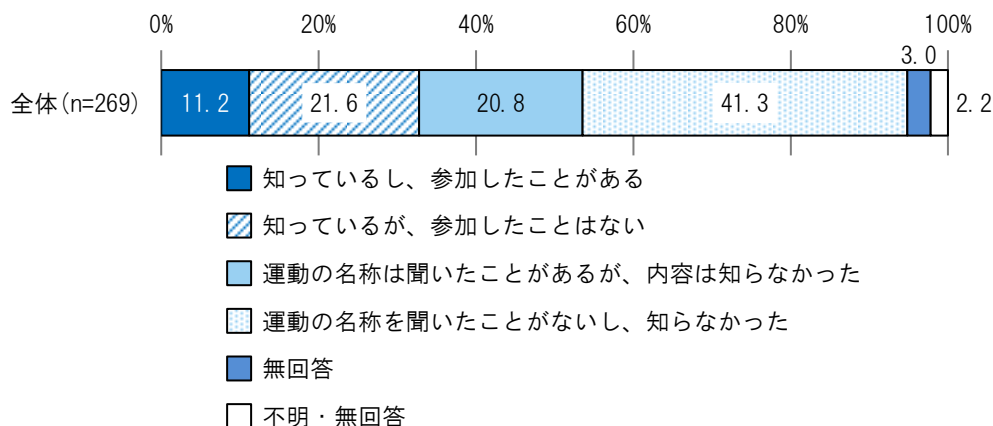
n=269



問 12. 「社会を明るくする運動」について知っていますか。

(単数回答)

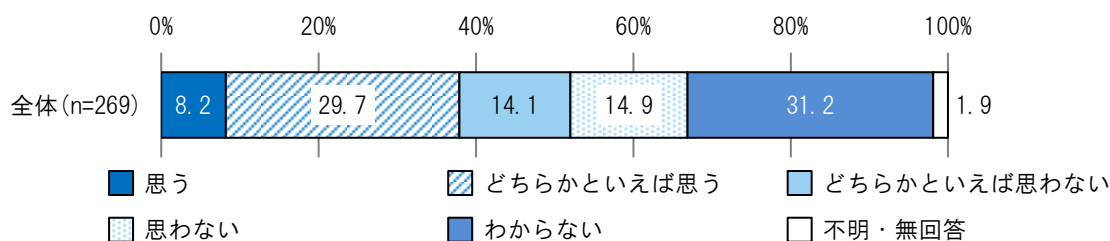
「社会を明るくする運動」の認知度についてみると、「運動の名称を聞いたことがないし、知らなかった」が41.3%と最も多く、次いで「知っているが、参加したことはない」が21.6%、「運動の名称は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」が20.8%となっています。



問 13. 貴団体は犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

(単数回答)

犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかについてみると、「わからない」が31.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば思う」が29.7%、「思わない」が14.9%となっています。

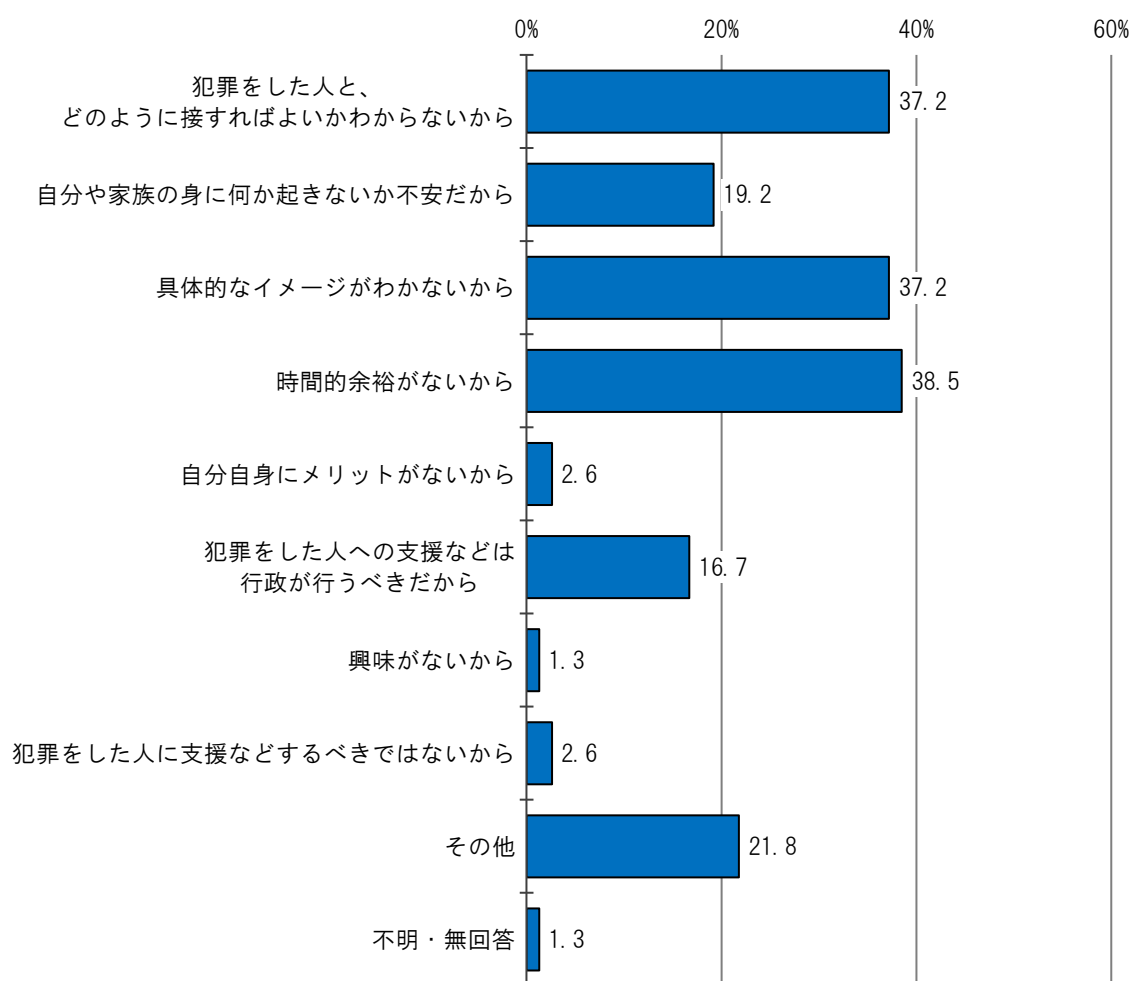


問13で「どちらかといえば思わない」または「思わない」を選択した団体にお尋ねします。

問 14. 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思わない理由は何ですか。 (複数回答)

犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思わない理由についてみると、「時間的余裕がないから」が38.5%と最も多く、次いで「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」「具体的なイメージがわからないから」が37.2%となっています。

n=78

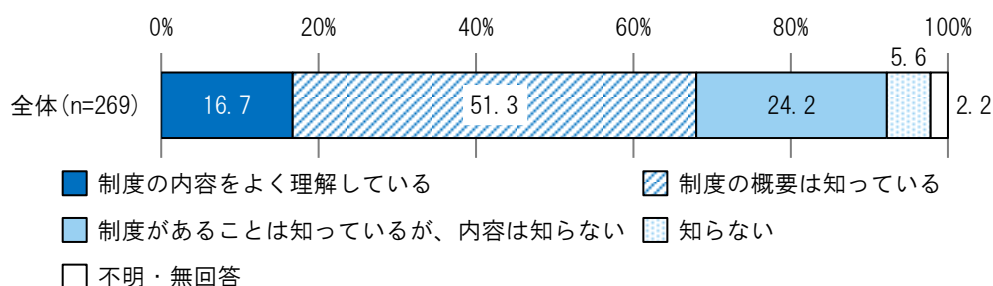


○成年後見制度について

問 15. 貴団体は成年後見制度についてどの程度知っていますか。

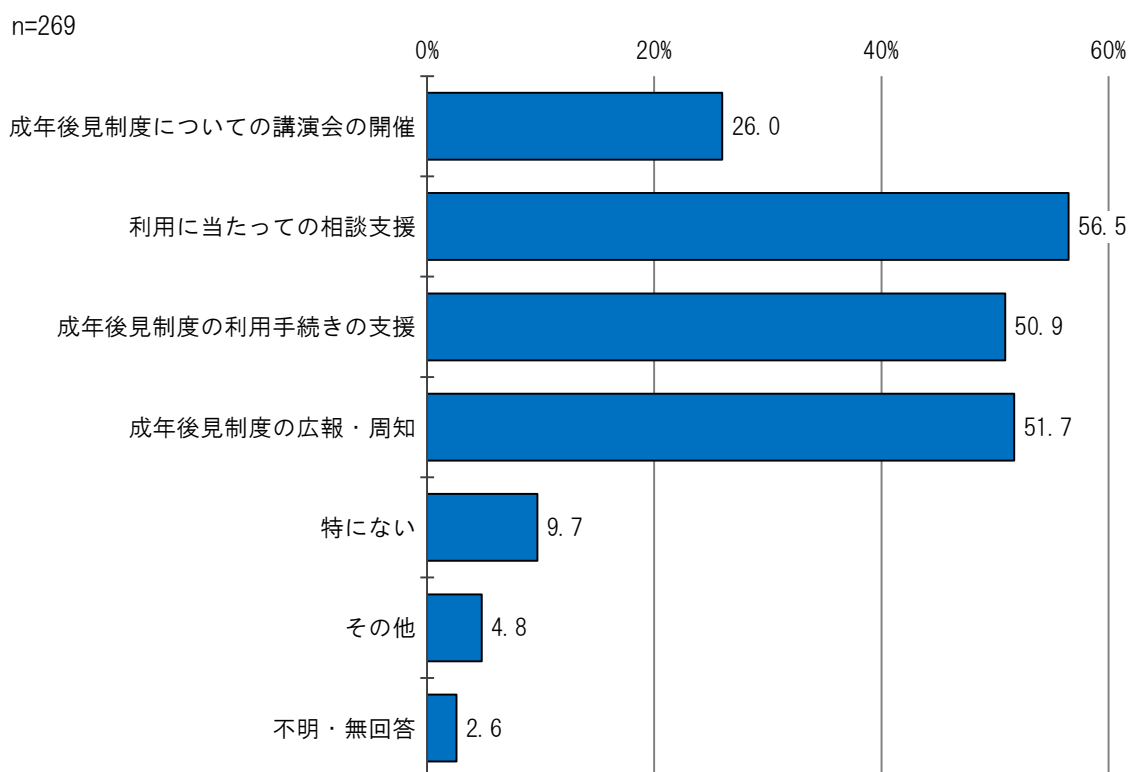
(単数回答)

成年後見制度の認知度についてみると、「制度の概要は知っている」が51.3%と最も多く、次いで「制度があることは知っているが、内容は知らない」が24.2%、「制度の内容をよく理解している」が16.7%となっています。



問 16. 貴団体が、成年後見制度を利用するに当たって、市に期待することは何ですか。(複数回答)

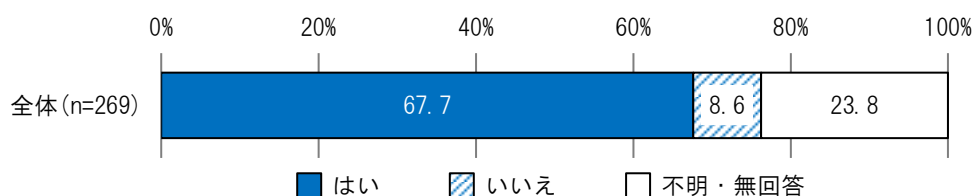
成年後見制度を利用するに当たって、市に期待することについてみると、「利用に当たっての相談支援」が56.5%と最も多く、次いで「成年後見制度の広報・周知」が51.7%、「成年後見制度の利用手続きの支援」が50.9%となっています。



3 多摩市社会福祉協議会に関する設問

問 17. 福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えていますか。（単数回答）

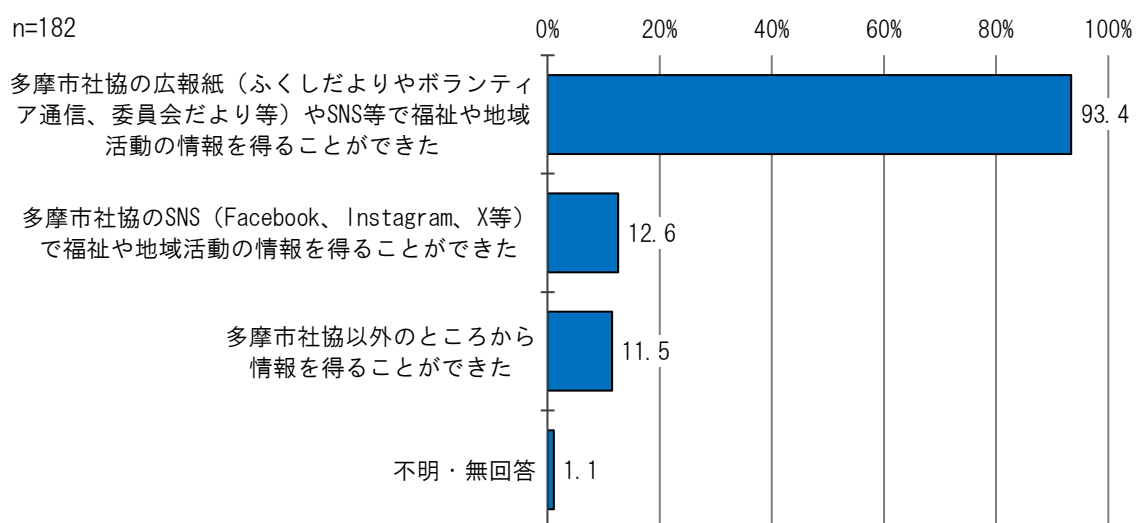
福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えているかについてみると、「はい」が67.7%と最も多く、次いで「いいえ」が8.6%となっています。



問17で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 17-1. どのような情報を得ることができましたか。（複数回答）

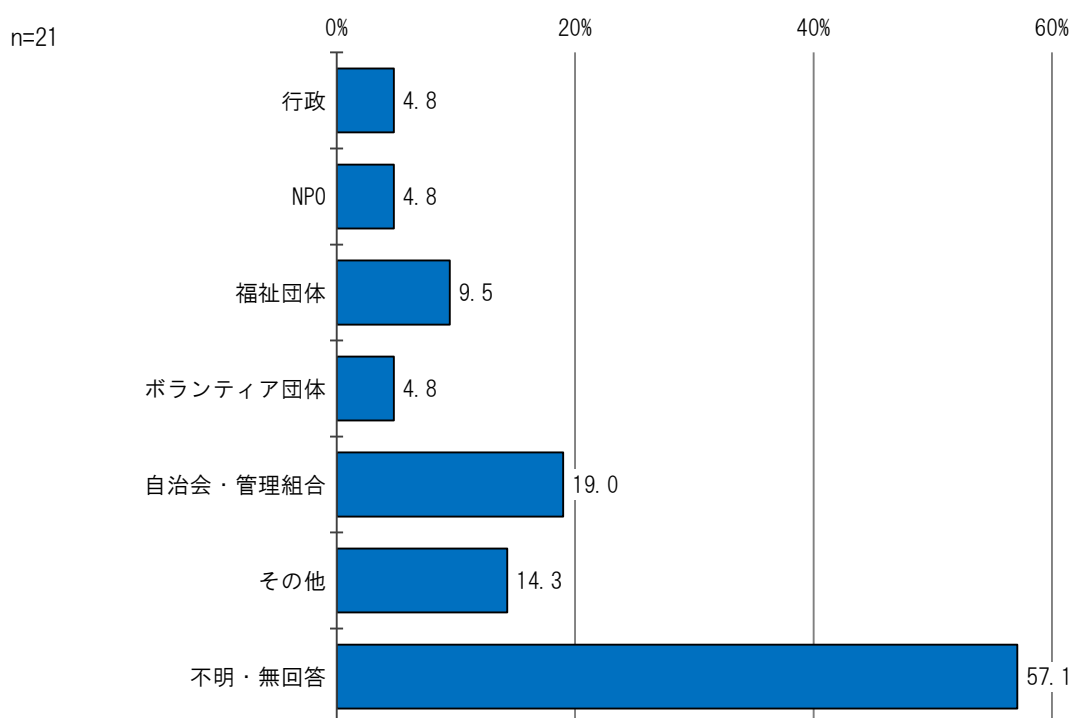
得ることのできた情報についてみると、「多摩市社協の広報紙（ふくしだよりやボランティア通信、委員会だより等）や SNS 等で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が93.4%と最も多く、次いで「多摩市社協の SNS（Facebook、Instagram、X 等）で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が12.6%、「多摩市社協以外のところから情報を得ることができた」が11.5%となっています。



問17-1で「多摩市社協以外」を選択した団体にお尋ねします。

問 17-1-1. どこから情報を得ることができましたか。(複数回答)

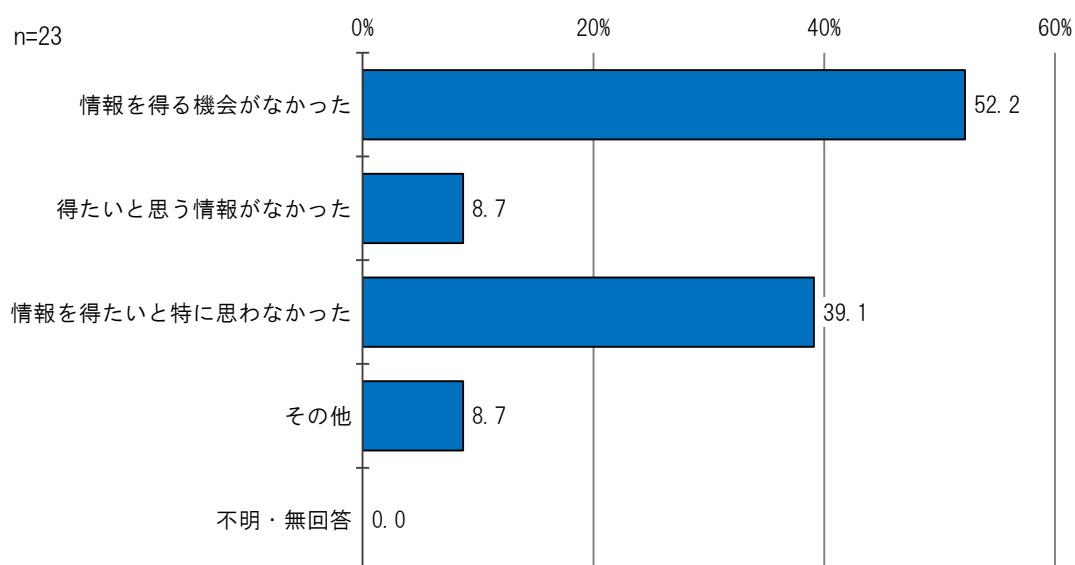
どこから情報を得ることができたかについてみると、「自治会・管理組合」が19.0%と最も多く、次いで「その他」が14.3%、「福祉団体」が9.5%となっています。



問17で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 17-2. 情報を得る機会が増えていると思わない理由は何ですか。(複数回答)

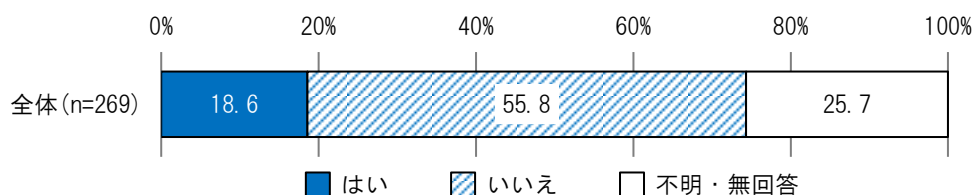
福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えていると思わない理由についてみると、「情報を得る機会がなかった」が52.2%と最も多く、次いで「情報を得たいと特に思わなかった」が39.1%、「得たいと思う情報がなかった」「その他」が8.7%となっています。



問 18. 多摩市社協の相談窓口を利用したことがありますか。

(単数回答)

多摩市社協の相談窓口を利用したことがあるかについてみると、「いいえ」が 55.8%、「はい」が 18.6%となっています。

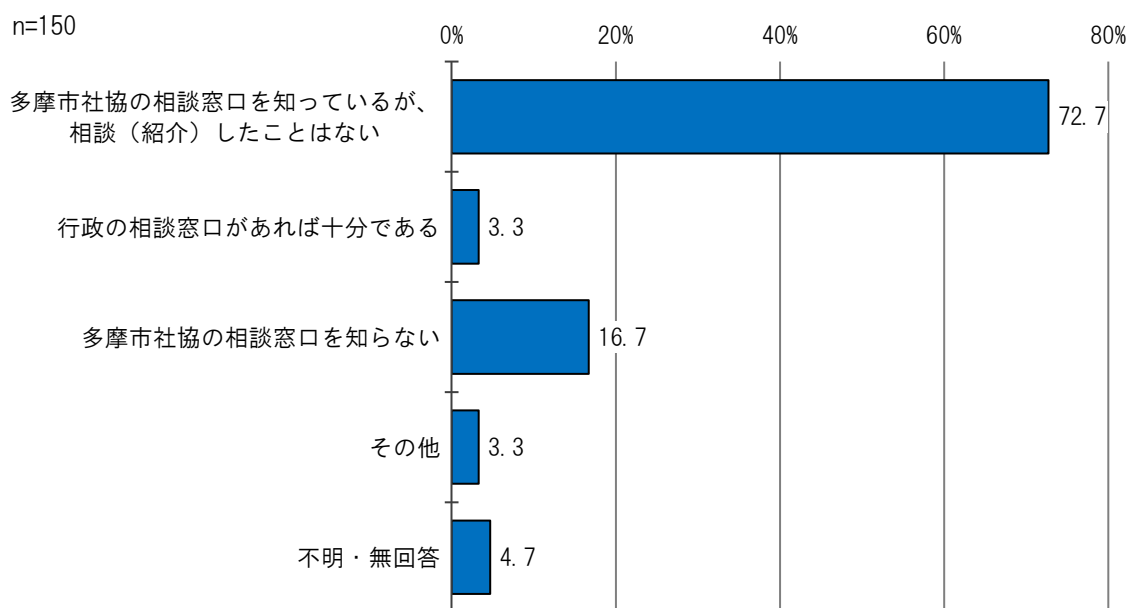


問18で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 18-1. 多摩市社協の相談窓口を利用したことがない理由は何ですか。

(複数回答)

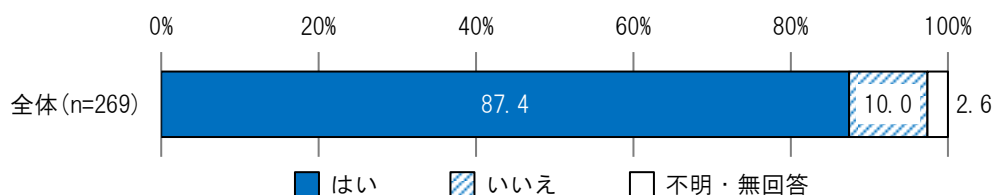
多摩市社協の相談窓口を利用したことがない理由についてみると、「多摩市社協の相談窓口を知っているが、相談（紹介）したことはない」が 72.7%と最も多く、次いで「多摩市社協の相談窓口を知らない」が 16.7%、「行政の相談窓口があれば十分である」「その他」が 3.3%となっています。



問 19. 潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じますか。

(単数回答)

潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じるかについてみると、「はい」が87.4%、「いいえ」が10.0%となっています。



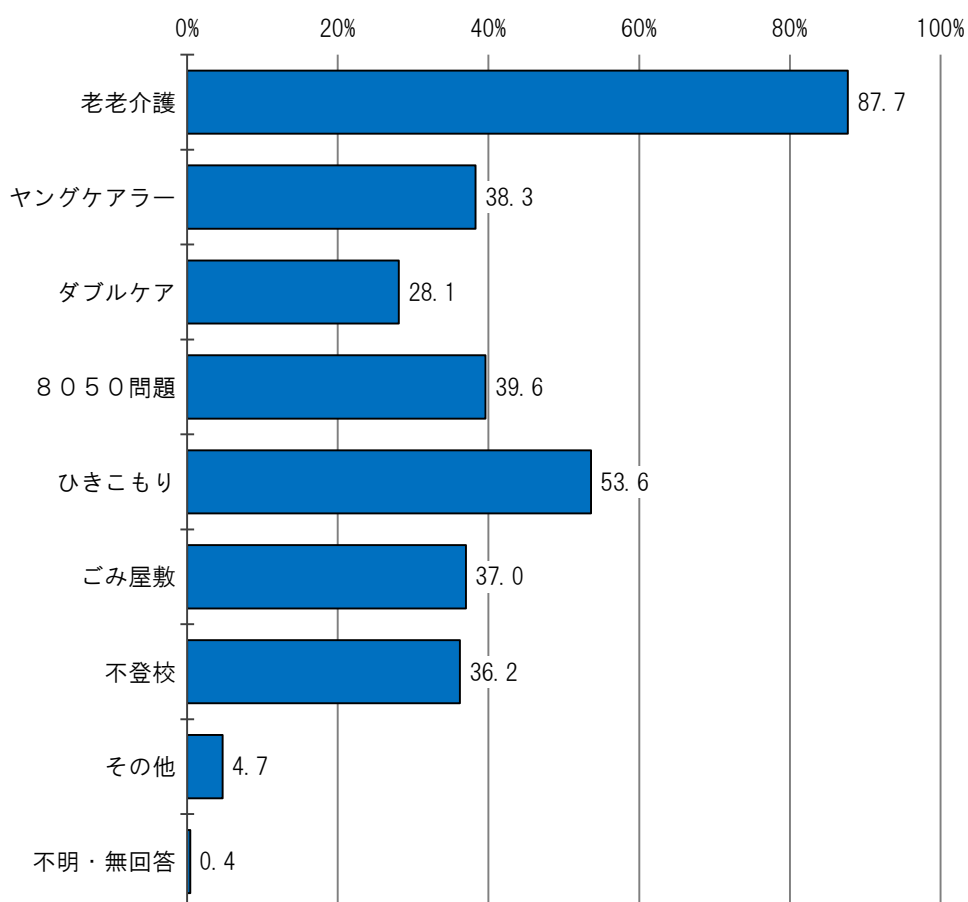
問19で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 19-1. 感じている課題や問題は何ですか。

(複数回答)

感じている課題や問題についてみると、「老老介護」が87.7%と最も多く、次いで「ひきこもり」が53.6%、「8050問題」が39.6%となっています。

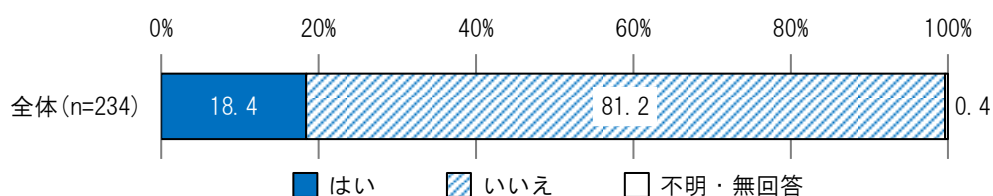
n=235



問19-1に回答した団体にお尋ねします。

問 19-1-1. 問 19-1 の課題等に対する相談や対応は多くなりましたか。 (単数回答)

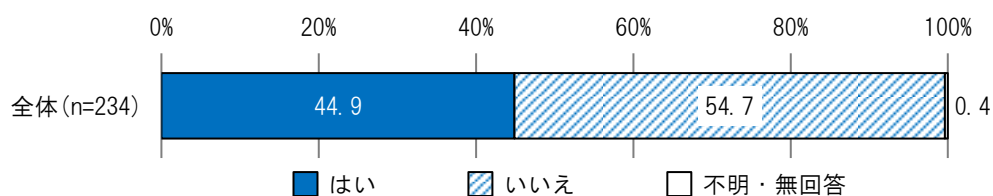
課題等に対する相談や対応が多くなったかについてみると、「いいえ」が81.2%、「はい」が18.4%となっています。



問19-1に回答した団体にお尋ねします。

問 19-1-2. 問 19-1 の課題等に対応するにあたり、連携した相談機関がありましたか。 (単数回答)

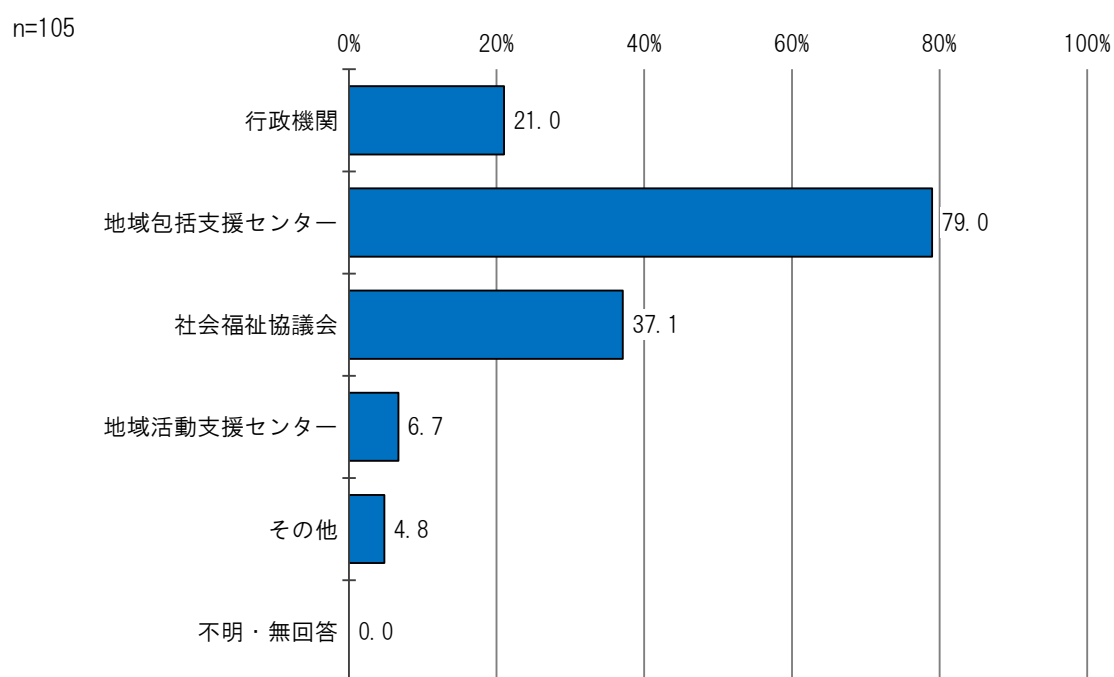
連携した相談機関があったかについてみると、「いいえ」が54.7%、「はい」が44.9%となっています。



問19-3で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 19-1-3. 問 19-1-2 の機関は何ですか。 (複数回答)

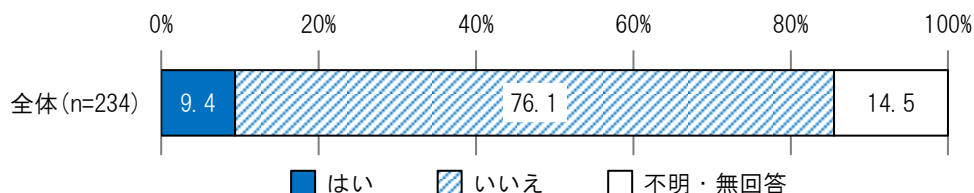
連携した相談機関についてみると、「地域包括支援センター」が79.0%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が37.1%、「行政機関」が21.0%となっています。



問19-1に回答した団体にお尋ねします。

問 19-1-4. 問 19-1 の課題等に対する対応や相談できる場が不十分だと感じますか。 (単数回答)

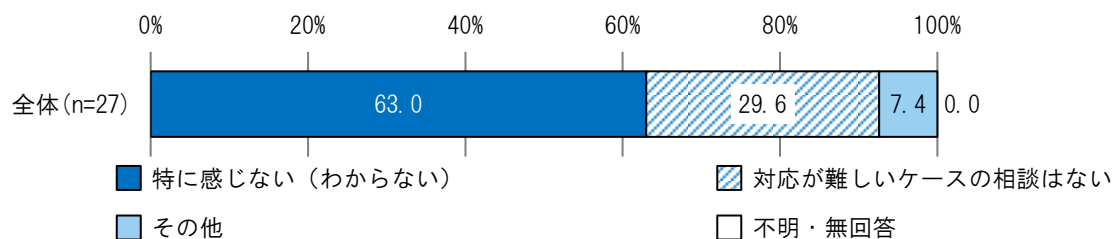
課題等に対する対応や相談できる場が不十分だと感じるかについてみると、「いいえ」が76.1%、「はい」が9.4%となっています。



問19で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 19-2. 潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由は何ですか。 (単数回答)

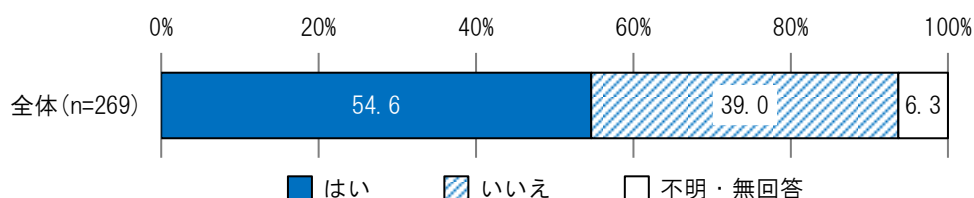
潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由についてみると、「特に感じない（わからない）」が63.0%と最も多く、次いで「対応が難しいケースの相談はない」が29.6%、「その他」が7.4%となっています。



問 20. 福祉や地域活動に参加する機会は増えていますか。

(単数回答)

福祉や地域活動に参加する機会が増えているかについてみると、「はい」が54.6%、「いいえ」が39.0%となっています。

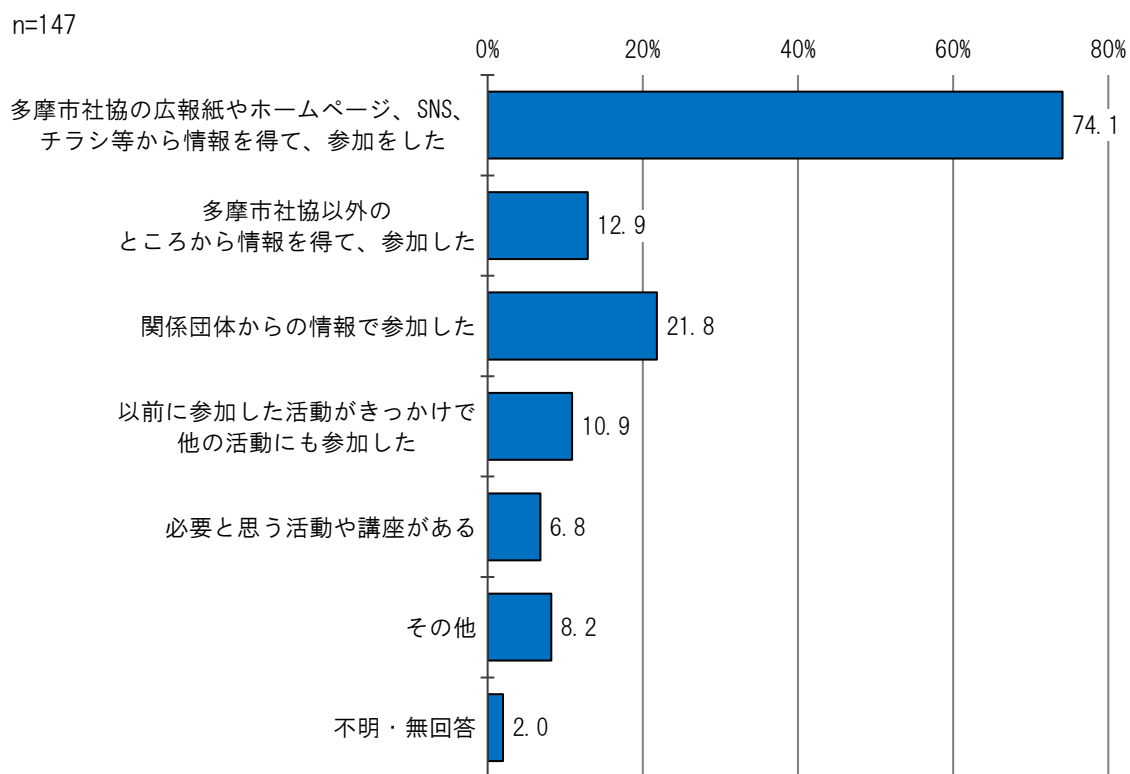


問20で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-1. 活動に参加したきっかけは何ですか。

(複数回答)

活動に参加したきっかけについてみると、「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした」が74.1%と最も多く、次いで「関係団体からの情報で参加した」が21.8%、「多摩市社協以外のところから情報を得て、参加した」が12.9%となっています。



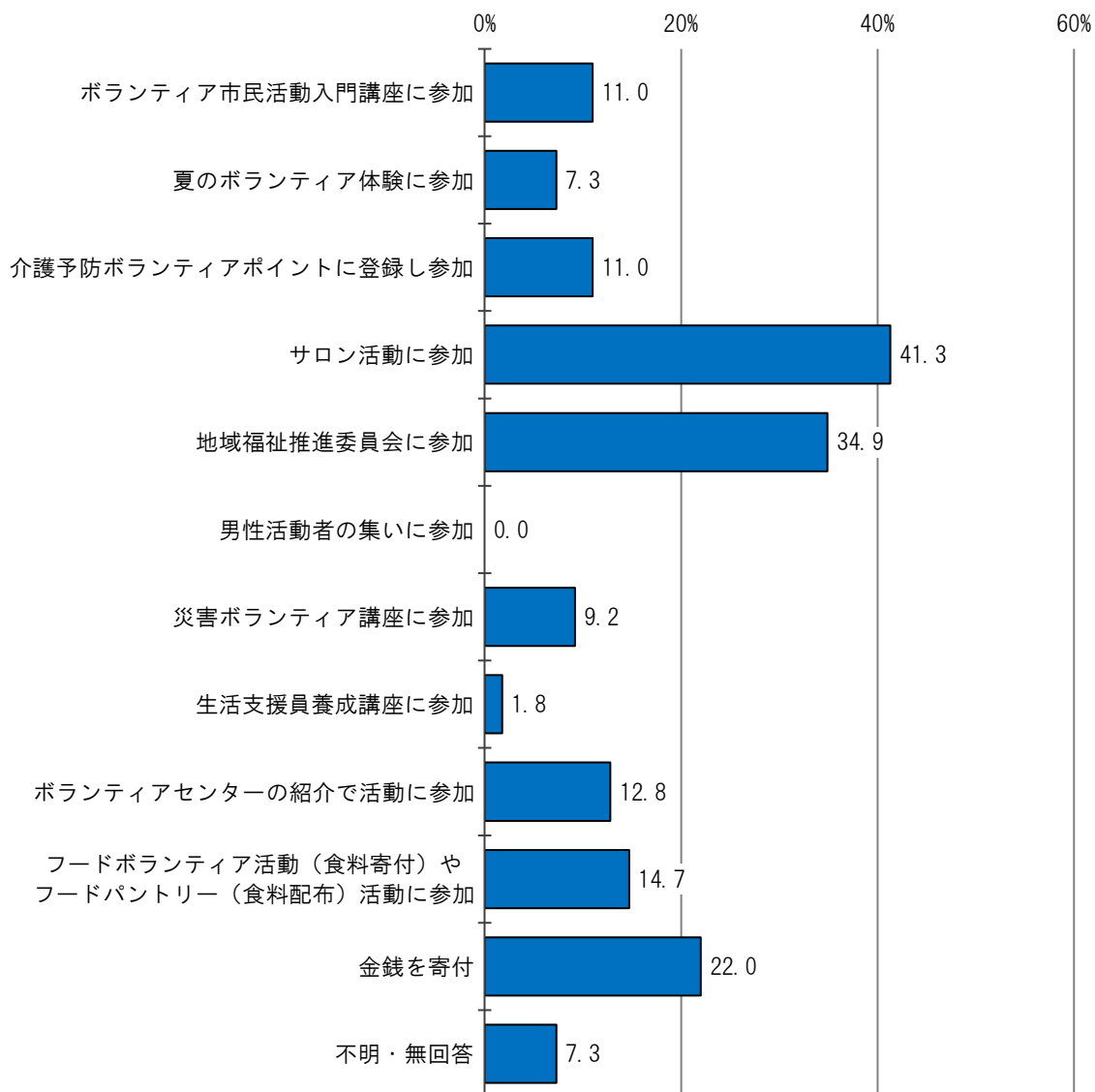
問20-1で「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした（活動した）」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-1-1. 参加した活動は何ですか。

（複数回答）

参加した活動についてみると、「サロン活動に参加」が41.3%と最も多く、次いで「地域福祉推進委員会に参加」が34.9%、「金銭を寄付」が22.0%となっています。

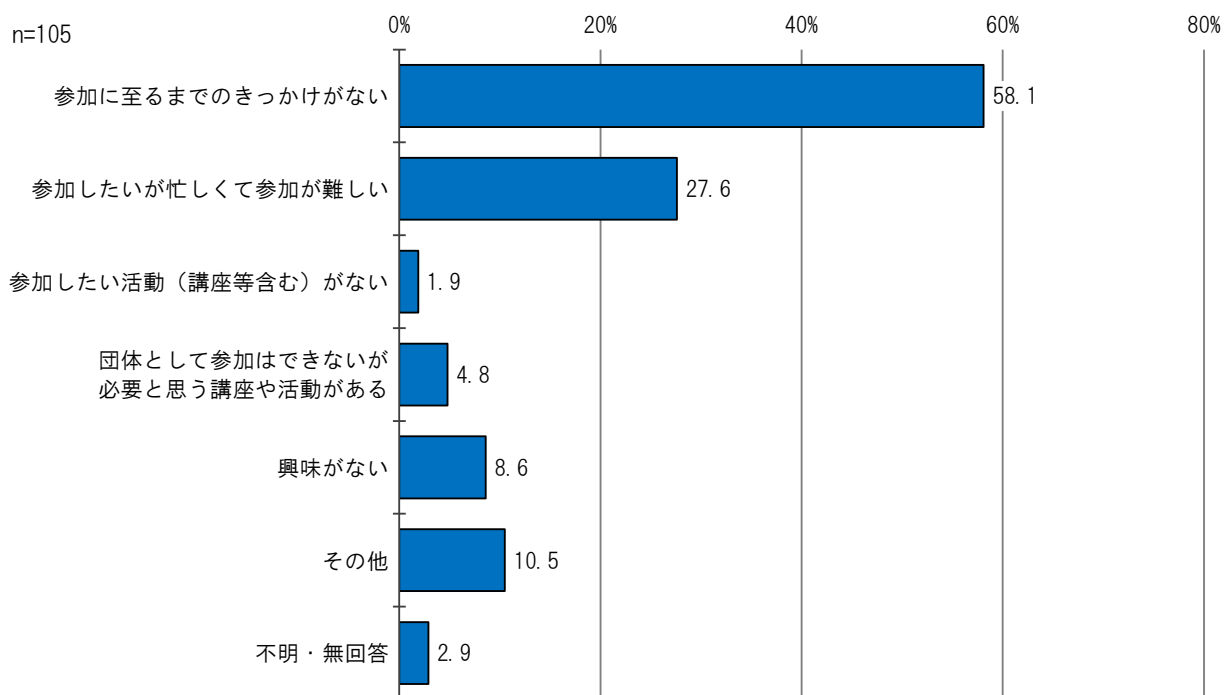
n=109



問20で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-2. 福祉や地域活動に参加する機会が増えていない理由は何ですか。 (複数回答)

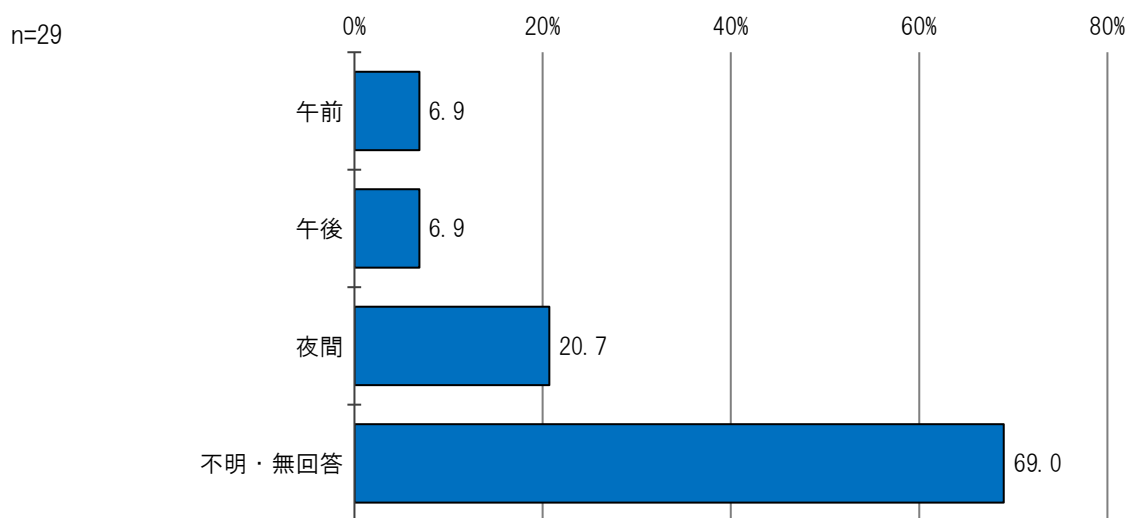
福祉や地域活動に参加する機会が増えていない理由についてみると、「参加に至るまでのきっかけがない」が58.1%と最も多く、次いで「参加したいが忙しくて参加が難しい」が27.6%、「その他」が10.5%となっています。



問20-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-2-1. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。（平日） (複数回答)

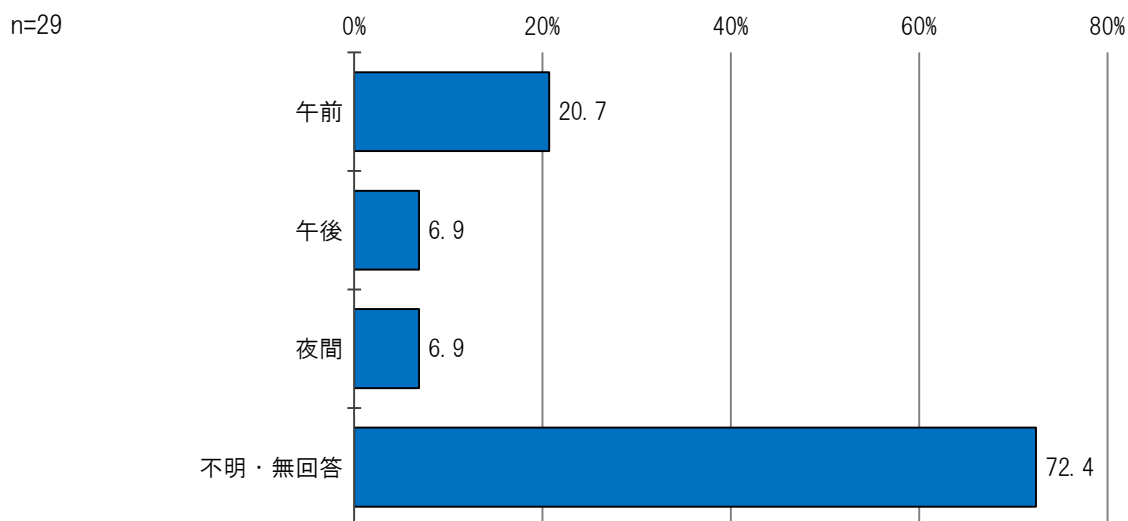
平日についてみると、「夜間」が20.7%と最も多く、次いで「午前」「午後」が6.9%となっています。



問20-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-2-2. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(土曜日) (複数回答)

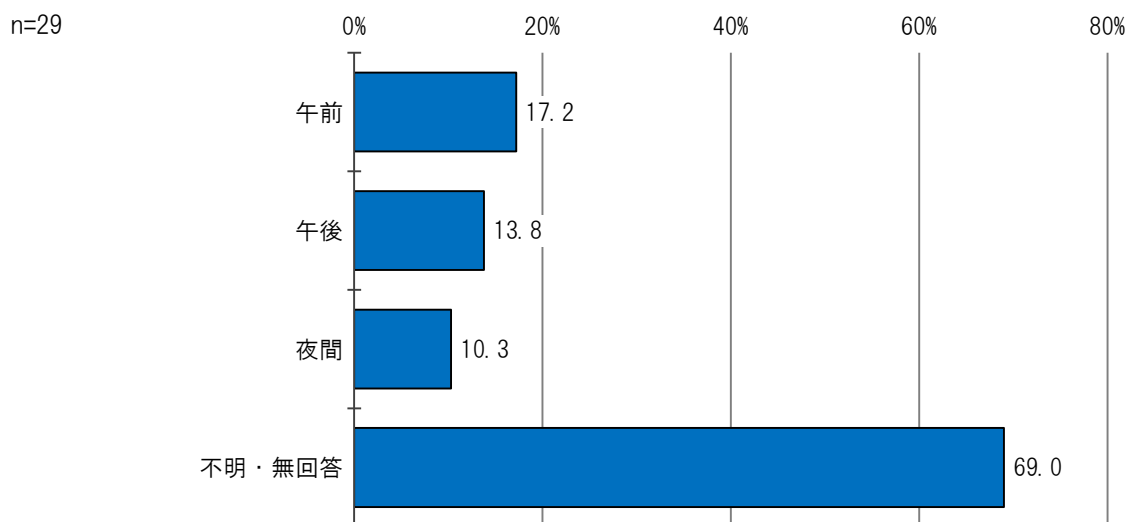
土曜日についてみると、「午前」が20.7%と最も多く、次いで「午後」「夜間」が6.9%となっています。



問20-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した団体にお尋ねします。

問 20-2-3. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(休日) (複数回答)

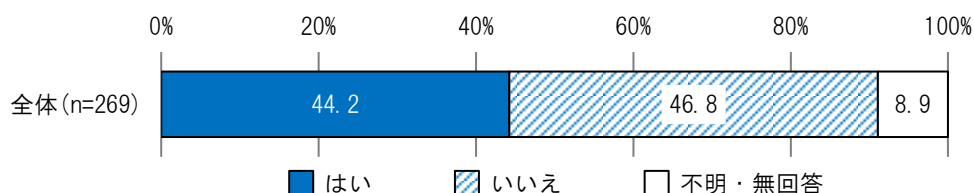
休日についてみると、「午前」が17.2%と最も多く、次いで「午後」が13.8%、「夜間」が10.3%となっています。



問 21. 同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じますか。

(単数回答)

同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じるかについてみると、「いいえ」が46.8%、「はい」が44.2%となっています。

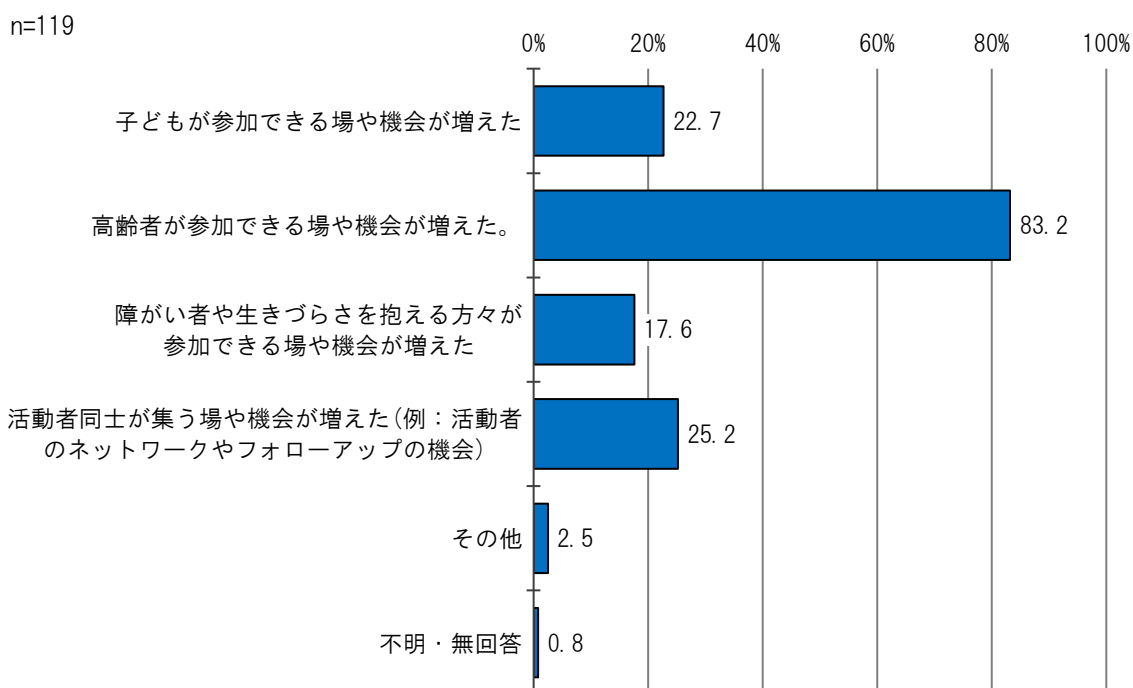


問21で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 21-1. 増えた交流の場はどのようなものですか。

(複数回答)

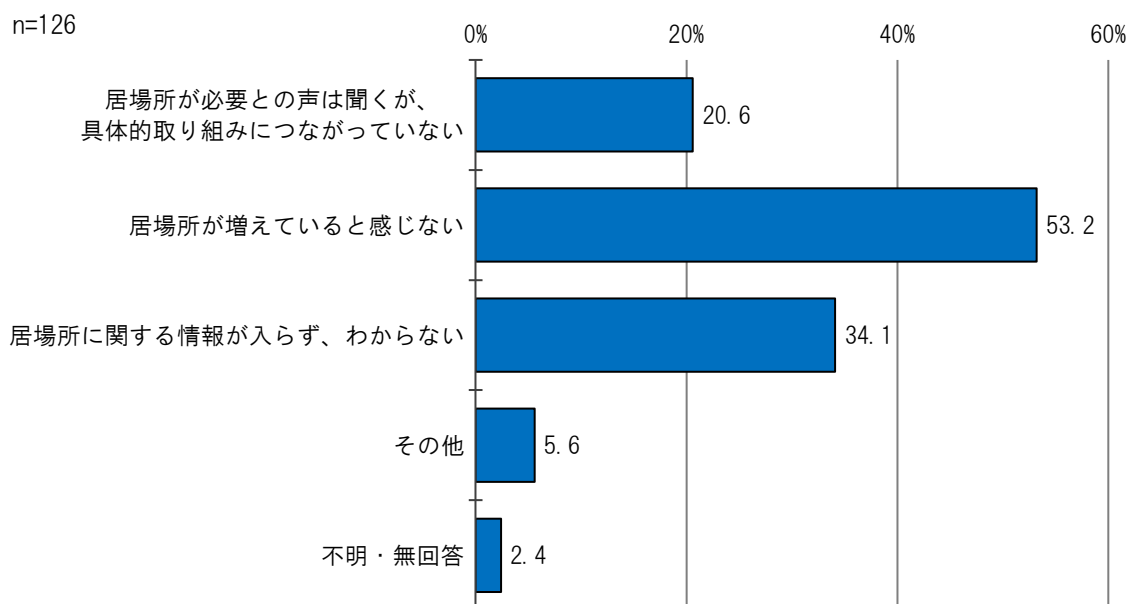
増えた交流の場についてみると、「高齢者が参加できる場や機会が増えた。」が83.2%と最も多く、次いで「活動者同士が集う場や機会が増えた(例:活動者のネットワークやフォローアップの機会)」が25.2%、「子どもが参加できる場や機会が増えた」が22.7%となっています。



問21で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 21-2. 同じ課題や関心事を持つ人の居場所が増えていると感じない理由は何ですか。(複数回答)

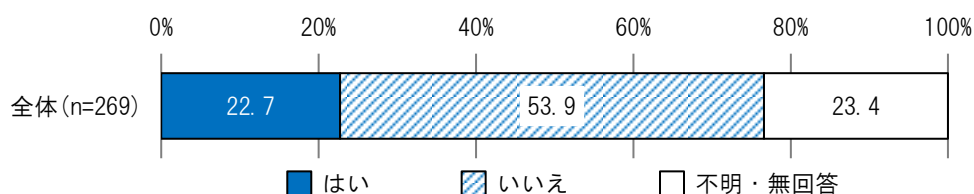
居場所が増えていると感じない理由についてみると、「居場所が増えていると感じない」が53.2%と最も多く、次いで「居場所に関する情報が入らず、わからない」が34.1%、「居場所が必要との声は聞くが、具体的取り組みにつながない」が20.6%となっています。



問 22. 活動やニーズに応じた担い手の発掘・育成ができていますか。

(単数回答)

活動やニーズに応じた担い手の発掘・育成ができているかについてみると、「いいえ」が53.9%、次いで「はい」が22.7%となっています。

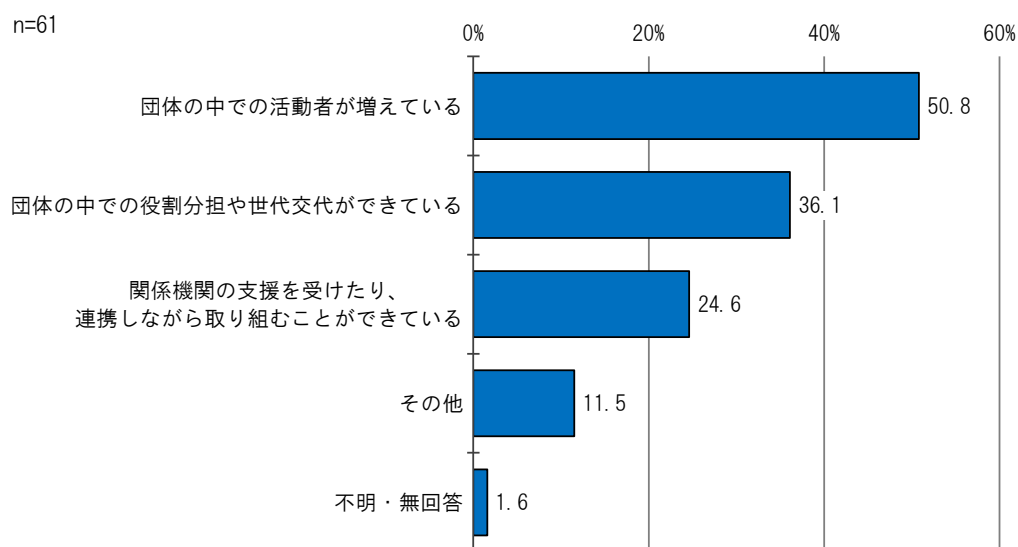


問22で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 22-1. 状況についてお聞かせください。

(複数回答)

活動やニーズに応じた担い手の発掘・育成ができていないかについて「はい」と選択した団体の状況についてみると、「団体の中での活動者が増えている」が50.8%と最も多く、次いで「団体の中での役割分担や世代交代ができていない」が36.1%、「関係機関の支援を受けたり、連携しながら取り組むことができる」が24.6%となっています。

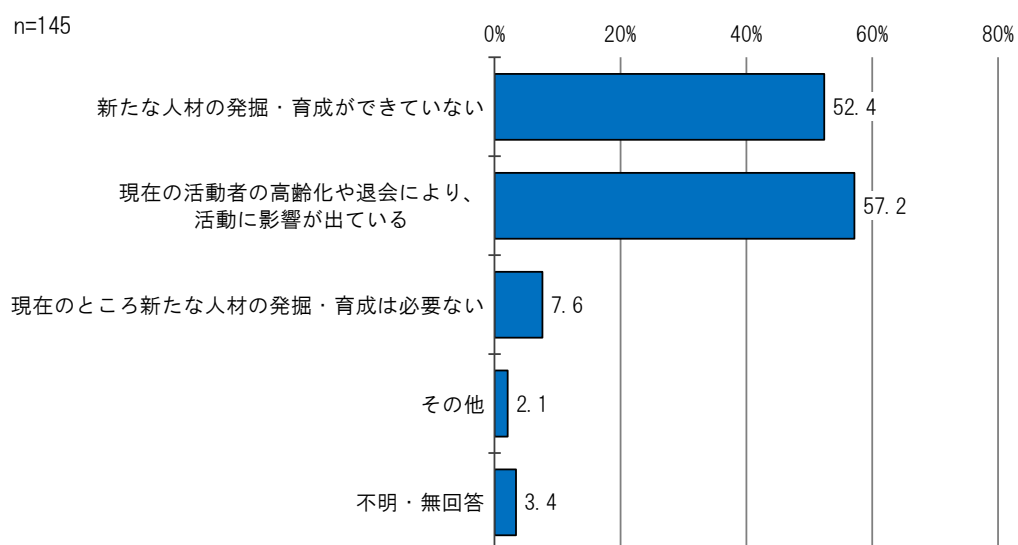


問22で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 22-2. 状況についてお聞かせください。

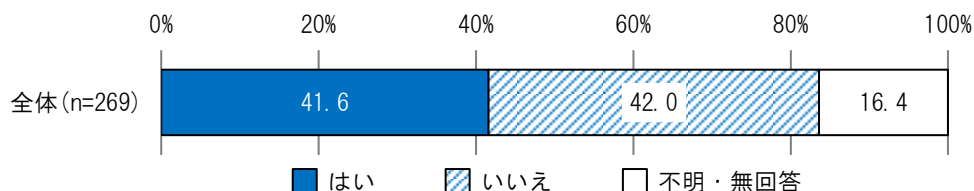
(複数回答)

活動やニーズに応じた担い手の発掘・育成ができていないかについて「いいえ」と選択した団体の状況についてみると、「現在の活動者の高齢化や退会により、活動に影響が出ている」が57.2%と最も多く、次いで「新たな人材の発掘・育成ができていない」が52.4%、「現在のところ新たな人材の発掘・育成は必要ない」が7.6%となっています。



問 23. 活動(支援)を行う上で、様々なネットワークを活かした地域活動や支援が行われていますか。
(単数回答)

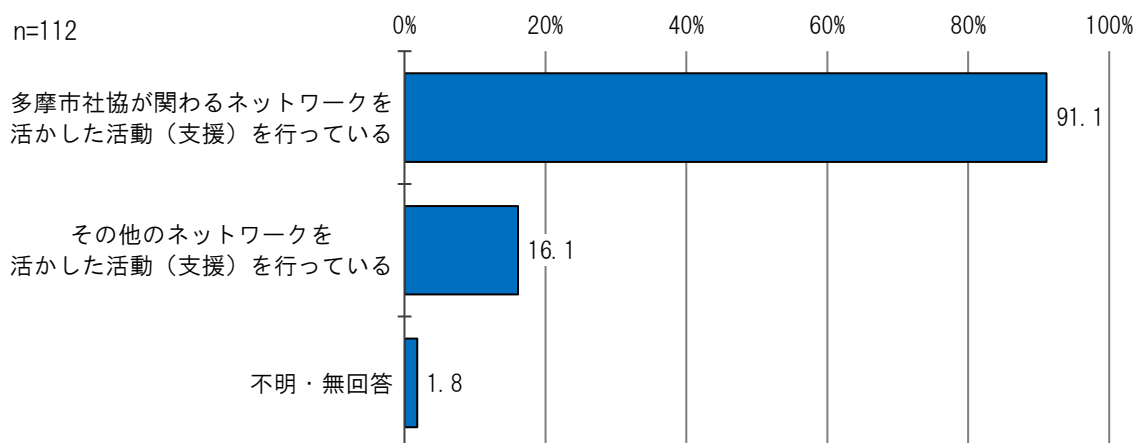
活動(支援)を行う上で、様々なネットワークを活かした地域活動や支援が行われているかについてみると、「いいえ」が42.0%、「はい」が41.6%となっています。



問23で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 23-1. どのようなネットワークを活用していますか。(複数回答)

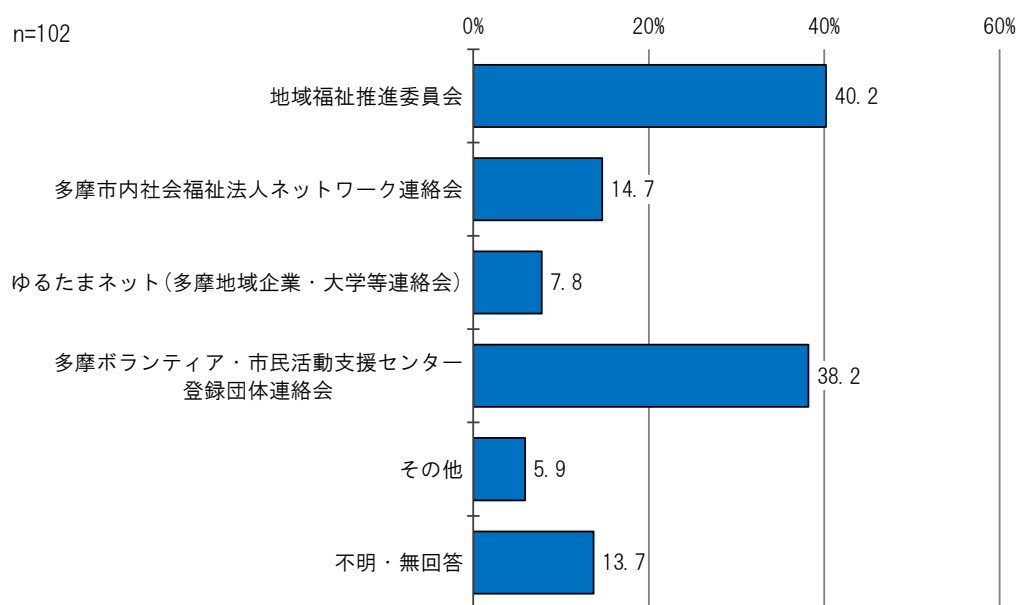
どのようなネットワークを活用しているかについてみると、「多摩市社協が関わるネットワークを活かした活動(支援)を行っている」が91.1%と最も多く、次いで「その他のネットワークを活かした活動(支援)を行っている」が16.1%となっています。



問23-1で「多摩市社協が関わるネットワークを活かした活動（支援）を行っている」を選択した団体にお尋ねします。

問 23-1-1. どのネットワークを活用していますか。 (複数回答)

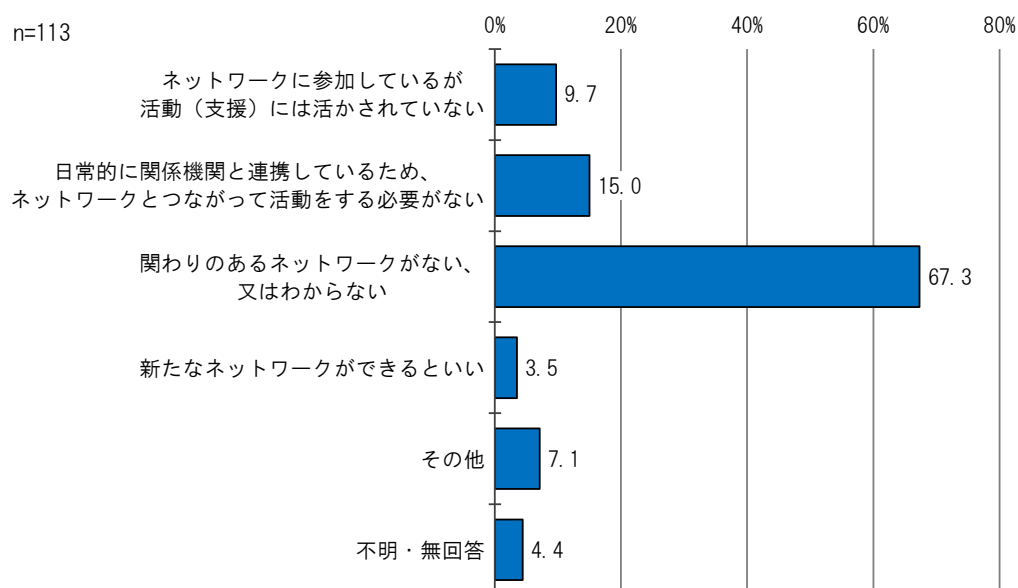
どのネットワークを活用しているかについてみると、「地域福祉推進委員会」が 40.2%と最も多く、次いで「多摩ボランティア・市民活動支援センター登録団体連絡会」が 38.2%、「多摩市内社会福祉法人ネットワーク連絡会」が 14.7%となっています。



問23で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

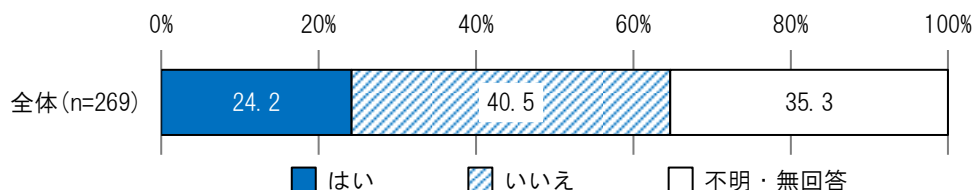
問23-2. ネットワークを活かした地域活動や支援が行われていない理由は何ですか。 (複数回答)

ネットワークを活かした地域活動や支援が行われていない理由についてみると、「関わりのあるネットワークがない、又はわからない」が 67.3%と最も多く、次いで「日常的に関係機関と連携しているため、ネットワークとつながって活動をする必要がない」が 15.0%、「ネットワークに参加しているが活動（支援）には活かされていない」が 9.7%となっています。



問 24. 生活課題がある方が安心して地域生活を送るための多摩市社協が実施する生活支援に係る事業で活用しているものはありますか。 (単数回答)

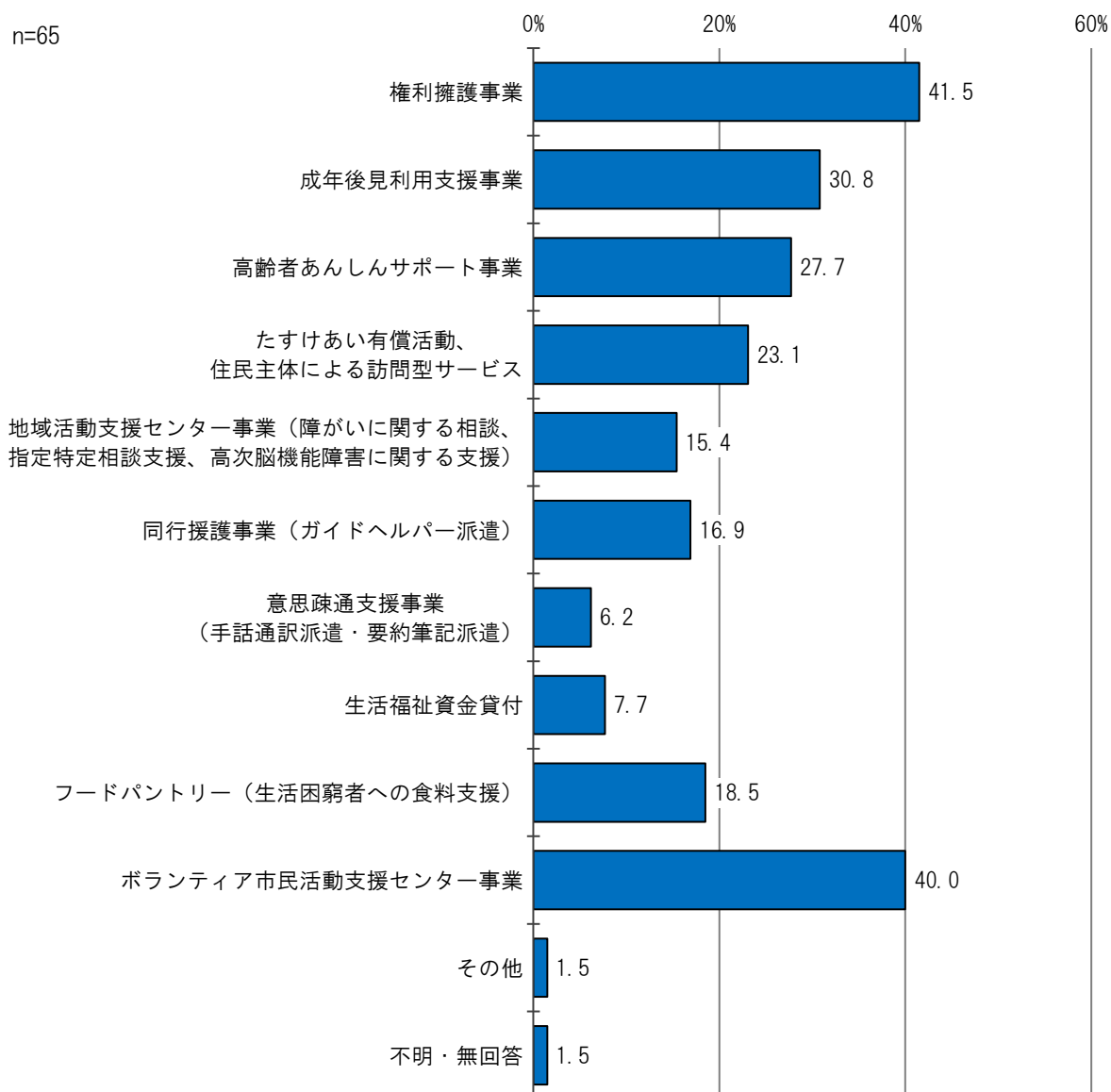
活用しているものがあるかについてみると、「いいえ」が40.5%、「はい」が24.2%となっています。



問24で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 24-1. 活用している事業は何ですか。 (複数回答)

活用している事業についてみると、「権利擁護事業」が41.5%と最も多く、次いで「ボランティア市民活動支援センター事業」が40.0%、「成年後見利用支援事業」が30.8%となっています。

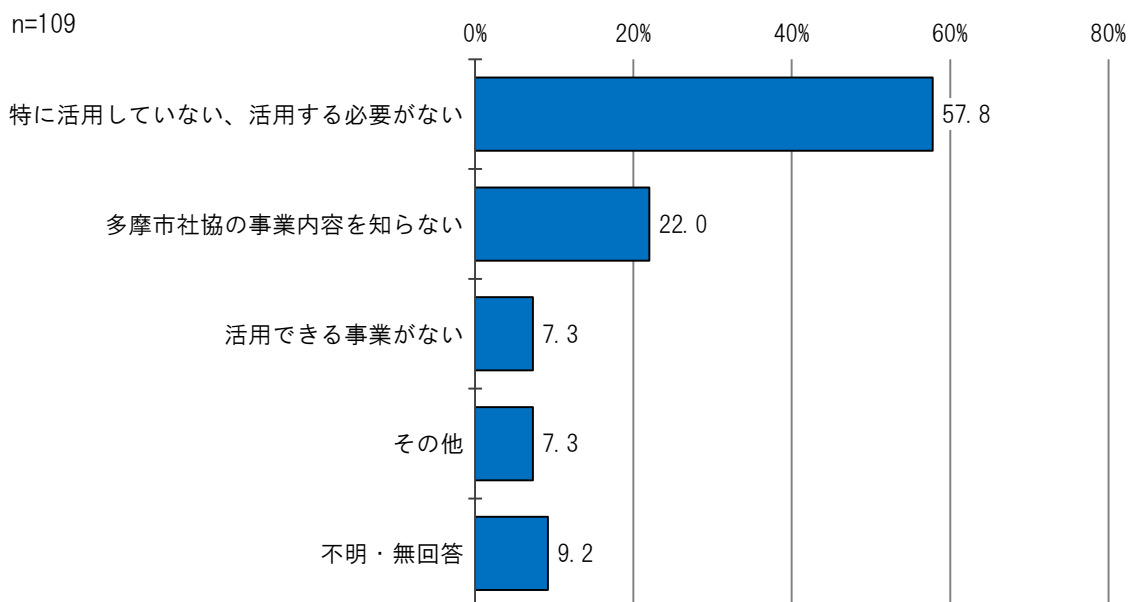


問24で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 24-2. 活用していない理由は何ですか。

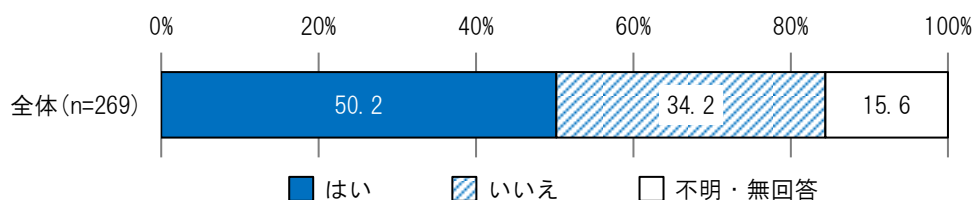
(複数回答)

活用していない理由についてみると、「特に活用していない、活用する必要がない」が57.8%と最も多く、次いで「多摩市社協の事業内容を知らない」が22.0%、「活用できる事業がない」「その他」が7.3%となっています。



問 25. 生活課題がある方が地域で生活をしていくために活用している（知っている）地域の見守り・支えあいの活動はありますか。 (単数回答)

活用している（知っている）地域の見守り・支えあいの活動があるかについてみると、「はい」が50.2%、「いいえ」が34.2%となっています。

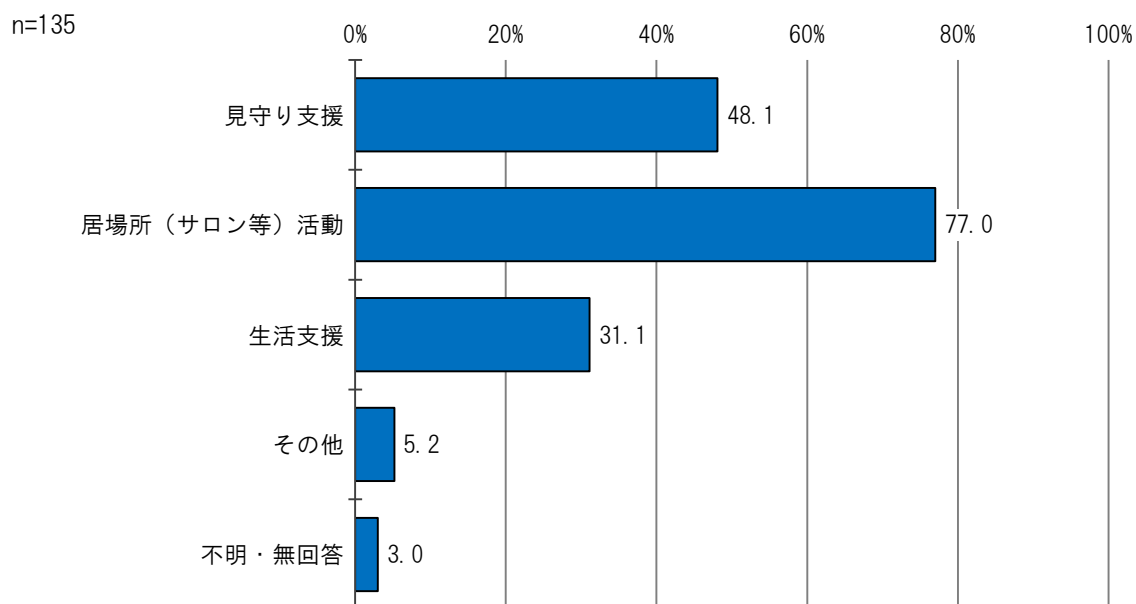


問25で「はい」を選択した団体にお尋ねします。

問 25-1. 活用している（知っている）活動は何ですか。

（複数回答）

活用している（知っている）活動についてみると、「居場所（サロン等）活動」が77.0%と最も多く、次いで「見守り支援」が48.1%、「生活支援」が31.1%となっています。

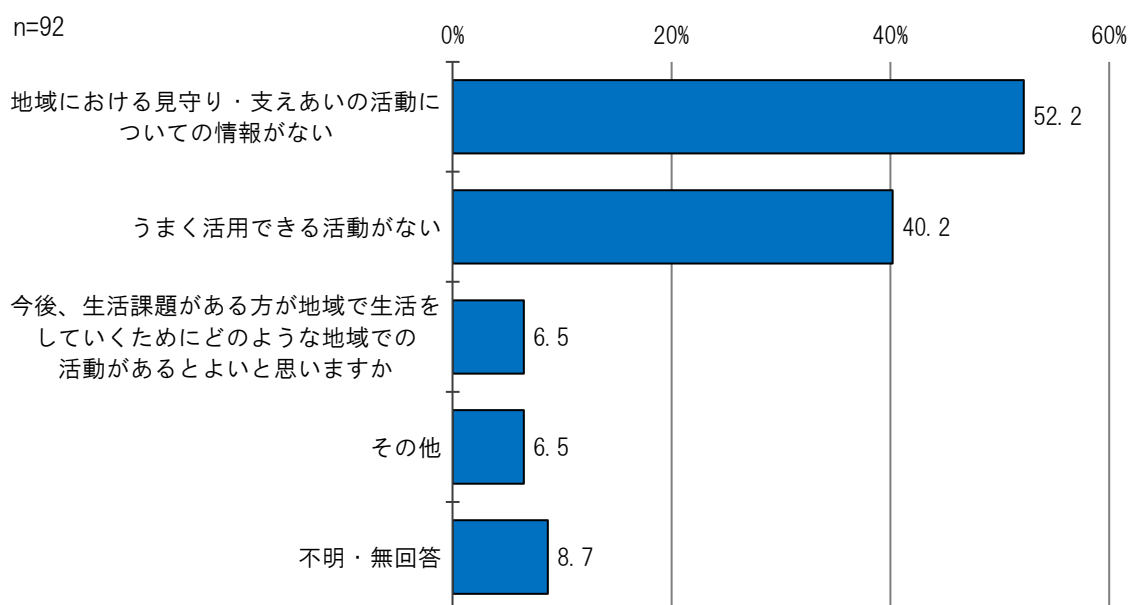


問25で「いいえ」を選択した団体にお尋ねします。

問 25-2. 活用していない理由は何ですか。

（複数回答）

活用していない理由についてみると、「地域における見守り・支えあいの活動についての情報がない」が52.2%と最も多く、次いで「うまく活用できる活動がない」が40.2%、「今後、生活課題がある方が地域で生活をしていくためにどのような地域での活動があるとよいと思いますか」「その他」が6.5%となっています。

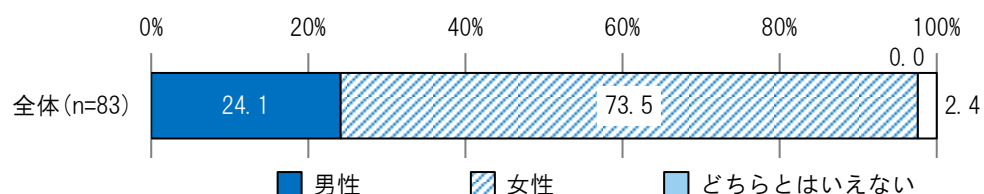


V 福祉サービス利用者・従事者アンケート調査結果

1 基本事項についての設問

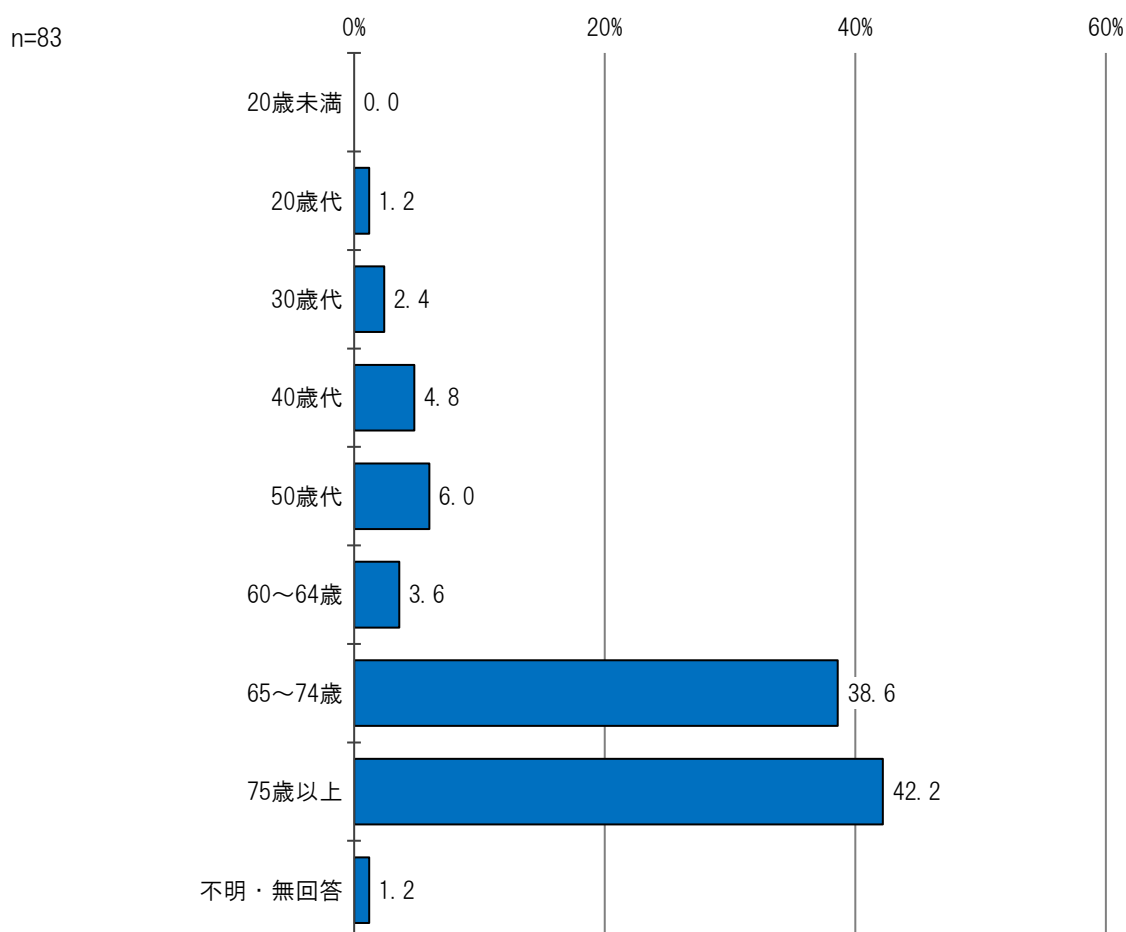
問 1. あなた（あて名のご本人）の現在の性別（自認している性）はどれにあたりますか。（単数回答）

性別についてみると、全体では「女性」が73.5%、「男性」が24.1%となっています。



問 2. あなたの令和7年2月1日現在の年齢はどれにあたりますか。（単数回答）

年齢についてみると、全体では「75歳以上」が42.2%と最も多く、次いで「65～74歳」が38.6%、「50歳代」が6.0%となっています。

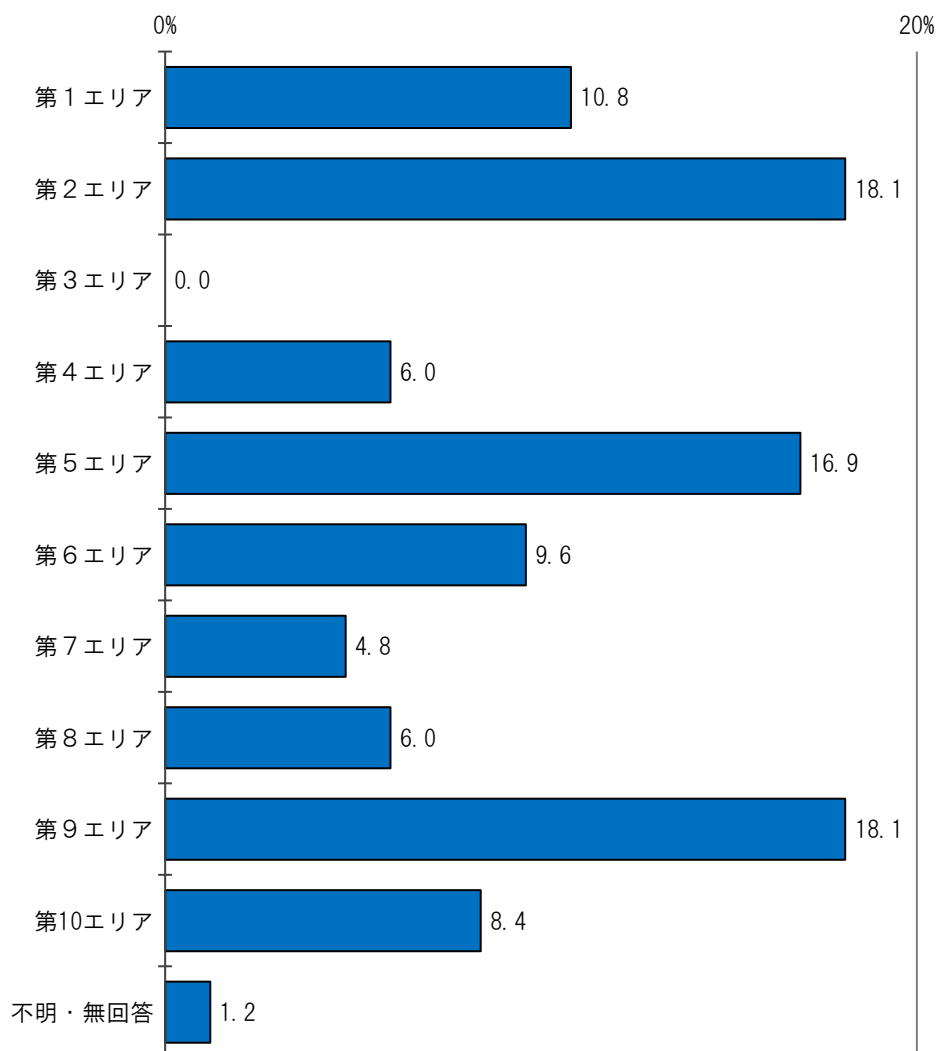


問 3. あなたのお住まいの地域はどこですか。

(単数回答)

居住地域についてみると、全体では「第2エリア」「第9エリア」が18.1%と最も多く、次いで「第5エリア」が16.9%となっています。

n=83

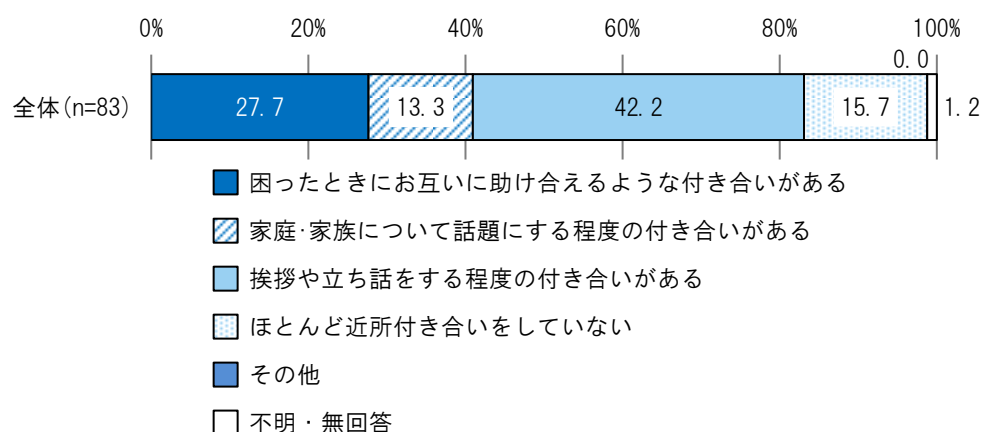


2 回答者の身の回りの課題に関する設問

問 4. あなたは近所付き合いをしていますか。

(単数回答)

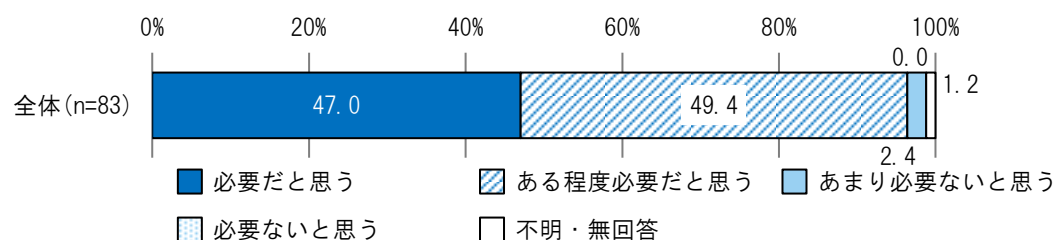
近所付き合いについてみると、全体では「挨拶や立ち話をする程度の付き合いがある」が 42.2%と最も多く、次いで「困ったときお互いに助け合えるような付き合いがある」が 27.7%、「ほとんど近所付き合いをしていない」が 15.7%となっています。



問 5. あなたは暮らしの中で地域のつながりは必要だと思いますか。

(単数回答)

暮らしの中で地域のつながりについてみると、全体では「ある程度必要だと思う」が 49.4%と最も多く、次いで「必要だと思う」が 47.0%、「あまり必要ないと思う」が 2.4%となっています。

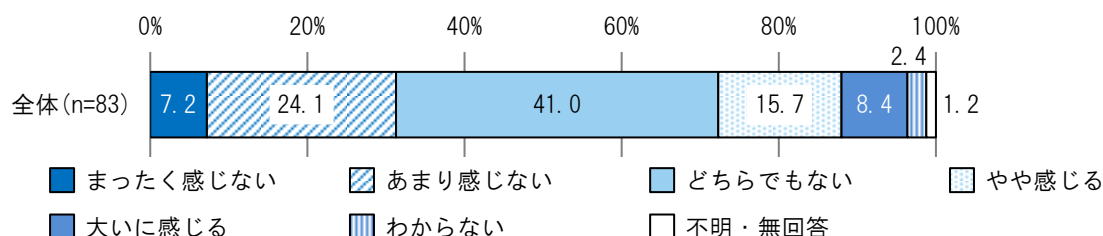


問 6. あなたはご自身の日常生活の中で、以下の不安や悩みごとについて、どの程度実感していますか。将来に対する不安・悩みでも結構です。

問 6-1. 住民同士での地域活動について

(単数回答)

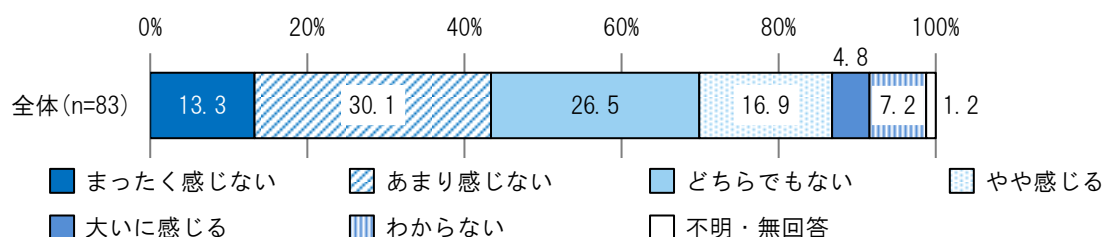
住民同士での地域活動についてみると、全体では「どちらでもない」が41.0%と最も多く、次いで「あまり感じない」が24.1%、「やや感じる」が15.7%となっています。



問 6-2. 趣味・サークルなどの活動について

(単数回答)

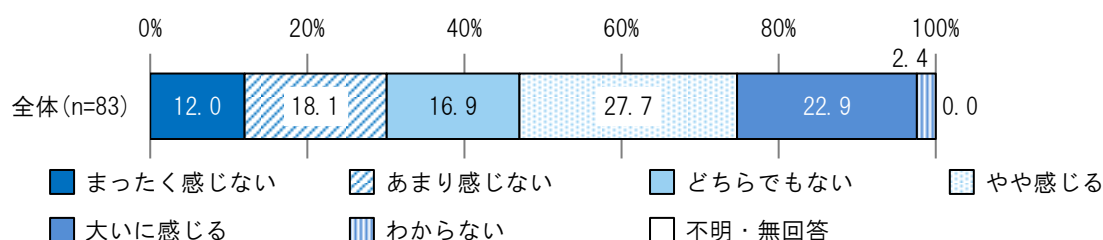
趣味・サークルなどの活動についてみると、全体では「あまり感じない」が30.1%と最も多く、次いで「どちらでもない」が26.5%、「やや感じる」が16.9%となっています。



問 6-3. デジタル化(インターネットでの手続き、キャッシュレス決済など)の進展について

(単数回答)

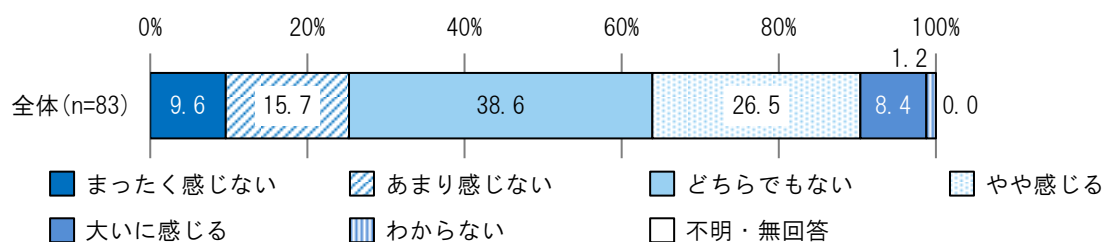
デジタル化の進展についてみると、全体では「やや感じる」が27.7%と最も多く、次いで「大いに感じる」が22.9%、「あまり感じない」が18.1%となっています。



問 6-4. 公共施設、公園、道路などについて

(単数回答)

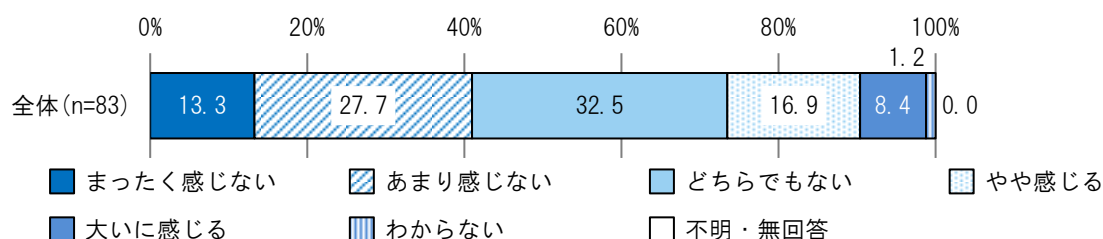
公共施設、公園、道路などについてみると、全体では「どちらでもない」が 38.6%と最も多く、次いで「やや感じる」が 26.5%、「あまり感じない」が 15.7%となっています。



問 6-5. みどり・環境について

(単数回答)

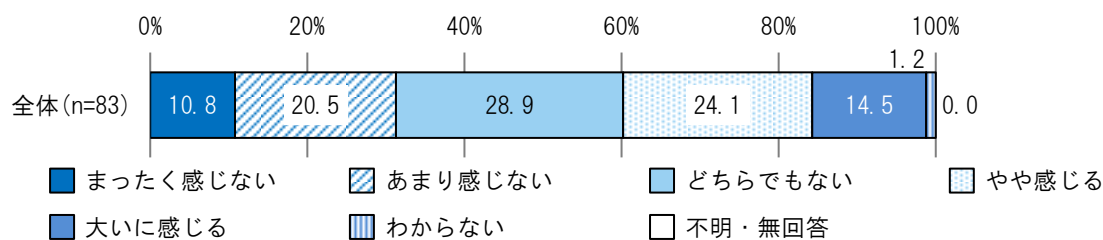
みどり・環境についてみると、全体では「どちらでもない」が 32.5%と最も多く、次いで「あまり感じない」が 27.7%、「やや感じる」が 16.9%となっています。



問 6-6. 住まいの問題(家の老朽化、住み替えなど)について

(単数回答)

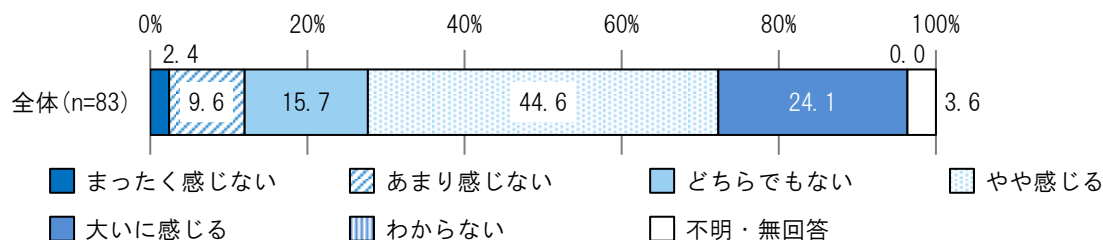
住まいの問題についてみると、全体では「どちらでもない」が 28.9%と最も多く、次いで「やや感じる」が 24.1%、「あまり感じない」が 20.5%となっています。



問 6-7. 災害が起きたときのことや日常の防災対策について

(単数回答)

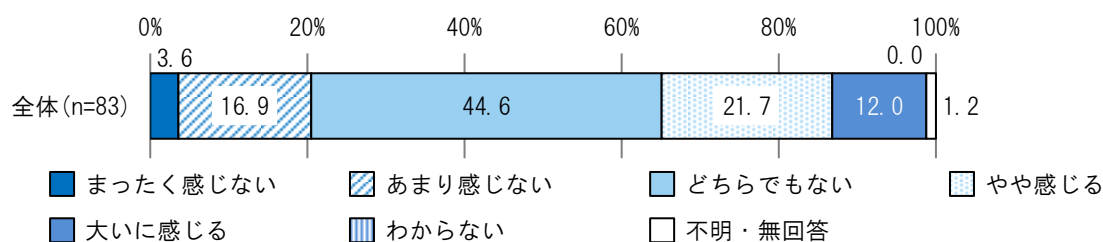
災害が起きたときのことや日常の防災対策についてみると、全体では「やや感じる」が 44.6%と最も多く、次いで「大いに感じる」が 24.1%、「どちらでもない」が 15.7%となっています。



問 6-8. 地域の治安（犯罪、交通事故）について

（単数回答）

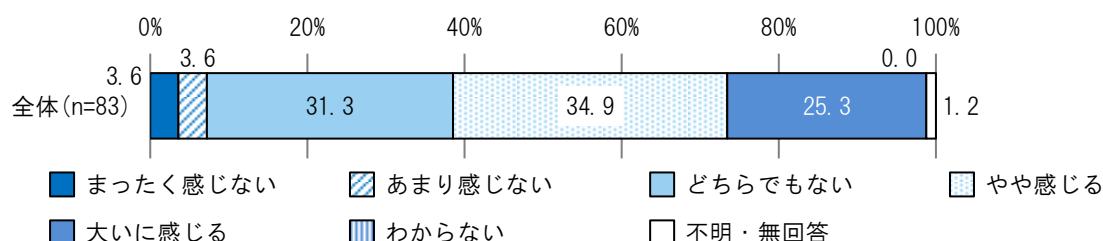
地域の治安についてみると、全体では「どちらでもない」が 44.6%と最も多く、次いで「やや感じる」が 21.7%、「あまり感じない」が 16.9%となっています。



問 6-9. 自分や家族の健康・病気について

（単数回答）

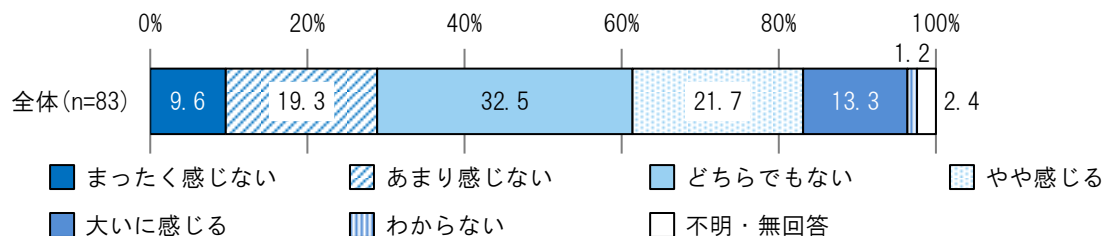
自分や家族の健康・病気についてみると、全体では「やや感じる」が 34.9%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 31.3%、「大いに感じる」が 25.3%となっています。



問 6-10. 日常生活（家事、移動など）について

（単数回答）

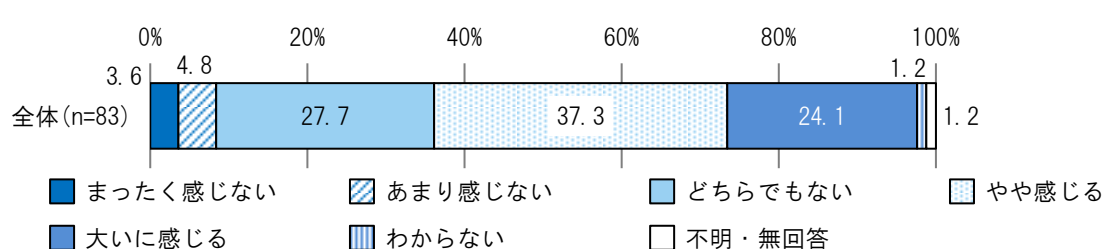
日常生活についてみると、全体では「どちらでもない」が 32.5%と最も多く、次いで「やや感じる」が 21.7%、「あまり感じない」が 19.3%となっています。



問 6-11. 自分や家族の老後・介護について

（単数回答）

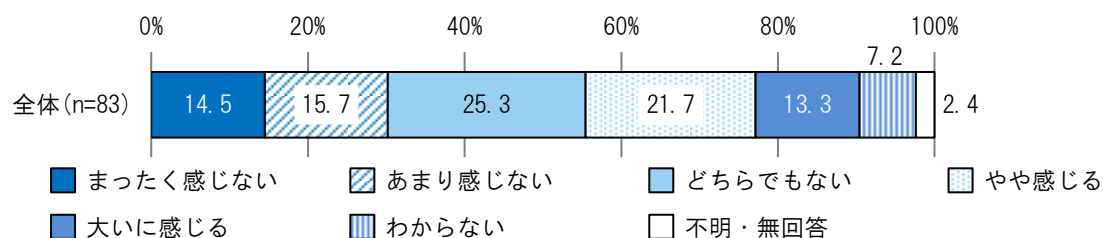
自分や家族の老後・介護についてみると、全体では「やや感じる」が 37.3%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 27.7%、「大いに感じる」が 24.1%となっています。



問 6-12. 自分や家族の障がいについて

(単数回答)

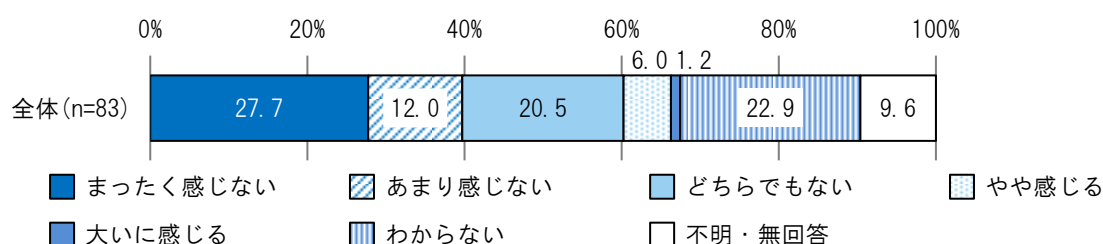
自分や家族の障がいについてみると、全体では「どちらでもない」が 25.3%と最も多く、次いで「やや感じる」が 21.7%、「あまり感じない」が 15.7%となっています。



問 6-13. 妊娠・出産・子育てについて

(単数回答)

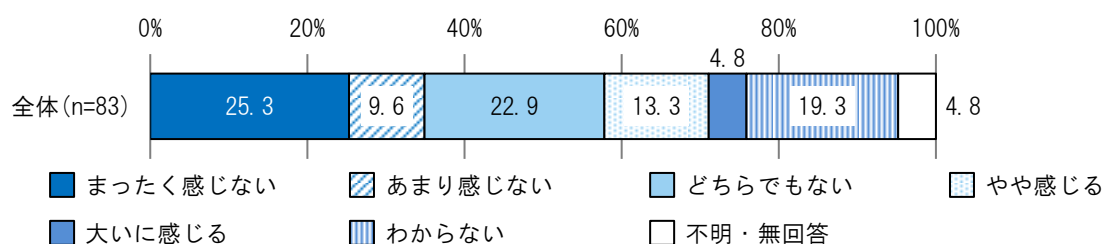
妊娠・出産・子育てについてみると、全体では「まったく感じない」が 27.7%と最も多く、次いで「わからない」が 22.9%、「どちらでもない」が 20.5%となっています。



問 6-14. 子どもの成長・教育（不登校、ひきこもり、非行）について

(単数回答)

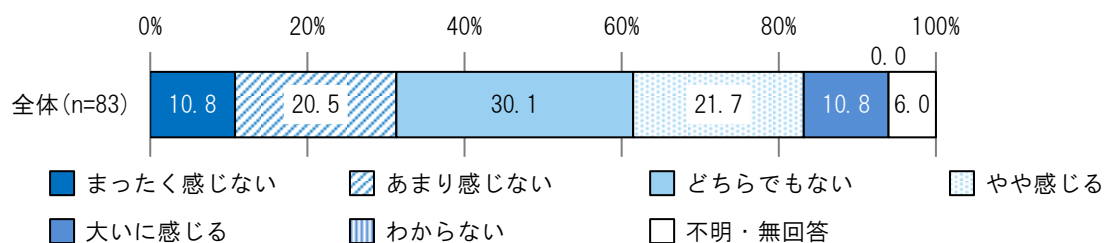
子どもの成長・教育についてみると、全体では「まったく感じない」が 25.3%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 22.9%、「わからない」が 19.3%となっています。



問 6-15. 経済的な問題（就職、低収入、家計）について

（単数回答）

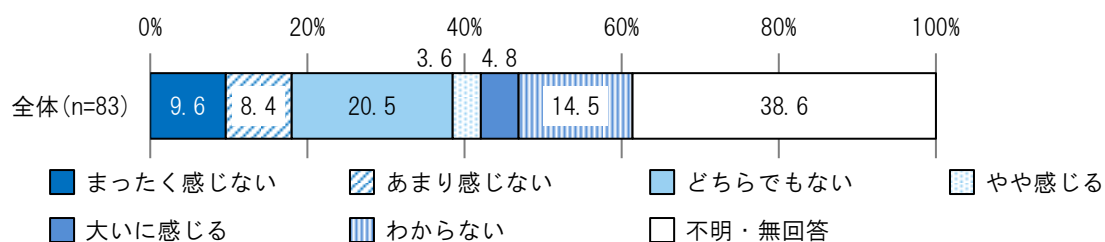
経済的な問題についてみると、全体では「どちらでもない」が 30.1%と最も多く、次いで「やや感じる」が 21.7%、「あまり感じない」が 20.5%となっています。



問 6-16. その他の不安・悩みについて

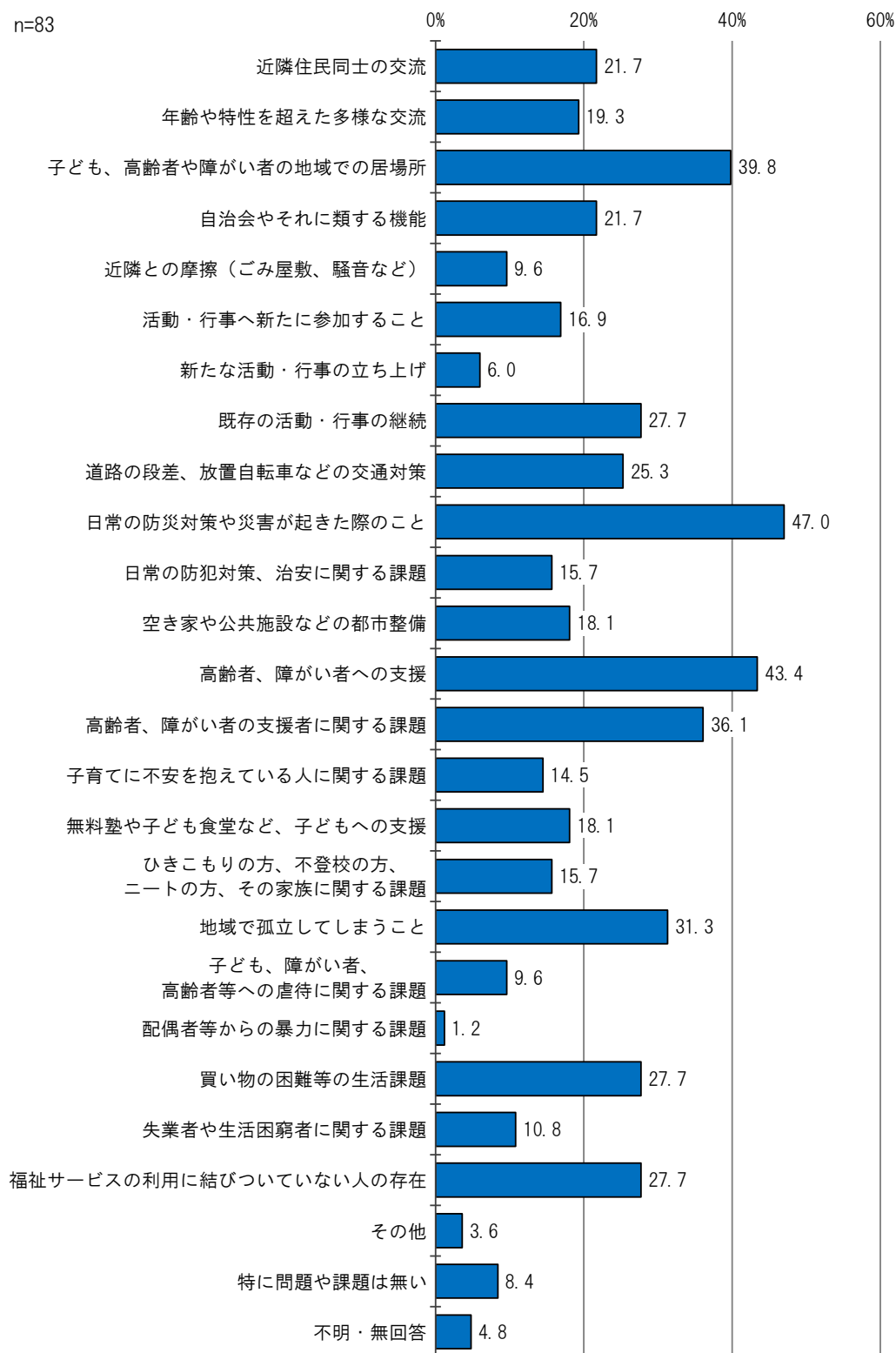
（単数回答）

その他の不安・悩みについてみると、全体では「どちらでもない」が 20.5%と最も多く、次いで「わからない」が 14.5%、「まったく感じない」が 9.6%となっています。



問 7. あなたがお住まいの地域の中で以下の問題（困りごと）や課題があると感じていますか。将来に対する課題でも結構です。（複数回答）

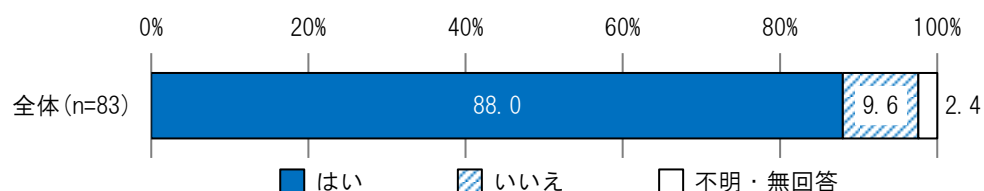
地域の課題・困りごとについてみると、全体では「日常の防災対策や災害が起きた際のこと」が47.0%と最も多く、次いで「高齢者、障がい者への支援」が43.4%、「子ども、高齢者や障がい者の地域での居場所」が39.8%となっています。



3 多摩市社会福祉協議会に関する設問

問 8. 福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えていますか。（単数回答）

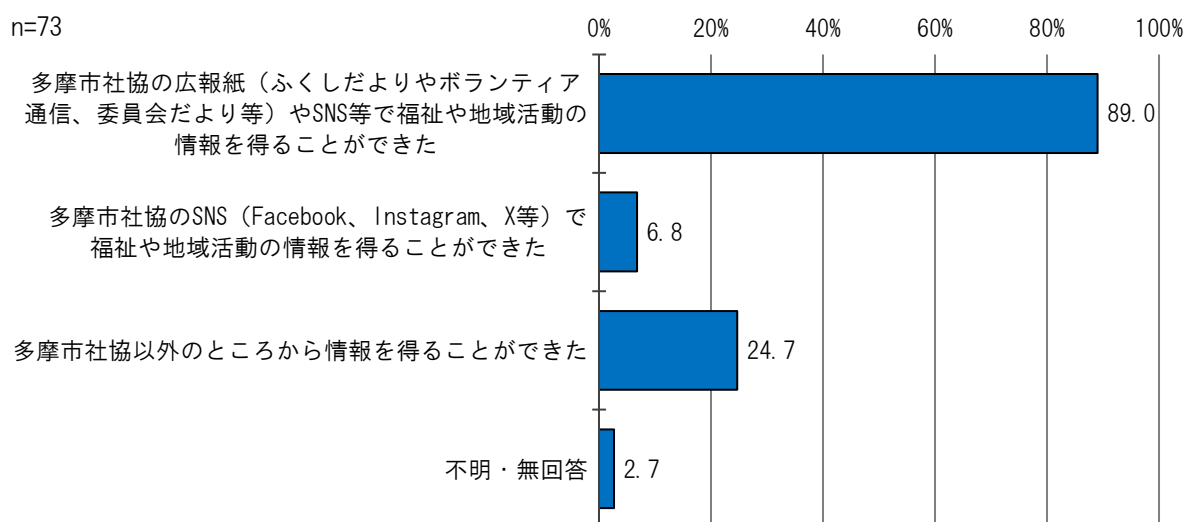
福祉やボランティア活動、地域活動に関する情報を得る機会が増えているかについてみると、全体では「はい」が88.0%、「いいえ」が9.6%となっています。



問8で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 8-1. どのような情報を得ることができましたか。（複数回答）

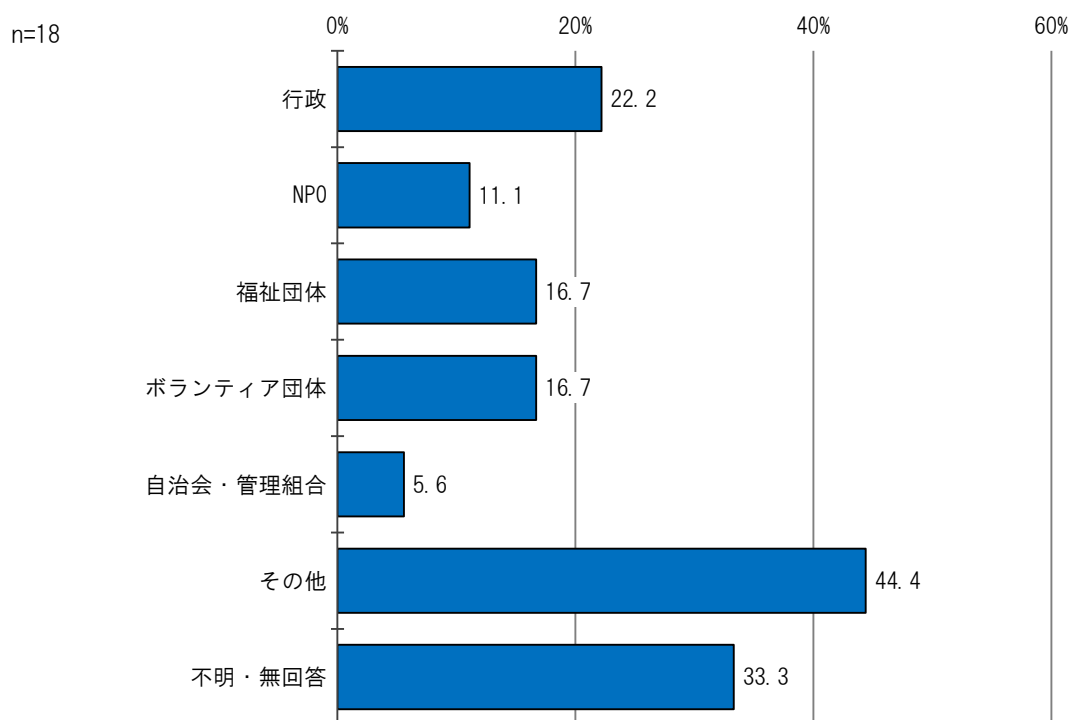
得ることのできた情報についてみると、全体では「多摩市社協の広報紙（ふくしだよりやボランティア通信、委員会だより等）や SNS 等で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が89.0%と最も多く、次いで「多摩市社協以外のところから情報を得ることができた」が24.7%、「多摩市社協の SNS（Facebook、Instagram、X 等）で福祉や地域活動の情報を得ることができた」が6.8%となっています。



問8-1で「多摩市社協以外」を選択した方にお尋ねします。

問 8-1-1. どこから情報を得ることができましたか。 (複数回答)

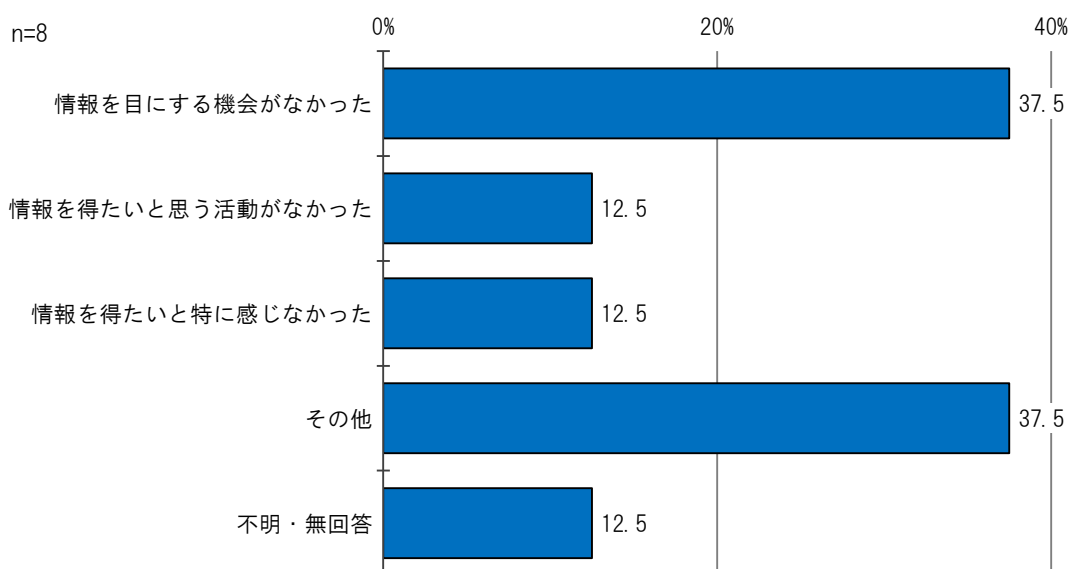
どこから情報を得ることができたかについてみると、全体では「その他」が 44.4%と最も多く、次いで「行政」が 22.2%、「福祉団体」「ボランティア団体」が 16.7%となっています。



問8で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 8-2. 情報を得る機会が増えていると思わない理由は何ですか。 (複数回答)

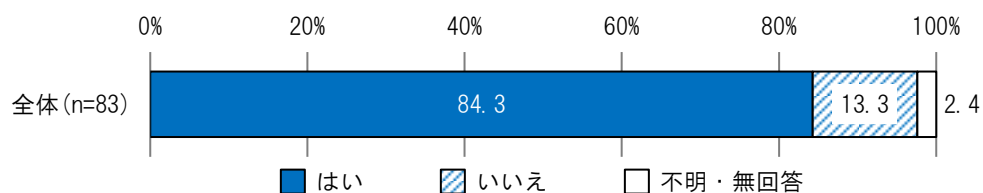
情報を得る機会が増えていると思わない理由についてみると、全体では「情報を目にする機会がなかった」「その他」が 37.5%と最も多く、次いで「情報を得たいと思う活動がなかった」「情報を得たいと特に感じなかった」が 12.5%となっています。



問 9. 福祉を身近に感じるような機会が増えましたか。

(単数回答)

福祉を身近に感じるような機会が増えているかについてみると、全体では「はい」が84.3%、「いいえ」が13.3%となっています。

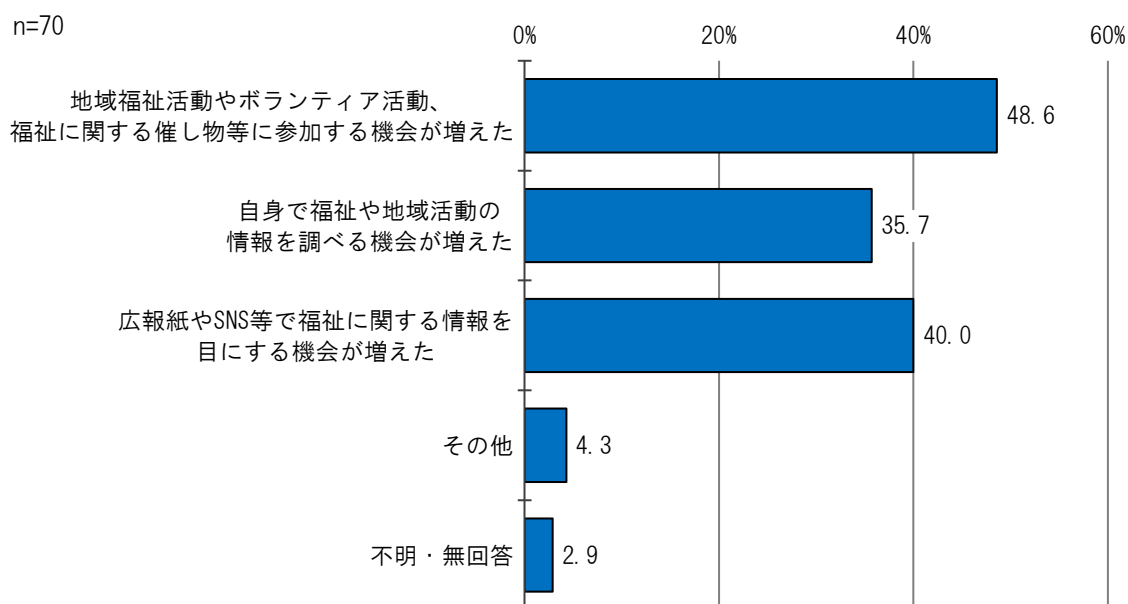


問9で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 9-1. 機会が増えたと思う理由は何ですか。

(複数回答)

機会が増えたと思う理由についてみると、全体では「地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加する機会が増えた」が48.6%と最も多く、次いで「広報紙や SNS 等で福祉に関する情報を目にする機会が増えた」が40.0%、「自身で福祉や地域活動の情報を調べる機会が増えた」が35.7%となっています。

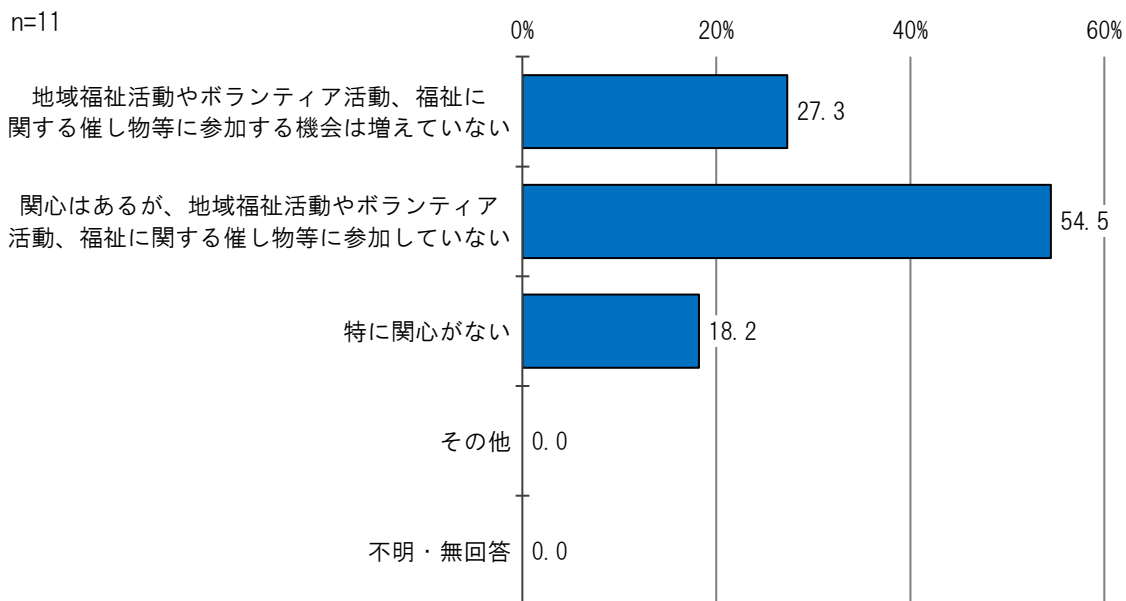


問9で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 9-2. 機会が増えたと思わない理由は何ですか。

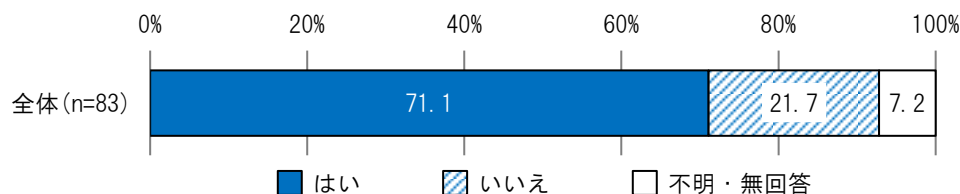
(複数回答)

機会が増えたと思わない理由についてみると、全体では「関心はあるが、地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加していない」が 54.5%と最も多く、次いで「地域福祉活動やボランティア活動、福祉に関する催し物等に参加する機会が増えていない」が 27.3%、「特に関心がない」が 18.2%となっています。



問 10. 身近に福祉に関する困りごとを相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じますか。
(単数回答)

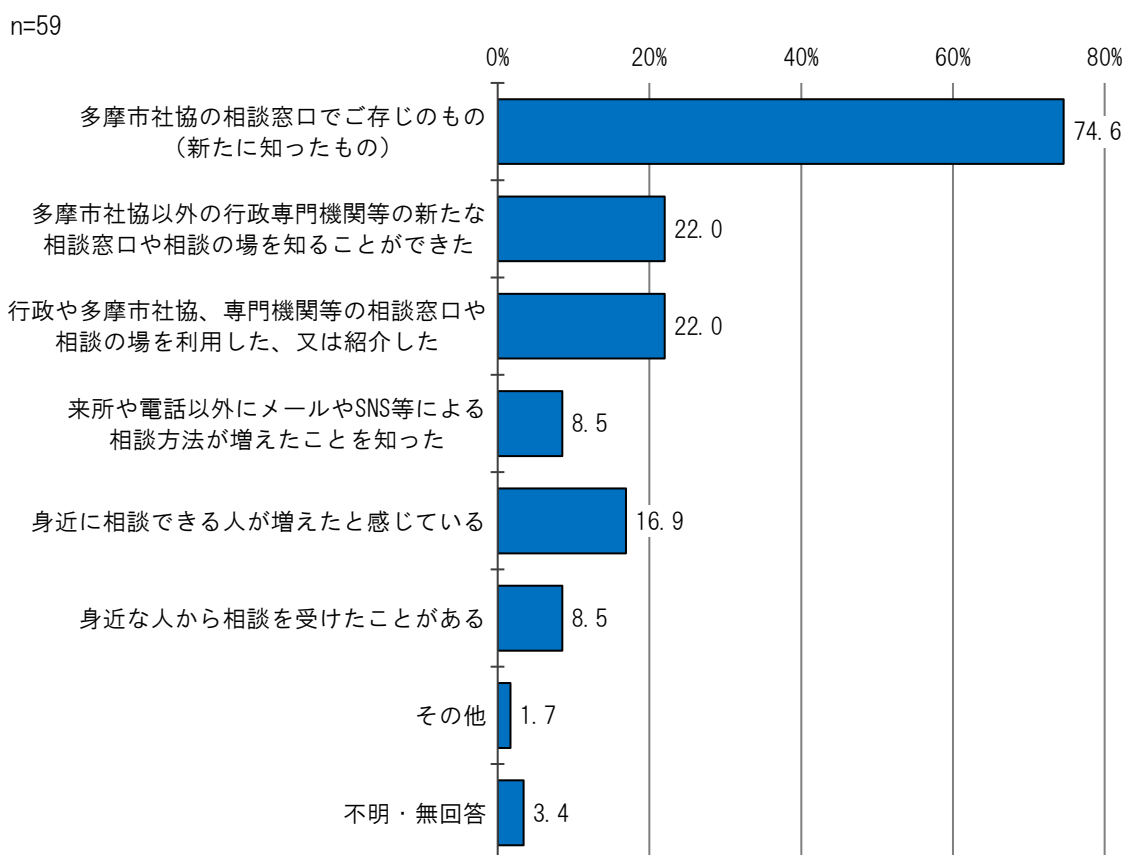
身近に福祉に関する困りごとを相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じるかについてみると、全体では「はい」が71.1%、「いいえ」が21.7%となっています。



問10で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 10-1. 相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じる理由は何ですか。(複数回答)

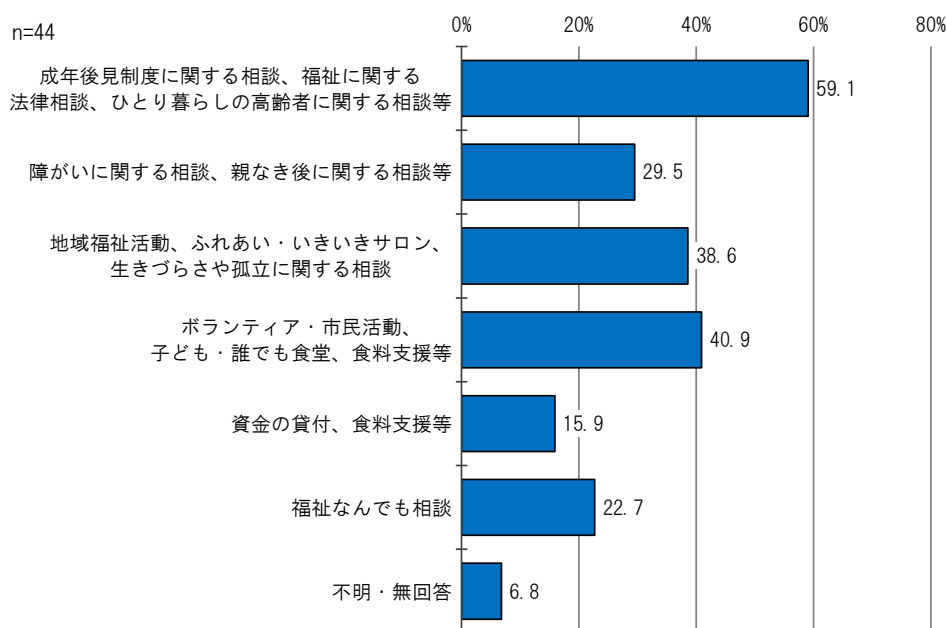
相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じる理由についてみると、全体では「多摩市社協の相談窓口でご存じのもの(新たに知ったもの)」が74.6%と最も多く、次いで「多摩市社協以外の行政専門機関等の新たな相談窓口や相談の場を知ることができた」「行政や多摩市社協、専門機関等の相談窓口や相談の場を利用した、又は紹介した」が22.0%となっています。



問10-1で「多摩市社協の相談窓口でご存じのもの」を選択した方にお尋ねします。

問 10-1-1. 多摩市社協の相談窓口でご存じのもの（新たに知ったもの）は何ですか。（複数回答）

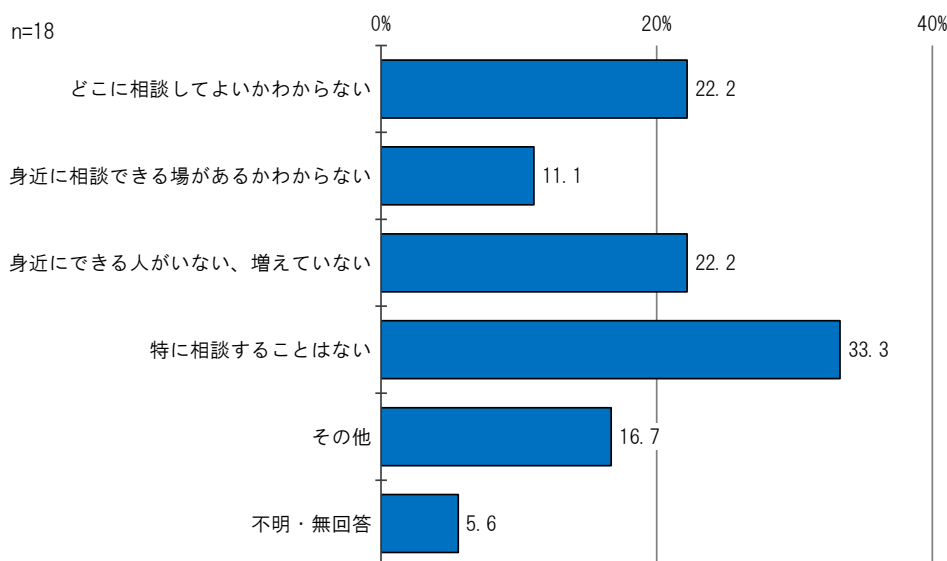
多摩市社協の相談窓口でご存じのもの（新たに知ったもの）についてみると、全体では「成年後見制度に関する相談、福祉に関する法律相談、ひとり暮らしの高齢者に関する相談等」が 59.1%と最も多く、次いで「ボランティア・市民活動、子ども・誰でも食堂、食料支援等」が 40.9%、「地域福祉活動、ふれあい・いきいきサロン、生きづらさや孤立に関する相談」が 38.6%となっています。



問10で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

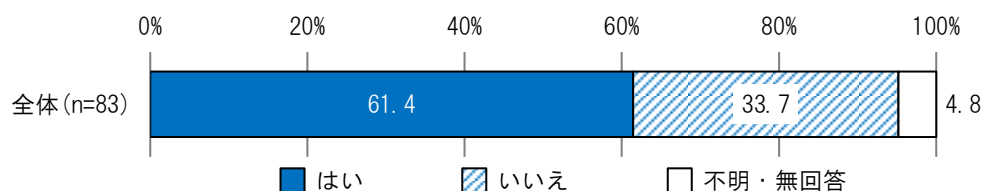
問 10-2. 相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じない理由は何ですか。（複数回答）

相談できる窓口や相談できる人が増えていると感じない理由についてみると、全体では「特に相談することはない」が 33.3%と最も多く、次いで「どこに相談してよいかわからない」「身近にできる人がいない、増えていない」が 22.2%となっています。



問 11. あなた自身や周りの人に、潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じますか。(単数回答)

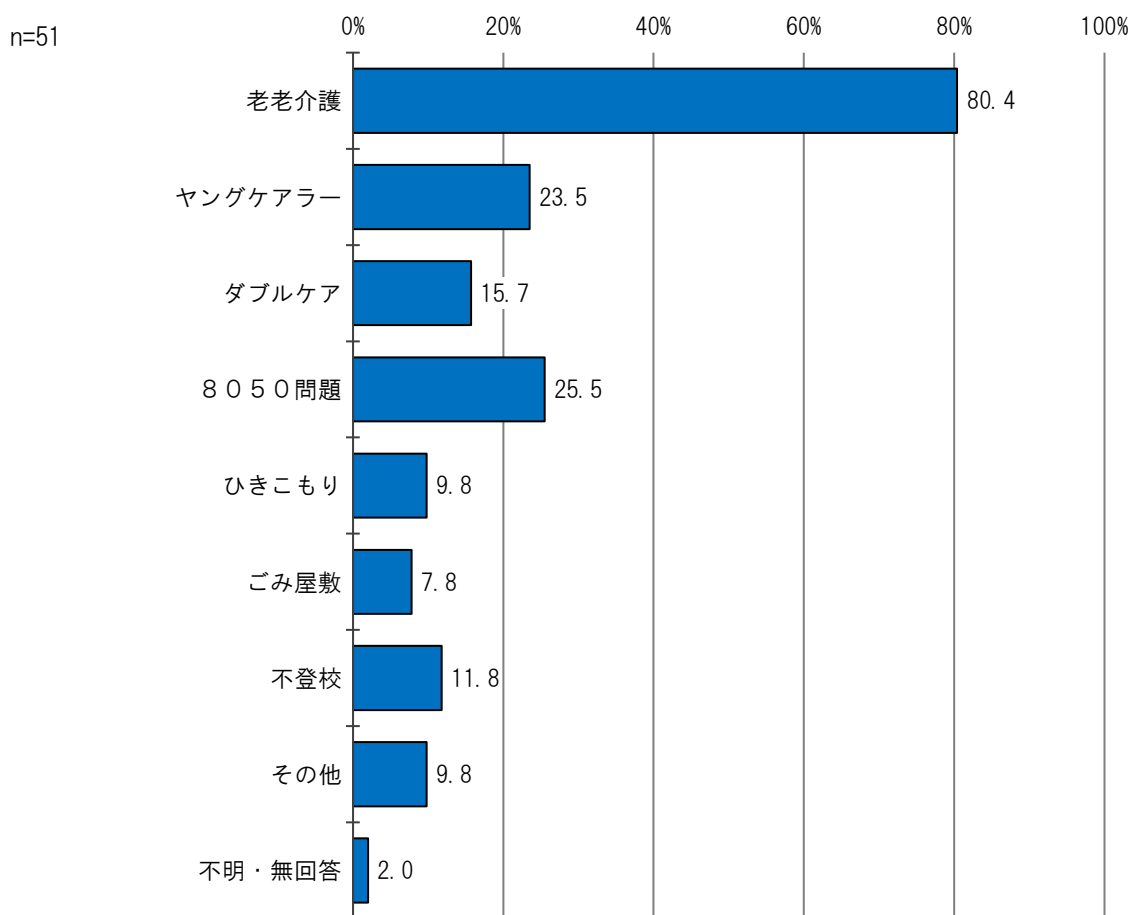
潜在・複合的な課題や問題が増えているかについてみると、全体では「はい」が61.4%、「いいえ」が33.7%となっています。



問11で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 11-1. どのような課題や問題がありますか。(複数回答)

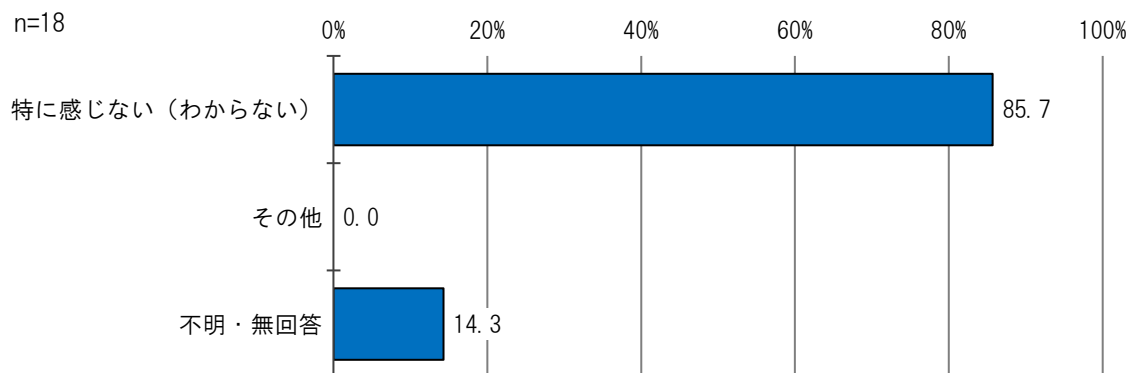
課題や問題についてみると、全体では「老老介護」が80.4%と最も多く、次いで「8050問題」が25.5%、「ヤングケアラー」が23.5%となっています。



問11で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

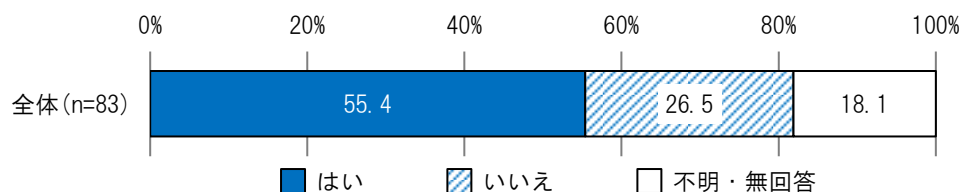
問 11-2. 潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由は何ですか。 (複数回答)

潜在・複合的な課題や問題が増えていると感じない理由についてみると、全体では「特に感じない（わからない）」が85.7%と最も多くなっています。



問 12. 福祉や地域活動に参加する機会は増えていますか。 (単数回答)

福祉や地域活動に参加する機会は増えているかについてみると、全体では「はい」が55.4%、「いいえ」が26.5%となっています。



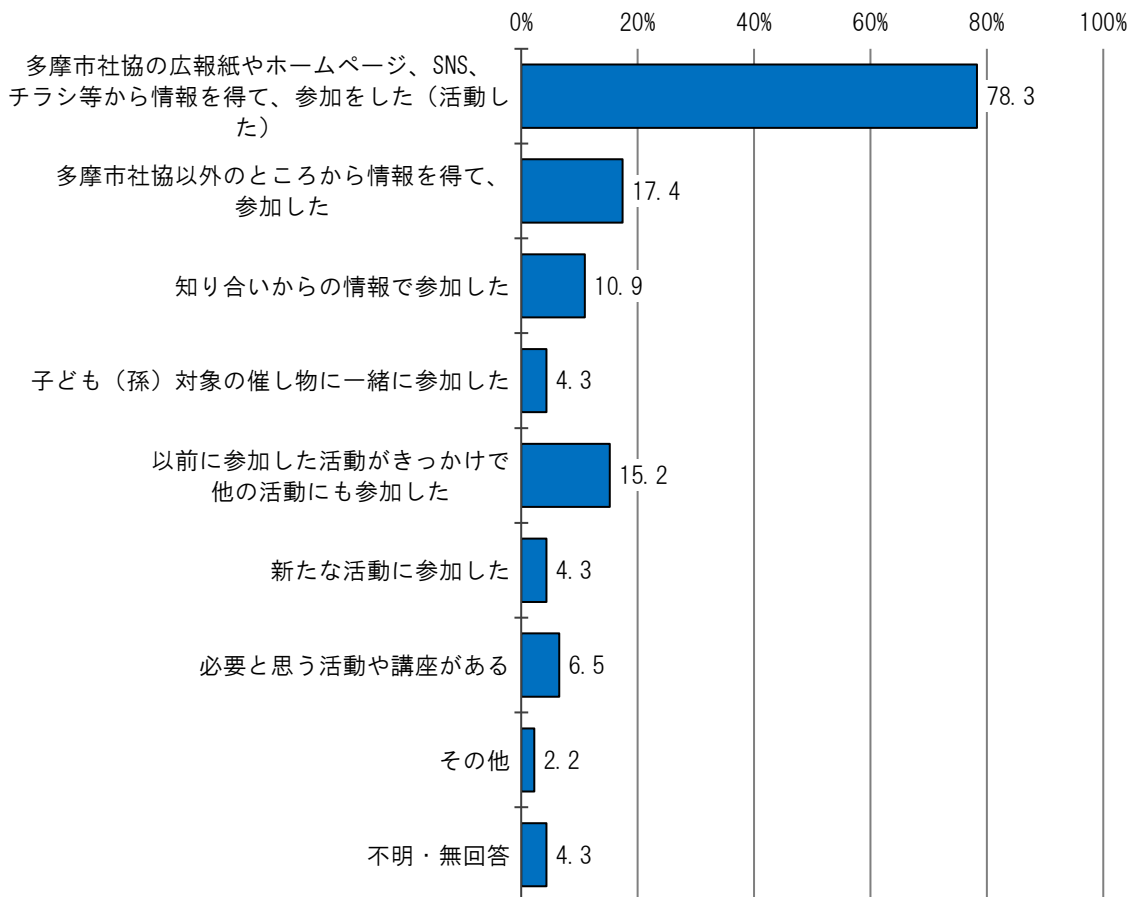
問12で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 12-1. 活動に参加したきっかけは何ですか。

(複数回答)

活動に参加したきっかけについてみると、全体では「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした（活動した）」が78.3%と最も多く、次いで「多摩市社協以外のところから情報を得て、参加した」が17.4%、「以前に参加した活動がきっかけで他の活動にも参加した」が15.2%となっています。

n=46

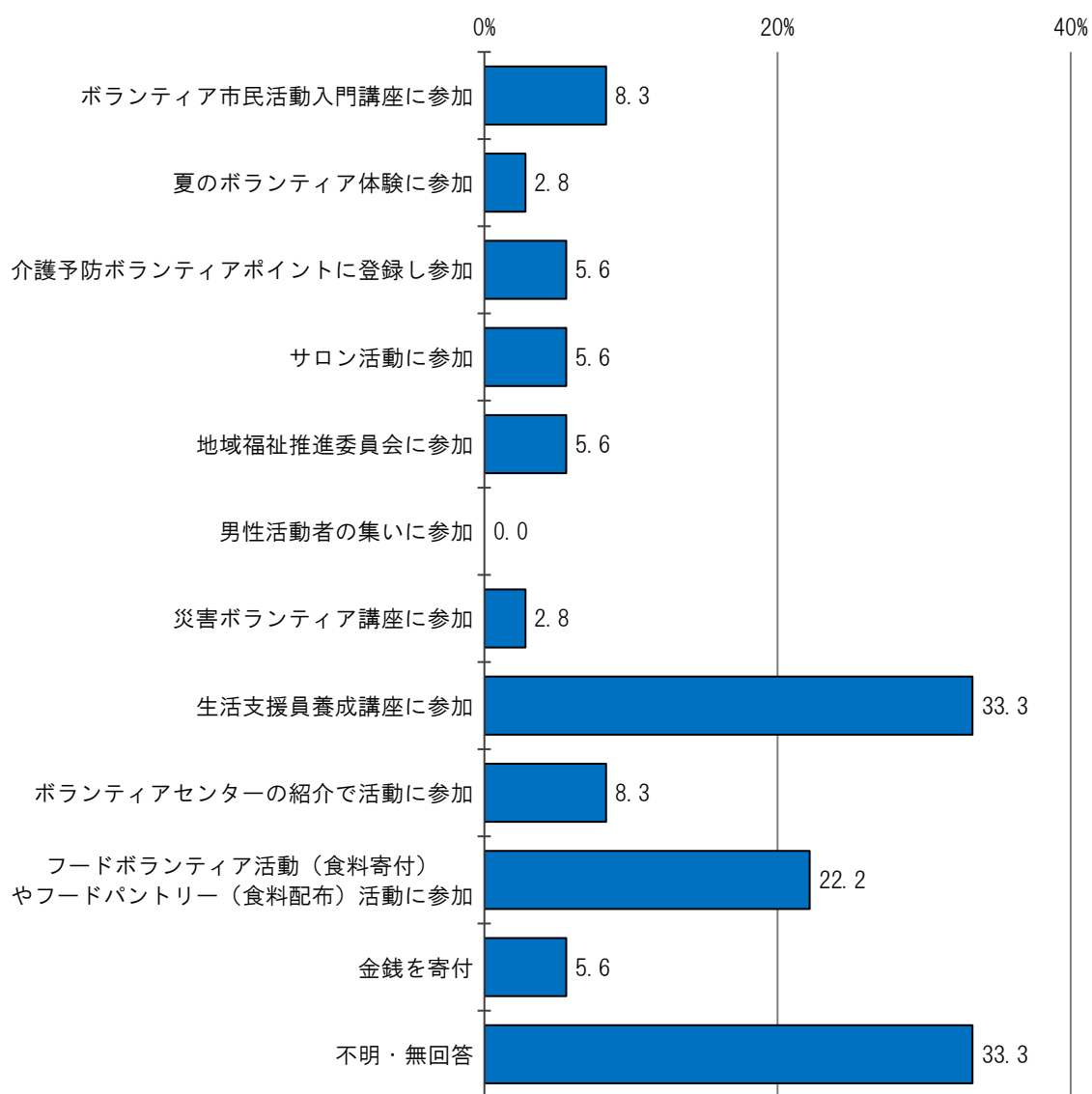


問12-1で「多摩市社協の広報紙やホームページ、SNS、チラシ等から情報を得て、参加をした（活動した）」を選択した方にお尋ねします。

問 12-1-1. 参加した活動は何ですか。 (複数回答)

参加した活動についてみると、全体では「生活支援員養成講座に参加」が 33.3%と最も多く、次いで「フードボランティア活動(食料寄付)やフードパントリー(食料配布)活動に参加」が 22.2%、「ボランティア市民活動入門講座に参加」「ボランティアセンターの紹介で活動に参加」が 8.3%となっています。

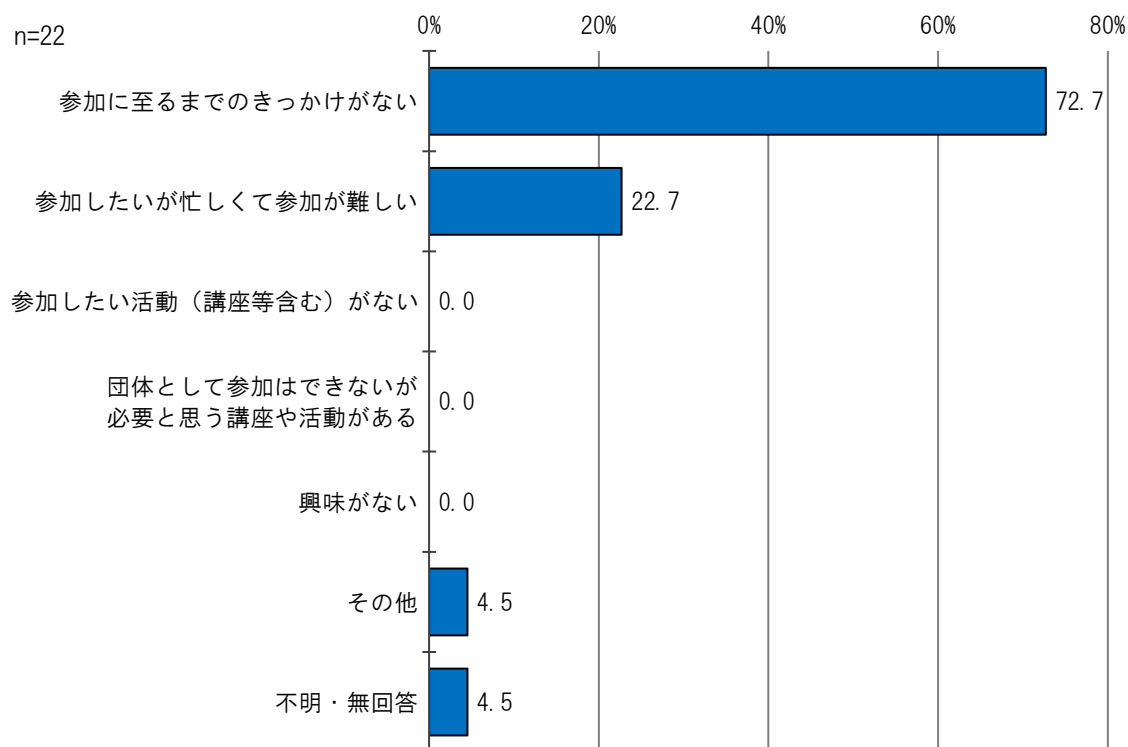
n=36



問12で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 12-2. 福祉や地域活動に参加する機会が増えていない理由は何ですか。 (複数回答)

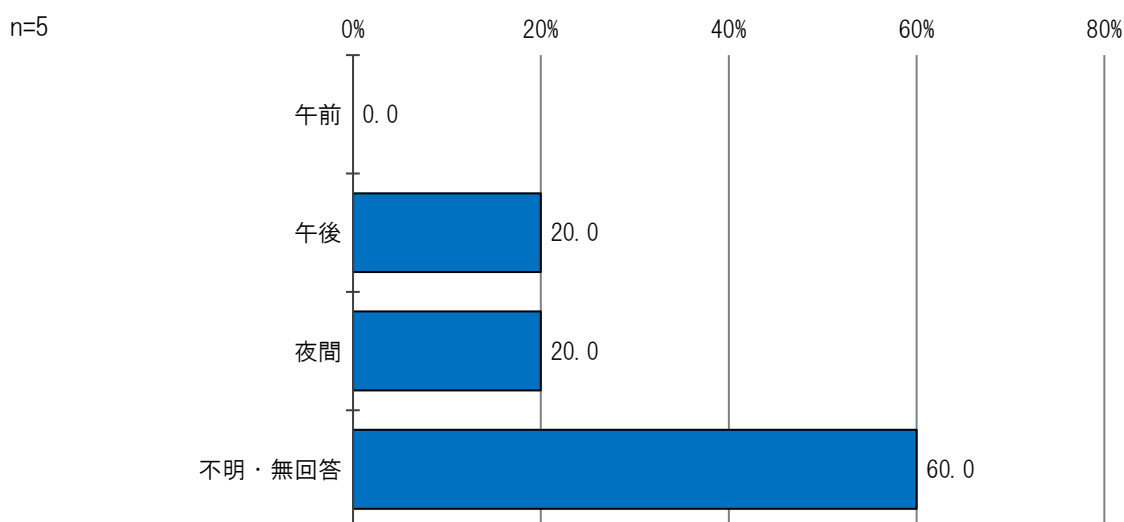
福祉や地域活動に参加する機会が増えていない理由についてみると、全体では「参加に至るまでのきっかけがない」が72.7%と最も多く、次いで「参加したいが忙しくて参加が難しい」が22.7%、「その他」が4.5%となっています。



問12-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 12-2-1. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。（平日） (単数回答)

平日についてみると、全体では「午後」「夜間」が20.0%と最も多くなっています。

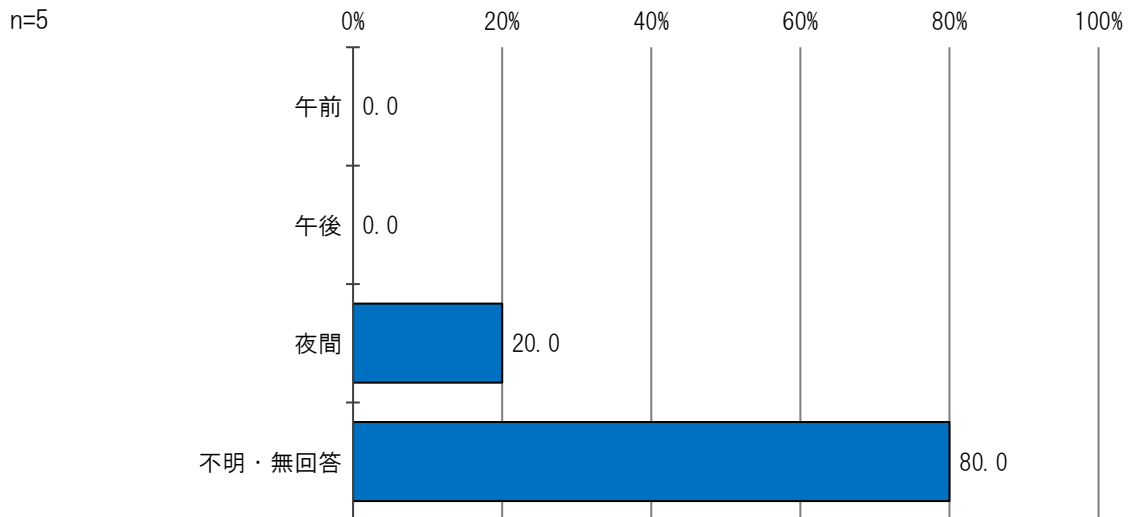


問12-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 12-2-2. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(土曜日)

(単数回答)

土曜日についてみると、全体では「夜間」が20.0%と最も多くなっています。

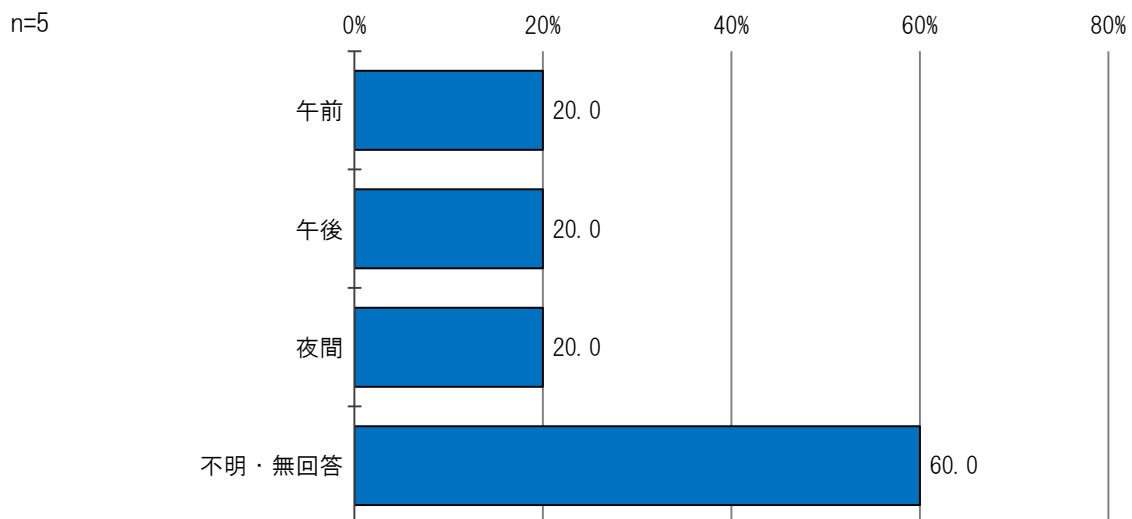


問12-2で「参加したいが忙しくて参加が難しい」を選択した方にお尋ねします。

問 12-2-3. どのような時間帯であれば参加しやすいですか。(休日)

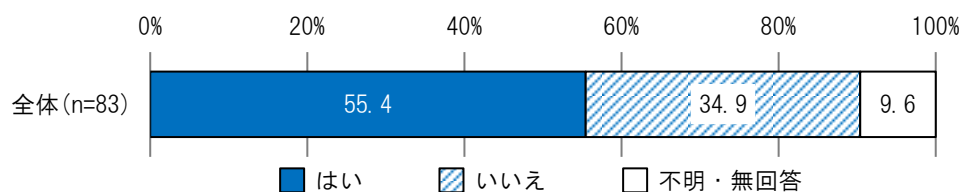
(複数回答)

休日についてみると、全体では「午前」「午後」「夜間」が20.0%となっています。



問 13. 安心して地域生活を送るために多摩市社協が実施する生活支援に係る事業で活用しているものはありますか。 (単数回答)

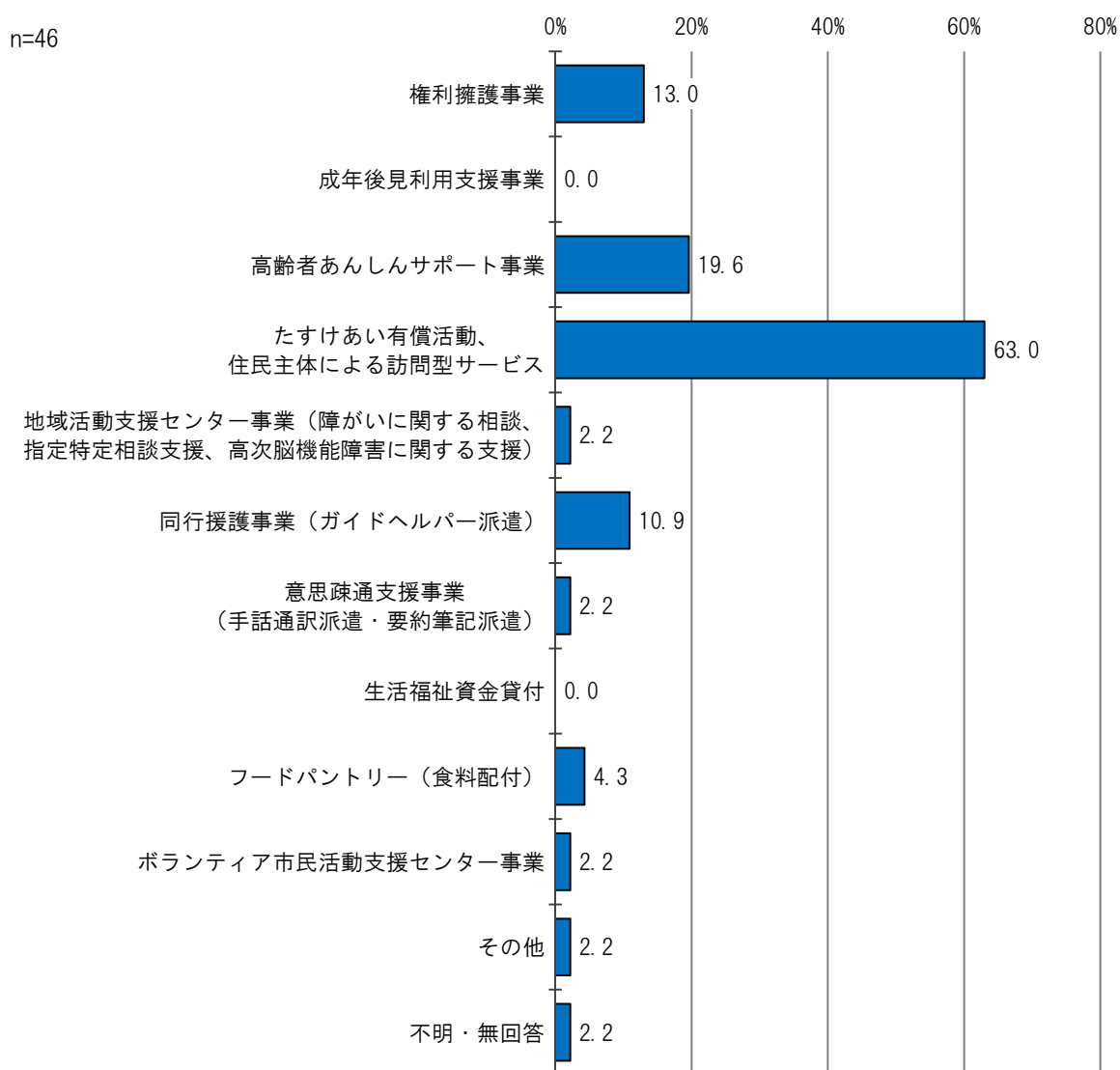
活用しているものはあるかについてみると、全体では「はい」が 55.4%、「いいえ」が 34.9%となっています。



問13で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 13-1. 活用している事業は何ですか。 (複数回答)

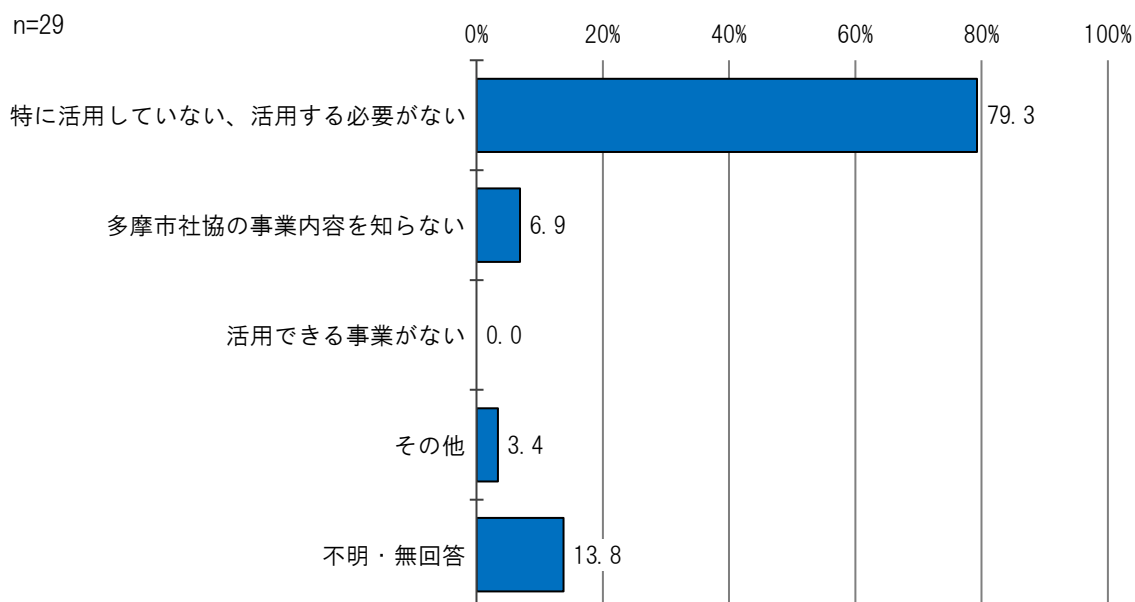
活用している事業についてみると、全体では「たすけあい有償活動、住民主体による訪問型サービス」が 63.0%と最も多く、次いで「高齢者あんしんサポート事業」が 19.6%、「権利擁護事業」が 13.0%となっています。



問13で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

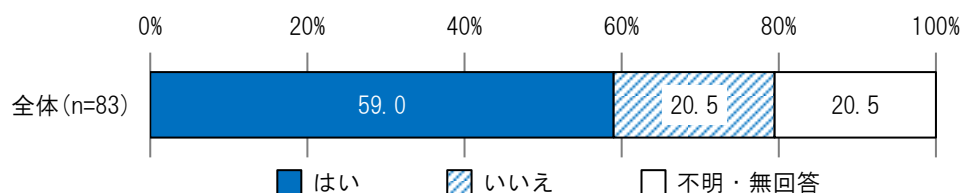
問 13-2. 多摩市社協が実施する生活支援に係る事業を活用していない理由は何ですか。（複数回答）

活用していない理由についてみると、全体では「特に活用していない、活用する必要がない」が79.3%と最も多く、次いで「多摩市社協の事業内容を知らない」が6.9%、「その他」が3.4%となっています。



問 14. 住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようになってきていると感じますか。
(単数回答)

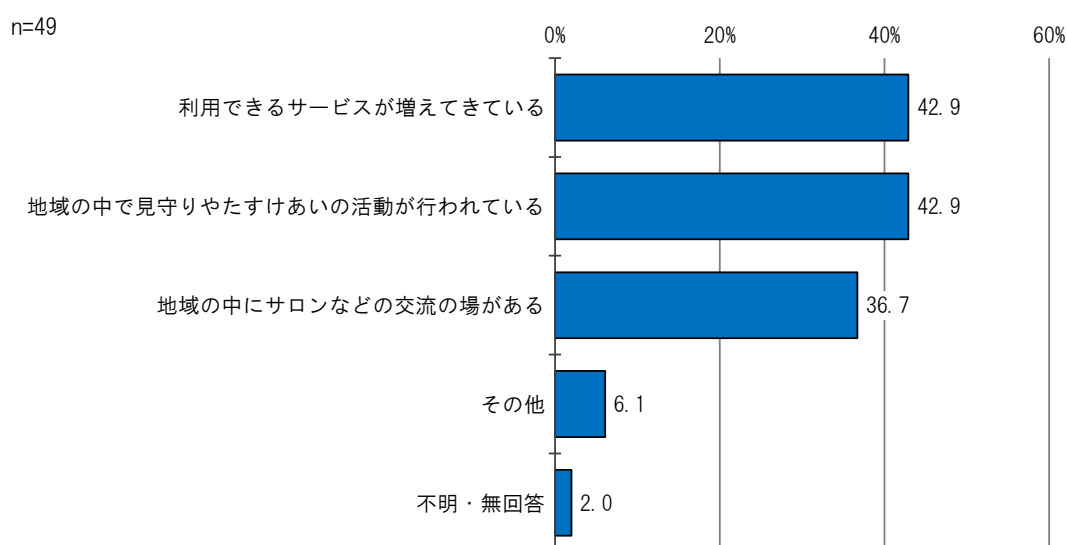
安心して暮らせるようになってきているかについてみると、全体では「はい」が59.0%、「いいえ」が20.5%となっています。



問14で「はい」を選択した方にお尋ねします。

問 14-1. 安心して暮らすことができるようになってきていると感じる理由は何ですか。（複数回答）

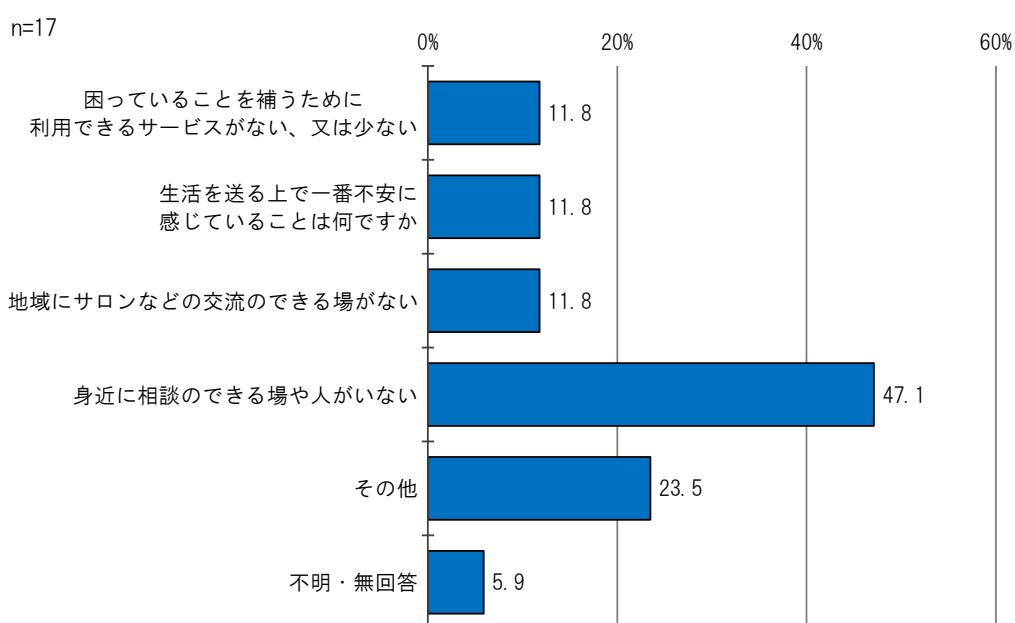
安心して暮らすことができるようになってきていると感じる理由についてみると、全体では「利用できるサービスが増えてきている」「地域の中で見守りやたすけあいの活動が行われている」が42.9%と最も多く、次いで「地域の中にサロンなどの交流の場がある」が36.7%となっています。



問14で「いいえ」を選択した方にお尋ねします。

問 14-2. 安心して暮らすことができるようになってきていると感じない理由は何ですか。（複数回答）

安心して暮らすことができるようになってきていると感じない理由についてみると、全体では「身近に相談のできる場や人がいない」が47.1%と最も多く、次いで「その他」が23.5%、「困っていることを補うために利用できるサービスがない、又は少ない」「生活を送る上で一番不安に感じていることは何ですか」「地域にサロンなどの交流のできる場がない」が11.8%となっています。



多摩市地域福祉計画
第5次多摩市地域福祉活動計画
計画の中間見直しに向けたアンケート調査結果報告書
令和7年11月

発行：多摩市役所
多摩市社会福祉協議会